

# 参考データ集

令和6年1月26日版

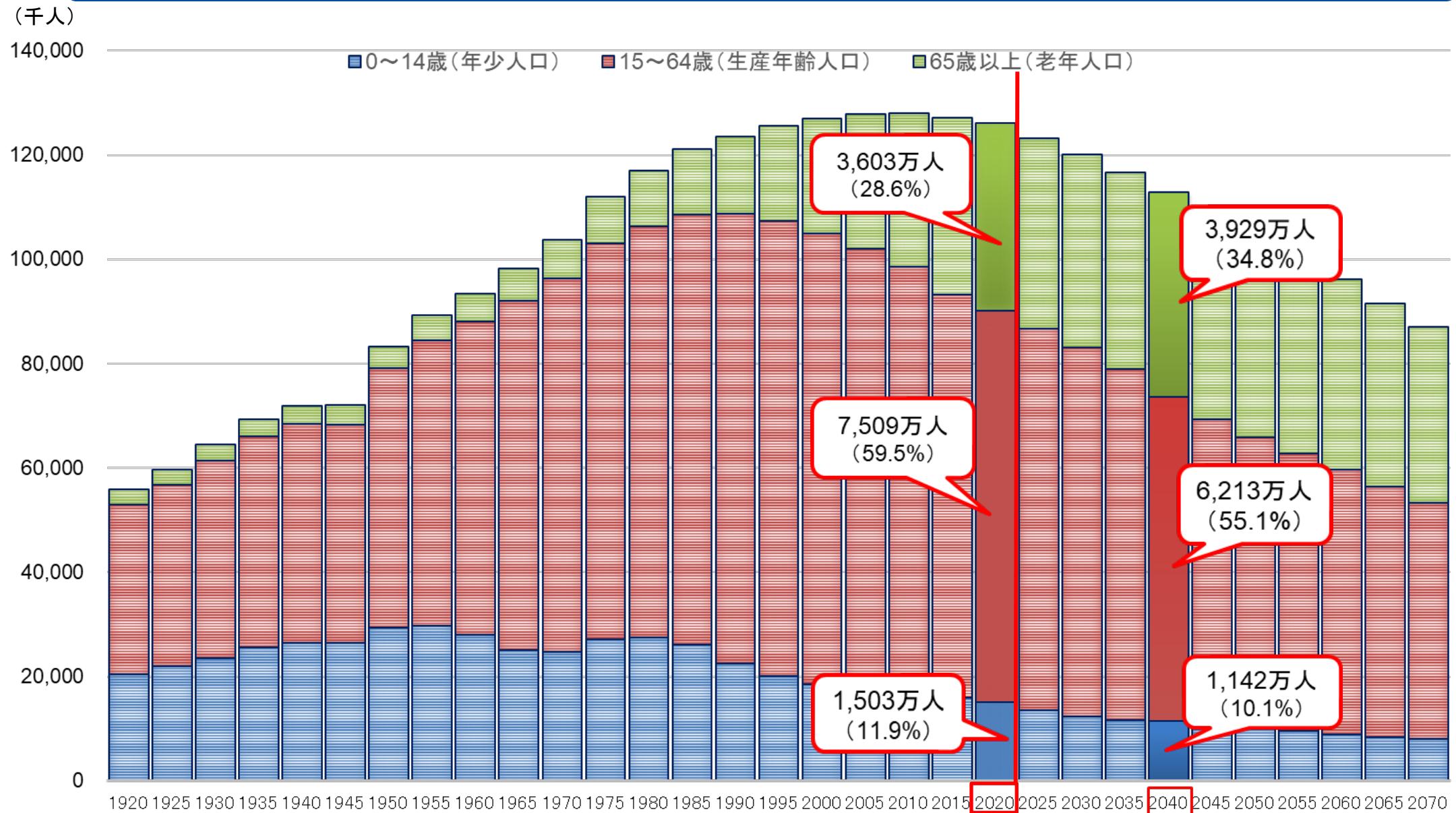
## （1）2040年以降の社会を見据えた 高等教育が目指すべき姿

関連データ

# 人口推計

# 人口の推移と将来推計

国立社会保障・人口問題研究所の予測では、少子高齢化の進行により、  
2040年には年少人口が1,142万人、生産年齢人口が6,213万人まで減少し、我が国の総人口の三分の一以上が65歳以上となる。



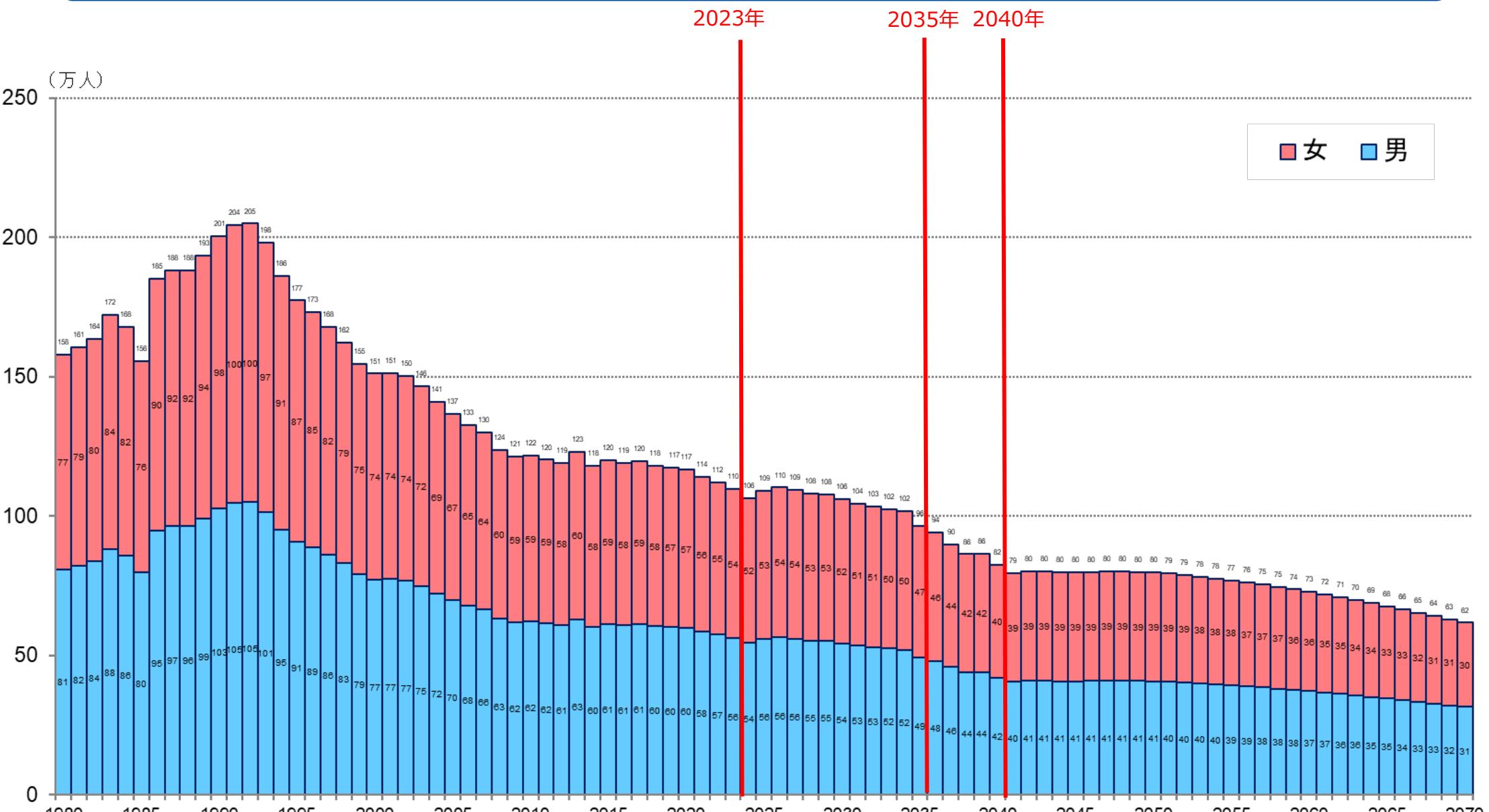
※推計値は出生中位(死亡中位)推計による。実績値の1950年～1970年には沖縄県を含まない。

1945年については、1～15歳を年少人口、16～65歳を生産年齢人口、66歳以上を老人人口としている。

(出典)1920年～2020年:「人口推計」(総務省)、2025年～2070年:「日本の将来推計人口(令和5年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

# 18歳人口(男女別)の将来推計

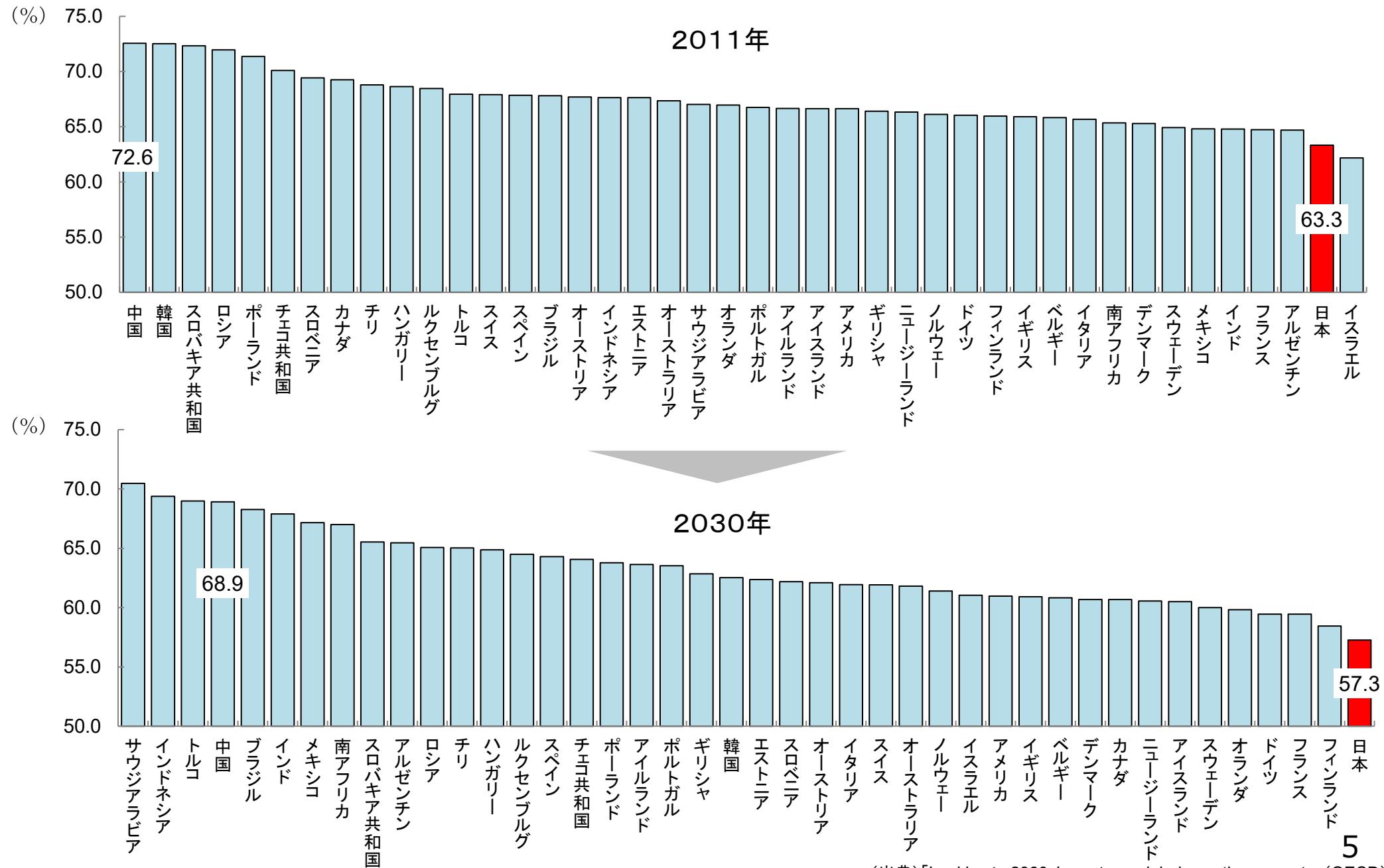
- 我が国の18歳人口の推移を見ると、2005年には約137万人であったものが、現在は約110万人まで減少している。
- 今後、2035年には初めて100万人を割って約96万人となり、さらに2040年には約82万人にまで減少するという推計もある。



(出典) 2022年以前は文部科学省「学校基本統計」、  
2023年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）（出生中位・死亡中位）」を元に作成

# OECD加盟国の生産年齢人口の将来予測

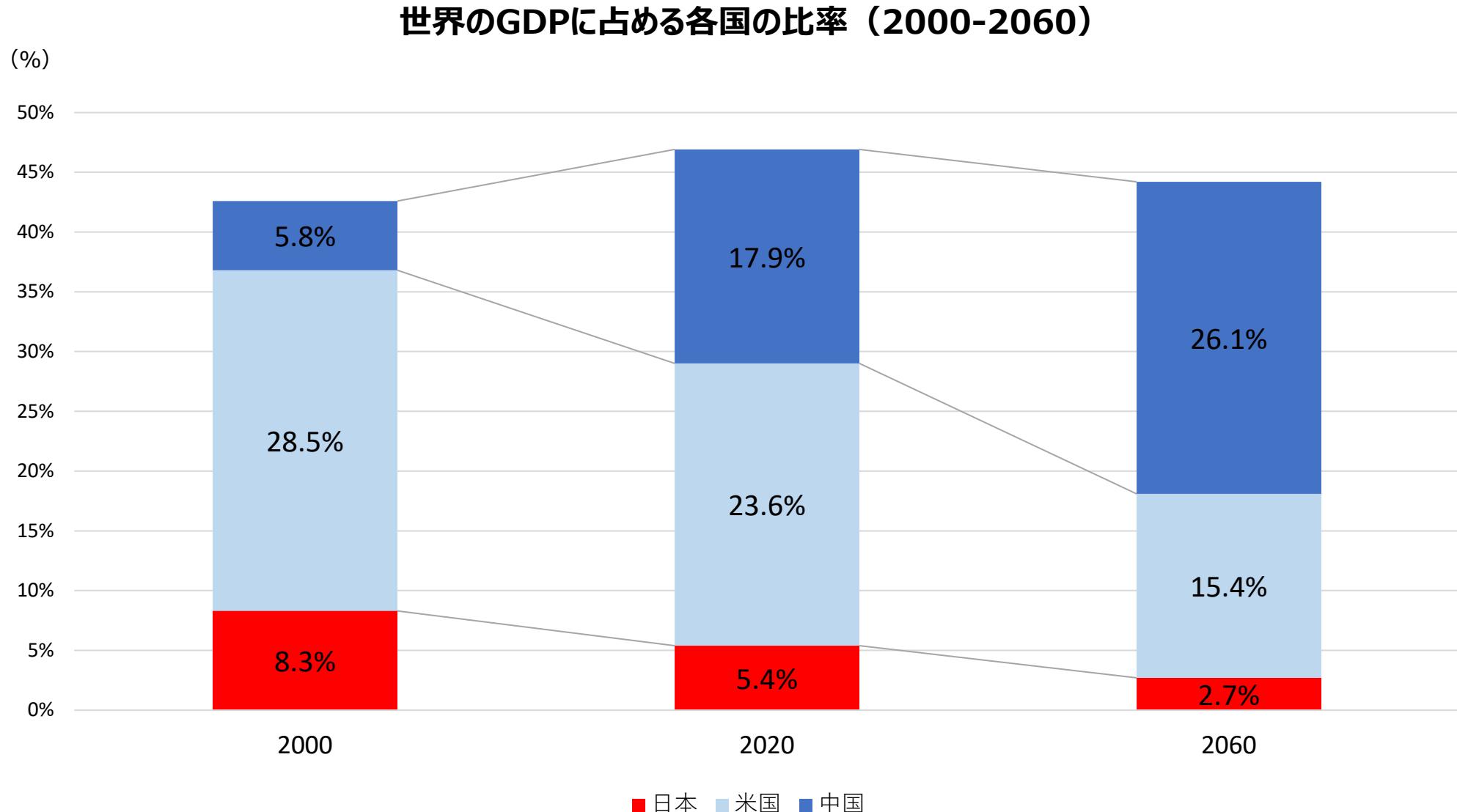
OECDの予測では、2030年には日本の生産年齢人口が57.3%にまで減少し、OECD加盟国中最下位になる。



# 経済・産業・雇用の変化

# 世界のGDPに占める各国の比率

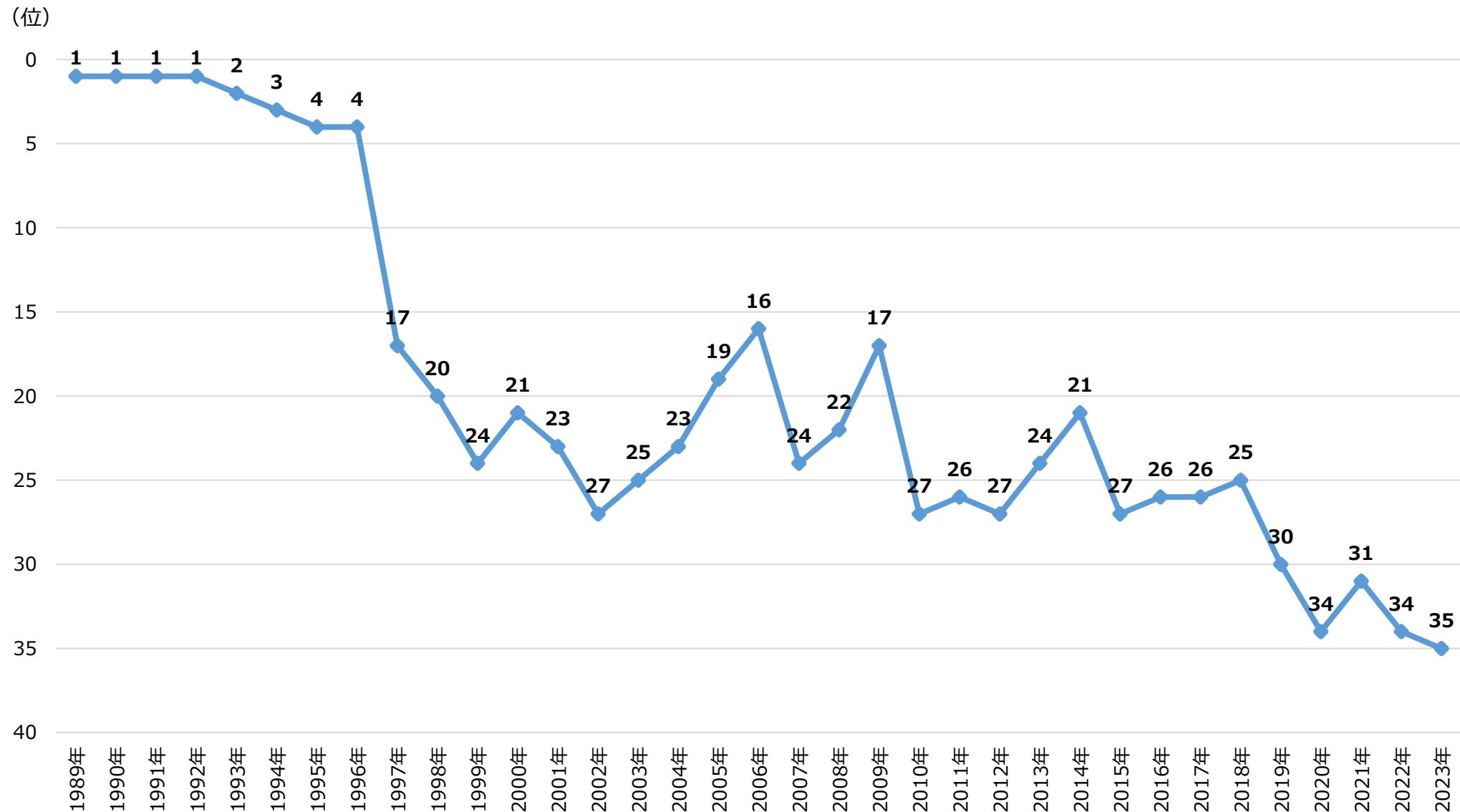
世界のGDPに占める日本の割合は2020年時点で約 5 %であり、中国や米国と比べて大幅に低く、将来的にも低下することが見込まれる。



(出典) World Bank「World Development Indicators」、OECD「The Long Game: Fiscal Outlooks to 2060 Underline Need for Structural Reform」より作成。

# 世界競争力ランキングにおける日本の順位

1990年代中頃まで日本の世界競争力は5位以内だったが、1990年代後半から順位を落としており、2023年は1989年以降最低の35位となった。



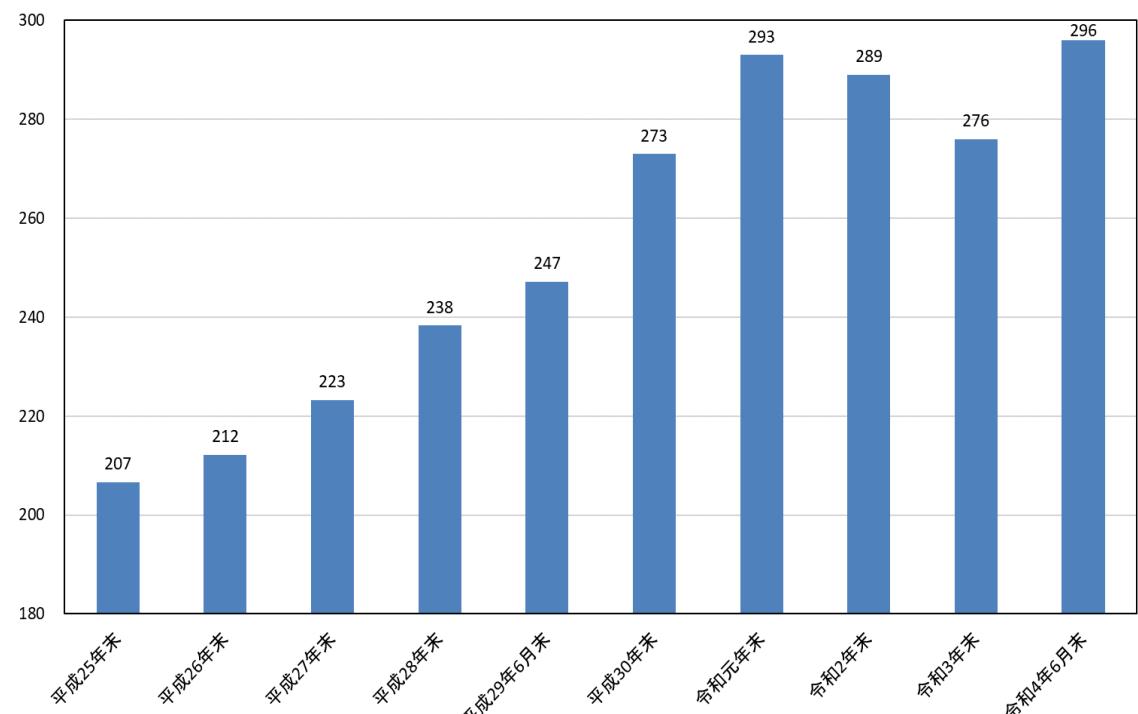
(備考) 世界競争力は経済状況、政府効率性、ビジネス効率性、インフラに関する統計データや経営層を対象としたアンケートデータから算出。また、括弧内は前年度との比較。  
(出典) IMD「World Competitiveness Ranking」より作成。

# 在留外国人数及び海外在留邦人数の推移

在留外国人数、海外在留邦人数ともに新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的な減少は見られるものの全体としては増加傾向。社会のあらゆる分野でのつながりが国境を越えて活性化しており、人材の流動化、人材獲得競争などグローバル競争の激化が予想される。

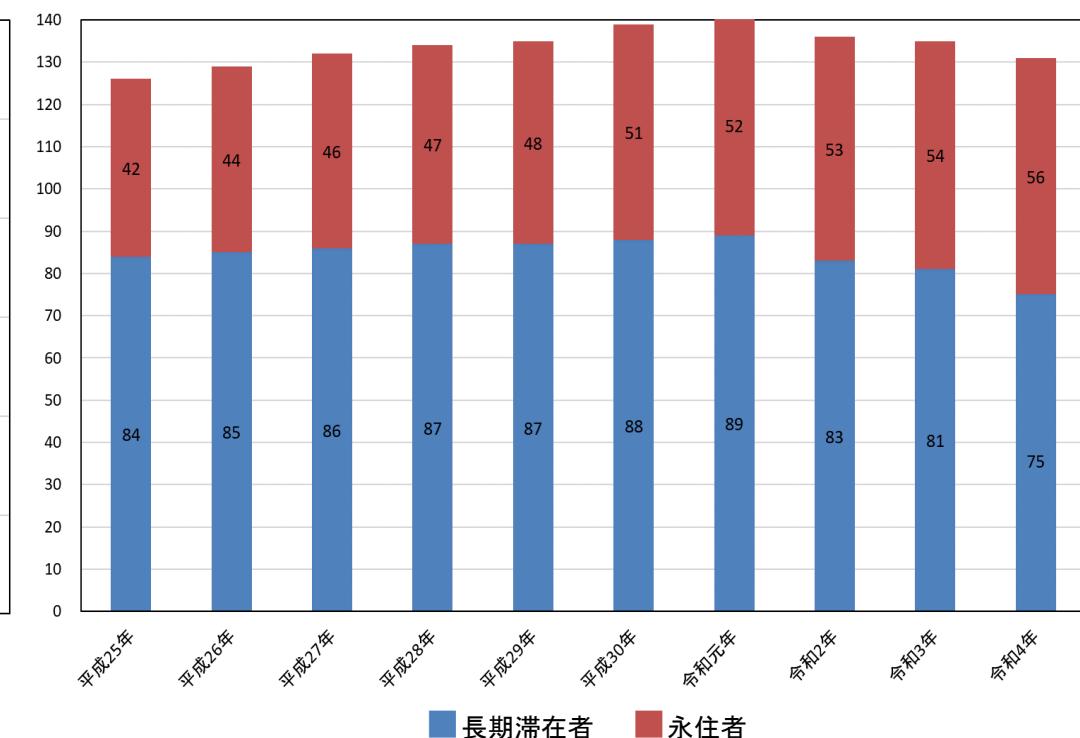
(万人)

在留外国人数



(万人)

海外在留邦人数推移

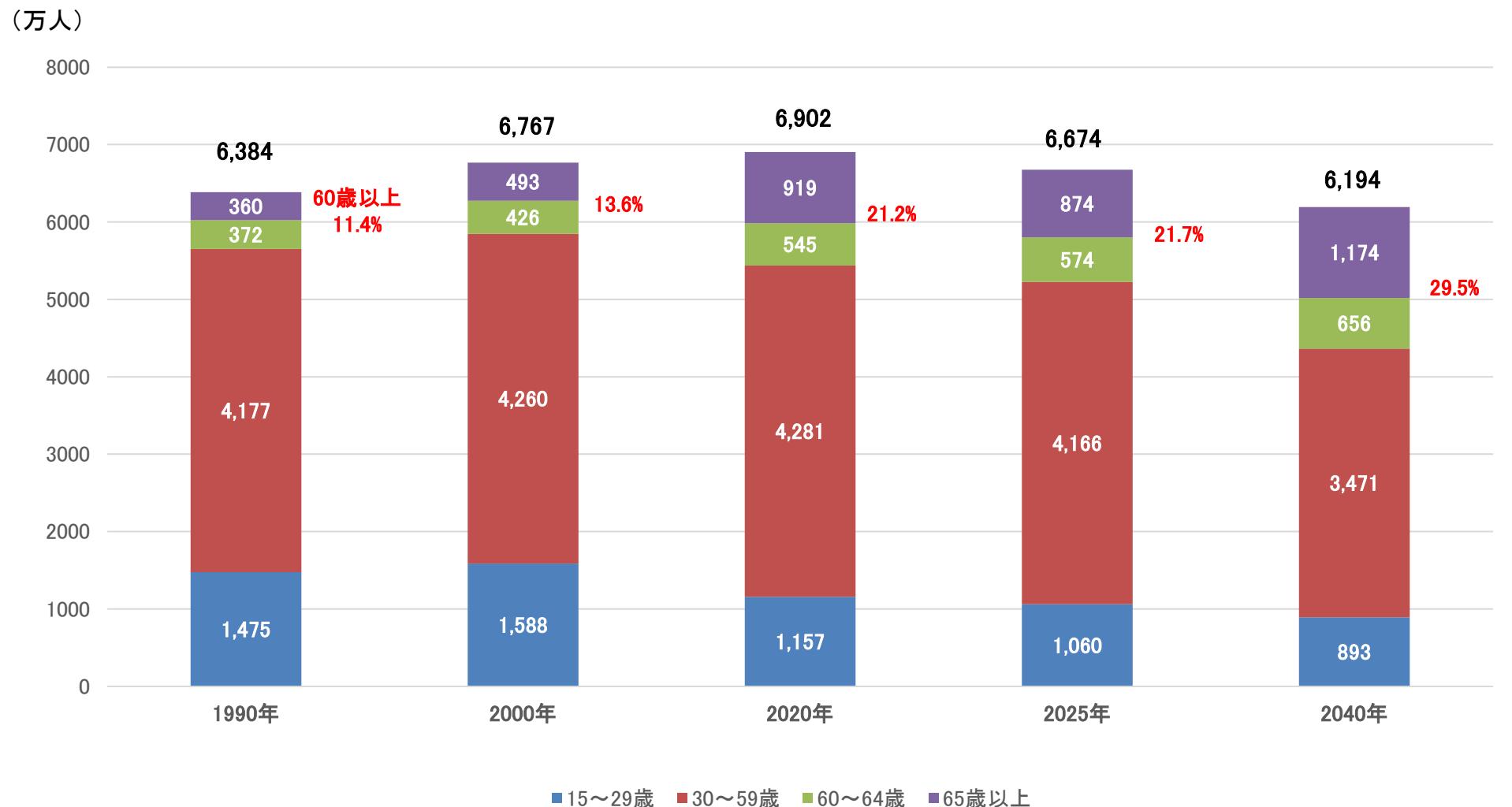


(出典)在留外国人統計(法務省 令和4年6月末)

(出典)海外在留邦人数調査統計(外務省 令和4年10月1日現在)

# 労働力人口(年齢層内訳)の推移

推計によれば、我が国の労働力人口は2020年頃をピークに減少を続け、60歳以上の割合が増加する。

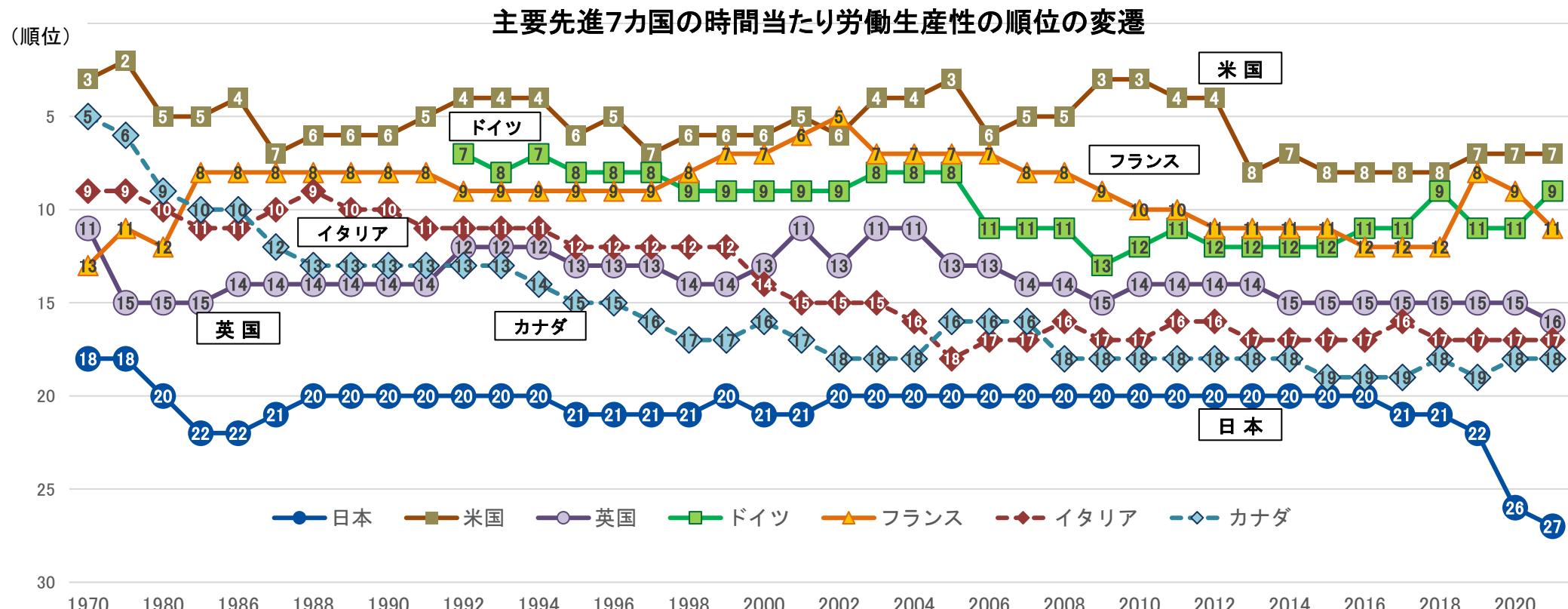


(出典) 1990、2000、2020年は総務省統計局「労働力調査」、2025年、2040年は(独)労働政策研究・研修機構「労働力需給の推計—労働力需給モデル(2018年度版)による将来推計—」。  
(注)

1. 労働力人口に係る2025年、2040年の推計値は、経済成長と労働参加が進むケース(各種の経済・雇用政策を適切に講ずることにより、経済成長と、若者、女性、高齢者等の労働市場への参加が進むシナリオ)。
2. 労働力人口に係る当該推計値は、「労働力調査」の2017年までの実績値を踏まえて推計しているのでご留意されたい。

# 時間当たり労働生産性の各国比較

主要 7 力国の中でも、OECD 加盟国の中でも、日本の時間当たりの労働生産性の順位は、一貫して下位となっており、近年、さらに順位が低下している。



## 時間当たり労働生産性 OECD 加盟 38 力国上位10力国の変遷

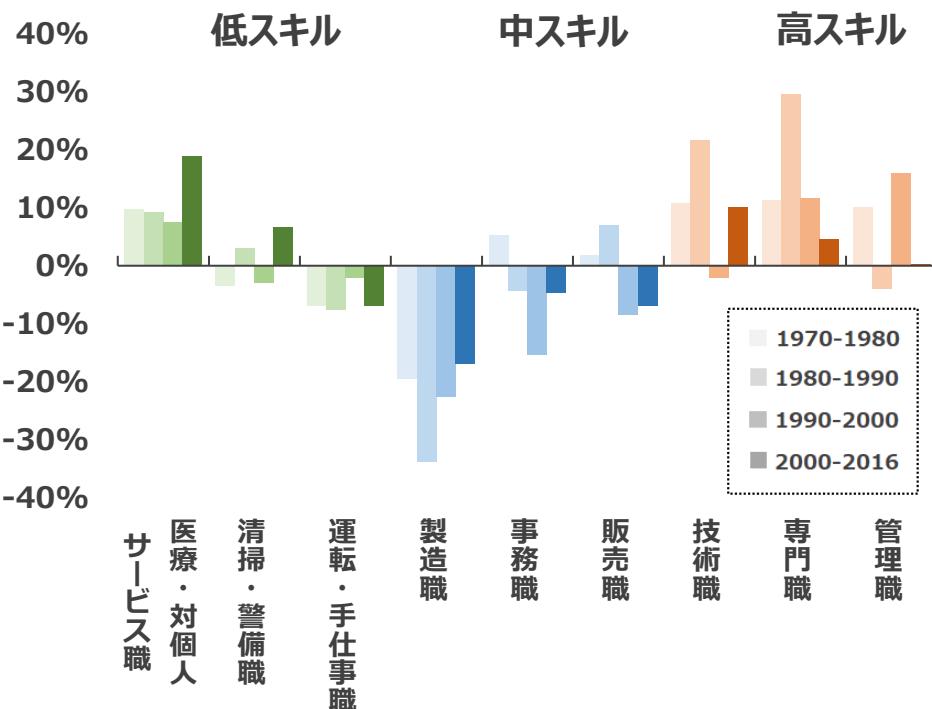
	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2020年
1	スイス	スイス	ルクセンブルク	ルクセンブルク	ルクセンブルク	アイルランド
2	ルクセンブルク	ルクセンブルク	ドイツ	ノルウェー	ノルウェー	ルクセンブルク
3	米国	オランダ	オランダ	ベルギー	米国	ノルウェー
4	スウェーデン	スウェーデン	ベルギー	オランダ	アイルランド	デンマーク
5	カナダ	米国	スイス	スウェーデン	ベルギー	ベルギー
6	オランダ	ベルギー	米国	米国	デンマーク	スウェーデン
7	オーストラリア	ドイツ	スウェーデン	フランス	スウェーデン	米国
8	ベルギー	アイスランド	フランス	スイス	オランダ	スイス
9	イタリア	カナダ	ノルウェー	ドイツ	スイス	ドイツ
10	ルクセンブルク	イタリア	イタリア	デンマーク	フランス	オーストリア
-	日本 (18位)	日本 (20位)	日本 (20位)	日本 (21位)	日本 (20位)	日本 (27位)

(出典) 公益財団法人日本生産性本部「労働生産性の国際比較2022」より

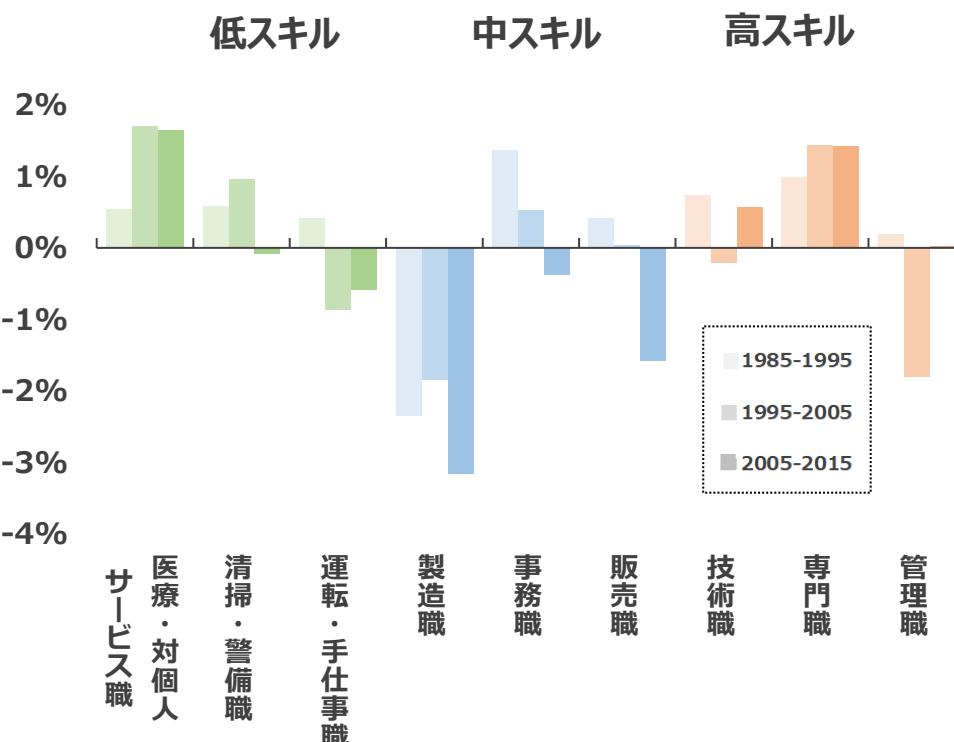
# 自動化で両極化が進む労働市場(労働市場の両極化)

米国では、自動化により、専門・技術職や医療・対個人サービス職等の就業者が増加する一方で、製造職や事務職等の就業者が減少する現象（労働市場の両極化）が確認されており、日本においても、その兆候が確認されている。

米国における職業別就業者シェアの変化



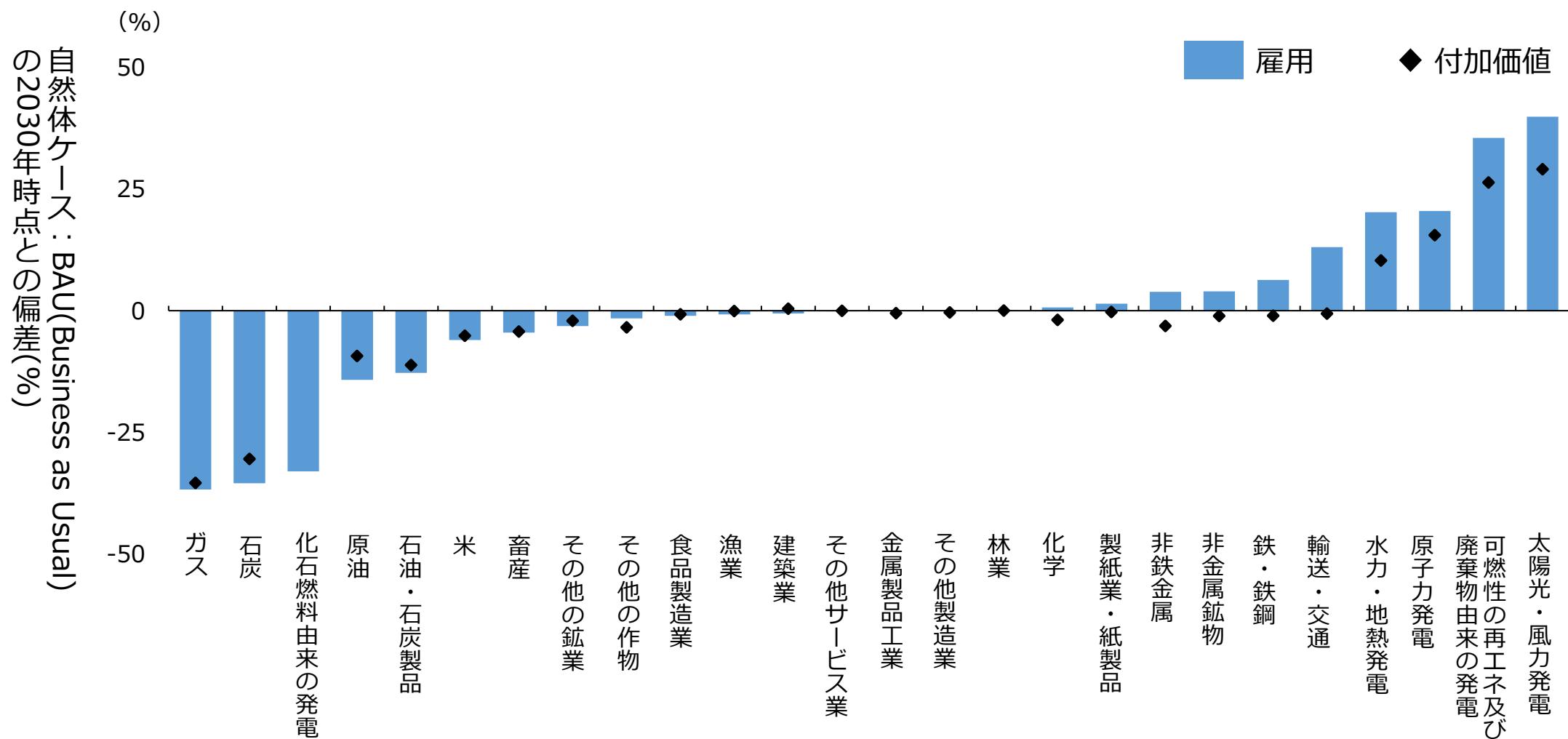
日本における職業別就業者シェアの変化



(出典) 経済産業省「未来人材ビジョン」(令和4年) より

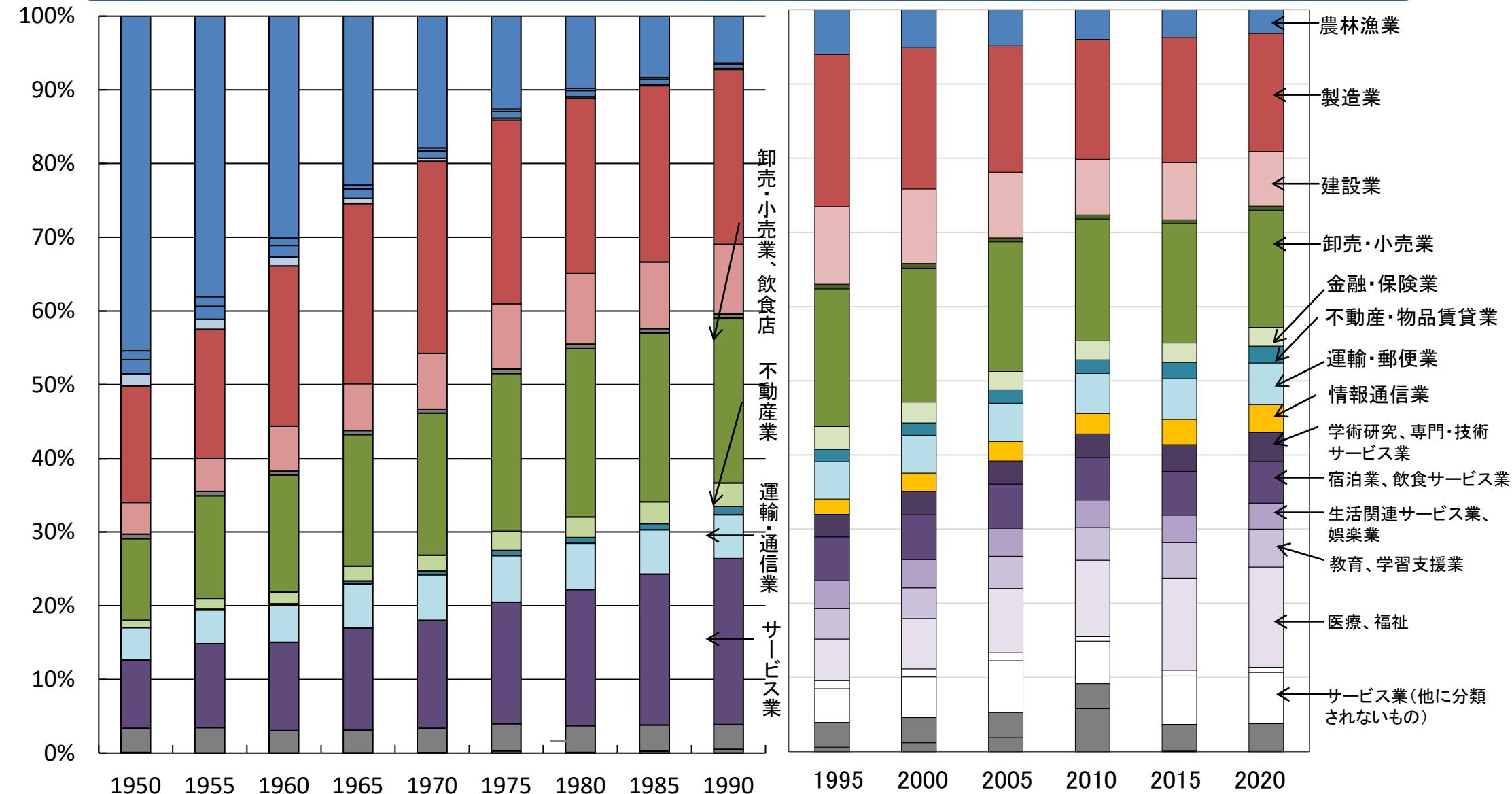
# 脱炭素化による雇用創出・喪失効果

脱炭素の潮流は、特に化石燃料に関連する産業の雇用を減少させる一方、再生可能エネルギーなどで新たな雇用も創出する。



# 産業別就業者構成割合の推移

第1次、第2次産業の就業者割合は縮小傾向にあり、就業構造のサービス産業化が進んでいる。



(出典)「国勢調査」(総務省統計局)

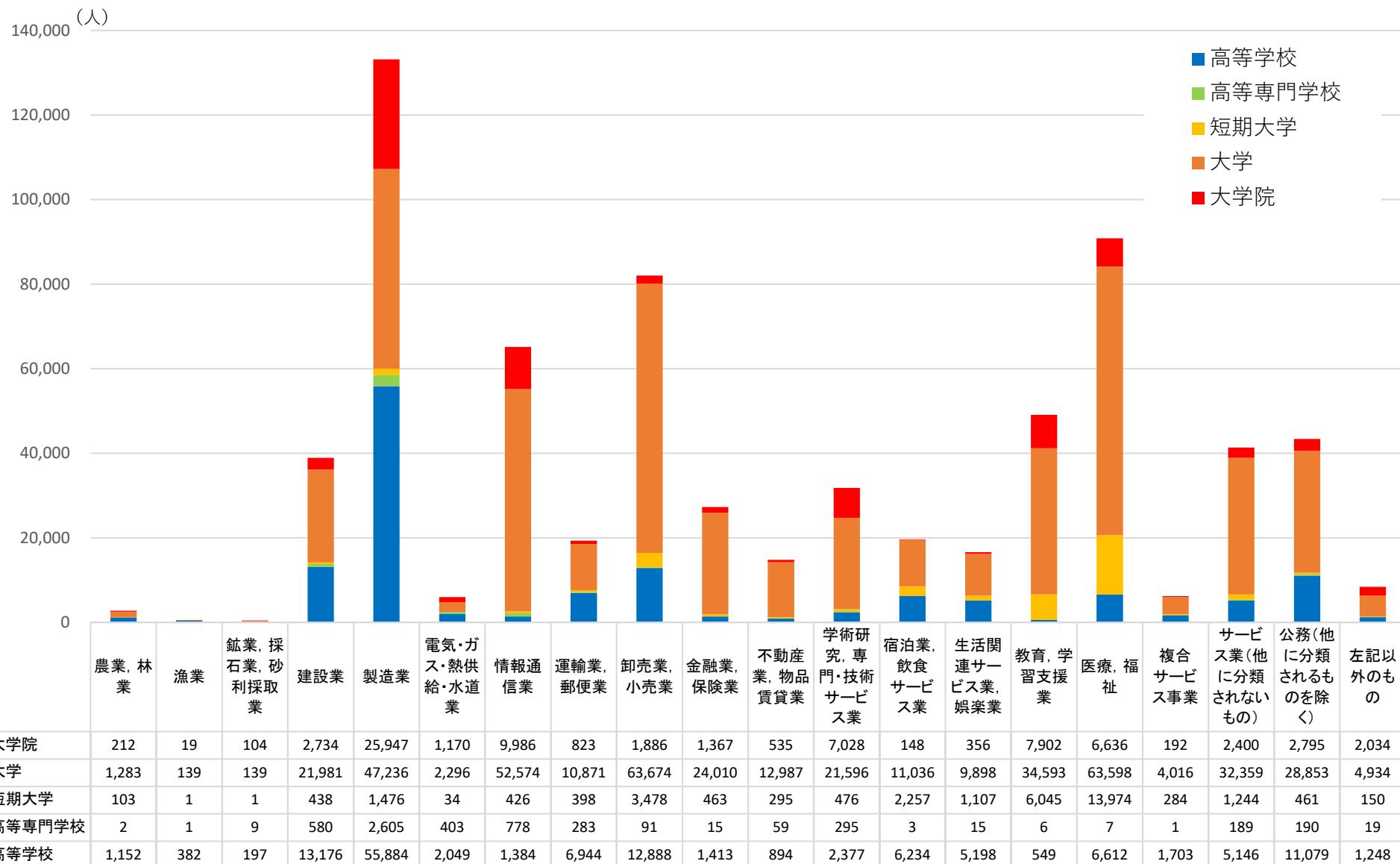
※1995年、2000年及び2005年は、総務省統計局による抽出詳細集計に基づく推計、集計である。

1990年までは産業の表章が異なっており、接合は行えない。

※2010年は「労働者派遣事業所の派遣社員」を派遣先の産業に分類していることから、派遣元である「サービス業(他の分類されないもの)」に分類している他の年との比較には注意を要する。

# 各学校段階の産業別就職者数

- 大学卒の就職者数は、「卸売業、小売業」「医療、福祉」「情報通信業」「製造業」の順に多い。
- 高等専門学校及び大学院の卒業者は「製造業」、短期大学の卒業者は「医療、福祉」への就職が最も多い。

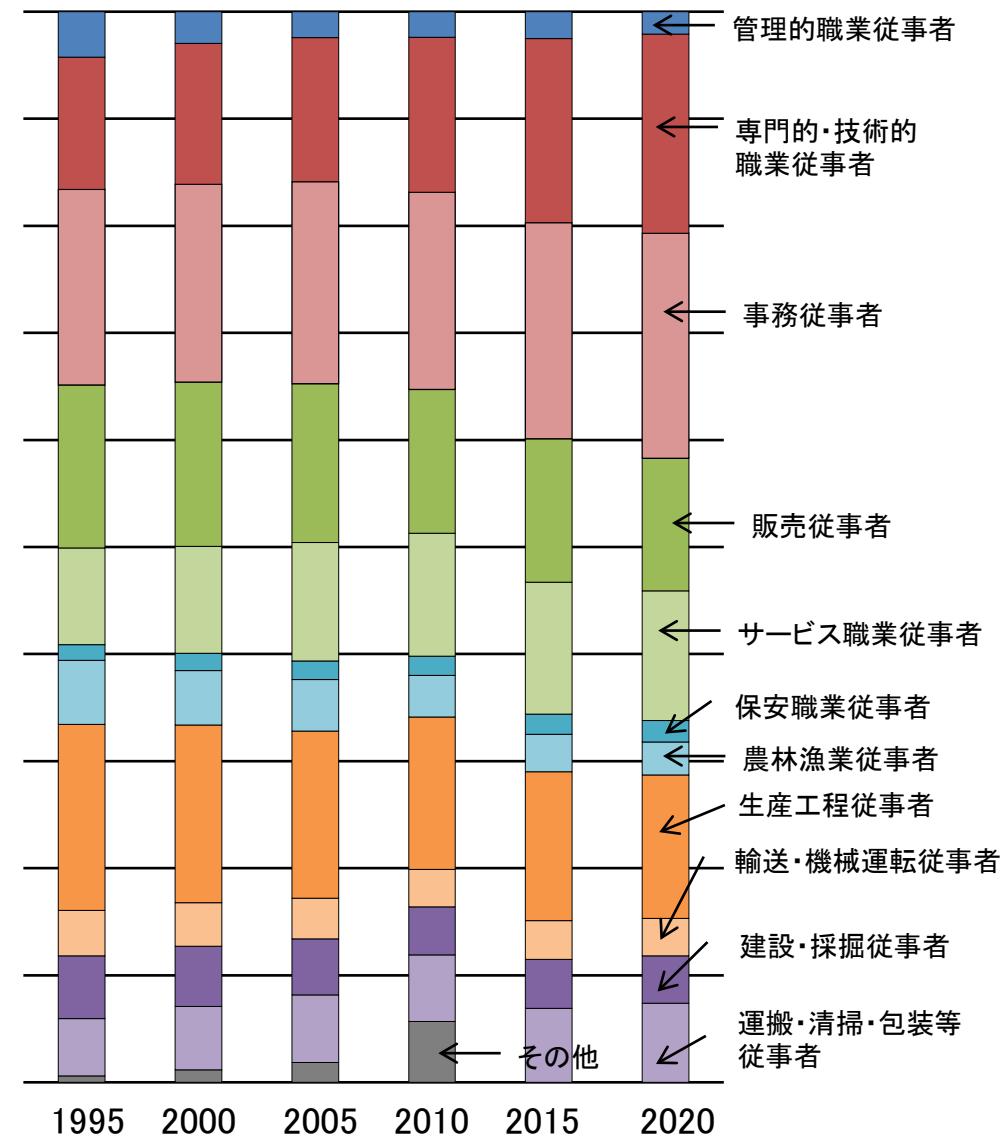
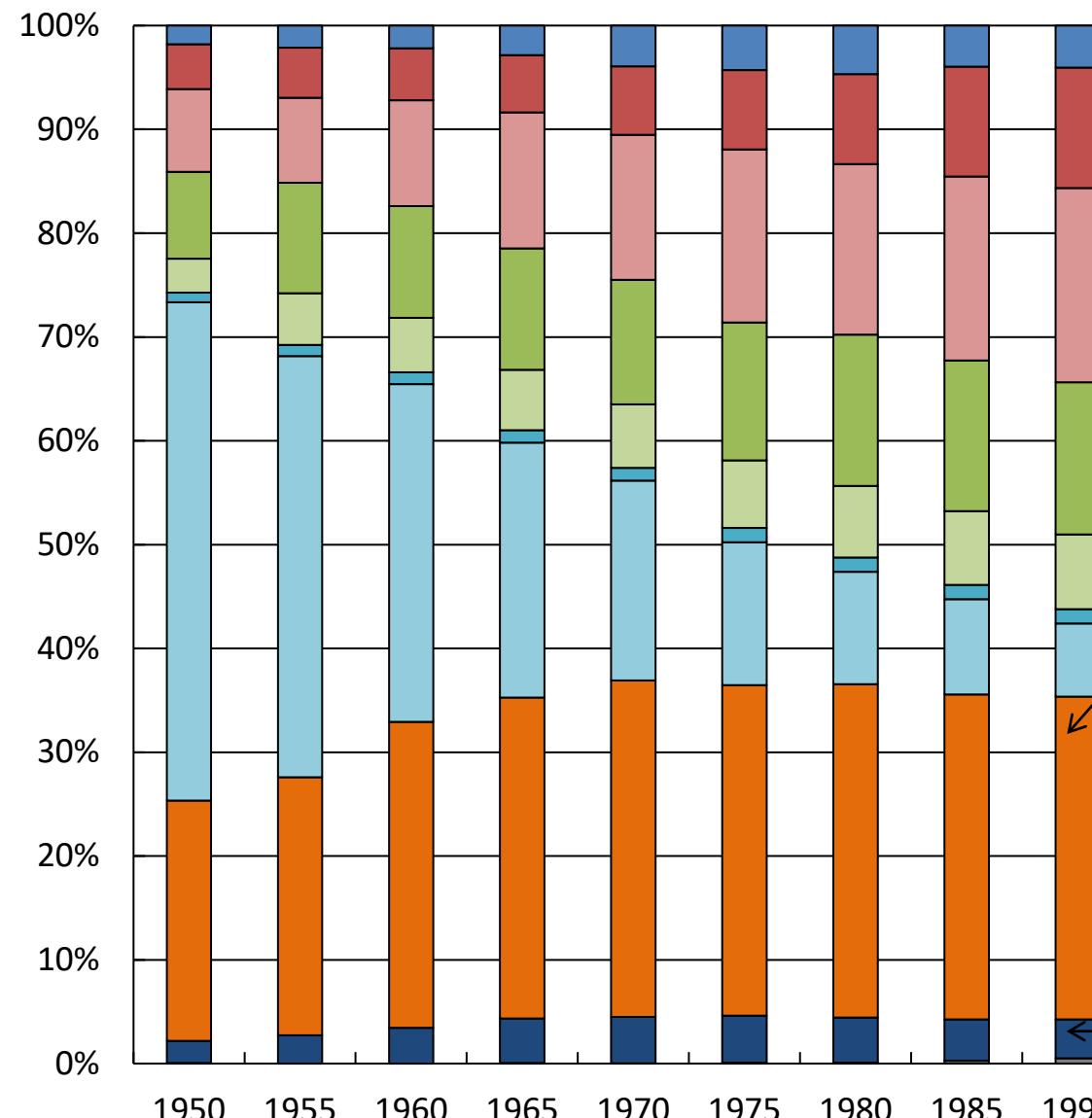


(出典)文部科学省「令和5年度学校基本統計」

※専門学校は職業別就職者数データがないため記載していない。

# 職業別就業者構成割合の推移

- 農林漁業従事者が減少する中で、専門的・技術的職業、事務従事者、サービス職業従事者等の割合が高まっている。
- 高生産工程・労務作業者の割合は低下傾向にあり、職業別にみても就業構造のサービス産業化が進んでいる。

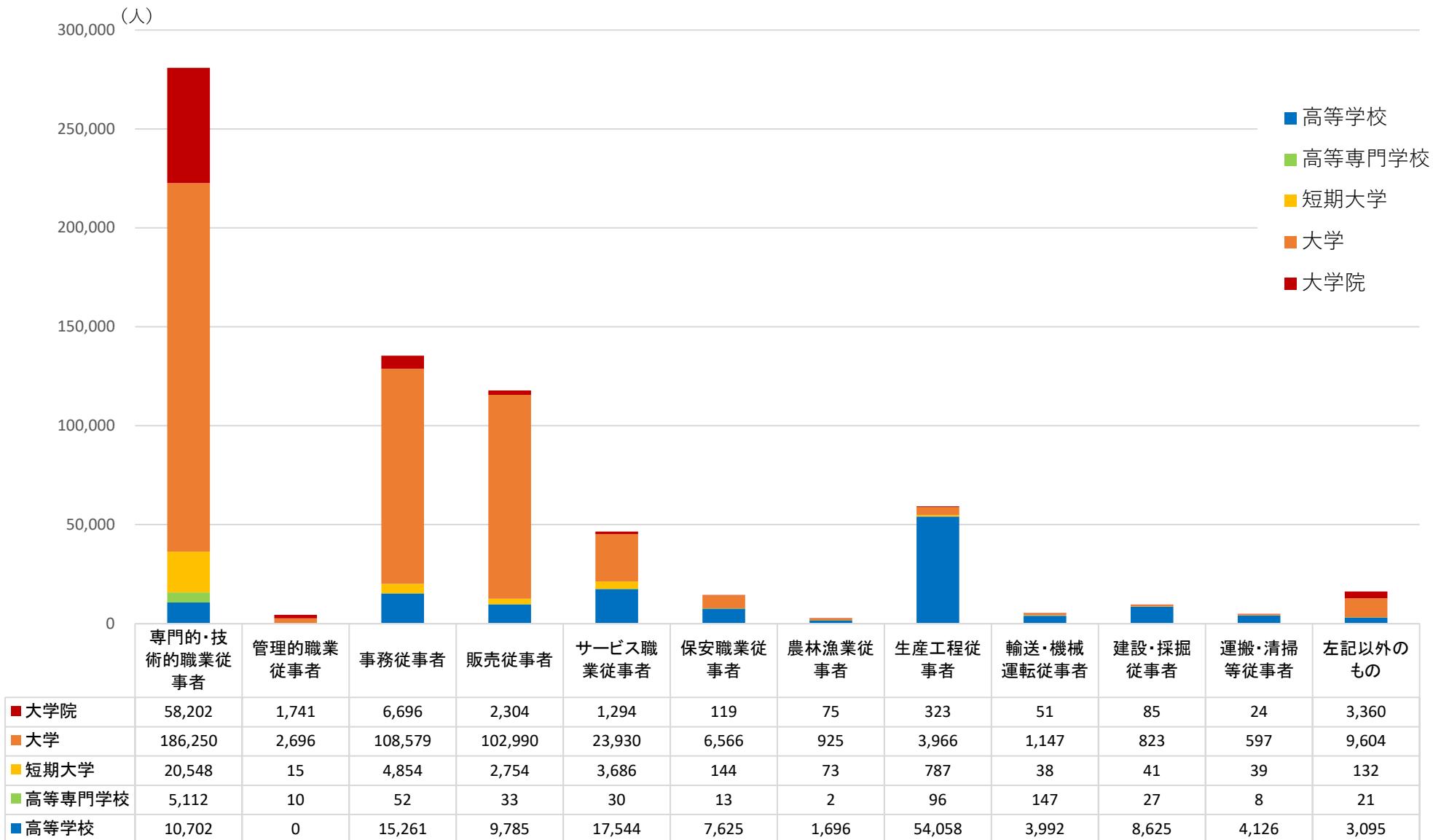


(出典)「国勢調査」(総務省統計局)

※1995年、2000年及び2005年は、総務省統計局による抽出詳細集計に基づく推計、集計である。  
1990年までとは産業の表章が異なっており、接合は行えない。

# 各学校段階の職業別就職者数

- 専門的・技術的職業従事者」「事務従事者」「販売従事者」の職業には、多くの大学卒業者が就職している。
- 短期大学、高等専門学校及び大学院の卒業者は、「専門的・技術的職業従事者」への就職が多い。

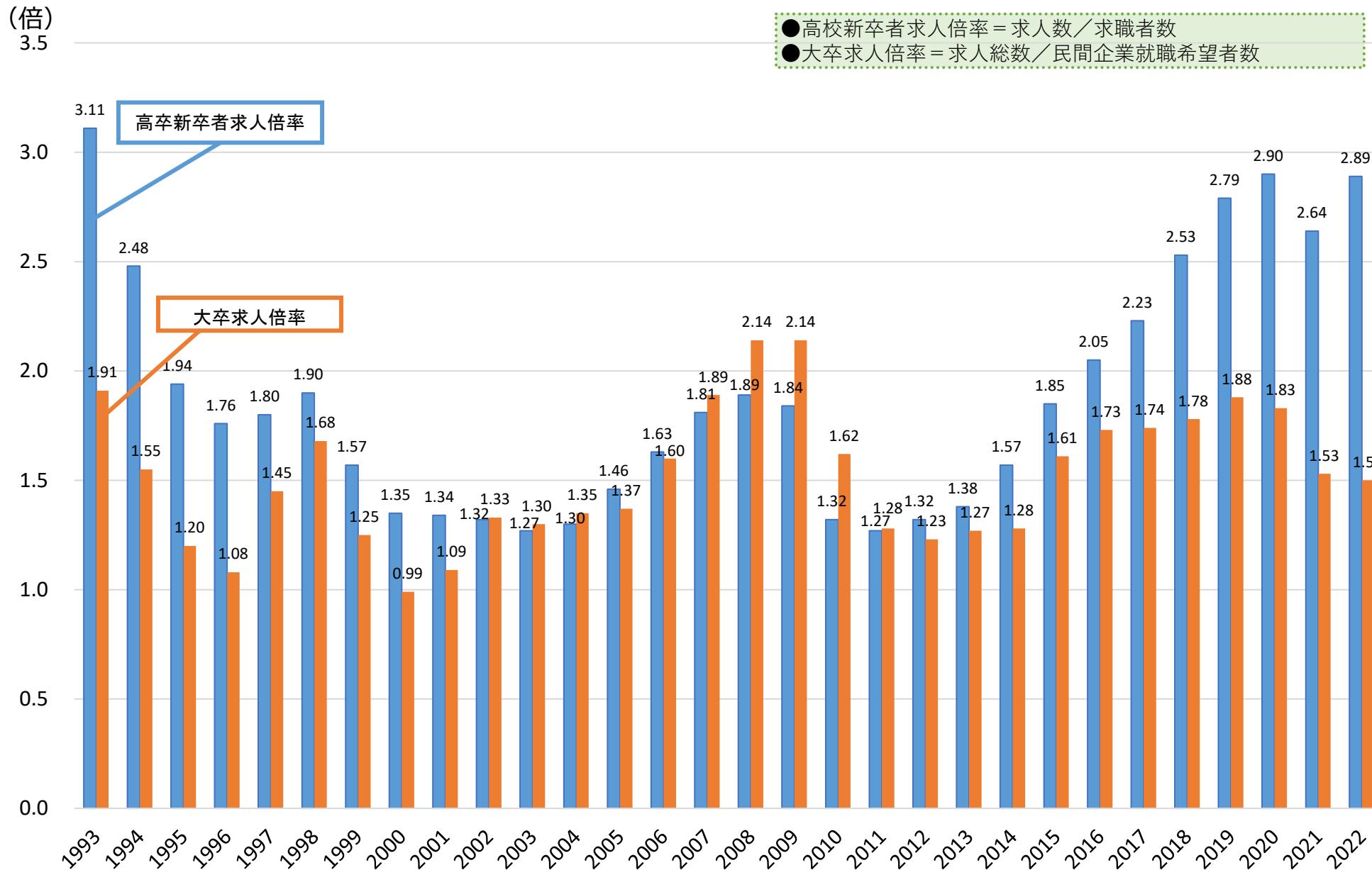


(出典)文部科学省「令和5年度学校基本統計」

\*専門学校は職業別就職者数データがないため記載していない。

# 高校新卒者求人倍率と大卒求人倍率の推移

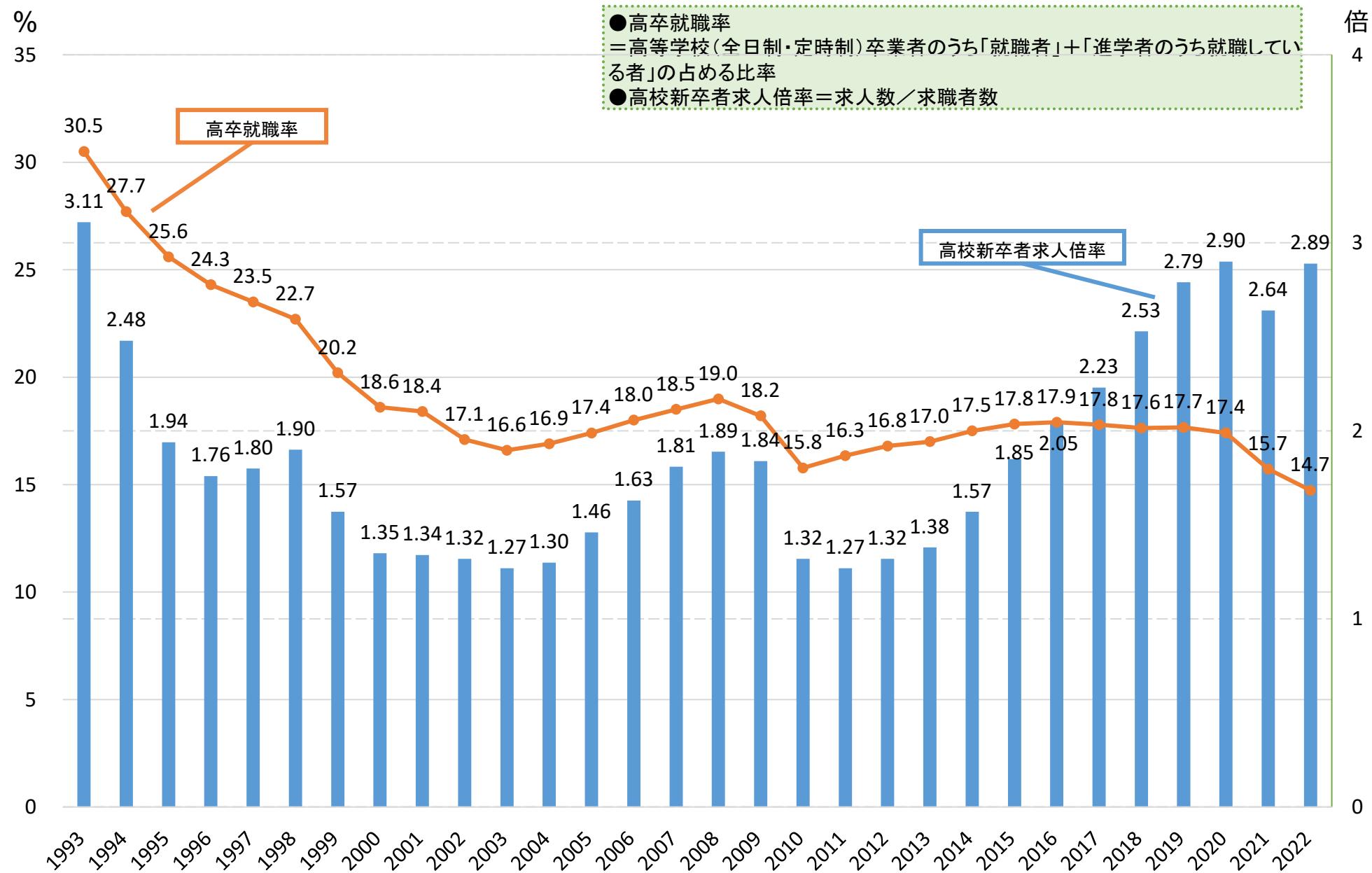
- 高卒新卒者求人倍率は平成5年に最も高くなつたが、バブル崩壊以降減少。リーマンショック前は改善していたが、以降減少。近年は改善している。
- 大卒求人倍率も同様に、バブル崩壊以降減少。リーマンショック前に最高値となつたが、以降は減少。近年は新型コロナウイルス感染症の影響等により悪化。



出典:厚生労働省(高校新卒者求人倍率)、リクルートワークス研究所(大卒求人倍率)

# 高卒就職率と高校新卒者求人倍率の推移

高卒就職率は、求人倍率と同様、バブル崩壊後減少。リーマンショック前に若干上昇したが、その後減少し、以降横ばい。近年は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少。一方で、求人倍率はリーマンショック後の減少から上昇に転じている。

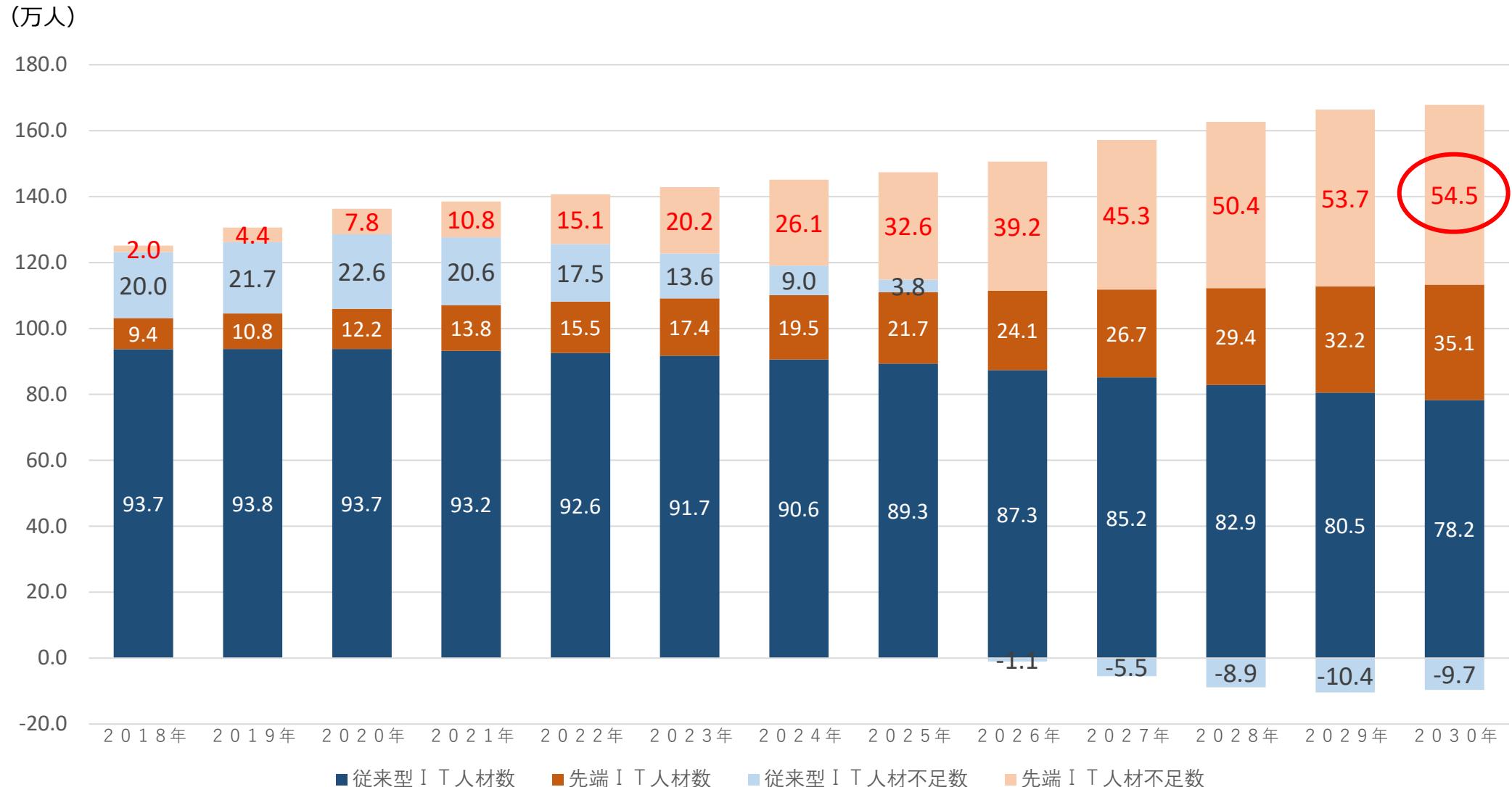


出典：文部科学省 学校基本統計（高卒就職率）、厚生労働省（高校新卒者求人倍率）

# デジタル化の進展

# IT人材需給に関する試算

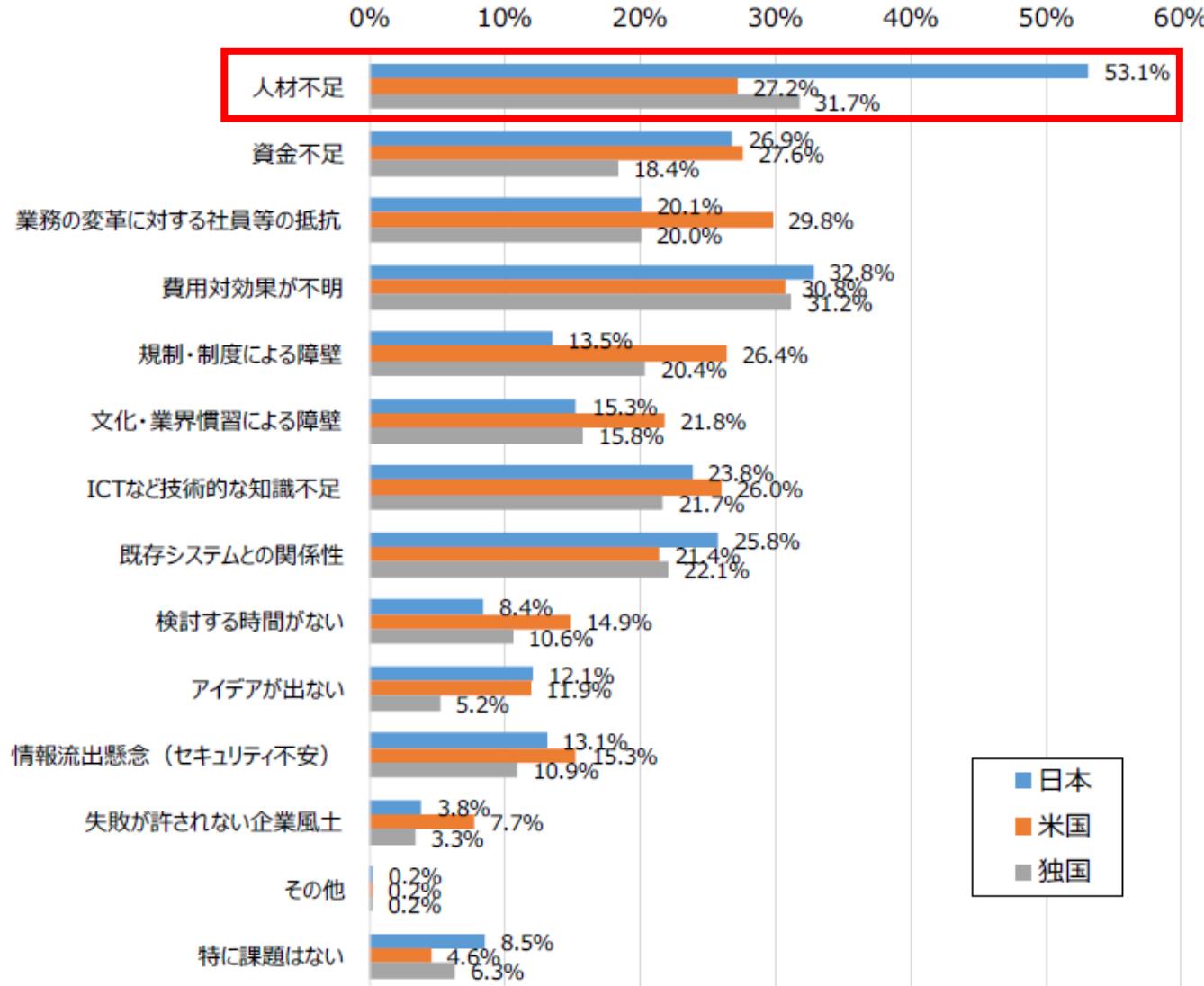
IT人材需給に関する試算では、人材のリスキリングが停滞した場合、2030年には先端IT人材が54.5万人不足。



(出典) 経済産業省委託調査「IT人材需給に関する調査(みずほ情報総研株式会社)」(2019年3月)より作成。

# 企業がDXを進めるにあたっての課題(日米独比較)

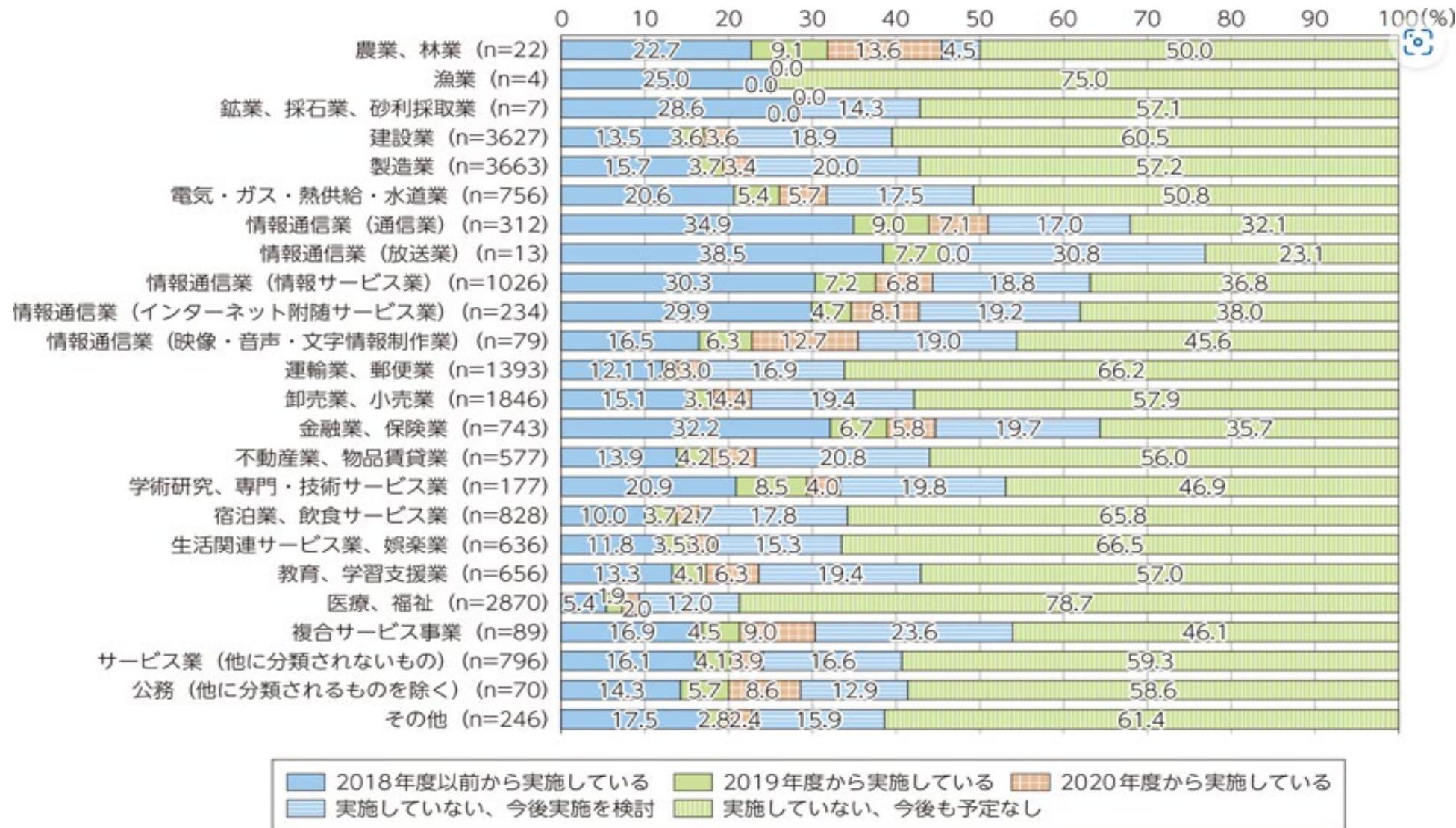
アメリカやドイツと比較して、日本はDXの取組を進めるにあたっての課題として、「人材不足」を挙げている企業が圧倒的に多い。



(出典) 総務省委託調査「デジタル・トランスフォーメーションによる経済へのインパクトに関する調査研究報告書（株式会社情報通信総合研究所）」（2021年3月）

# デジタル・トランスフォーメーションの業種別状況

デジタル・トランスフォーメーションの業種別の状況は、情報通信業では取組が軒並み進んでいるほか、金融業、保険業が約45%と取組が進んでいる。

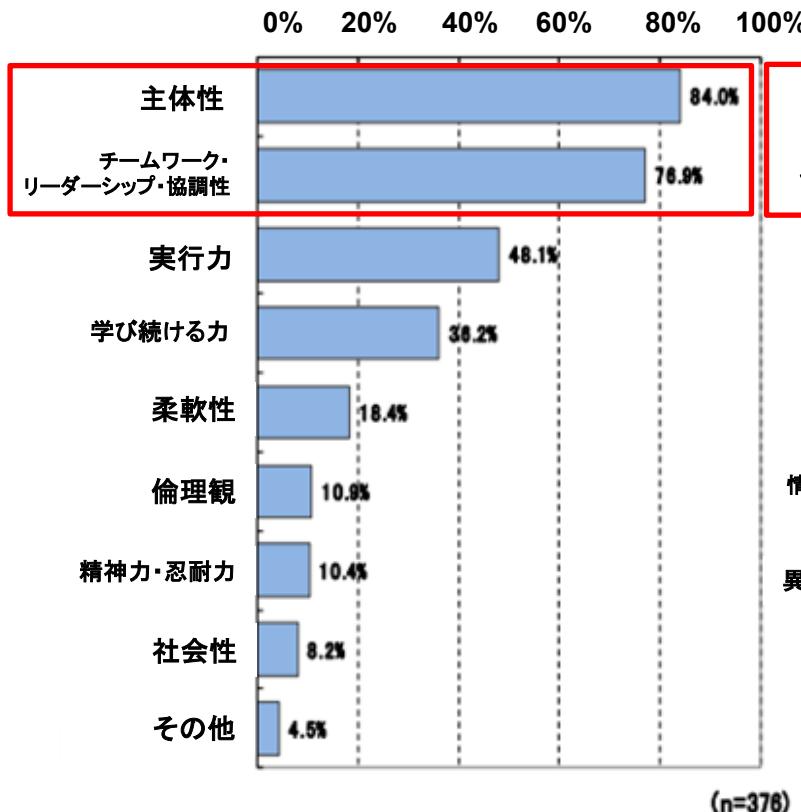


# 社会ニーズの変化

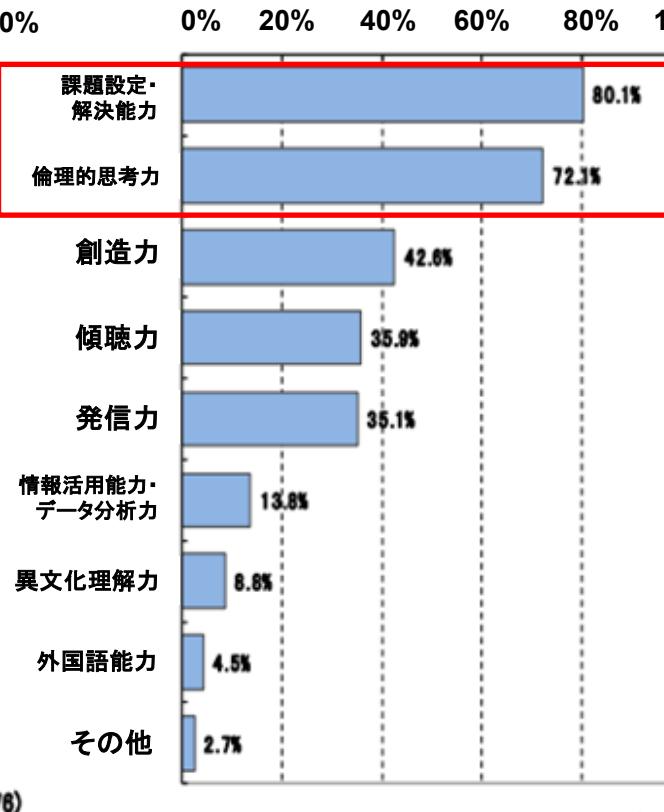
# 産業界が求める人材ニーズ

採用の観点から、産業界が大卒者に特に期待する資質としては「主体性」「チームワーク・リーダーシップ・協調性」、能力としては「課題設定・解決能力」「論理的思考力」、知識としては「文系・理系の枠を超えた知識・教養」「専攻分野における基礎知識」の割合が高い。

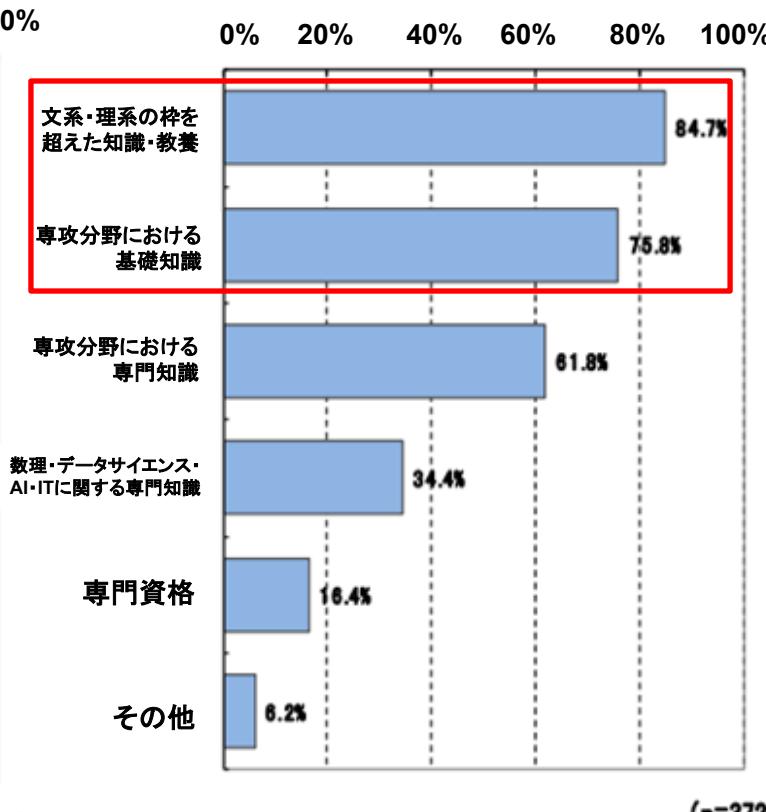
<特に期待する資質>



<特に期待する能力>



<特に期待する知識>

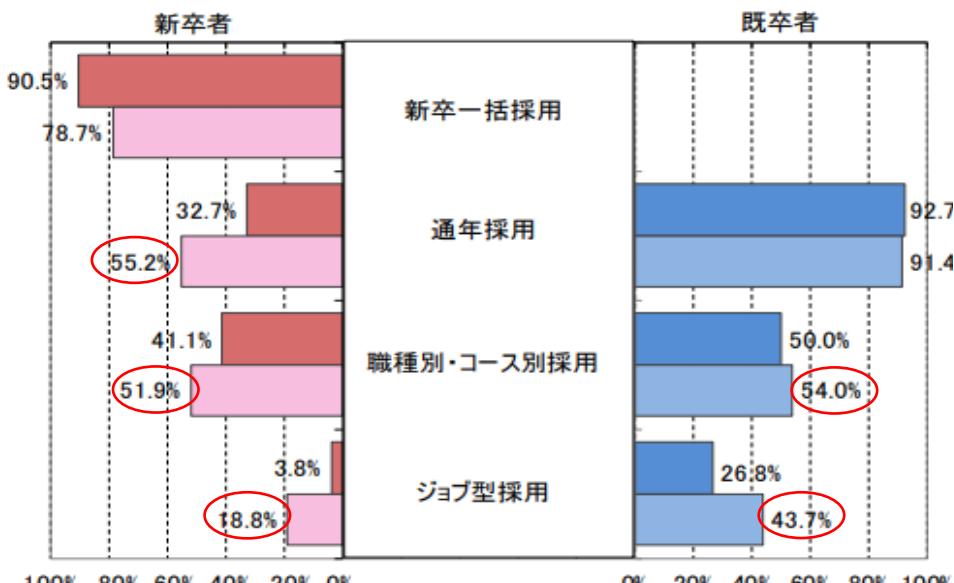


注：資質・能力・知識についてそれぞれ3つまで選択可能

# 産業界における採用トレンドの変化

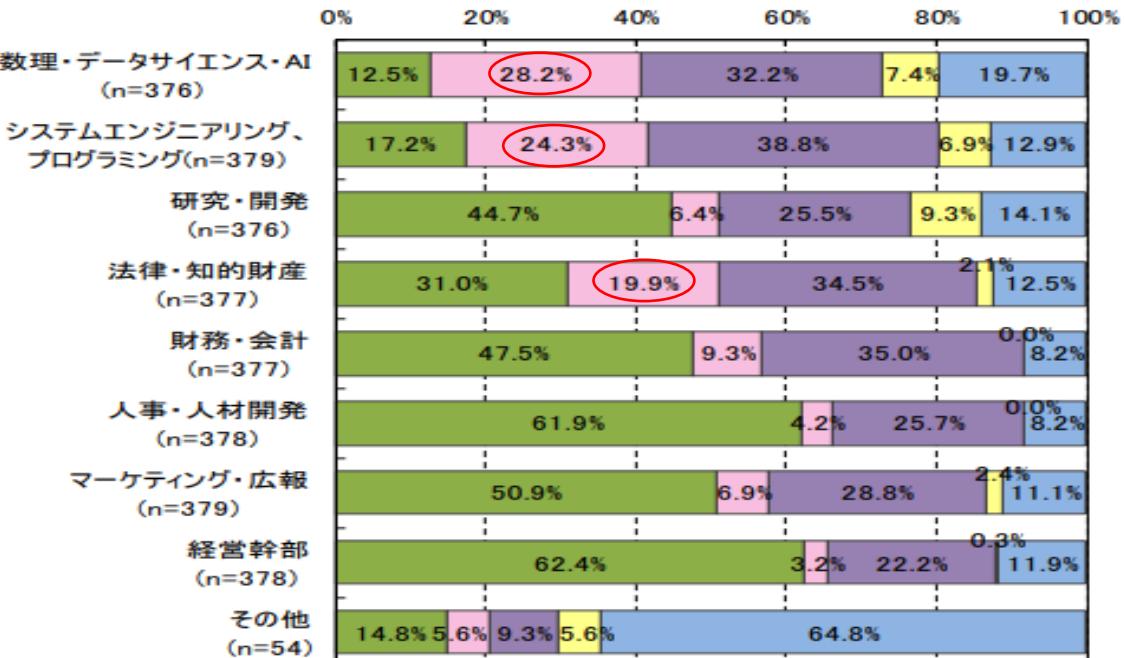
今後5年程度先の採用トレンドとして、「新卒一括採用」以外の「通年採用」「職種別・コース別採用」「ジョブ型採用」の実施割合が増加し、多様化が進む見込みであり、「数理・データサイエンス・AI」「システムエンジニアリング、プログラミング」「法律・知的財産」の分野では、主として即戦力の外部採用する方針の企業が多い。

<新卒者・既卒者の採用方法の動向> (複数回答可)



- これまで実施 新卒者 (n=370)
- 今後5年程度先実施 新卒者 (n=362)
- これまで実施 既卒者 (n=354)
- 今後5年程度先実施 既卒者 (n=350)

<分野別専門人材の採用・育成動向>



- 主として、社内で育成
- 主として、即戦力の外部採用
- 社内育成と外部採用が同程度
- 専門人材を必要としない
- 未定

(出典)「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果(2022年1月18日)」(一般社団法人 日本経済団体連合会)

# 若者の現状

# PISA2022の結果

日本は数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーのいずれにおいても諸外国と比較して上位に位置している。

## PISA2022の3分野の得点の国際比較（概要）

### OECD加盟国（37か国）における比較

□は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	日本	536	アイルランド*	516	日本	547
2	韓国	527	日本	516	韓国	528
3	エストニア	510	韓国	515	エストニア	526
4	スイス	508	エストニア	511	カナダ*	515
5	カナダ*	497	カナダ*	507	フィンランド	511
6	オランダ*	493	アメリカ*	504	オーストラリア*	507
7	アイルランド*	492	ニュージーランド*	501	ニュージーランド*	504
8	ベルギー	489	オーストラリア*	498	アイルランド*	504
9	デンマーク*	489	イギリス*	494	スイス	503
10	イギリス*	489	フィンランド	490	スロベニア	500
	OECD平均	472	OECD平均	476	OECD平均	485
	信頼区間※(日本) : 530-541		信頼区間(日本) : 510-522		信頼区間(日本) : 541-552	

### 全参加国・地域（81か国・地域）における比較

□は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	シンガポール	575	シンガポール	543	シンガポール	561
2	マカオ	552	アイルランド*	516	日本	547
3	台湾	547	日本	516	マカオ	543
4	香港*	540	韓国	515	台湾	537
5	日本	536	台湾	515	韓国	528
6	韓国	527	エストニア	511	エストニア	526
7	エストニア	510	マカオ	510	香港*	520
8	スイス	508	カナダ*	507	カナダ*	515
9	カナダ*	497	アメリカ*	504	フィンランド	511
10	オランダ*	493	ニュージーランド*	501	オーストラリア*	507
	信頼区間※(日本) : 530-541		信頼区間(日本) : 510-522		信頼区間(日本) : 541-552	

\*国名の後に「\*」が付されている国・地域は、PISAサンプリング基準を一つ以上満たしていないことを示す。

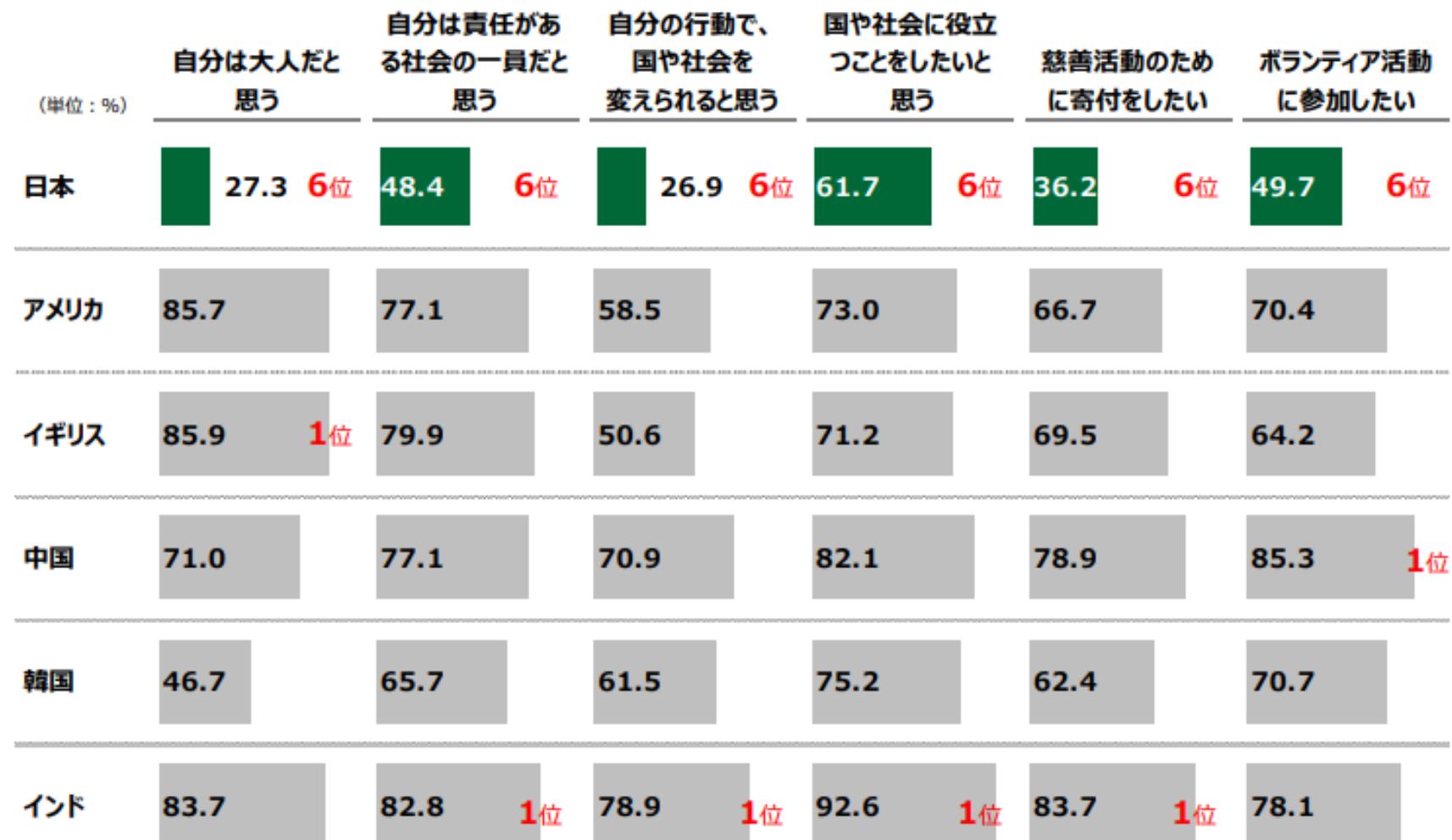
※信頼区間は調査対象者となる生徒全員（母集団）の平均値が存在すると考えられる得点の幅を表す。PISA調査は標本調査であるため一定の幅をもって平均値を考える必要がある。

# 社会課題解決に関する若者の意識(諸外国比較)

若者の自身と社会の関わり意識について、以下の全ての項目で日本は6カ国中最下位となった。特に「自分は大人だと思う」「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」がそれぞれ3割に満たず、他の国に差をつけて低い。

Q 以下の項目に同意しますか。 (各国n=1000)

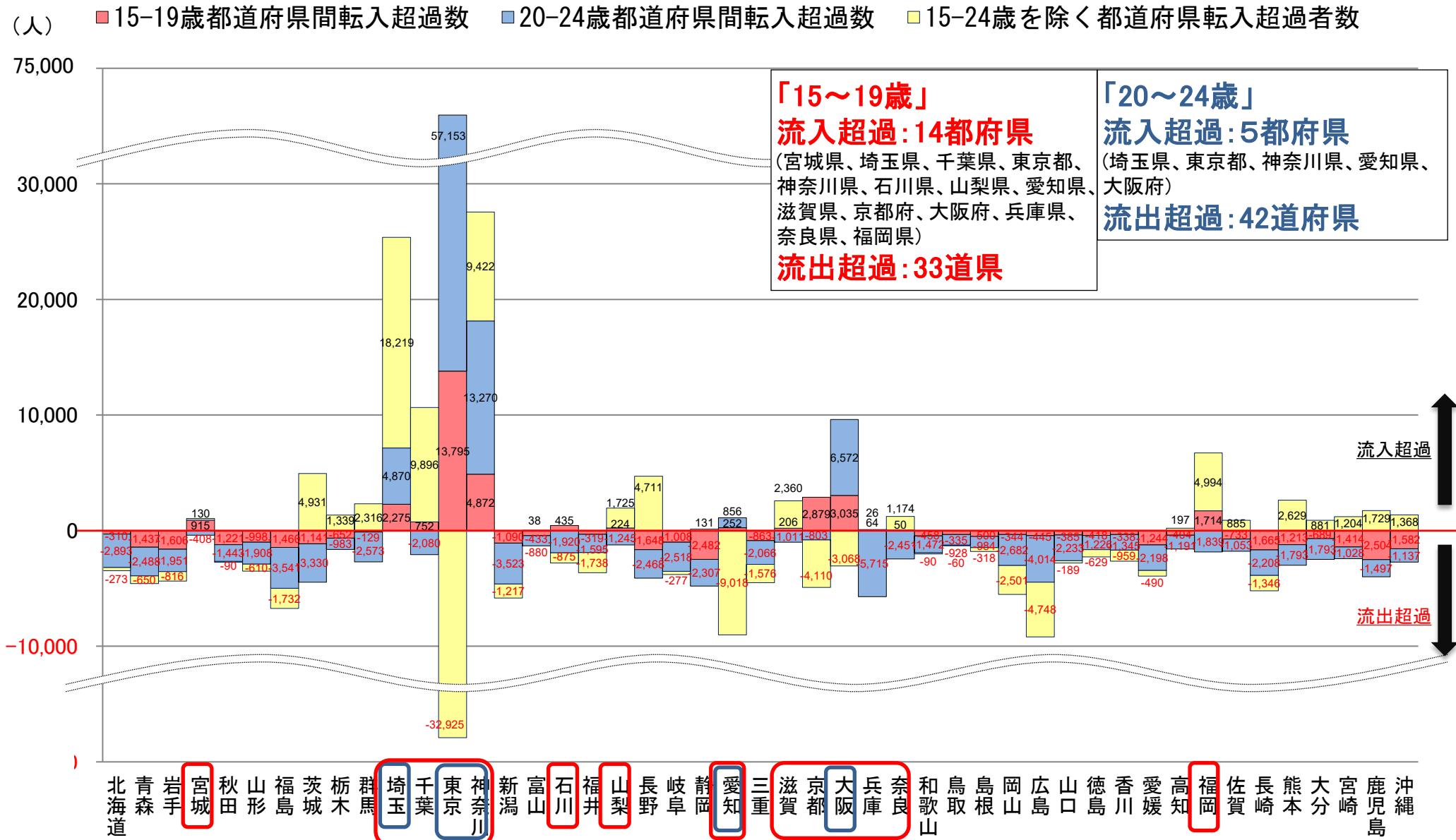
※「はい」回答率を掲載



(出典) 日本財団「18歳意識調査第46回 -社会や国に対する意識(6カ国調査)-」(令和4年3月)

# 若者の人口移動

若者の人口移動は、15～19歳（大学進学等）では各都市圏に、20～24歳（就職）では東京圏・大阪府・愛知県に集中している。

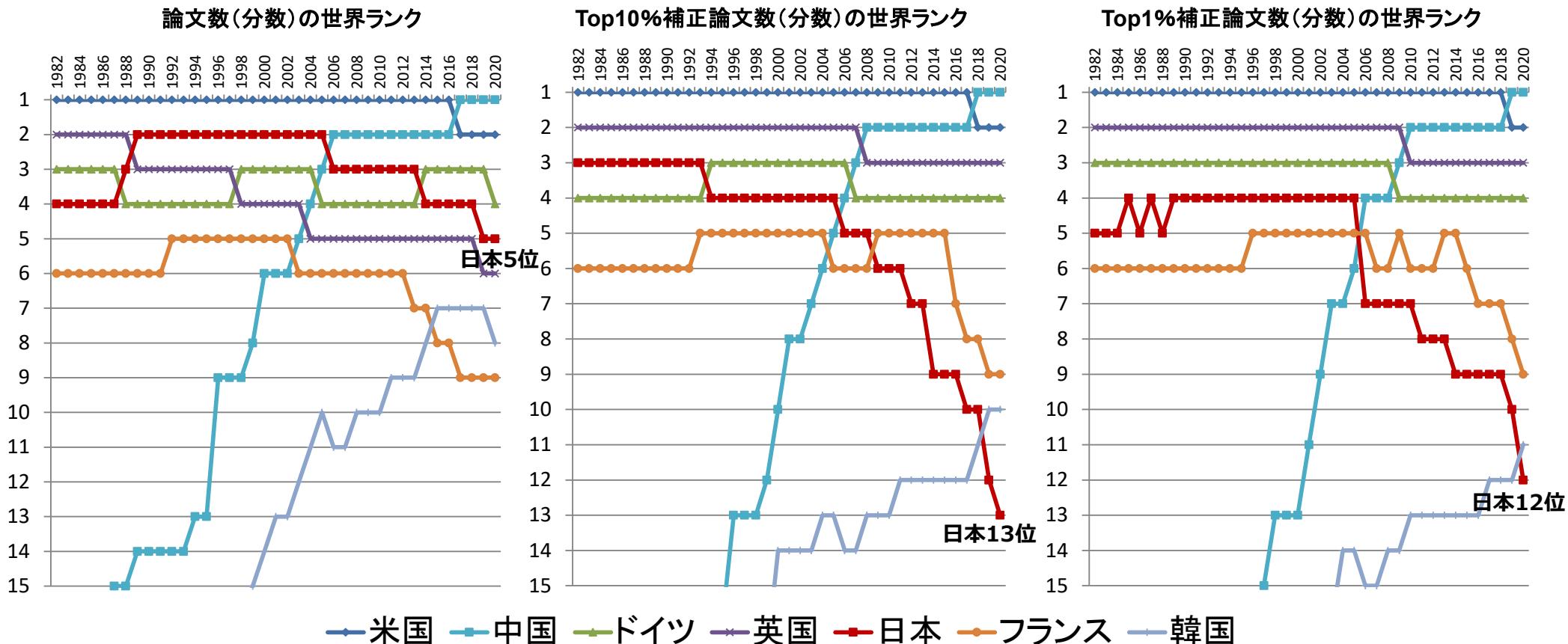


(出典) 総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」(2022年)より作成

# 学術研究を取り巻く動向

# 主要国の論文数、注目度の高い論文数における世界ランクの変動

日本の論文数及び注目度の高い論文数(Top10%・Top1%補正論文数)における世界ランクが、2000年代半ばから低下。  
分数カウント法では、日本の論文数(2019-2021年の平均)は第5位、Top10%は第13位、Top1%補正論文数は第12位。



分数カウント法とは、1件の論文が、日本の機関Aと米国の機関Bの共著の場合、日本を1/2、米国を1/2と数える方法。論文の生産への貢献度を示している。

(注1) Article, Reviewを分析対象とし、分数カウント法により分析。3年移動平均値であり、2020年は、2019-2021年平均値における世界ランクを意味する。

(注2) 論文の被引用数(2022年末の値)が各年各分野(22分野)の上位10%(1%)に入る論文数がTop10%(Top1%)論文数である。Top10%(Top1%)補正論文数とは、Top10%(Top1%)論文数の抽出後、**32** 実数で論文数の1/10(1/100)となるように補正を加えた論文数を指す。

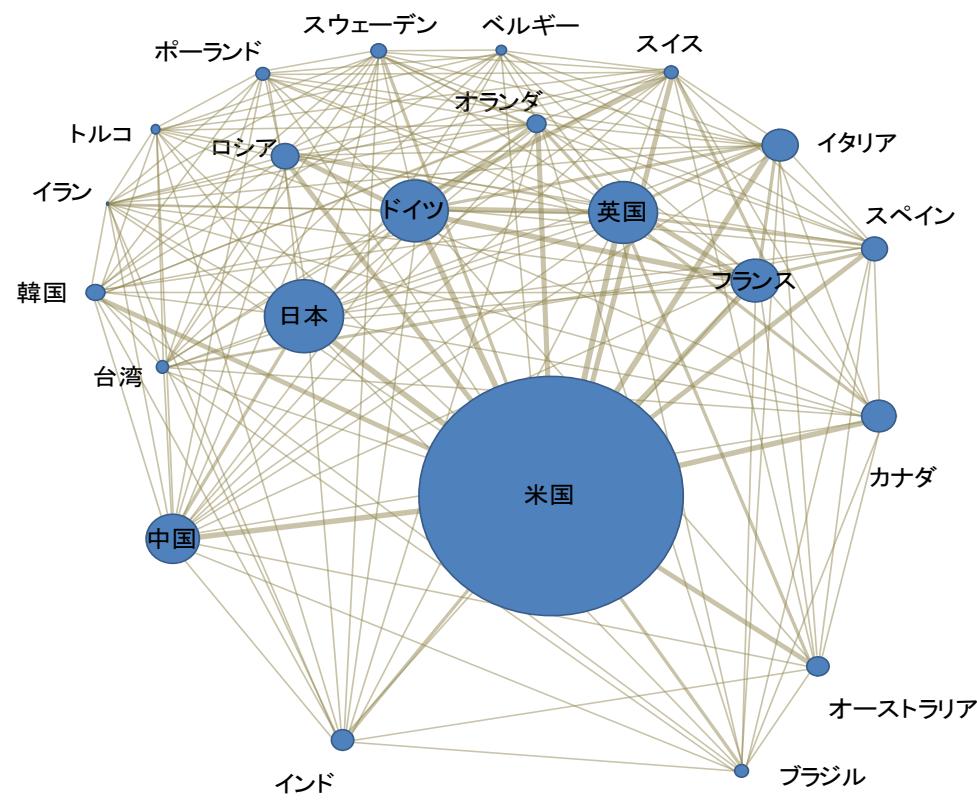
クラリベイト社 Web of Science XML (SCIE, 2022年末バージョン)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。

出典：文部科学省 科学技術・学術政策研究所「科学研究のベンチマーク2023」(2023年8月)

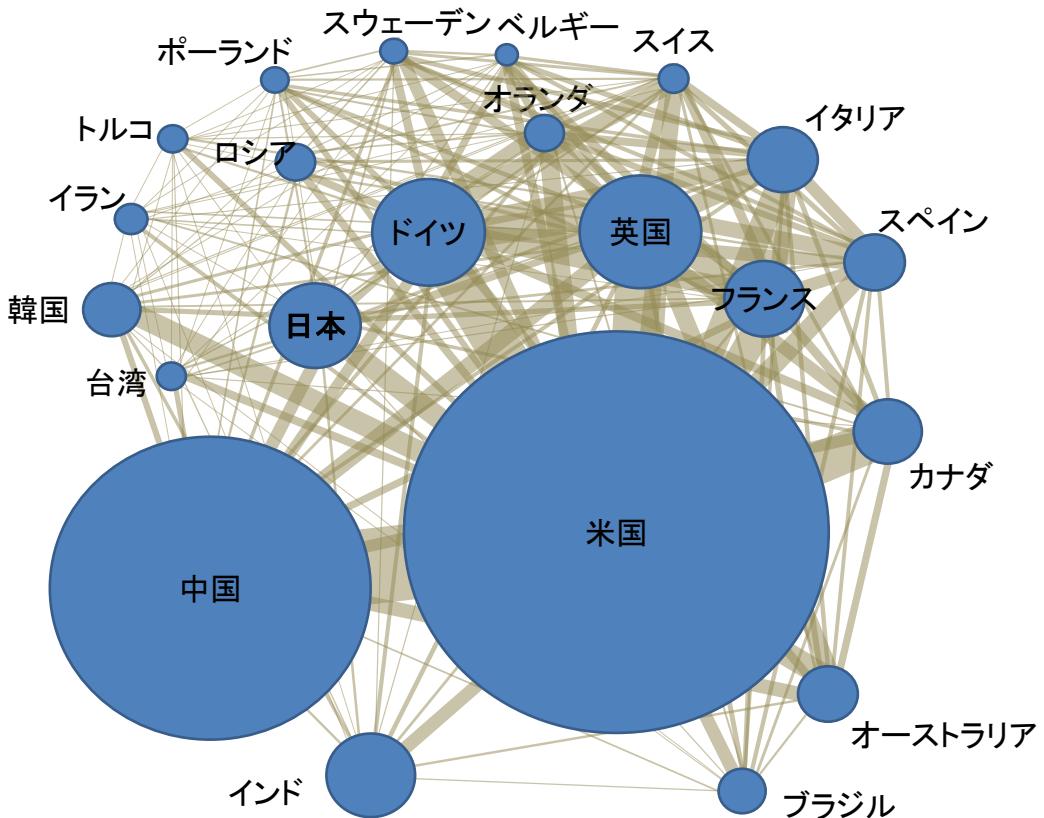
# 論文と国際共著論文の動向の変化

国際的に科学論文数や国際共著論文数が伸びており、特に中国の増加が目立つが、日本の伸びは鈍い。

2005年



2015年



- 注: 1. 円の大きさ(直径)は当該国又は地域の論文数を示している。  
2. 円の間を結ぶ線は、当該国又は地域を含む国際共著論文数を示しており、線の太さは国際共著論文数の多さにより太くなる。  
3. 直近3年間分の論文を対象とし、整数カウントにて求めている。

# 各国のノーベル賞受賞者数の推移

- 我が国のノーベル賞受賞者数（自然科学系）は米国、英国、ドイツ、フランスについて世界第5位。
- 過去の科学技術投資の結果として、2000年以降だけで見ると米国に次いで世界第2位となっている。

## ○各国のノーベル賞受賞者数（自然科学系3分野）の推移

	1901—1990年	1991—2000年	2001—2023年	合計
米国	156	39	82	277
英国	65	3	17	85
ドイツ	58	5	10	73
フランス	22	3	13	38
日本	5	1	19	25
スウェーデン	15	1	2	18
スイス	12	2	4	18
ロシア	10	1	3	14

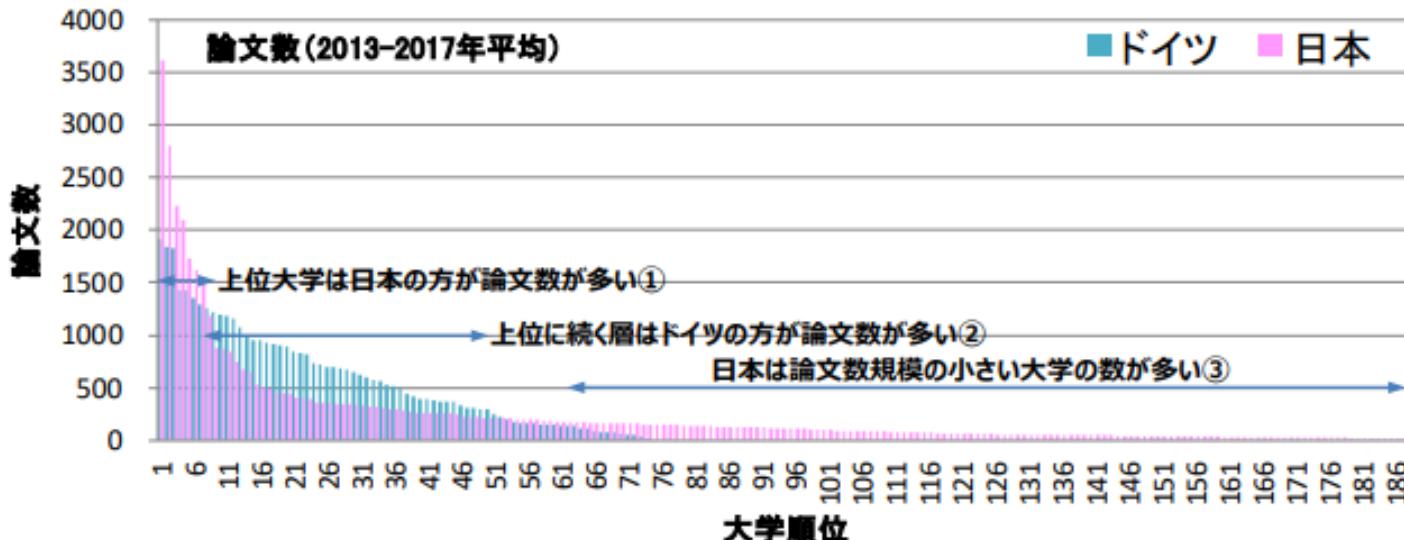
※日本人受賞者のうち、2008年南部陽一郎博士、2014年中村修二博士は、米国籍で受賞している。

出典：科学技術要覧（令和4年度版）

# 日英独の大学における論文数分布の比較

- 上位大学の論文数は、日本がドイツよりも多く、英国とは同程度であるが、上位に続く層の大学（10～50位程度）の論文数は日本が独英と比べて少ない。
- 論文数規模の小さい大学の数は、日本が独英と比べて多い。

論文数の合計	
日本	ドイツ
45,173	43,567

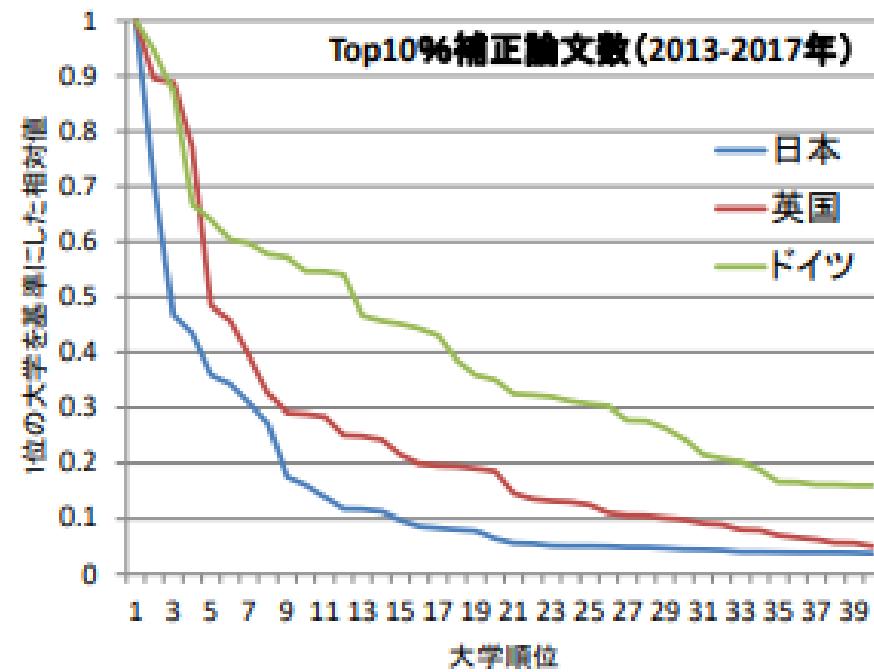
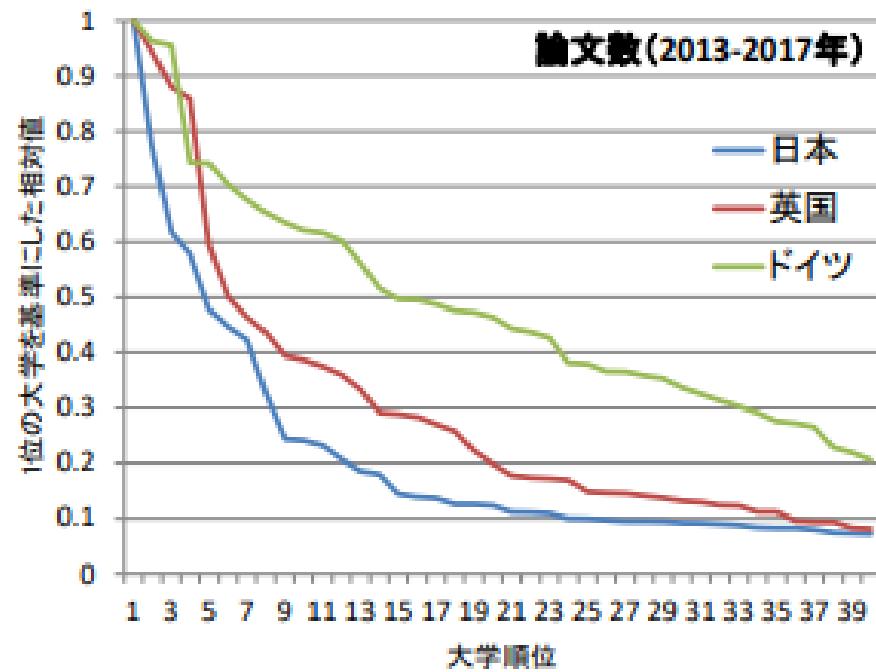


注: ArticleReviewを分析対象とした。分数カウント法を用いた。10年間で論文数が500件以上の大学を分析対象とした。

出典:「研究論文に着目した日英独の大学ベンチマーク2019」

# 日英独の大学における論文数及びTop10%補正論文数の相対分布

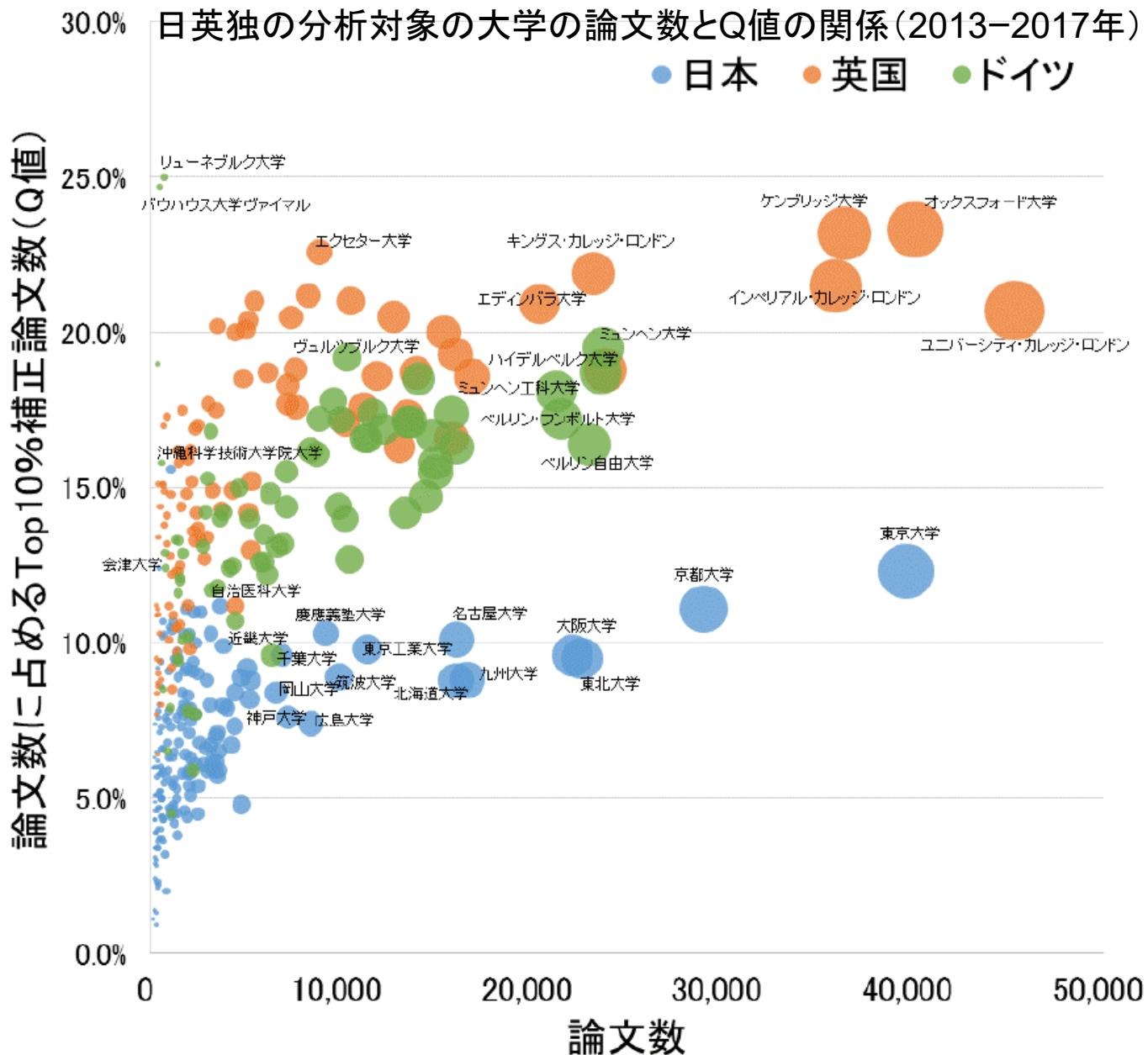
日本は、大学における論文数及びTop10%補正論文数の相対分布で見ても、英国とドイツと比べ、上位大学に論文数及びTop10%補正論文数が集中している。



注: ArticleReviewを分析対象とした。分数カウント法を用いた。10年間で論文数が500件以上の大学を分析対象とした。  
出典:「研究論文に着目した日英独の大学ベンチマーク2019」

# 日英独の分析対象の大学の論文数とQ値の関係

日本の大学は、英国とドイツの大学に比べて、論文数に占めるTop10%補正論文数の割合（Q値）が低い傾向にある。



注: ArticleReviewを分析対象とした。論文数に占める注目度の高い論文数の割合(Q値)は整数カウント法。円の大きさは論文数規模に対応している。

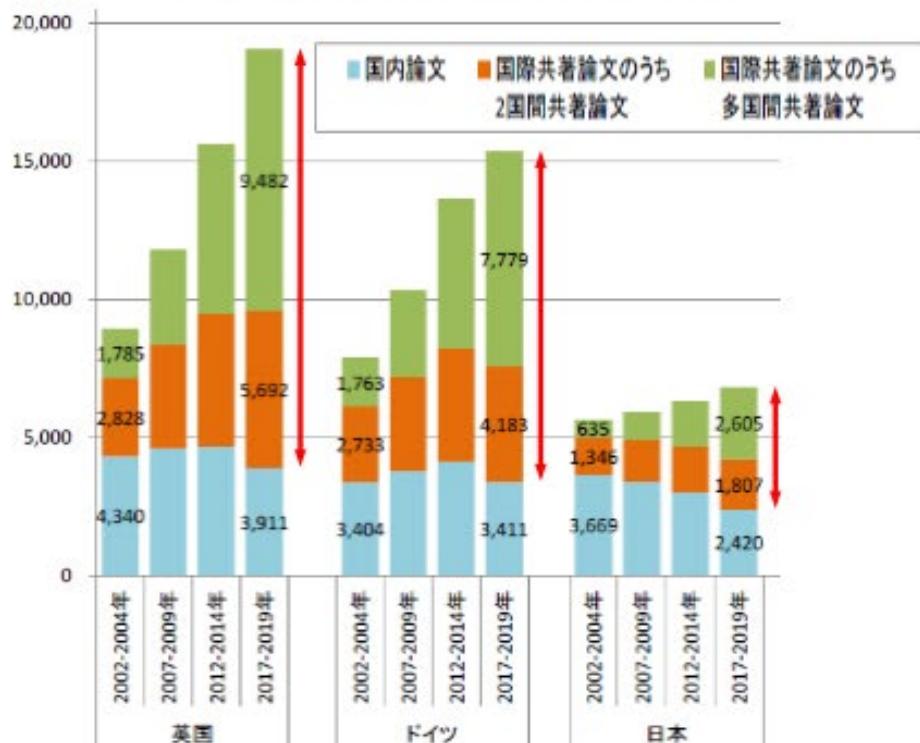
論文数に占める注目度の高い論文数の割合(Q値)は、著者数100人以下の論文で分析した。

出典: クラリベイト・アナリティクス社 Web of Science XML (SCIE, 2018年末バージョン)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。

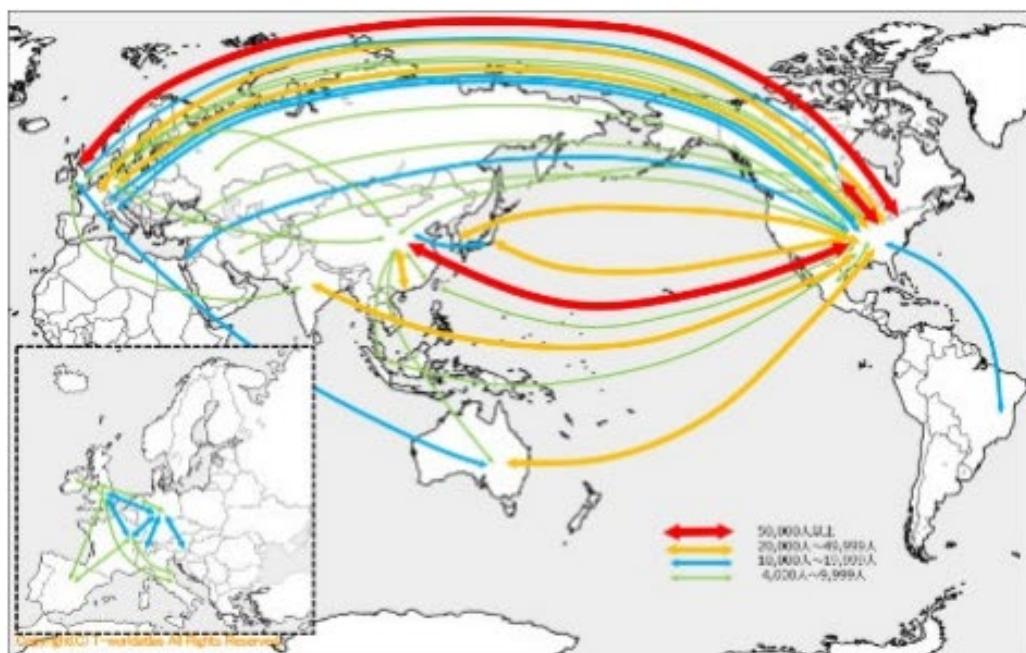
# 国際頭脳循環について(我が国の現状)

- 英国とドイツでは、被引用数でTop10%に入るような論文の大部分は国際共著によって生産されているが、日本では国際共著によるTop10%論文の生産が進んでいない。
- 世界の研究者の流動を見ても、日本と諸外国の間での研究者交流は欧米と比較して少ない。

## TOP10%論文における 国内論文数と国際共著論文数



## 世界の研究者の主な流動



注:矢印の太さは二国間の移動研究者数(2006~2016)に基づく。移動研究者とは、OECD資料中"International bilateral flows of scientific authors,2006-16"の"Number of researchers"を指す。

本図は、二国間の移動研究者数の合計が4,000人以上である矢印のみを抜粋して作成している。

出典:OECD "Science,Technology and Industry Scoreboard 2017"を基に文部科学省が作成。

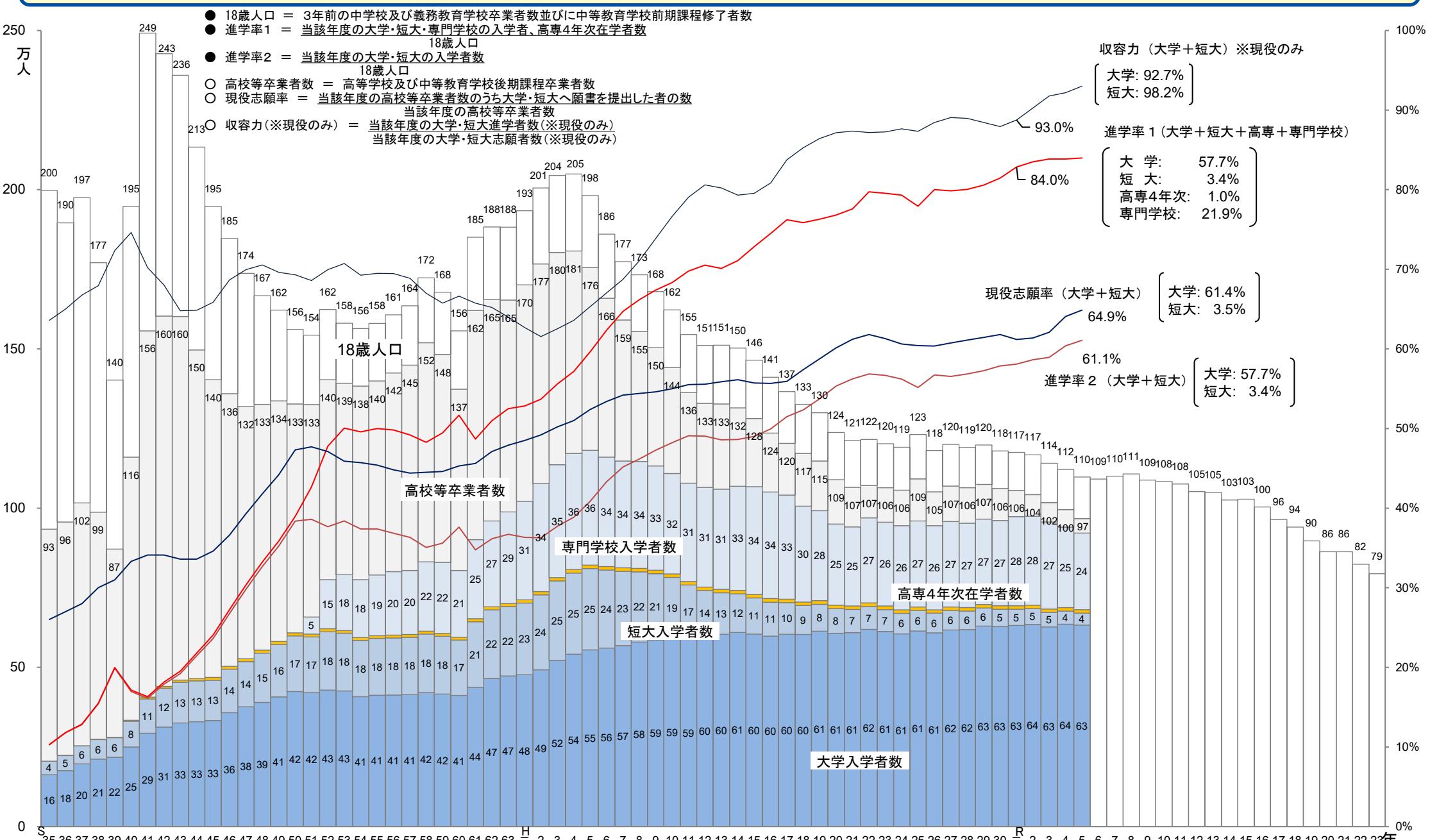
(2) 今後の高等教育全体の適正な規模を  
視野に入れた地域における質の高い  
高等教育へのアクセス確保の在り方

関連データ

# 18歳人口と高等教育進学率

# 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

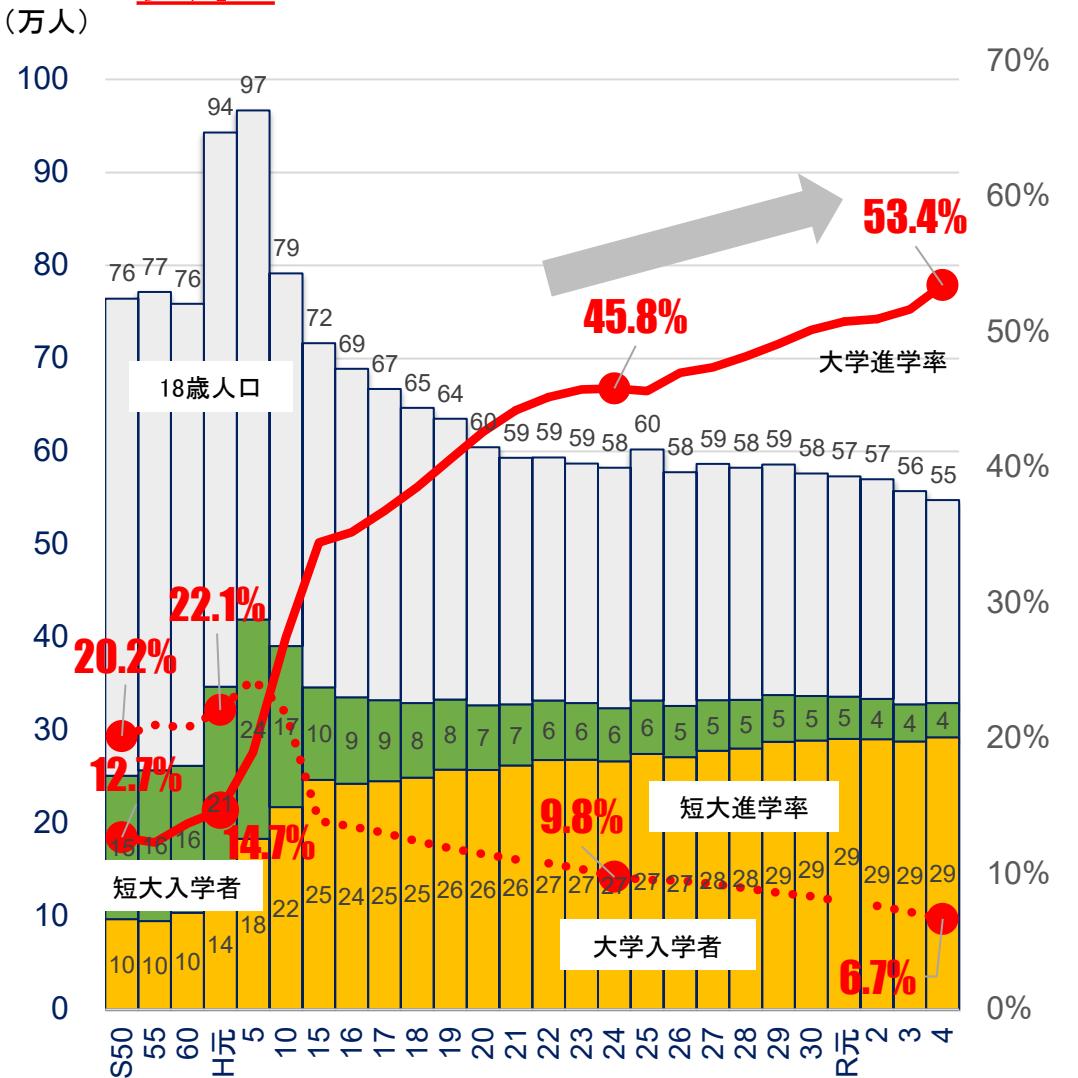
18歳人口は、ピークであった昭和41年には、約249万人であったが、令和5年には110万人にまで減少。令和23年には80万人を切ることが予測されている。高等教育機関への進学率は概ね上昇を続け、令和5年には大学のみで57.7%、全体で84.0%となっている。



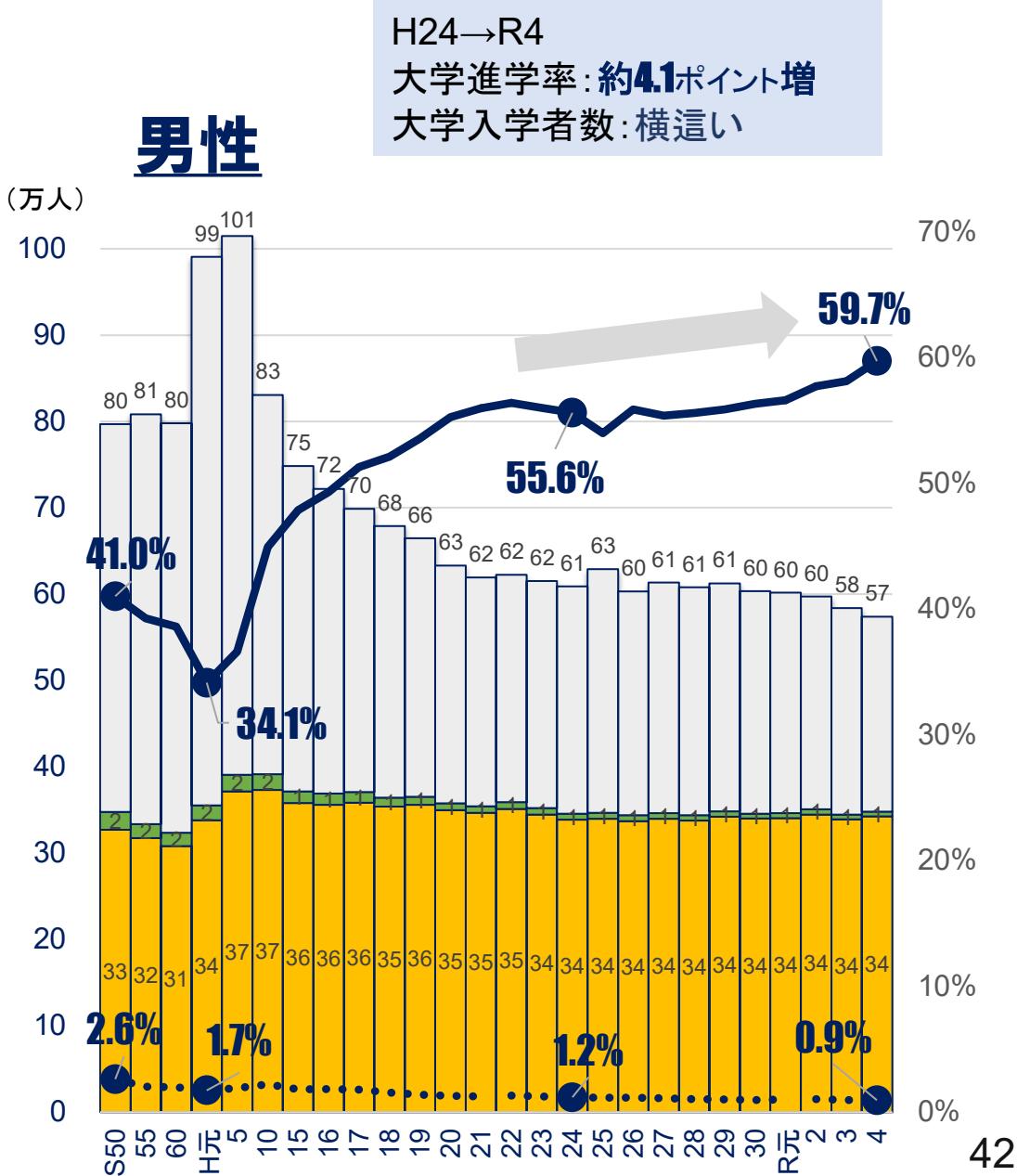
# 男女別・18歳人口と大学進学率等の推移

- 昭和50年（1975年）と比べて、女性の大学入学者数は約19万人増加、進学率も約40ポイント増加している。
- 近年は、男女とも進学率は上昇傾向にあるが女性の上昇幅が大きい。

**女性**

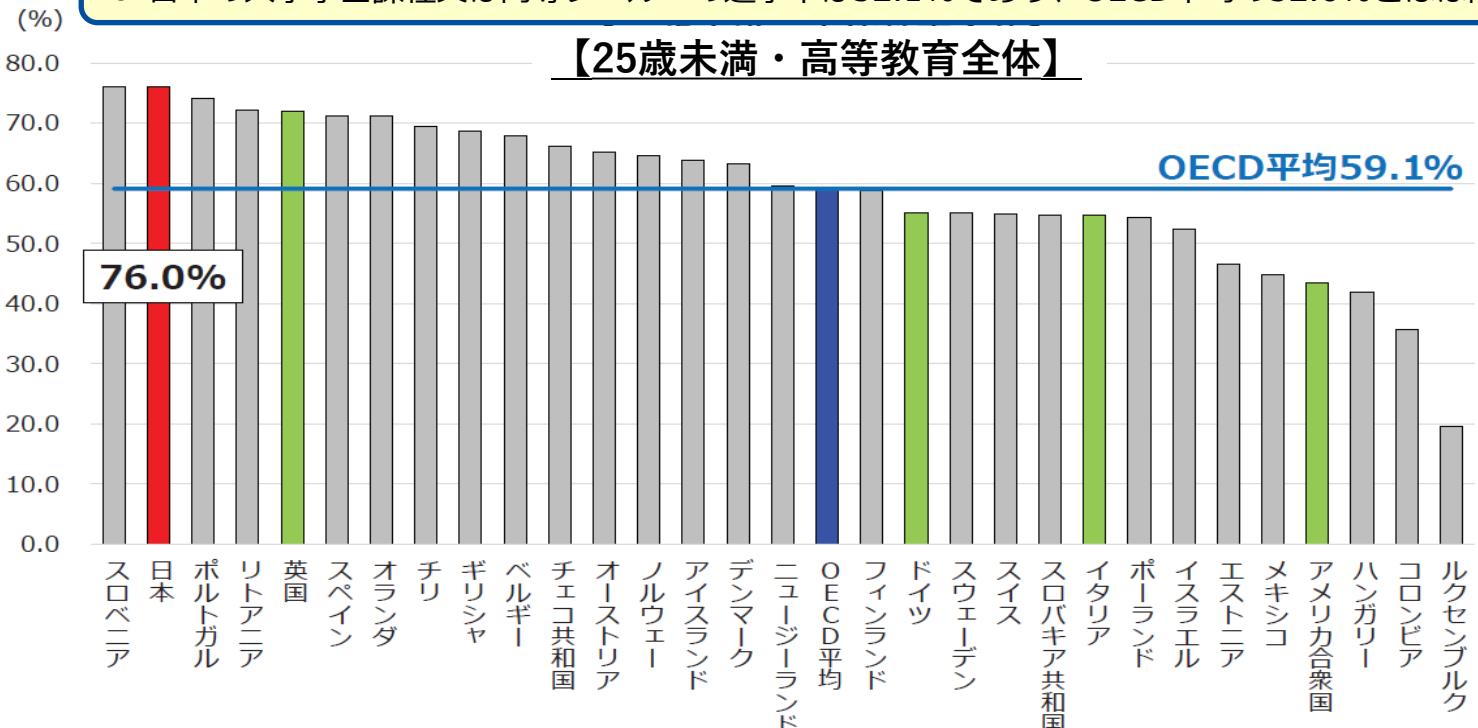


**男性**



# 高等教育段階における進学率の国際比較

- 短期大学、専門学校等を含めた高等教育機関全体への初回進学率は、OECD平均の59.1%に対して、日本は76%。
- 日本の大学学士課程又は同等レベルへの進学率は52.1%であり、OECD平均の52.6%とほぼ同水準。



(2021年)

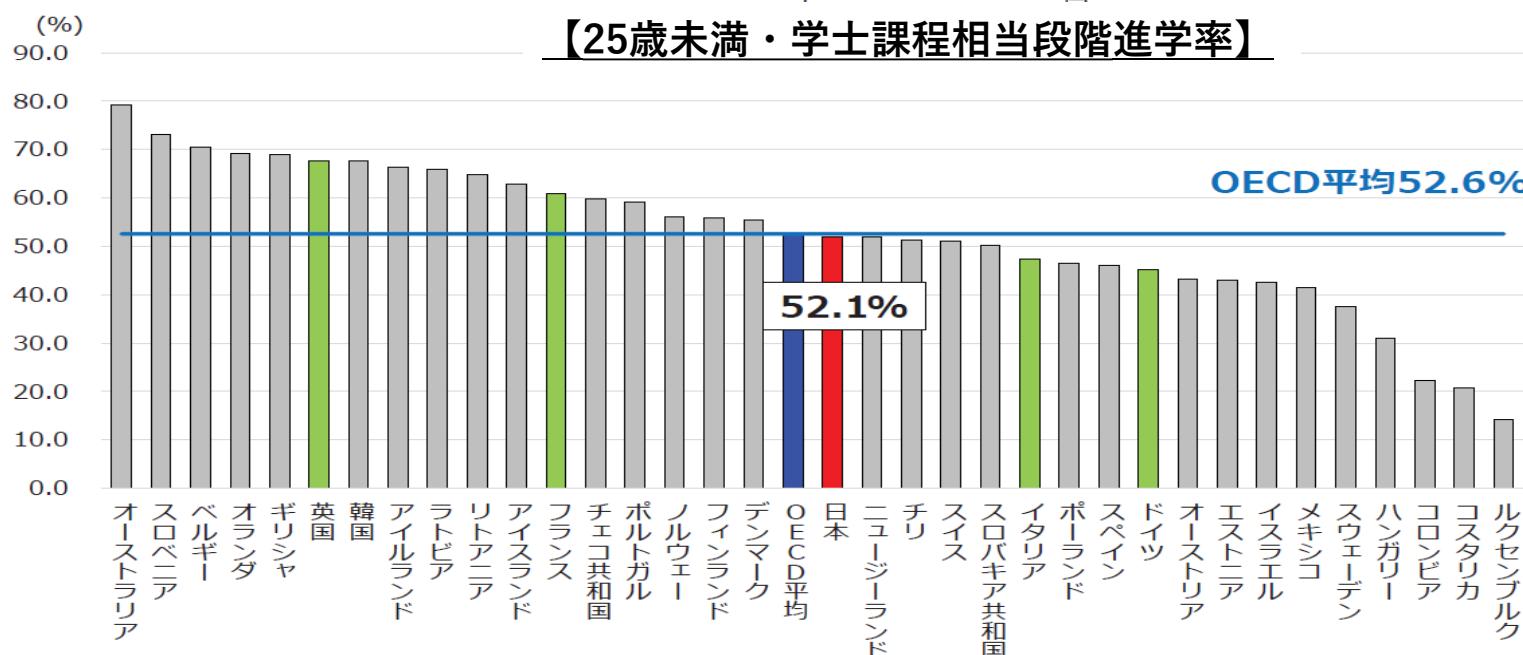
※OECD加盟38カ国のうち、オーストラリア、カナダ、コスタリカ、フランス、アイルランド、韓国、ラトビア、トルコを除く。

※グラフ緑色は日本以外のG7諸国。

※初回進学率は、25歳未満の各年齢における高等教育段階の初回入学者数を当該年齢人口で除した率の合計。留学生含む。

※高等教育への初回入学者のみが対象となるため、学士課程修了後に修士課程に進んだ者は含まない。

※参照年度は2020年度(令和2年度)。



(2021年)

※OECD加盟38カ国のうち、カナダ、アメリカ合衆国、トルコを除く。

※グラフ緑色は日本以外のG7諸国。

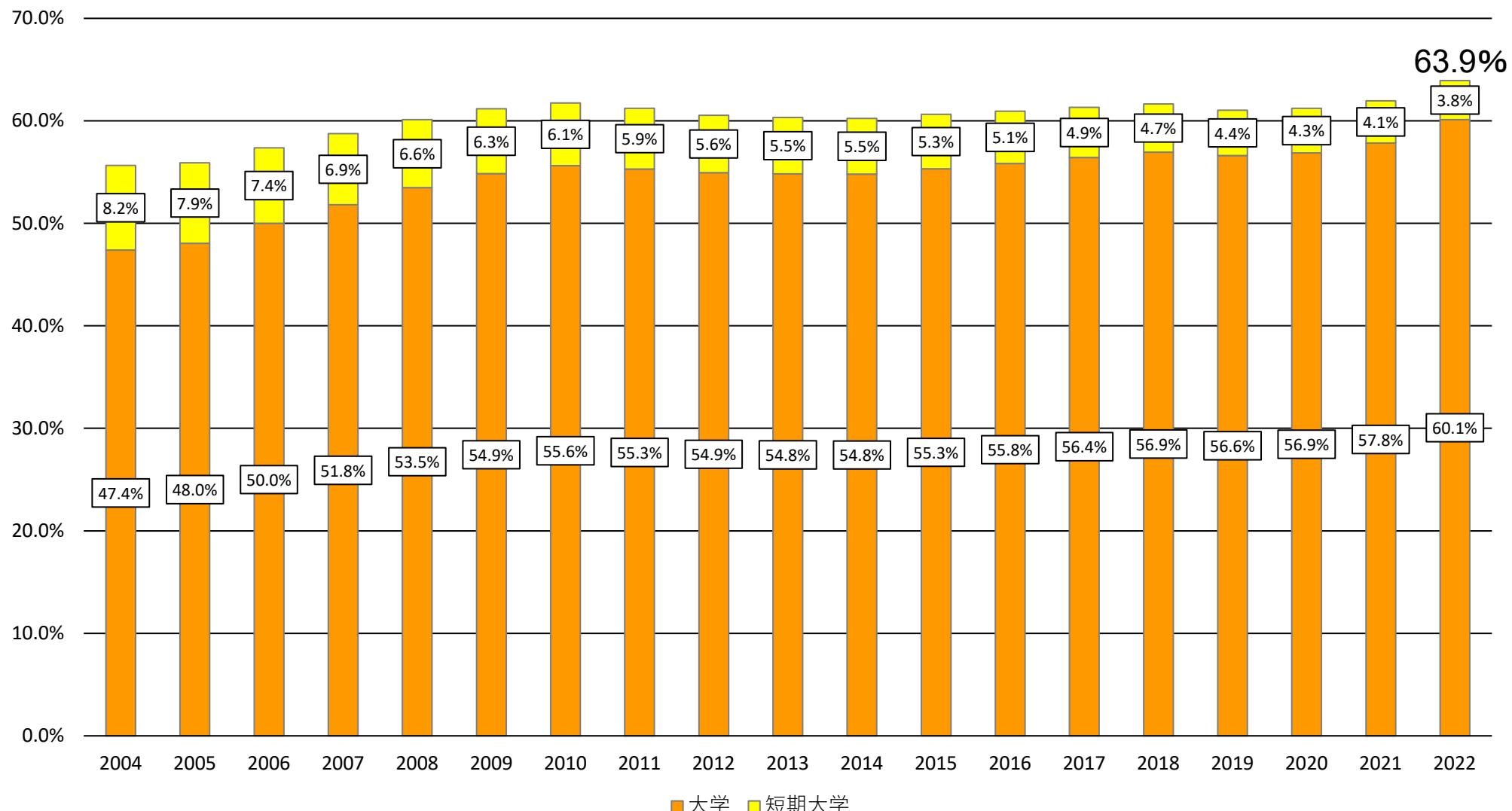
※進学率は、25/30歳未満の各年齢における当該高等教育段階の新入学者数を当該年齢人口で除した率の合計。留学生含む。

※参照年度は2020年度(令和2年度)。

# 高卒者の大学・短期大学志願率推移

- 高校卒業者のうち大学または短期大学を志願する割合は2010年代以降約6割程度でほぼ横ばい。
- 2022年は63.9%でありやや上昇している。

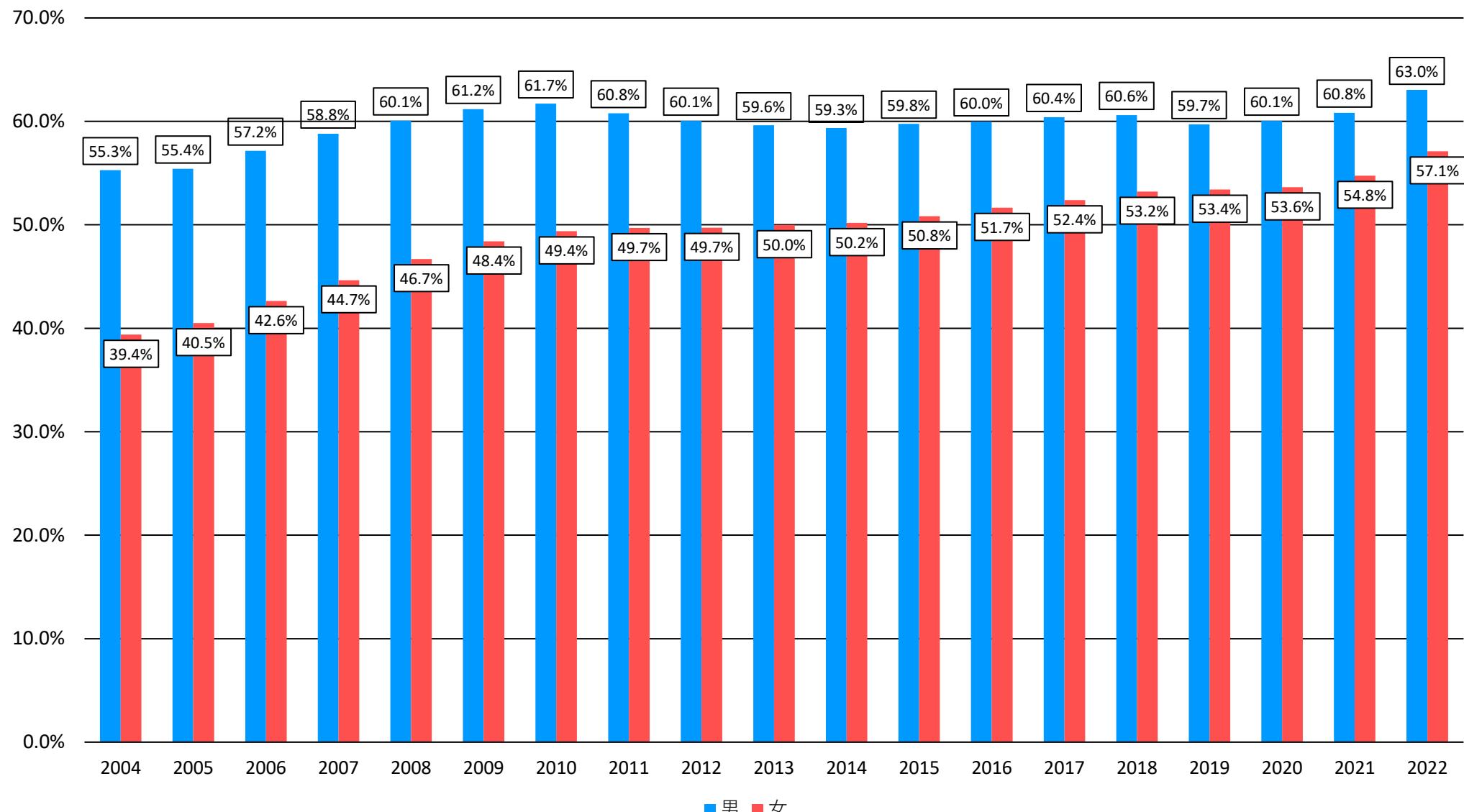
## 高卒者の大学・短期大学志願率推移



# 高卒者の大学志願率推移(男女別)

高校卒業者の大学進学志願率は男性の方が女性より高いが、近年は男女差が減ってきてている。

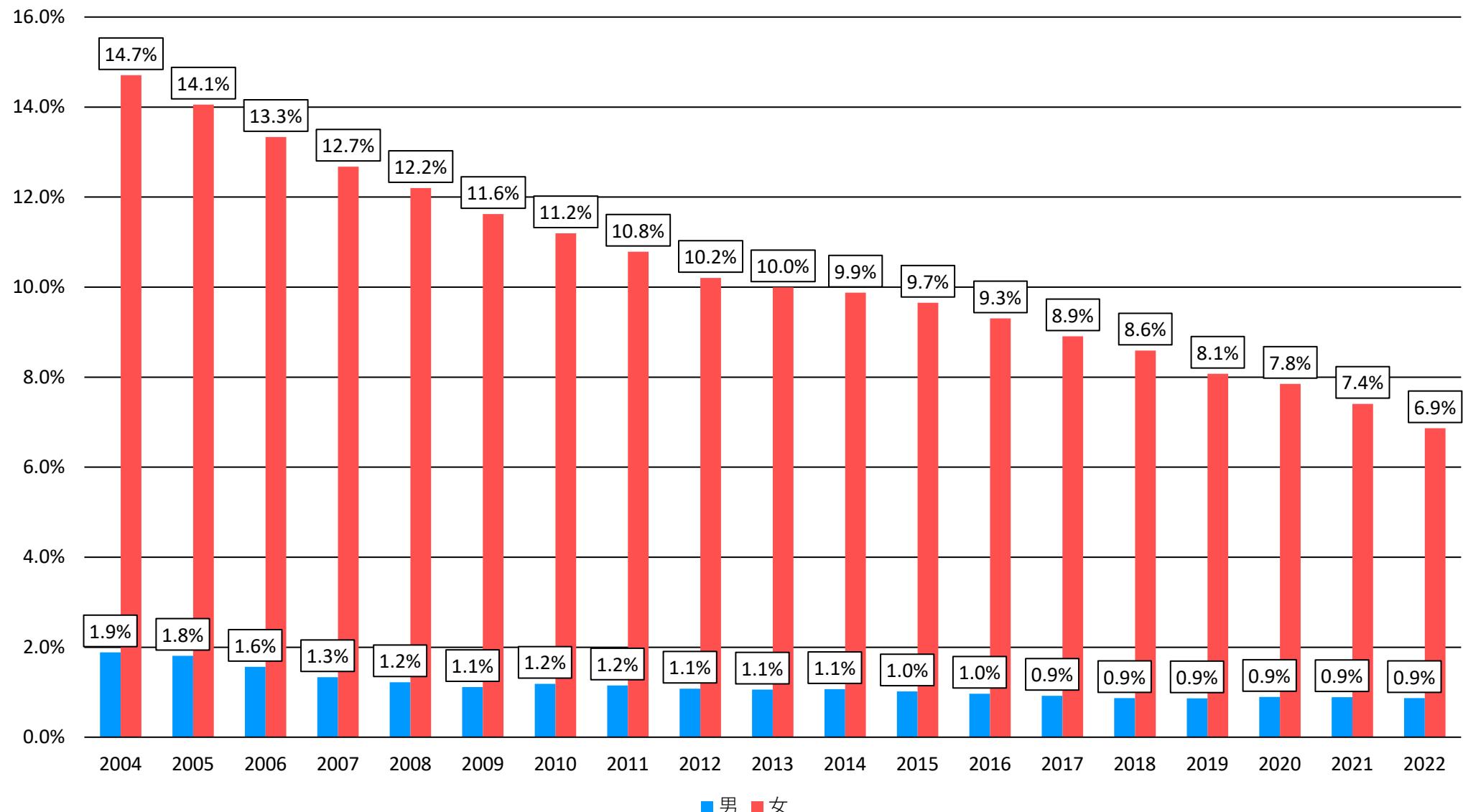
## 高卒者の大学志願率推移（男女別）



# 高卒者の短期大学志願率推移(男女別)

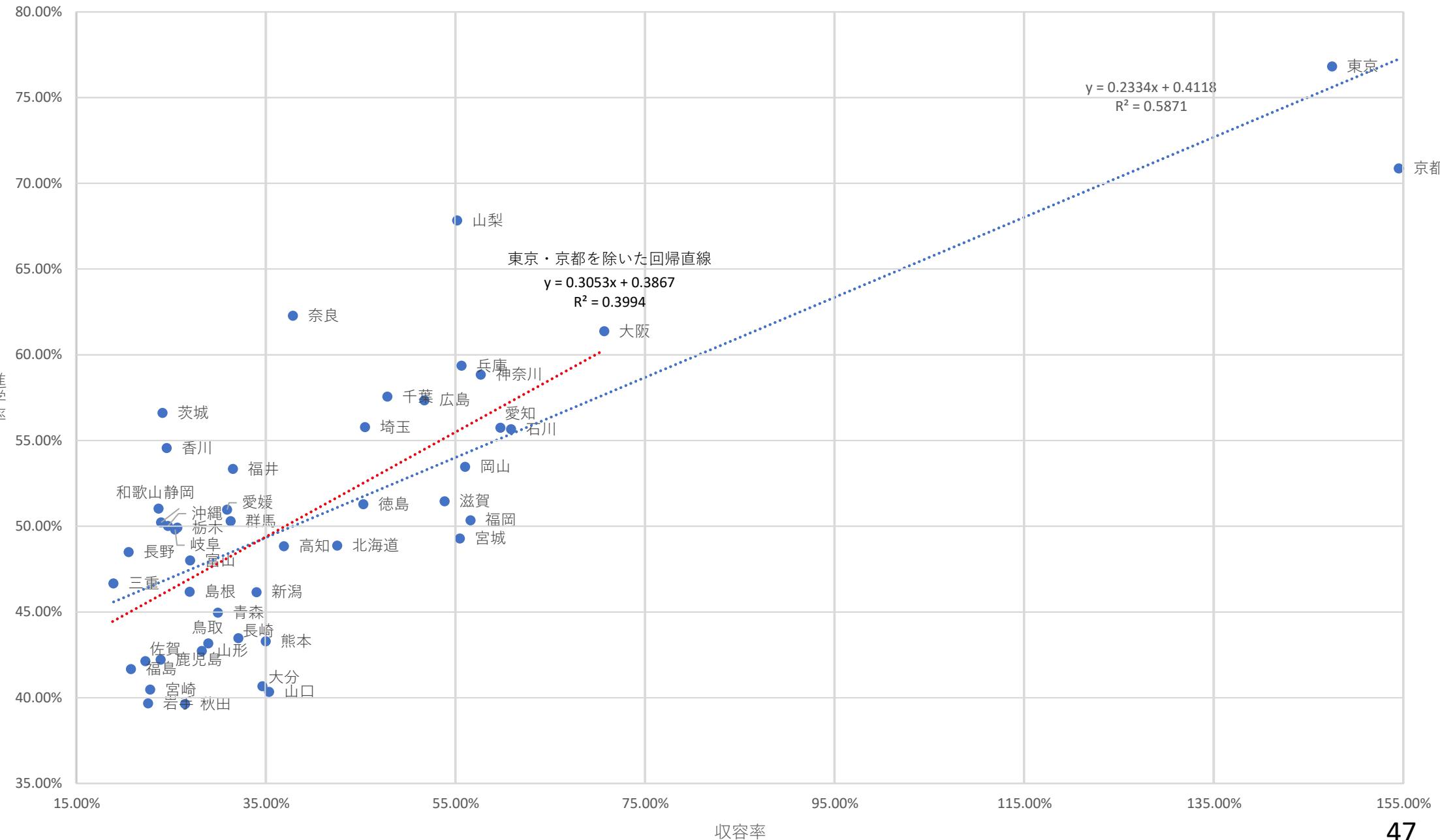
- 高校卒業者のうち短期大学を志願する割合は女性の方が高い。
- 近年では、男性の志願率は1%程度で一定だが、女性は一貫して志願率が減少している。

## 高卒者の短期大学志願率推移（男女別）



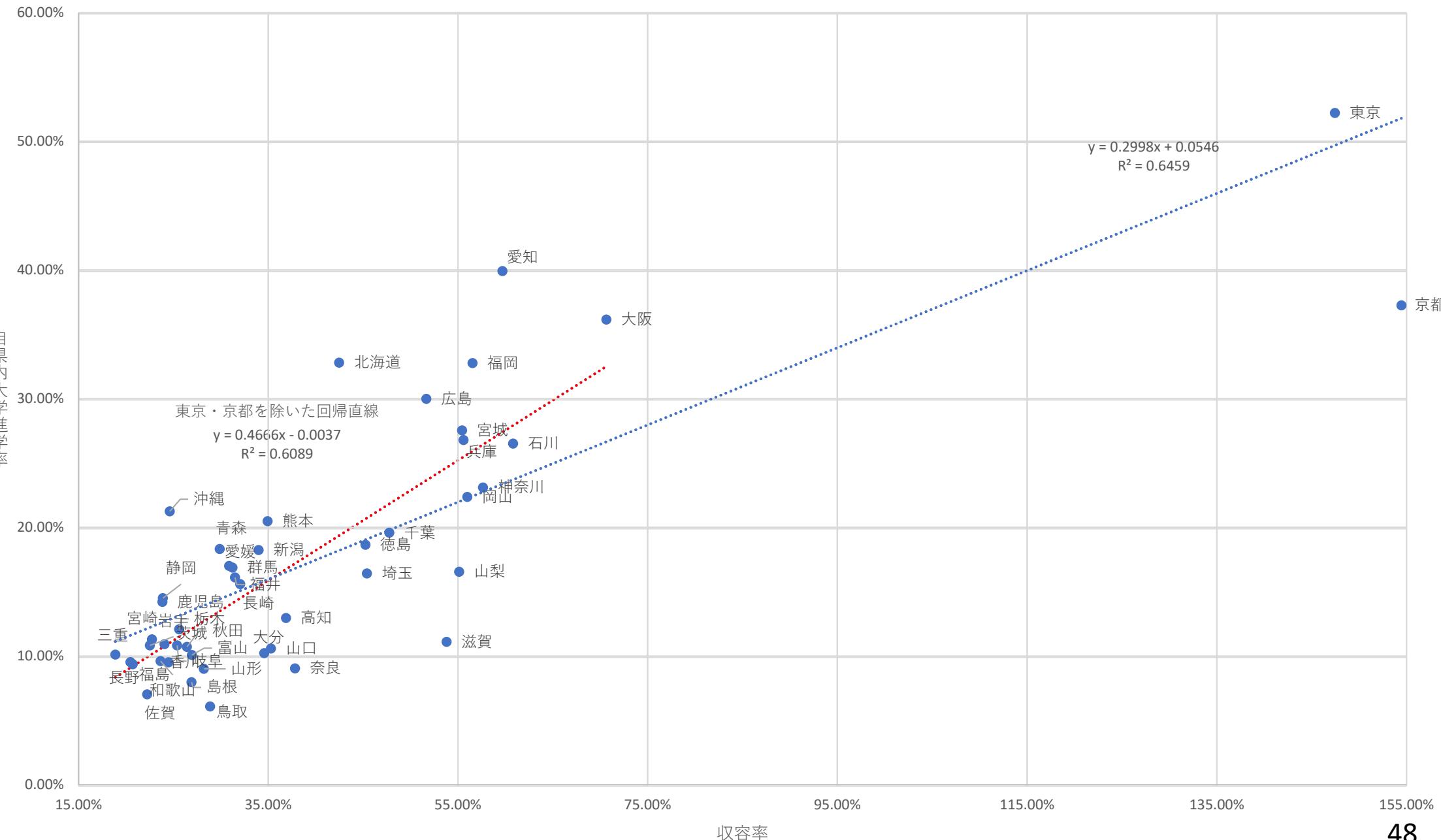
## 収容率と進学率の相関関係

- 収容率と大学進学率は正の相関関係にあり、収容率が高い都道府県ほど、進学率が高い傾向にある。
  - 収容率の極めて高い東京・京都を除いても、収容率と大学進学率には正の相関関係が認められる。



## 収容率と自県内大学進学率の相関関係

- 収容率と自県内大学進学率には、強い正の相関関係があり、収容率が高い都道府県ほど、自県内進学率が高い傾向にある。
  - 収容率の極めて高い東京・京都を除いても、収容率と自県内進学率には強い正の相関関係が認められる。



# 学校数・学生数・入学定員等の状況

# 高等教育機関の数及び学生数

令和5年5月1日現在の高等教育機関の総数は1,171校、学生数は約325.6万人（いずれも専修学校（専門課程）を除く）。

## ● 高等教育機関の数

区分	計						専修学校 (専門課程)	専修学校 (専門課程)
		大学	うち大学院 を置く大学	短期 大学	高等 専門 学校			
計	1,171	810	661	303	58	2,693		
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
国 立	137	86	86	0	51	8		
	11.7%	10.6%	13.0%	0.0%	87.9%	0.3%		
公 立	120	102	90	15	3	178		
	10.2%	12.6%	13.6%	5.0%	5.2%	6.6%		
私 立	914	622	485	288	4	2,507		
	78.1%	76.8%	73.4%	95.0%	6.9%	93.1%		

(令和5年5月1日現在)

## ● 学生数

区分	計						専修学校 (専門課程)	
		大学院	小計	大学 (学部)	短期 大学 (本科)	高等専門 学校(4・5 年次)		
計	3,255,643	265,977	2,737,263	2,632,775	83,585	20,903	252,403	555,342
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
国 立	604,744	154,706	450,038	431,207	0	18,831		239
	18.6%	58.2%	16.4%	16.4%	0.0%	90.1%		0.0%
公 立	169,946	17,796	152,150	145,683	5,040	1,427		21,495
	5.2%	6.7%	5.6%	5.5%	6.0%	6.8%		3.9%
私 立	2,480,953	93,475	2,135,075	2,055,885	78,545	645	252,403	533,608
	76.2%	35.1%	78.0%	78.1%	94.0%	3.1%	100.0%	96.1%

(令和5年5月1日現在)

(注1)通信教育のみを行う大学(私立6校(放送大学含む))及び短大(私立2校)を除く。

(注2)学生募集停止をしている機関を含む。

(注1)学生数には、「専攻科」、「別科」、「その他」の学生を含まない。

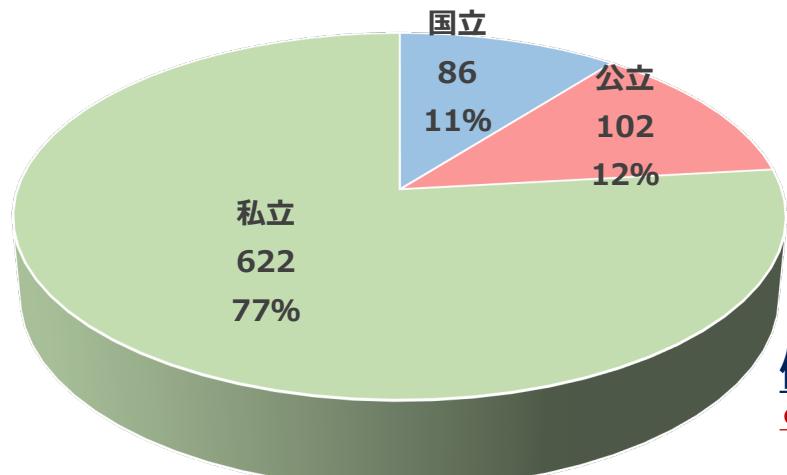
(注2)上記には、放送大学学園立の学生を含む。

# 国公私立大学学生数(学部、修士、博士)

- 我が国の学校数は810校（うち、私立622校（76.8%））であり、学部学生数は約263万人（うち、私立約205万人（78.1%））。
- 修士課程・博士課程の学生数は、国立が占める割合が高い。

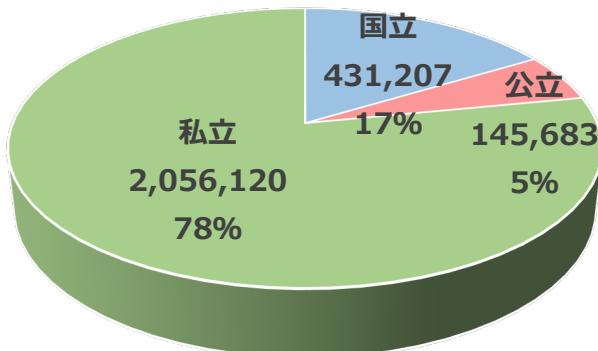
## 学校数

●合計810校



## 学士課程

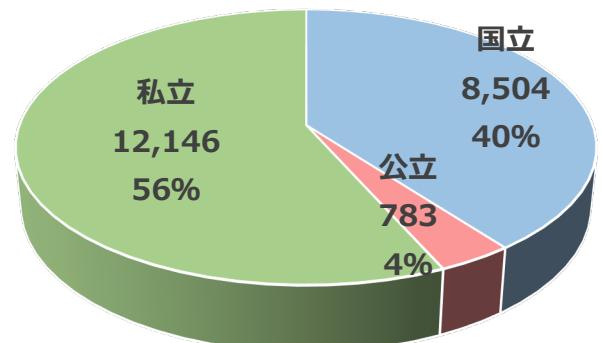
●合計263万3,010人



## 学生数

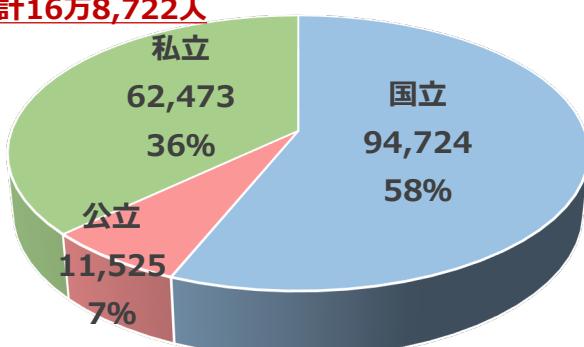
## 専門職学位課程

●合計2万1,433人



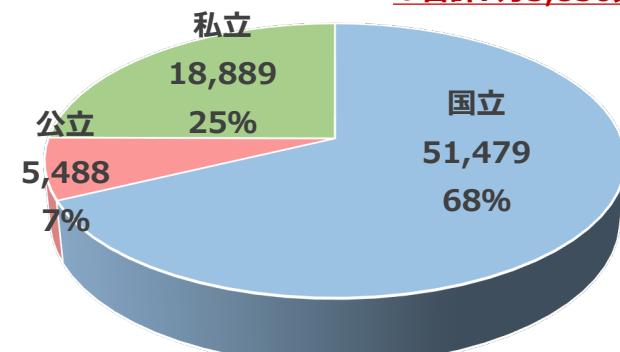
## 修士課程

●合計16万8,722人



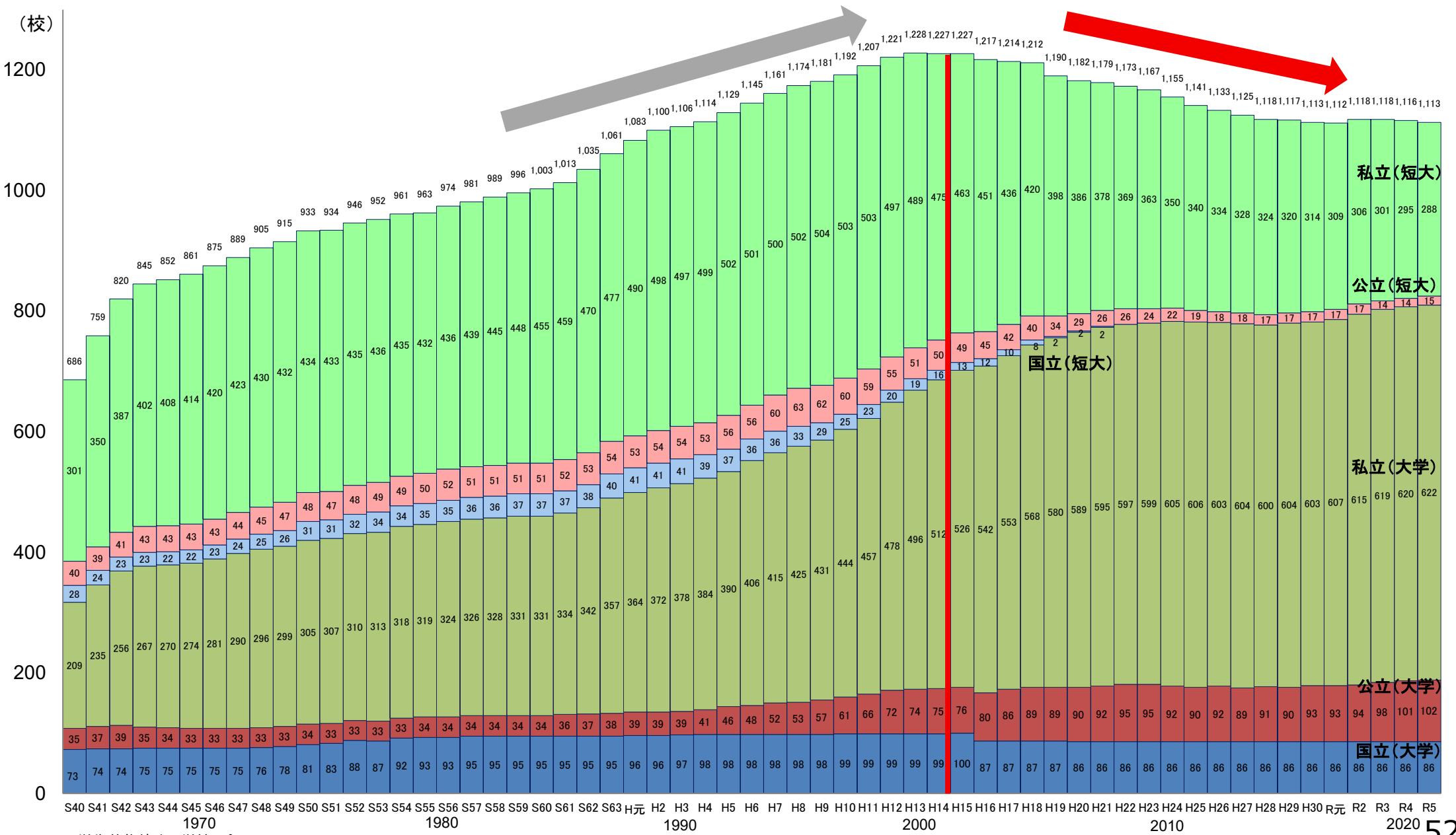
## 博士課程

●合計7万5,856人

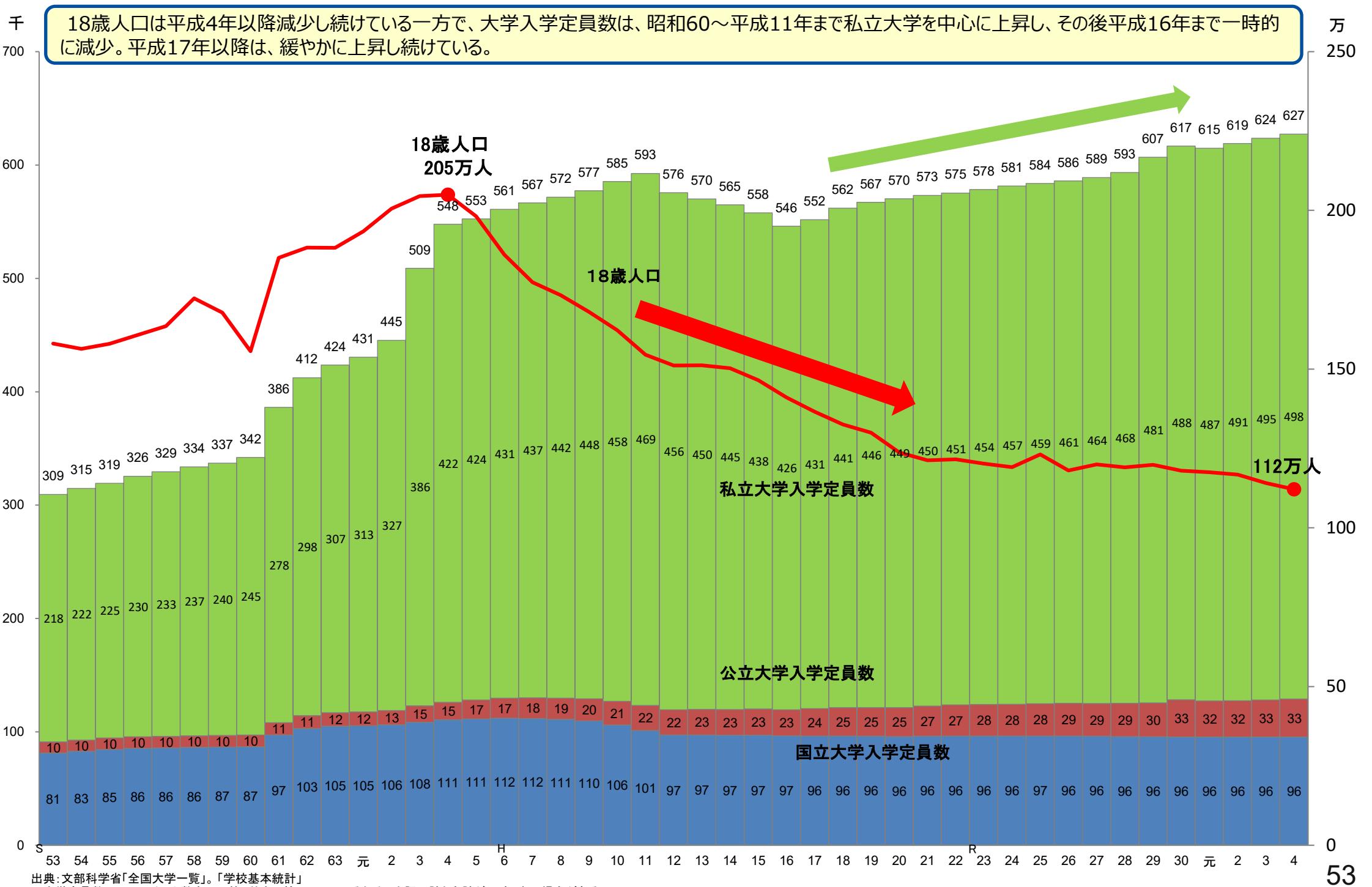


# 大学・短期大学数の推移

- 近年の主な傾向として、四大化や廃止により短期大学数は減少。
- 平成14年以降は全体的に四大・短大の合計数も減少傾向。国立大学数は平成16年以降ほぼ横ばい。



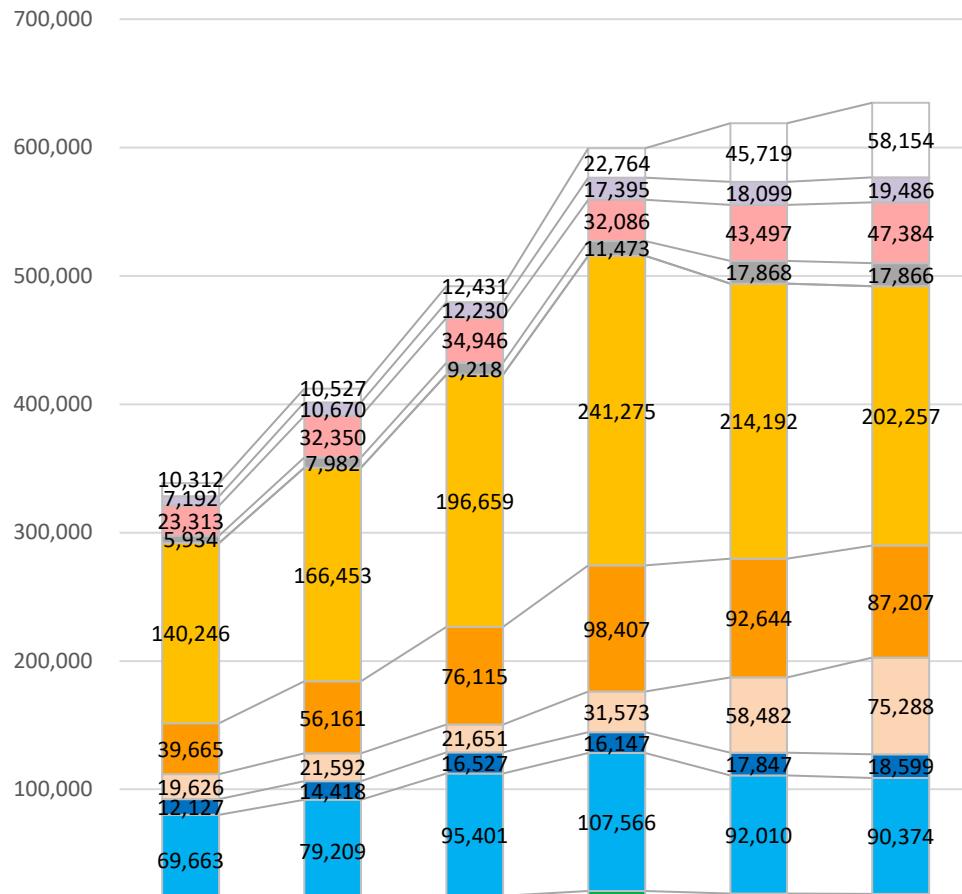
# 設置者別大学入学定員数の推移



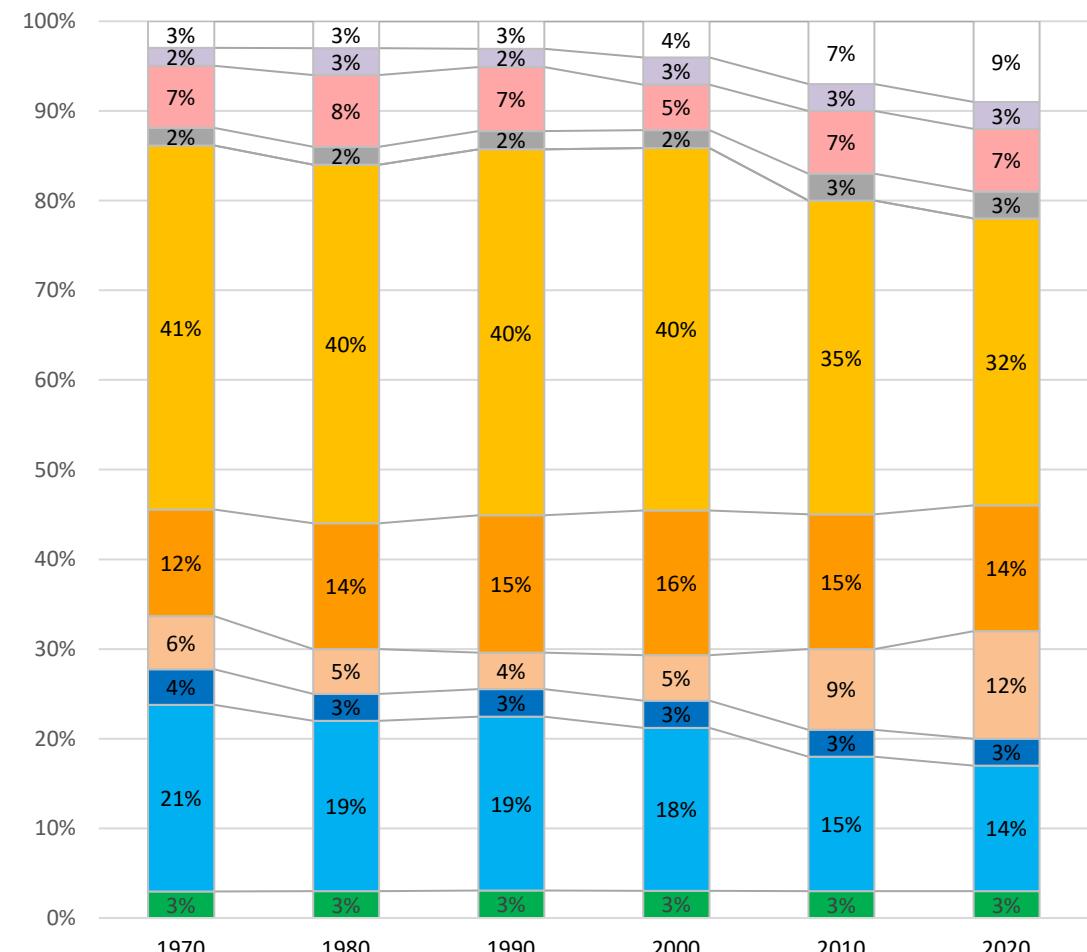
# 専攻分野別入学者数の推移

2000年以降、全体の入学者数は横ばいで推移。関係学科別では、「保健」、「その他」が増加する一方で、「工学」「理学」などの学部の入学者数は減少傾向。

関係学科別入学者数の推移(国公私立大学)



関係学科別入学者割合の推移(国公私立大学)



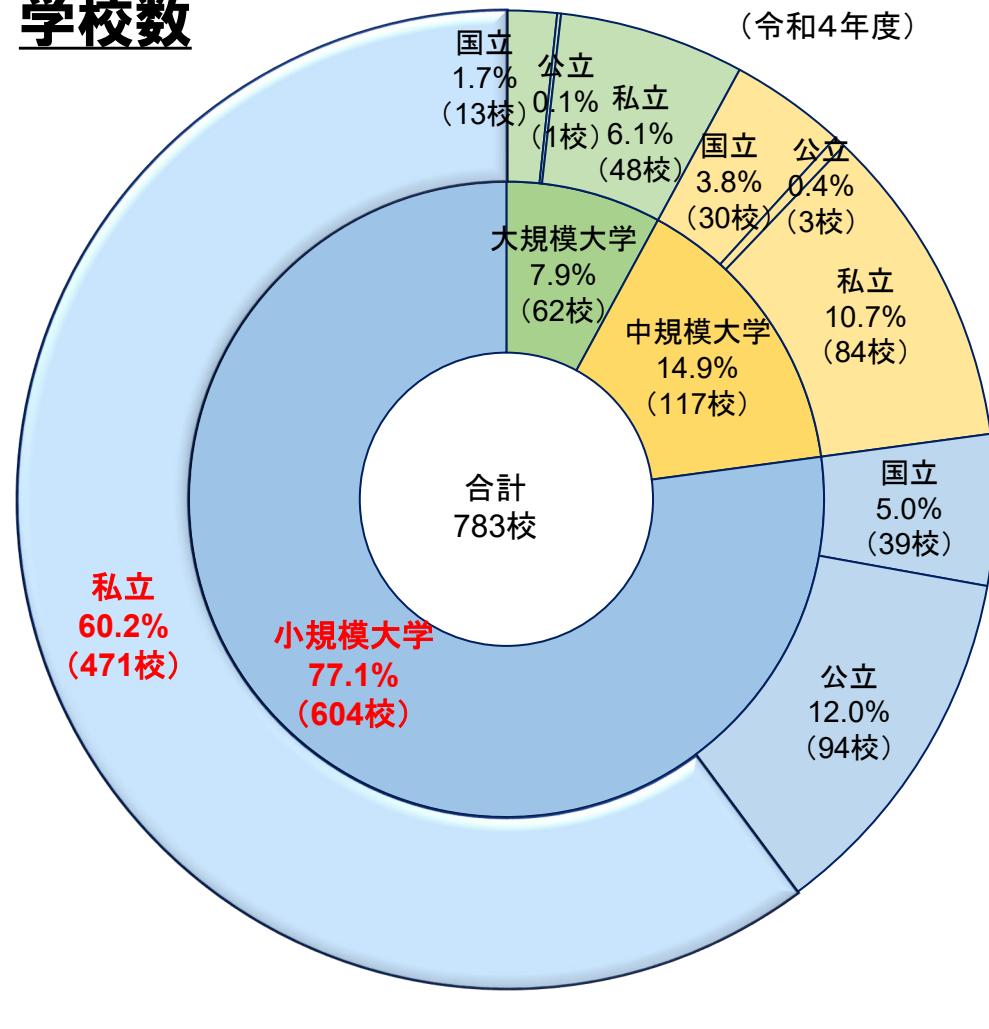
※「その他」には文理融合型の複合的新領域の学部も含まれる

(出典) 文部科学省「学校基本統計」より作成。

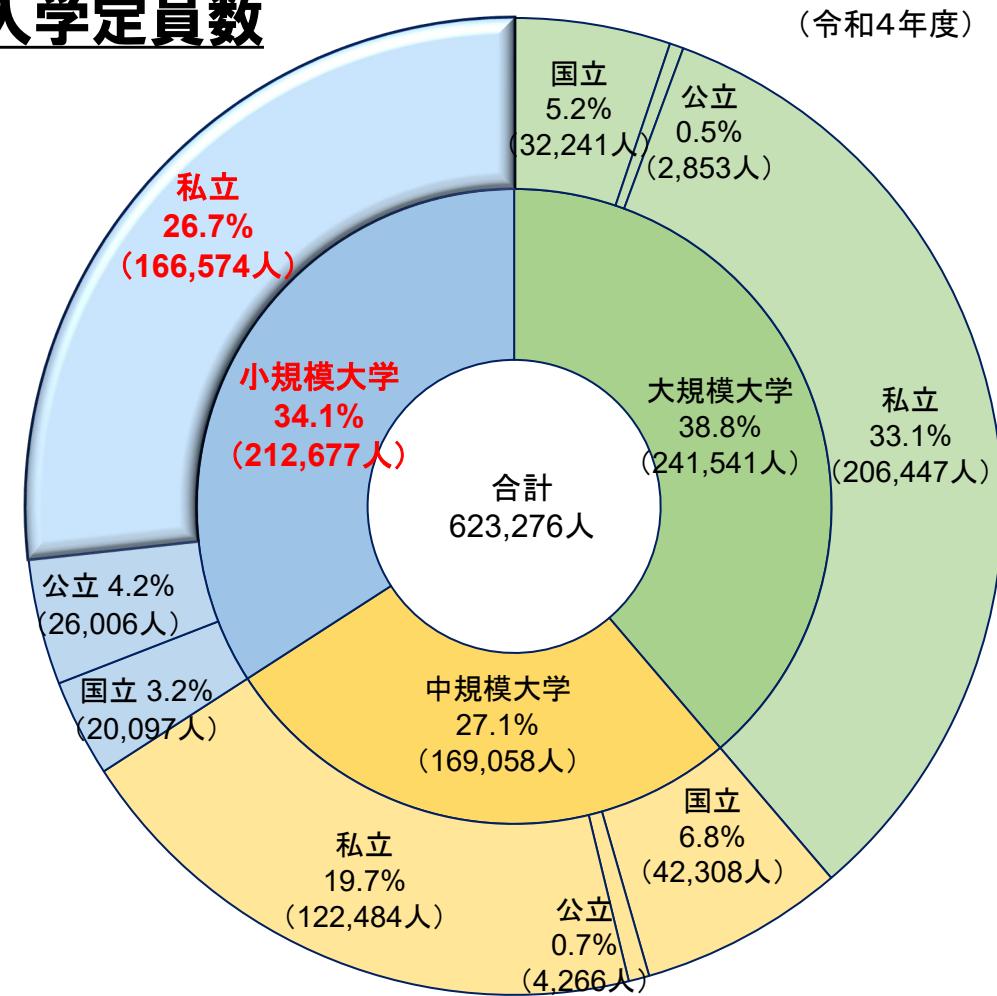
# 規模別学校数及び入学定員数の割合

- 学校数において小規模大学は全体の77.1%を占めており、このうち私立が大半を占めている。
- 入学定員において小規模大学の定員は全体の34.1%を占めており、このうち私立が大半を占めている。

## 学校数



## 入学定員数

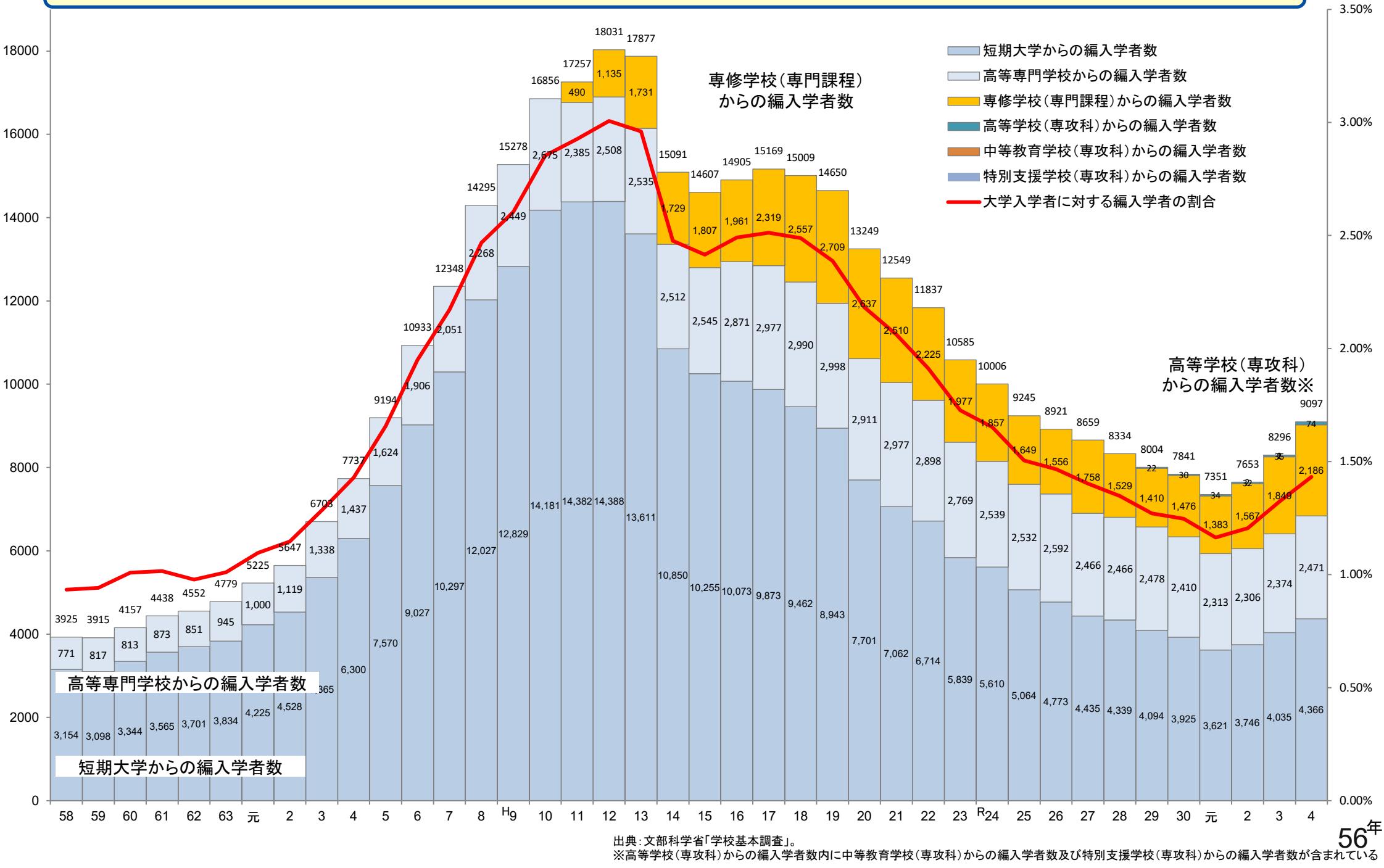


■ 大規模大学 ■ 中規模大学 ■ 小規模大学

※大規模大学：入学定員が2,000人以上の大学、中規模大学：入学定員が1,000人～1,999人の大学、小規模大学：入学定員が999人以下の大学  
※小数点第二位を四捨五入しているためグラフの合計値が一致しない場合がある。

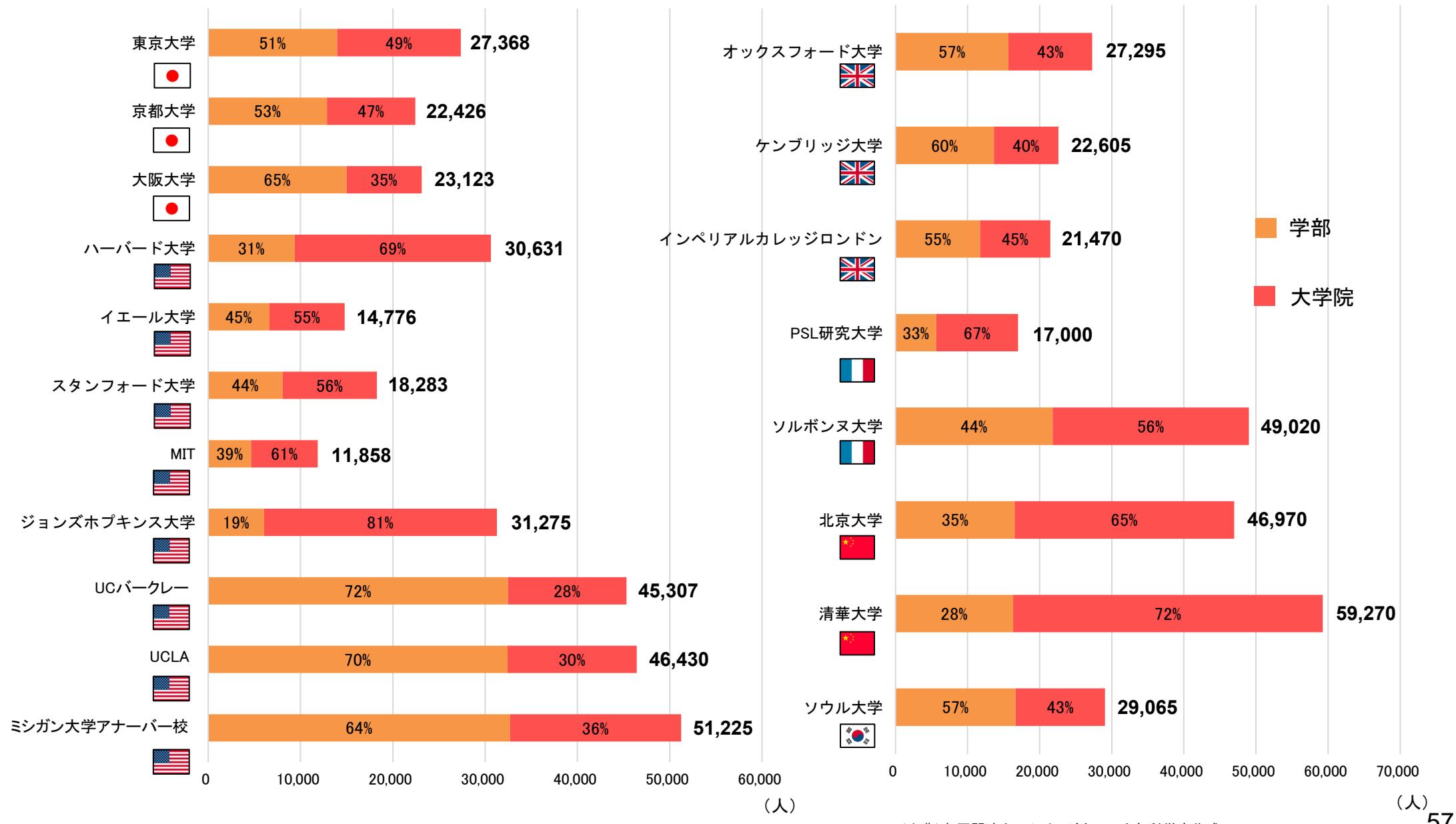
# 編入学者数の推移

編入学者数は、平成12年頃まで急激に上昇し、平成17年以降令和元年まで減少し続けたが、近年は上昇している。



# 各有力大学における学部・大学院学生比較(人数・割合)

- 米・仏・中の研究大学の多くが、学部生よりも大学院生の占める割合が大きい。
- 日本の他、米国の州立大学や英国の大学においては 学部生の割合の方がやや大きい。



# 日米の高等教育の構造比較

- 世界大学ランキングにランクインしている日米の大学をランキング順位別に配置すると以下のとおり。
- ランクインしている大学は、米国では全大学の約4%に過ぎず、かつトップ200位に集中しているのに対し、日本ではトップ200位以内の大学は少ない一方で、全大学の10%以上がランクインしている状況。

赤: 私立大学  
黒: 州立大学

## アメリカの高等教育

大学名は、カリフォルニア州内の大学のみを表示

カリフォルニア大学  
(University of California)

UC Berkeley(9)  
UC Los Angeles(18)  
UC San Diego(34)  
UC Davis(59)  
UC Santa Barbara(69)  
UC Irvine(92)

カリフォルニア州立大学  
(California State University)

San Diego State University

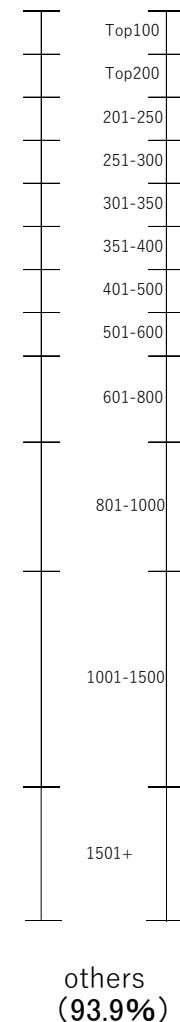
カリフォルニア・コミュニティ・カレッジ  
(California Community College)

総数: 約4,000校  
(Top6.1%に169校)

(出典)THE World University Rankings 2024に基づき作成

## THE World University Rankings 2024

Top1904  
(6.1%)



総数: 約31,000校  
(Top6.1%の1,904校でランクイン)

## 日本の高等教育

黒: 国立大学  
赤: 私立大学  
青: 公立大学

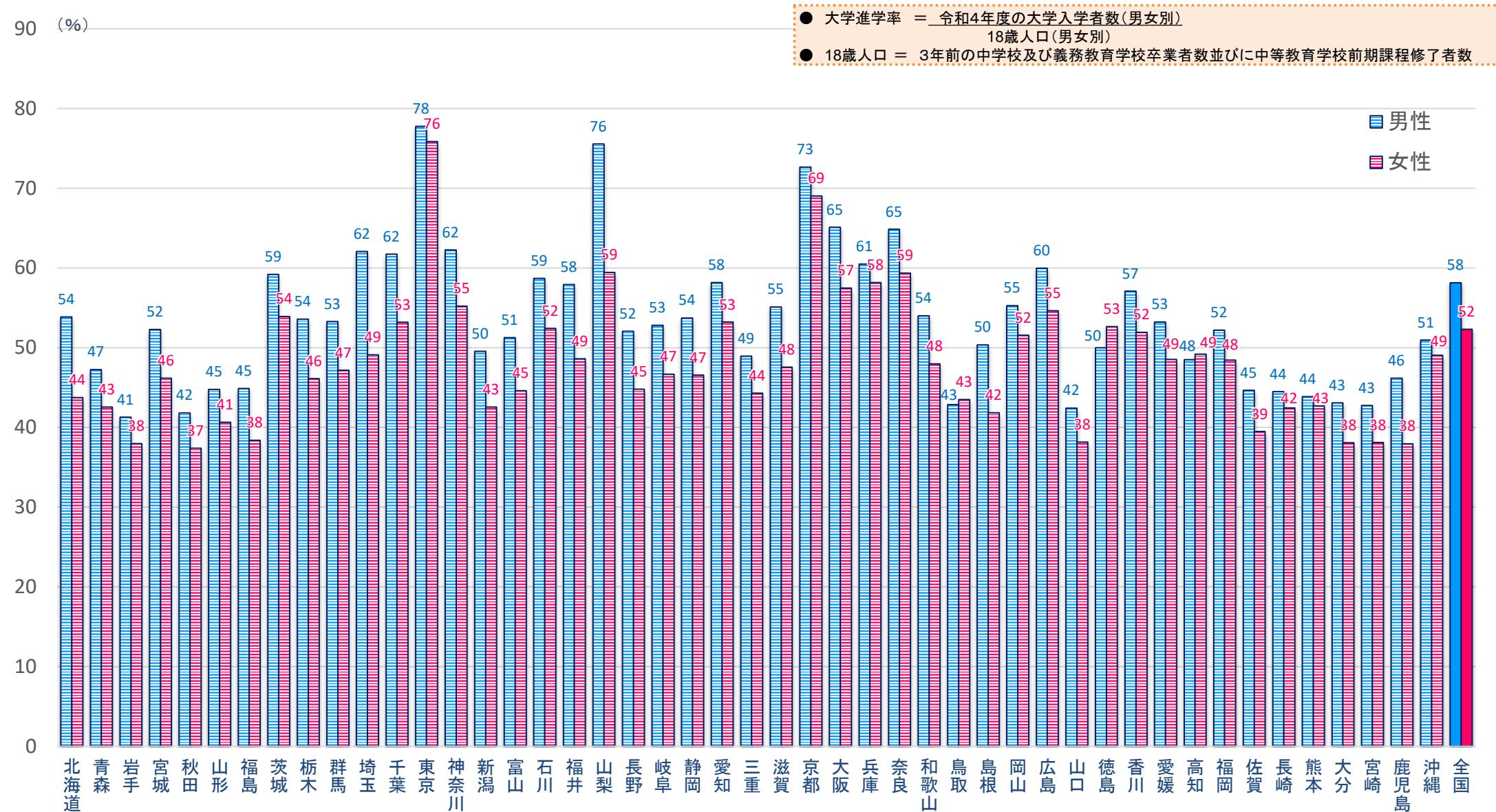


総数: 約1,100校  
(Top6.1%に119校)

# 進学率・学校数・入学定員等の状況 (都道府県別)

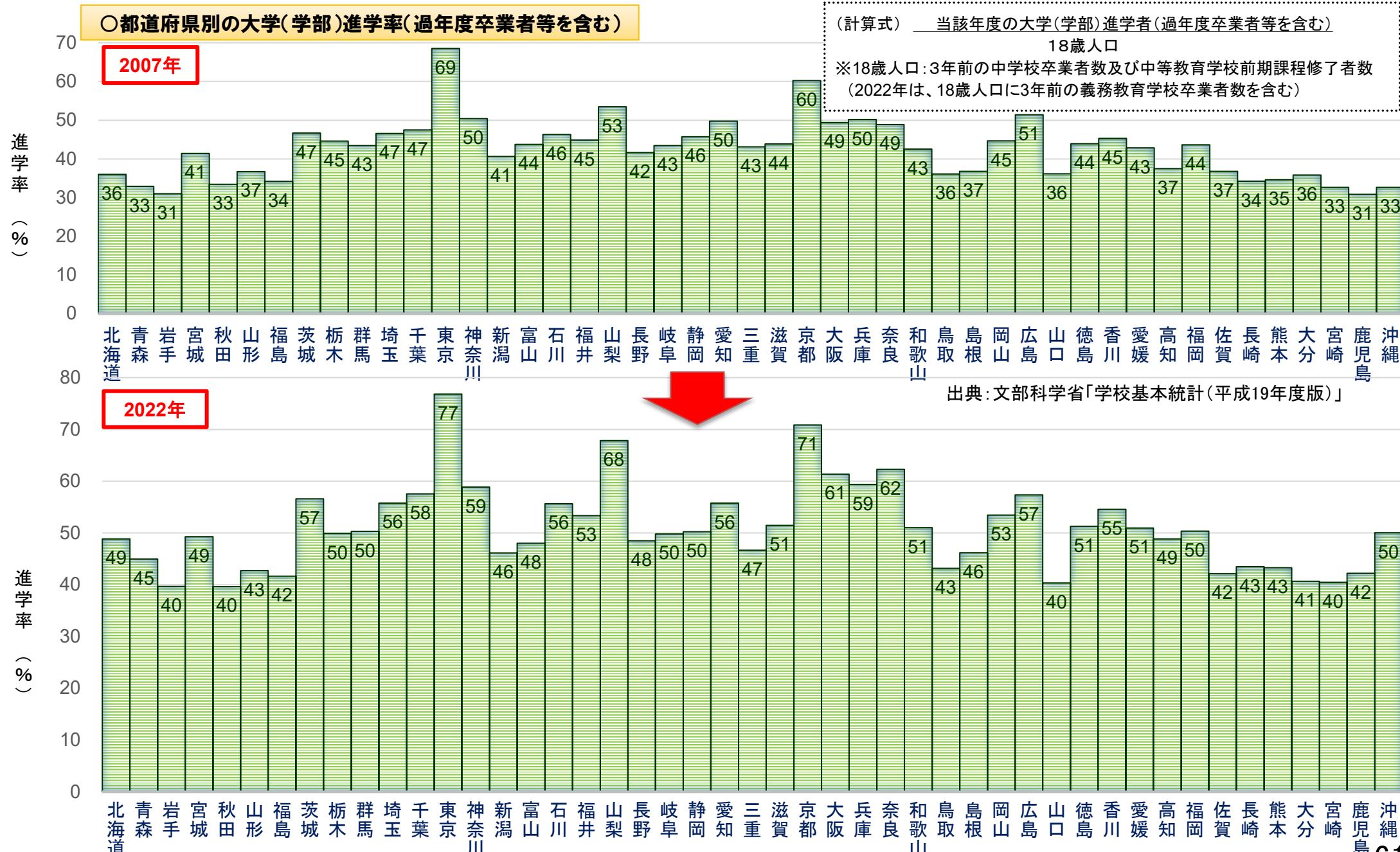
# 男女別・都道府県別の4年制大学進学率

大学進学率を男女別にみると、鳥取県、徳島県、高知県を除く44都道府県で男性の方が女性よりも高く、男女の進学率の差は  
 ①山梨県（16.1ポイント）、②埼玉県（13.0ポイント）、③北海道（10.1ポイント）、④福井県（9.3ポイント）の順に高い。



# 都道府県別大学(学部)進学率の変化(過年度卒業者等を含む)

都道府県別の過年度卒業者等も含む大学(学部)進学率は、地域によって差があるが、2007年と比較すると全体的に上昇している。

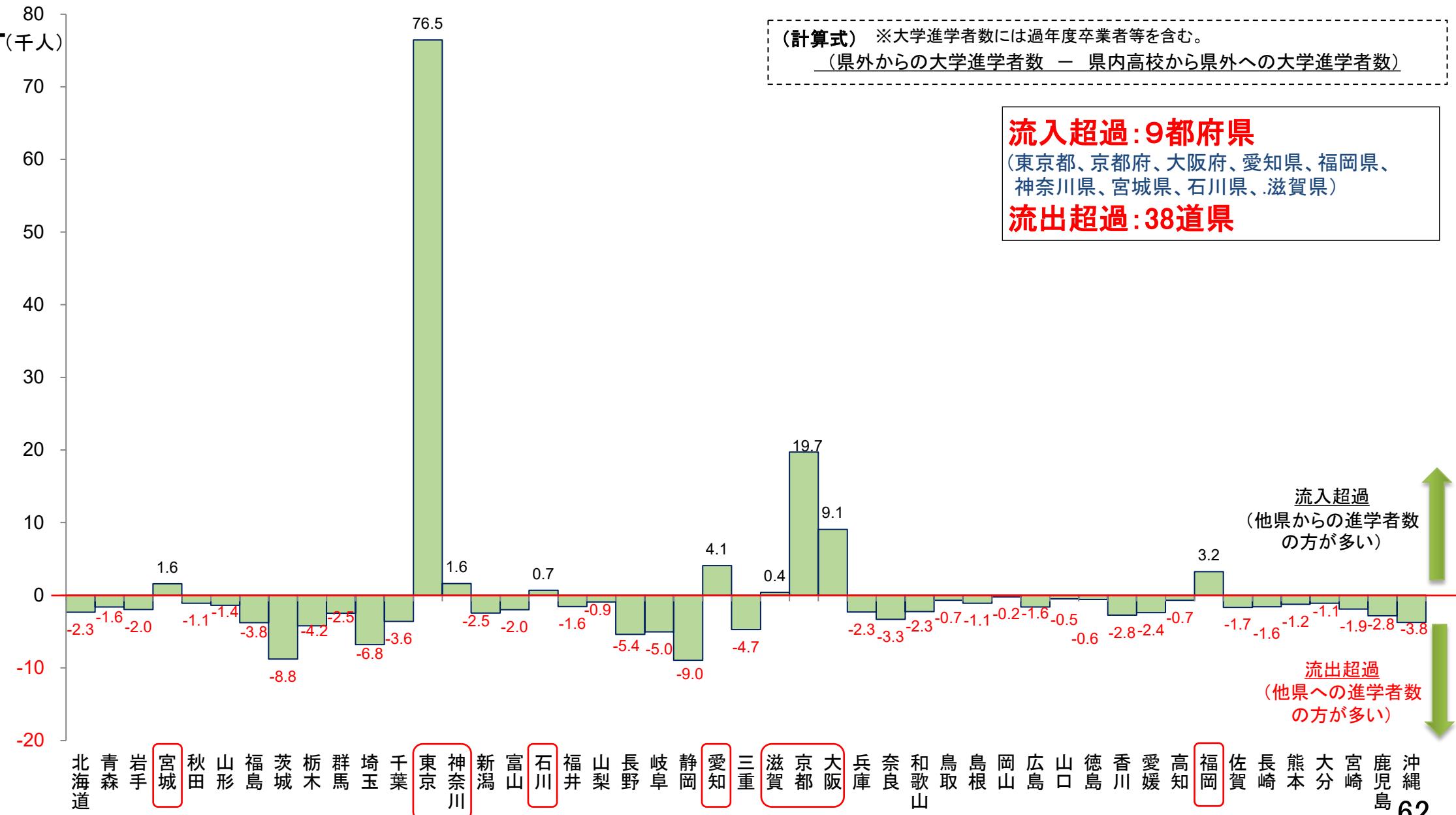


出典:文部科学省「学校基本統計(平成19年度版)」

出典:文部科学省「学校基本統計(令和4年度版)」

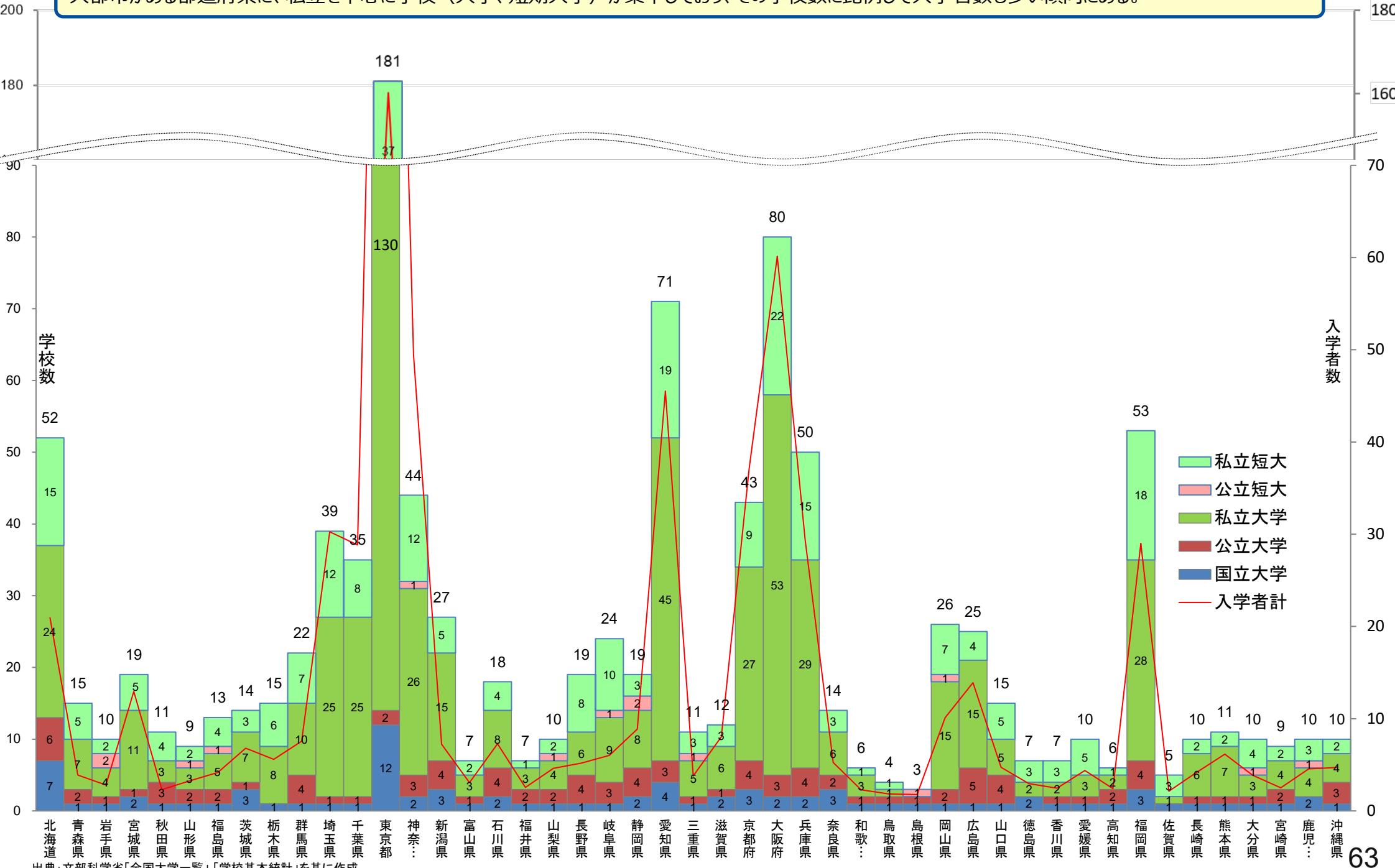
# 大学進学時の都道府県別流入・流出者数

- 大学進学時の各都道府県における流入者・流出者数をみると、流入超過が9都府県、流出超過が38道県となっている。
- 東京都には76,451人、京都府には19,704人、大阪府には9,069人が流入している一方、静岡県からは8,952人、茨城県からは8,779人、埼玉県からは6,804人が流出している。



## 都道府県別・設置者別学校数及び入学者数

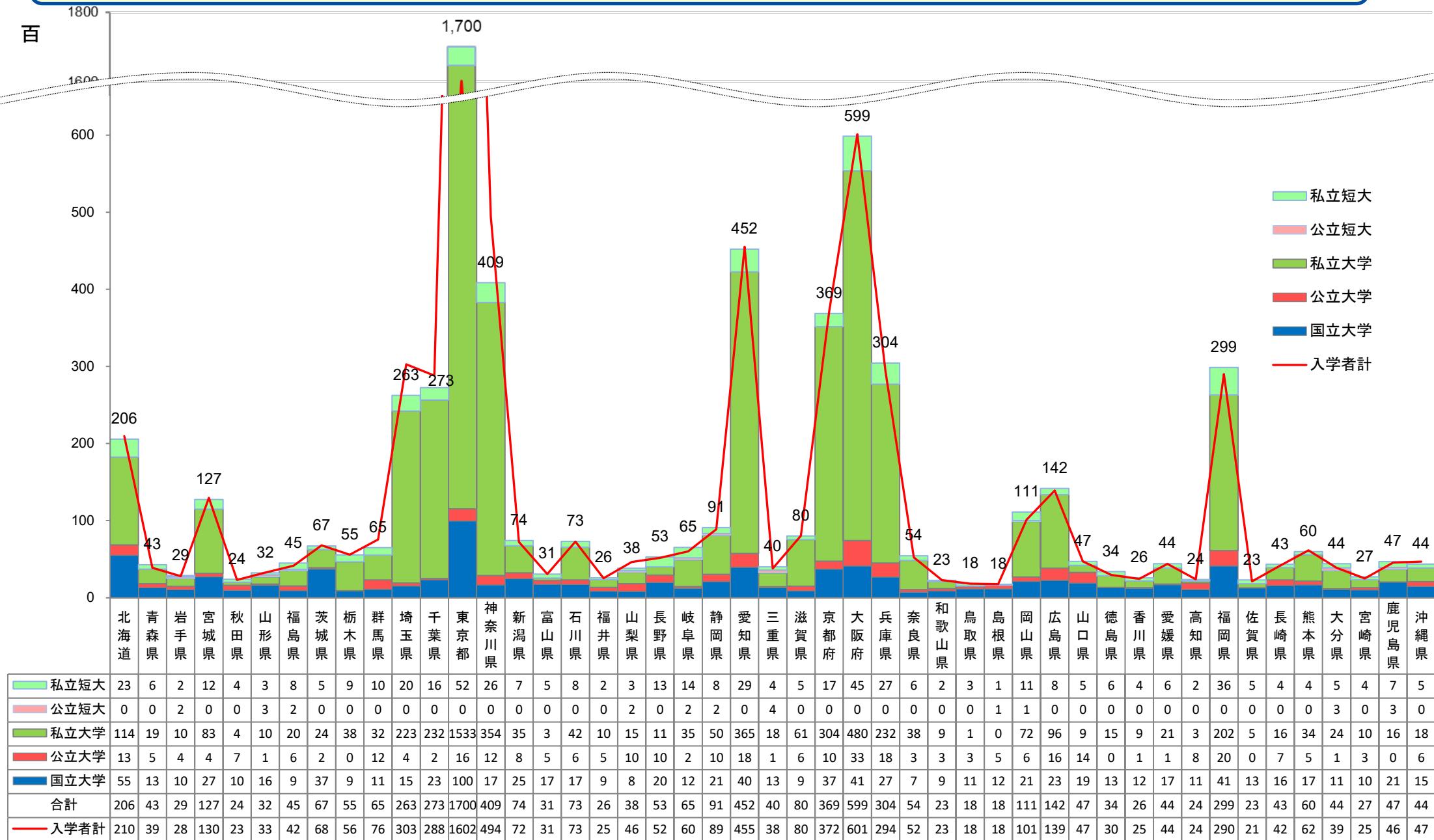
大都市がある都道府県に、私立を中心に学校（大学、短期大学）が集中しており、その学校数に比例して入学者数も多い傾向にある。



出典：文部科学省「全国大学一覧」「学校基本統計」を基に作成

# 都道府県別・設置者別入学定員数及び入学者数

- 大都市がある都道府県に、私立大学を中心に入学定員が集中しており、その入学定員に比例して入学者も多い傾向にある。
- 特に、東京都は、約15万人の私立大学の入学定員があり、最も入学定員が多い都道府県となっている。

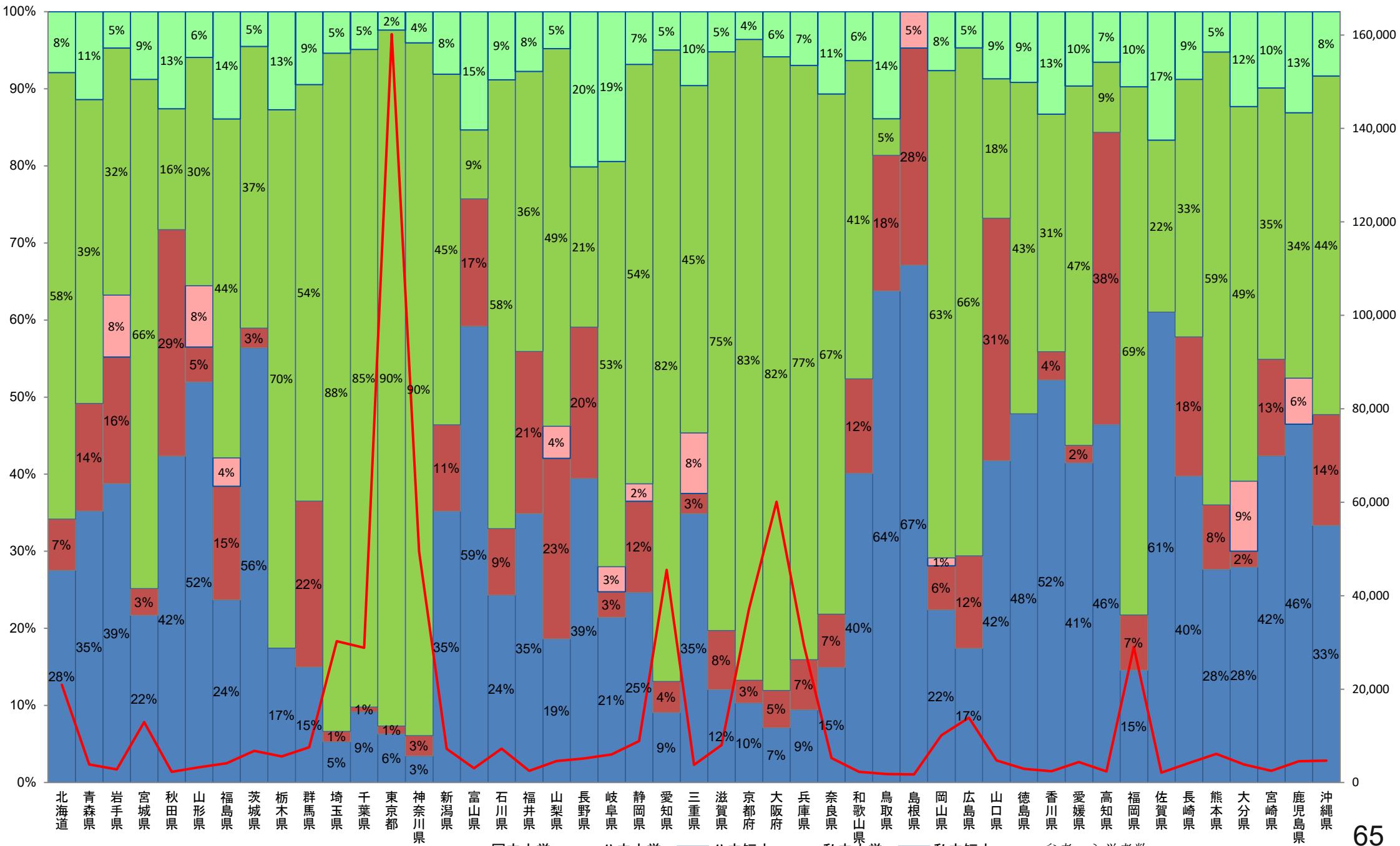


出典:文部科学省「全国大学一覧」「学校基本統計」を基に作成。

※「全国大学一覧」における入学定員数の集計方法は、「学校基本統計」における入学者計の集計方法と異なる場合がある。※百位未満は四捨五入。

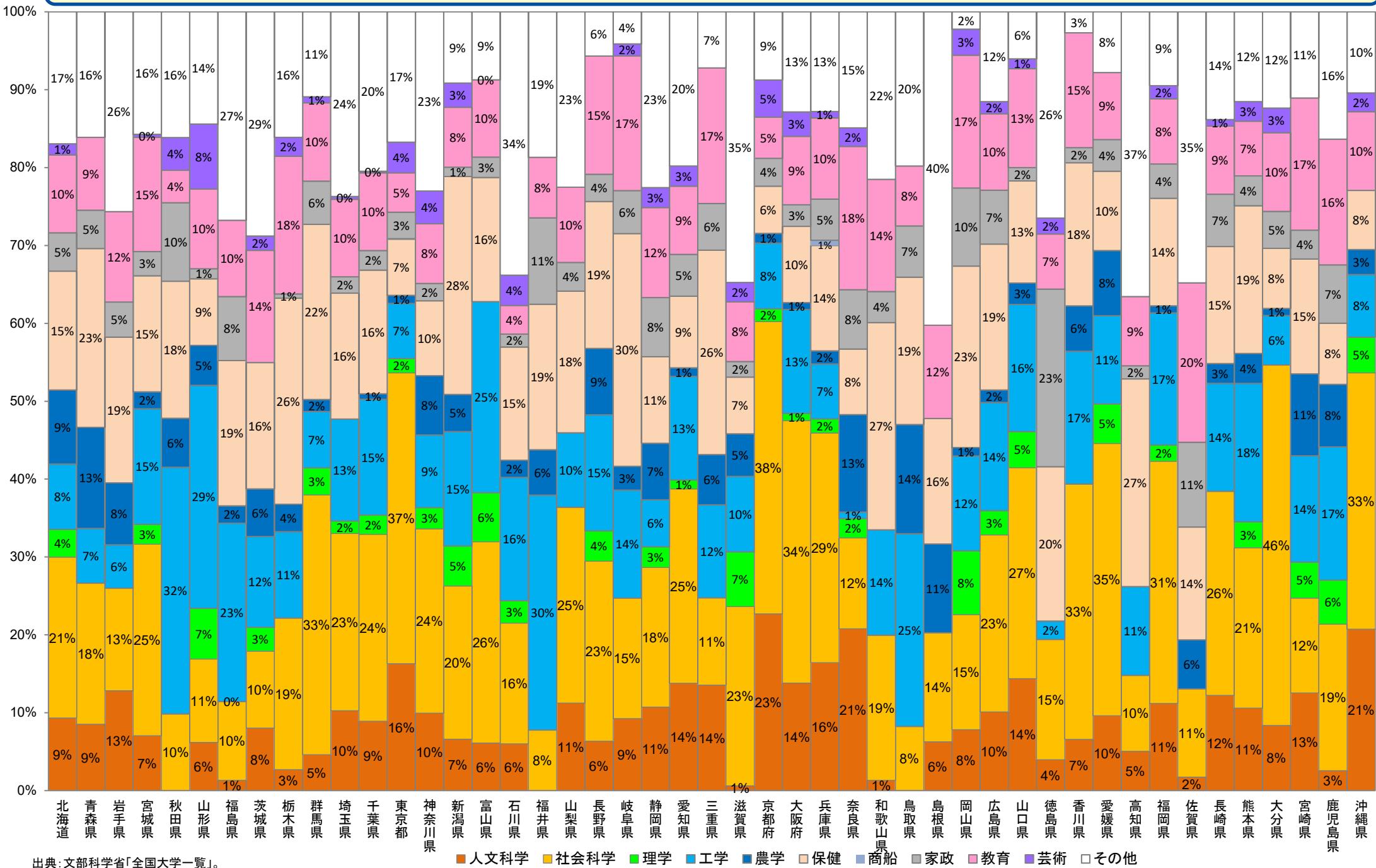
# 都道府県別・設置者別入学定員数比率

大都市がある都道府県を中心に私立の入学者の占める割合が高い傾向にある一方で、地方では国公立の入学者の占める割合が高い傾向にある。



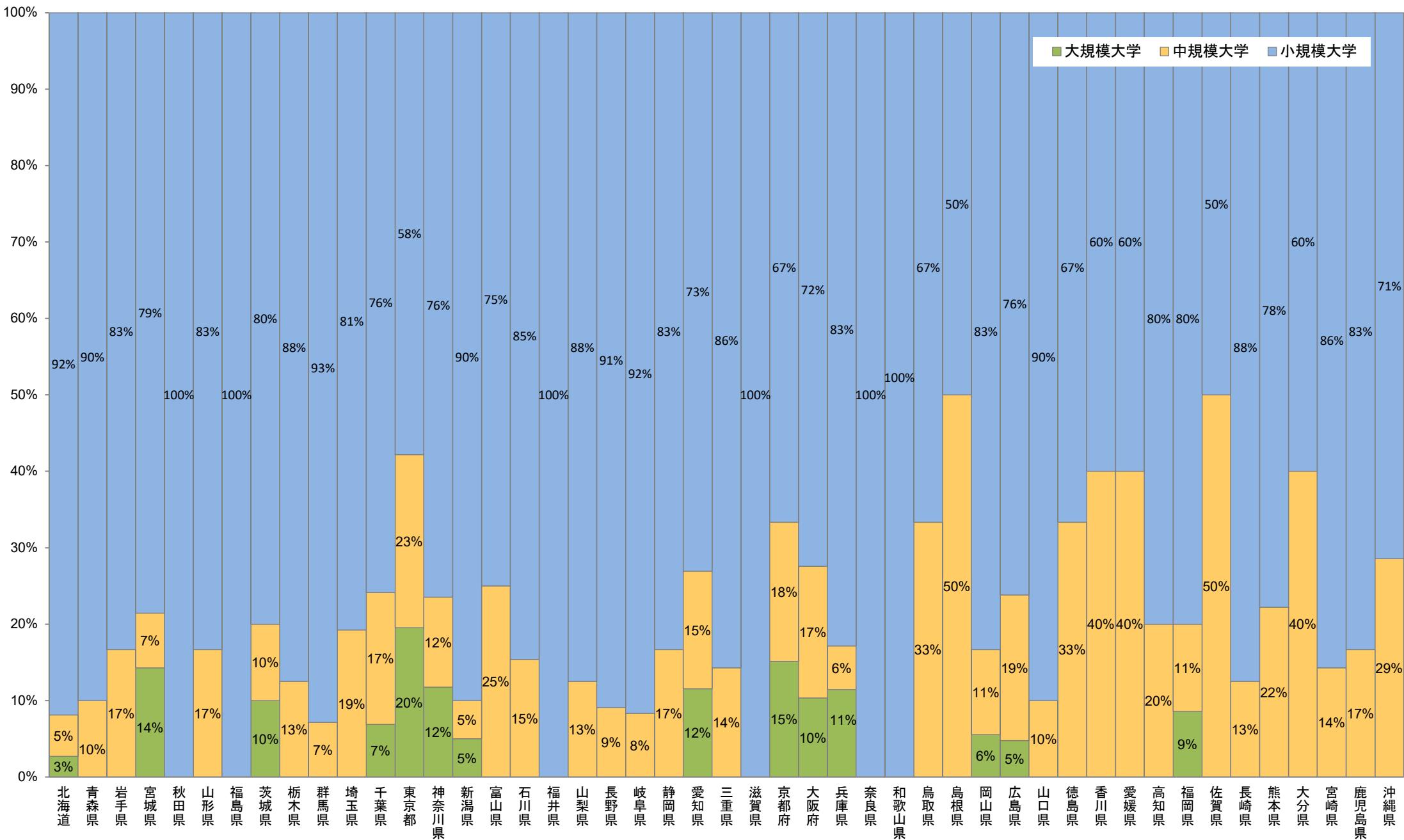
# 都道府県別・専攻分野別入学定員数比率

各都道府県の専攻分野別入学定員の割合（大学・短期大学）は様々であるが、例えば、大都市圏である東京や京阪神では、人文・社会科学分野の占める割合が大きく、理学・工学・農学分野の占める割合が小さい傾向にある。



# 都道府県別・規模別大学数比率

大都市がある都道府県に、大規模大学が多い傾向にある。



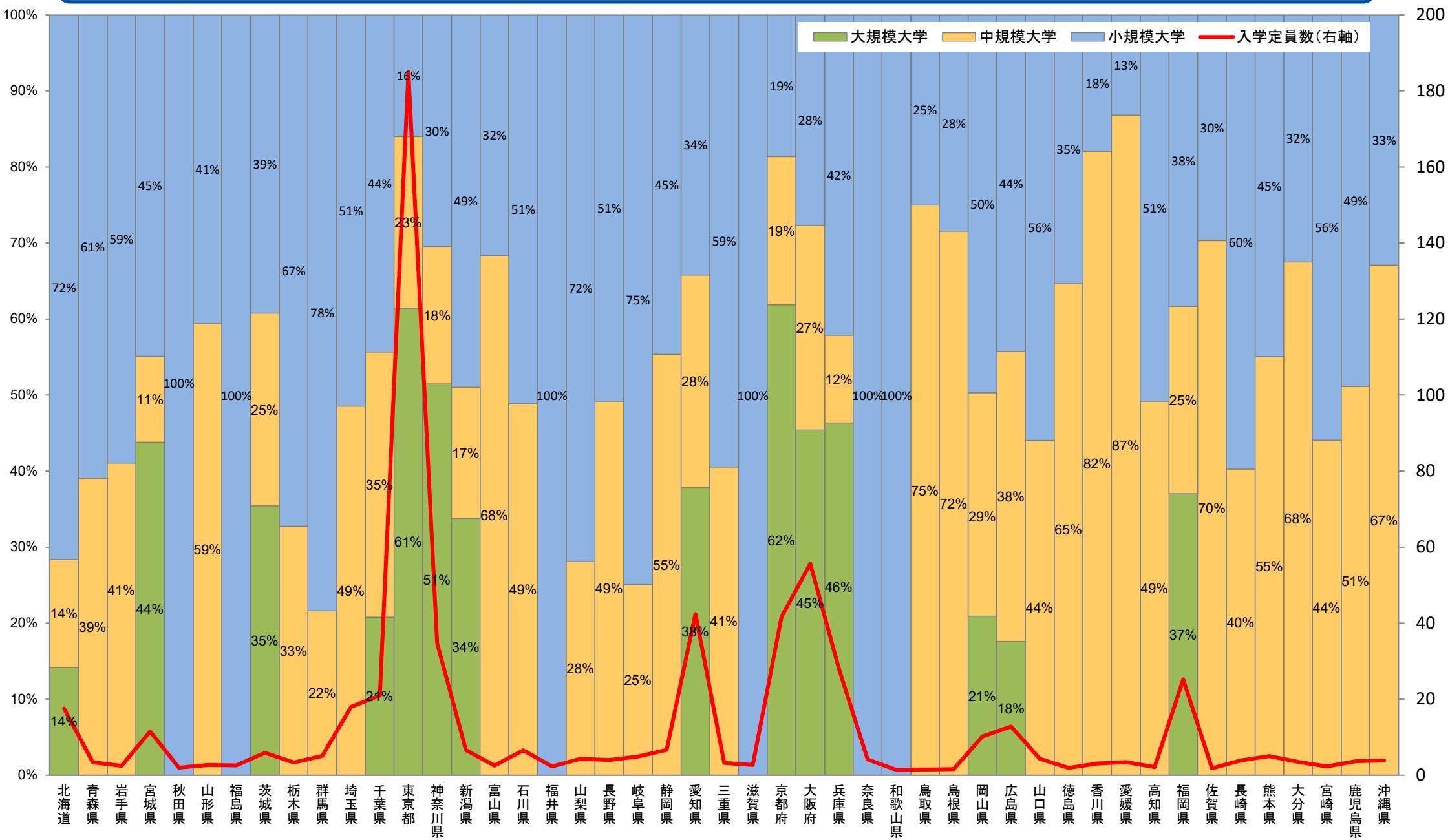
\*大規模大学：入学定員が2,000人以上の大学、中規模大学：入学定員が1,000人～1,999人の大学、小規模大学：入学定員が999人以下の大学

\*小数点第二位を四捨五入しているためグラフの合計値が一致しない場合がある。

出典：文部科学省「学校基本統計」「全国大学一覧」。

# 都道府県別・規模別大学入学定員数比率

- 大都市がある都道府県を中心に、大規模大学の入学定員が集中している。
- 入学定員数が比較的多い都道府県では、その入学定員数の多くを大規模大学が占める傾向にある。



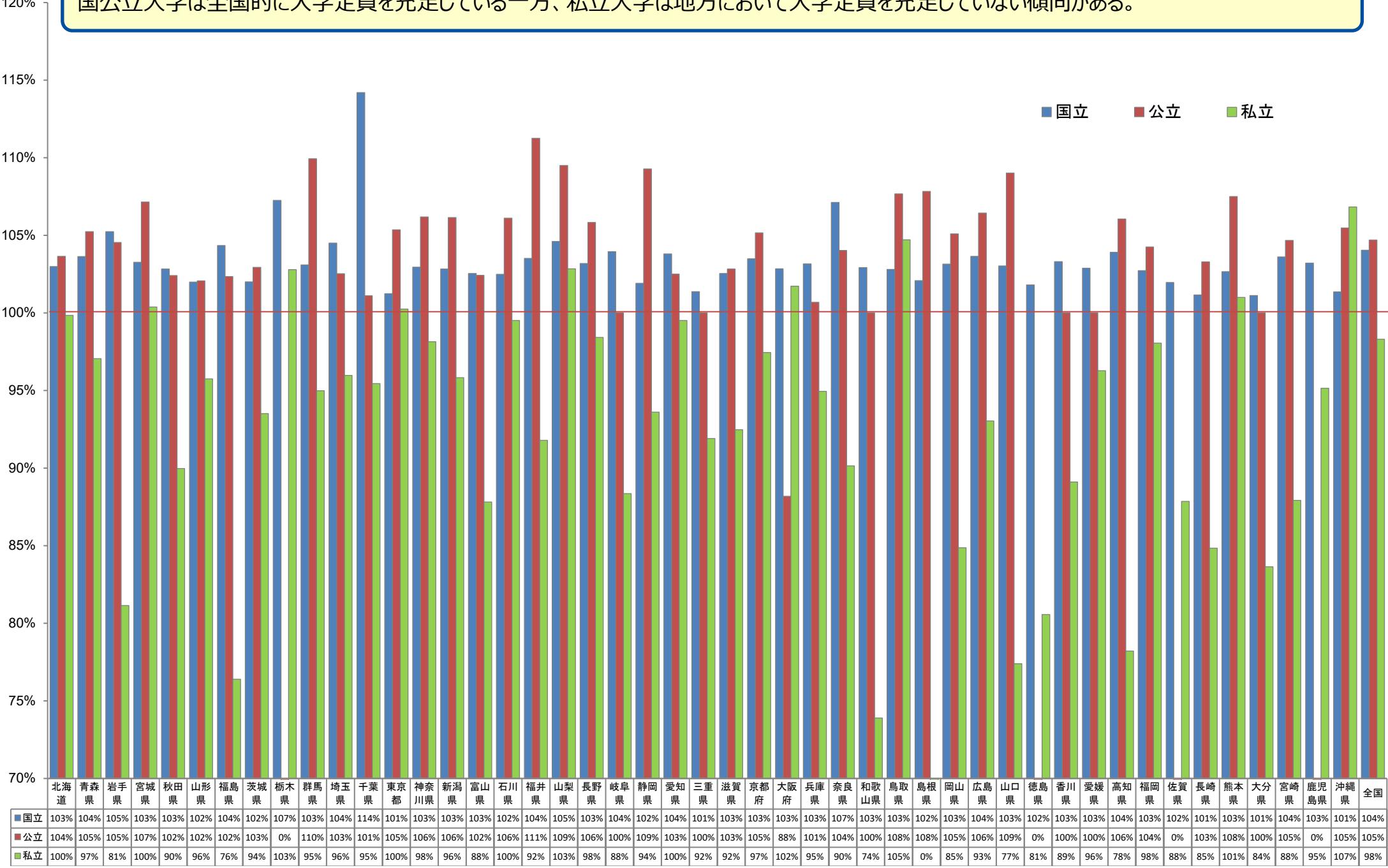
\*大規模大学：入学定員が2,000人以上の大学、中規模大学：入学定員が1,000人～1,999人の大学、小規模大学：入学定員が999人以下の大学

\*小数点第二位を四捨五入しているためグラフの合計値が一致しない場合がある。

出典：文部科学省「学校基本統計」「全国大学一覧」。

# 都道府県別・設置者別入学定員充足率

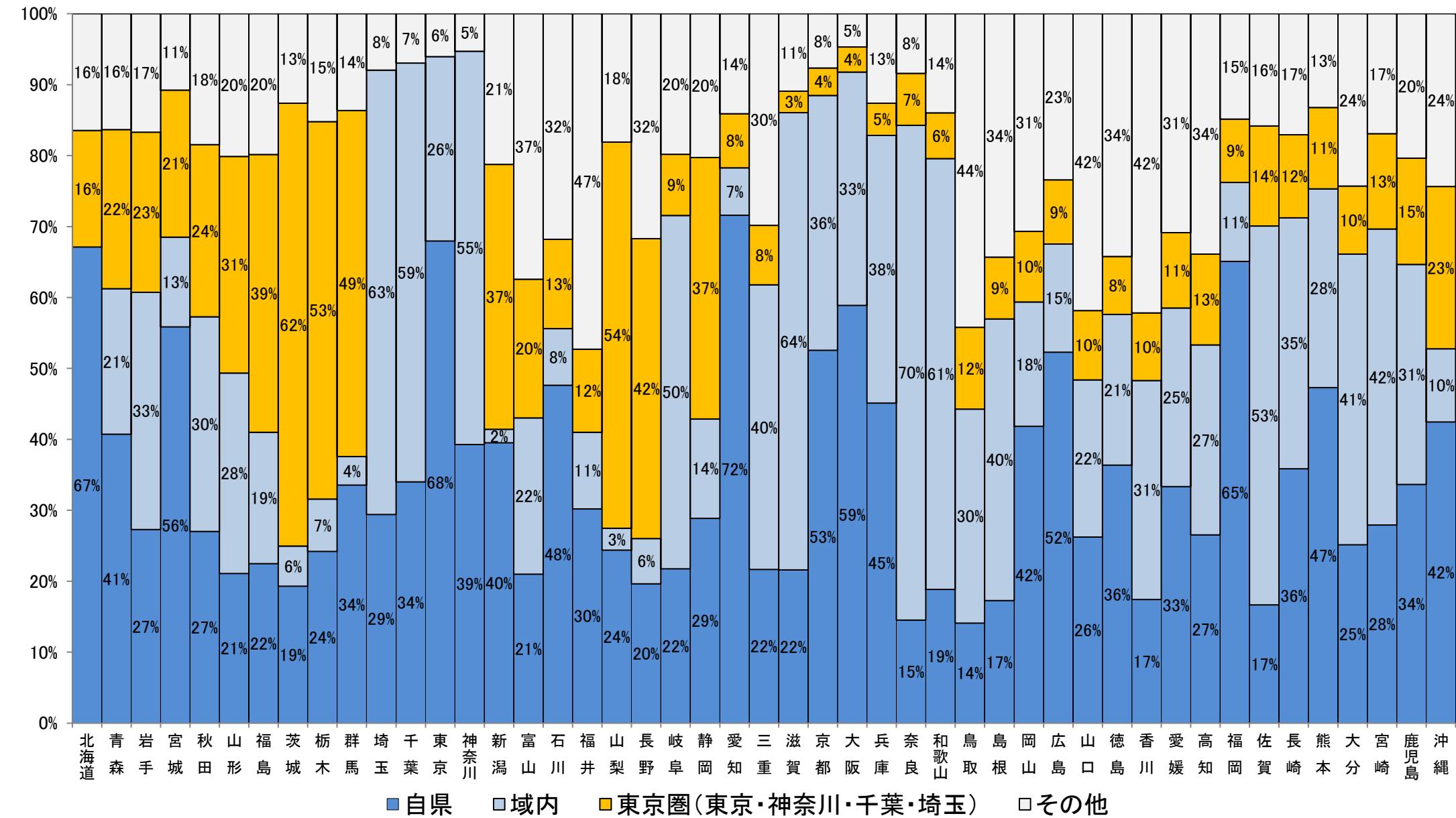
国公立大学は全国的に入学定員を充足している一方、私立大学は地方において入学定員を充足していない傾向がある。



出典:国公立大学は文部科学省「全国大学一覧」「学校基本調査」、私立大学は日本私立学校振興・共済事業団「令和4(2022)年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」を基に作成。

# 都道府県別高卒者の大学進学先

東京圏の大学には東京圏からの進学が多く、西日本では、地域ブロックの中心となる府県への進学が多い。



※地域区分: 北海道、東北、関東(東京圏除く)、東京圏、甲信越、北陸、東海、近畿、中国四国、九州

(出典)文部科学省「学校基本統計(令和4年度版)」

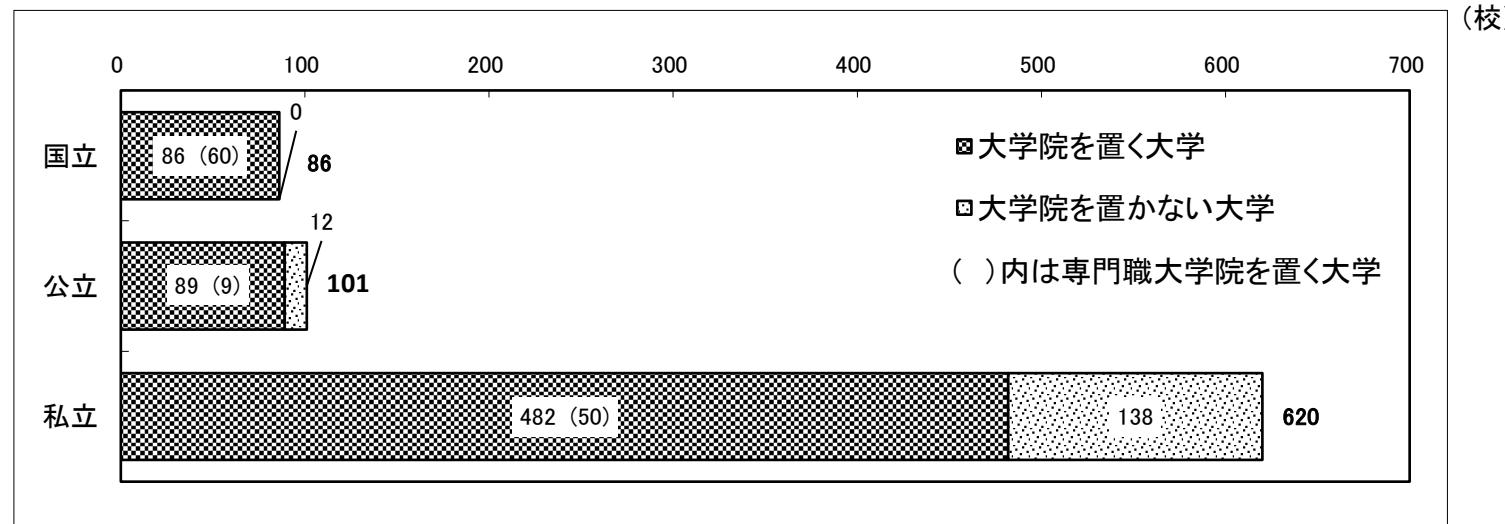
# 大学院の現状

# 大学院を置く大学数および研究科数

国立：100%，公立：88%，私立：78%の大学が大学院を置いている。

## 大学院を置く大学数

(令和4年5月1日現在)



国立: 100%

公立: 88%

私立: 78%

出典: 令和4年度学校基本調査

## 研究科数

(令和4年5月1日現在)

区分	研究科数		
	修士課程 (修士、博士前期)	博士課程 (博士後期、一貫制)	専門職学位課程
国立	394	374	87
公立	195	171	12
私立	1,164	819	69
計	1,753	1,364	168

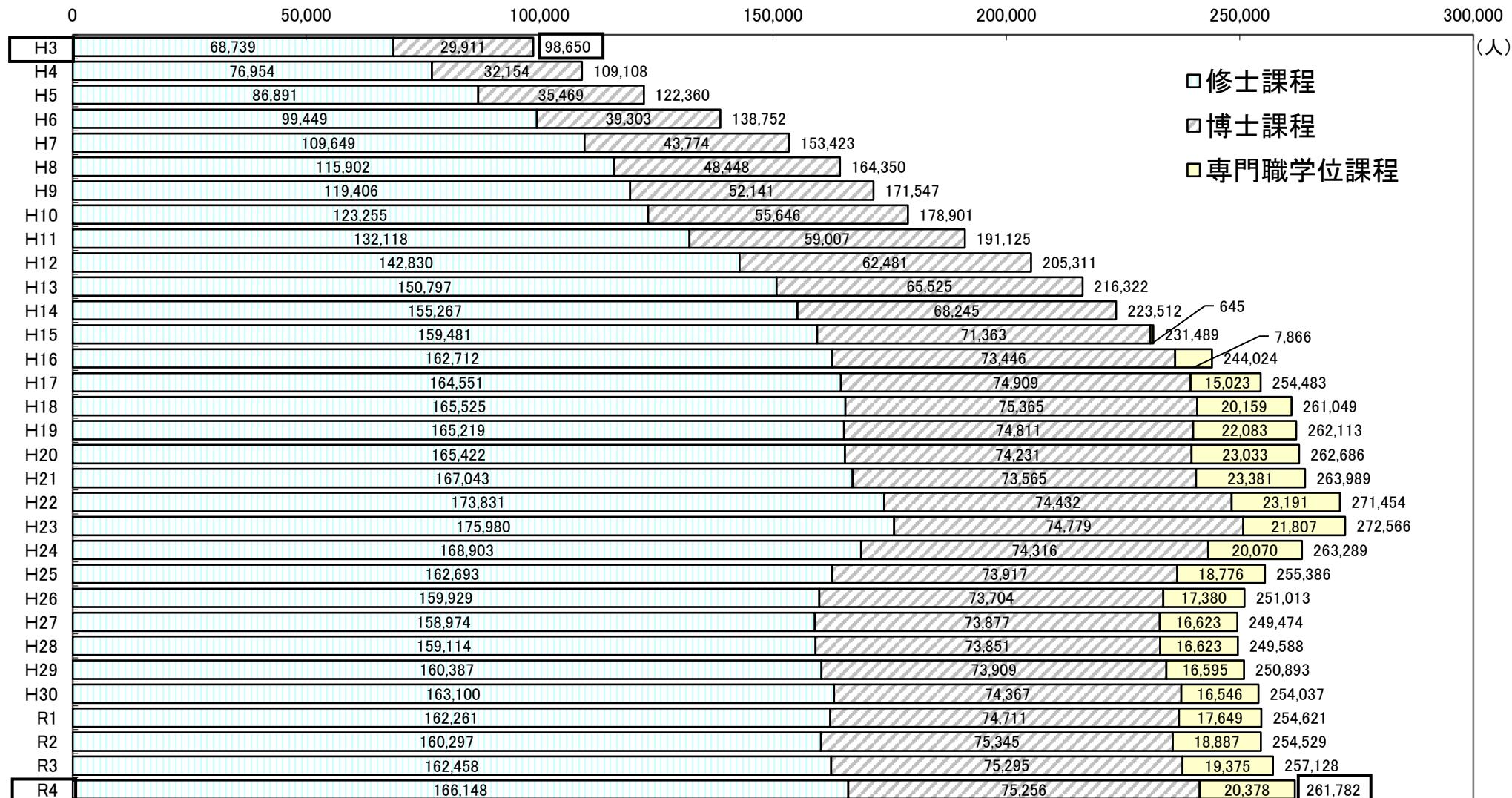
※学生が在籍している研究科の数

出典: 令和4年度学校基本調査 72

# 大学院在学者数の推移

大学院在学者数は、平成3年から令和4年にかけて約2.7倍に増えている。

(各年度5月1日現在)



※ 在学者数

「修士課程」：修士課程、区分制博士課程(前期2年課程)及び5年一貫制博士課程(1, 2年次)

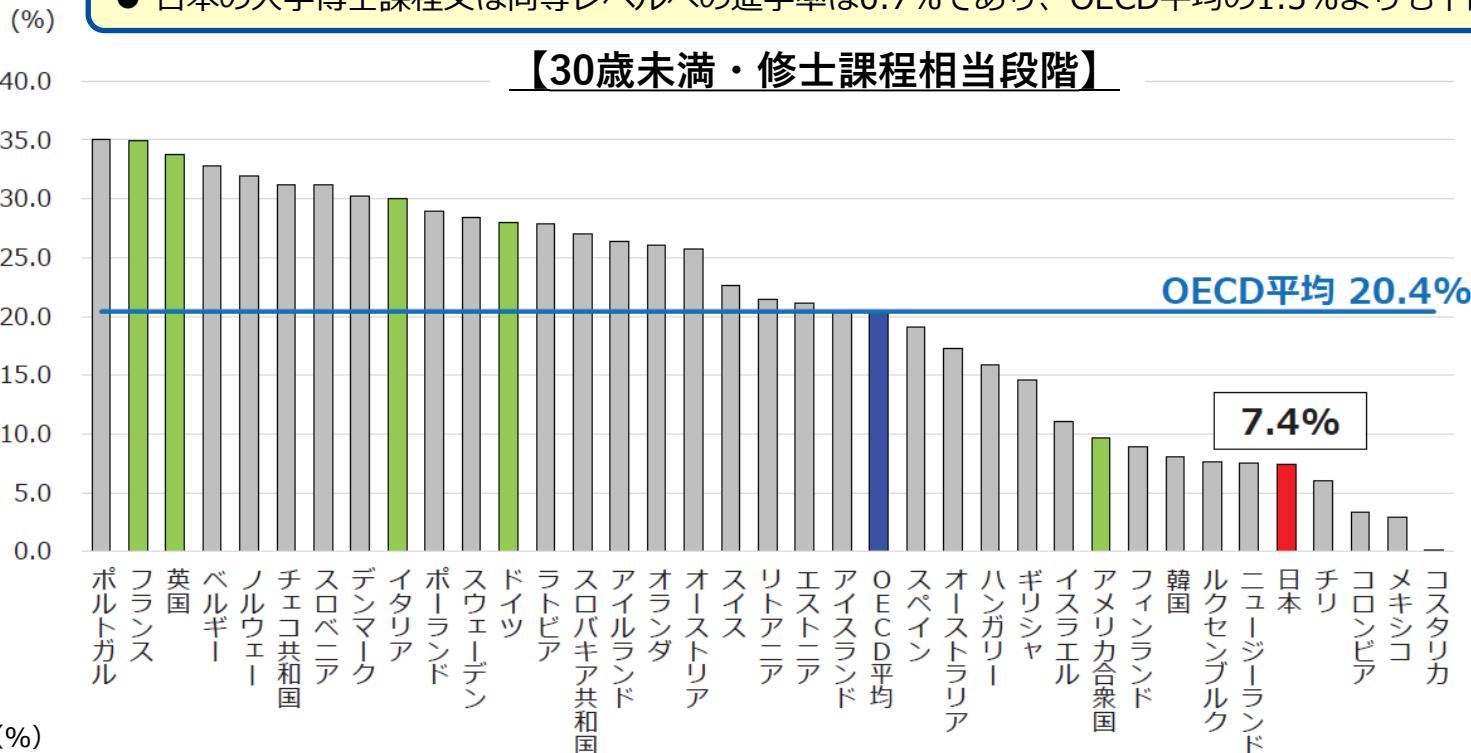
「博士課程」：区分制博士課程(後期3年課程)、医・歯・薬学(4年制)、医歯獣医学の博士課程及び5年一貫制博士課程(3～5年次)

通信教育を行う課程を除く

出典：学校基本調査

# 高等教育段階における進学率の国際比較

- 日本の大学修士課程又は同等レベルへの進学率は7.4%であり、OECD平均の20.4%の約3割ほどしか満たない。
- 日本の大学博士課程又は同等レベルへの進学率は0.7%であり、OECD平均の1.5%よりも下回っている。



(2021年)

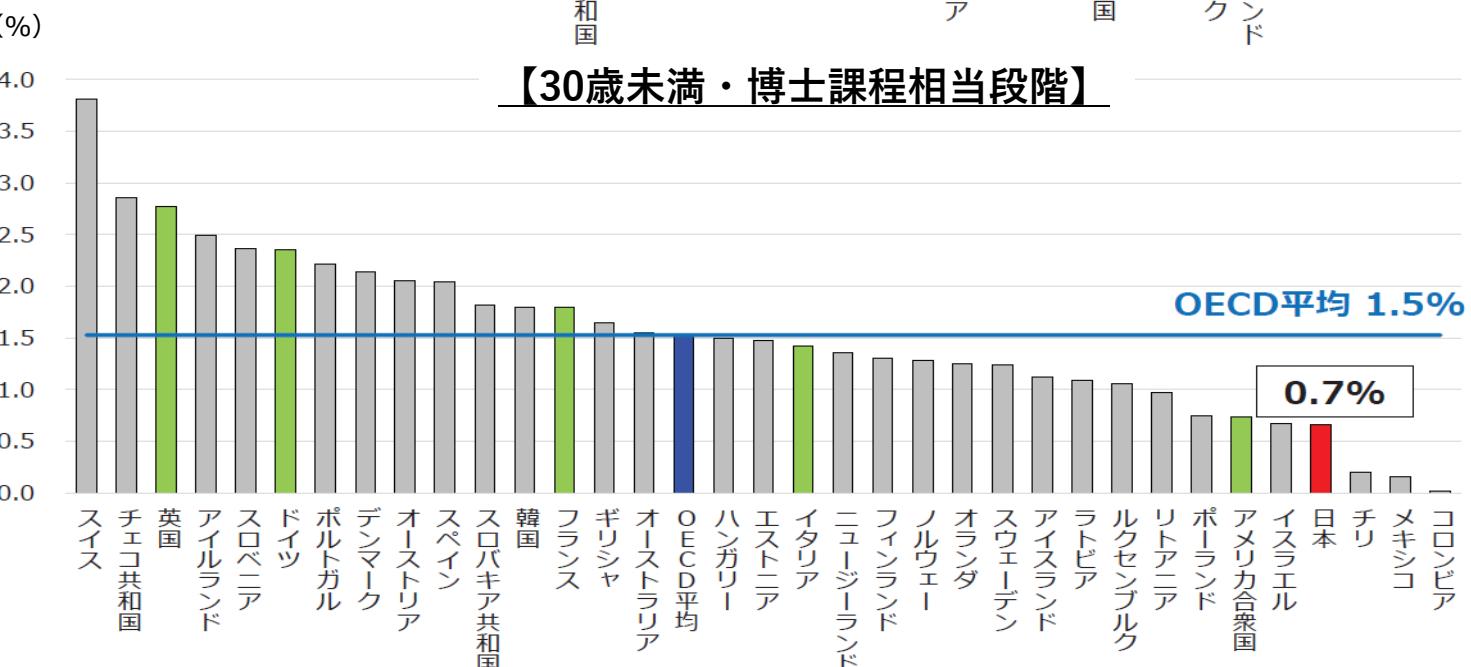
※OECD加盟38カ国のうち、カナダ、トルコを除く。

※グラフ緑色は日本以外のG7諸国。

※進学率は、25/30歳未満の各年齢における高等教育段階の新入学者数を当該年齢人口で除した率の合計。

留学生含む。

※参照年度は2020年度(令和2年度)。



(2021年)

※OECD加盟38カ国のうち、ベルギー、カナダ、コスタリカ、トルコを除く。

※グラフ緑色は日本以外のG7諸国。

※進学率は、25/30歳未満の各年齢における当該高等教育段階の新入学者数を当該年齢人口で除した率の合計。

留学生含む。

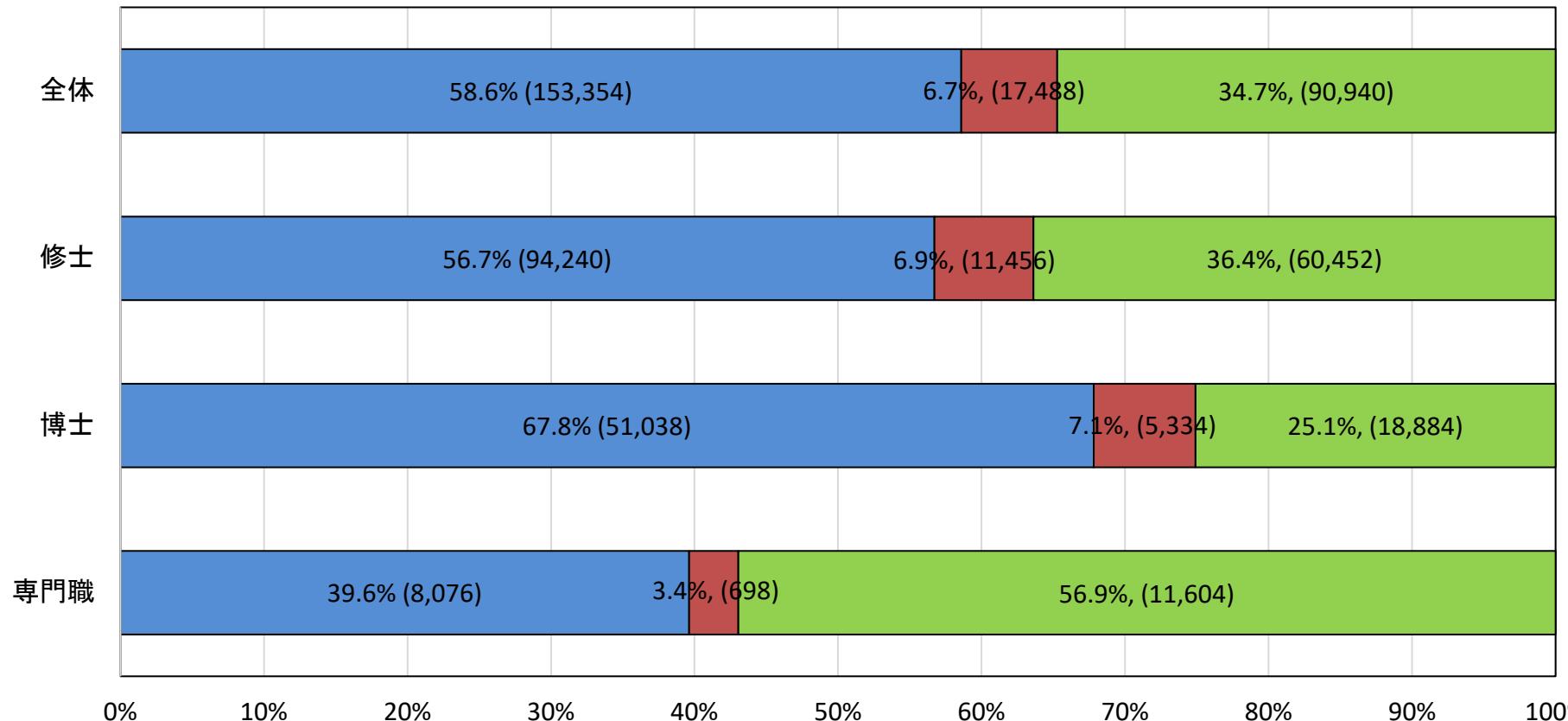
※参照年度は2020年度(令和2年度)。

# 課程別・設置者別在学者比較(在学者数)

我が国の大学院在籍者の6割は国立大学に在籍。博士課程においては国立の割合が7割弱である一方、専門職大学院においては私立の在籍者比率が一番高い。

(令和4年5月1日現在)

■ 国立 ■ 公立 ■ 私立

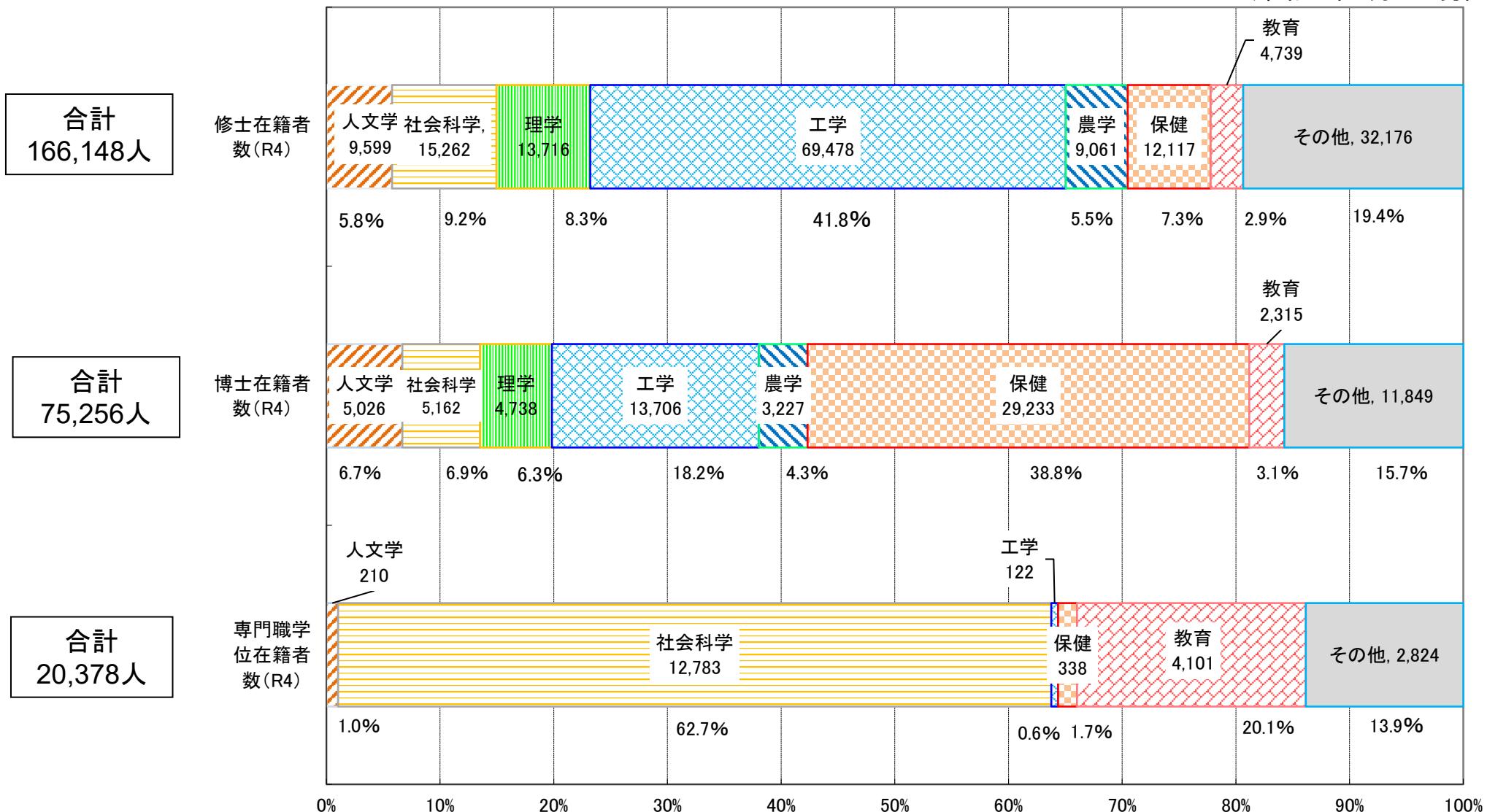


出典：令和4年度学校基本調査

# 学問分野別の大院学生数

修士在籍者の場合は「工学」分野、博士在籍者の場合は「保健」分野が全体の約4割、専門職学位在籍者の場合は「社会科学」分野が全体の6割以上を占めている。

(令和4年5月1日現在)



出典：令和4年度学校基本調査

# 修士課程入学者の推移

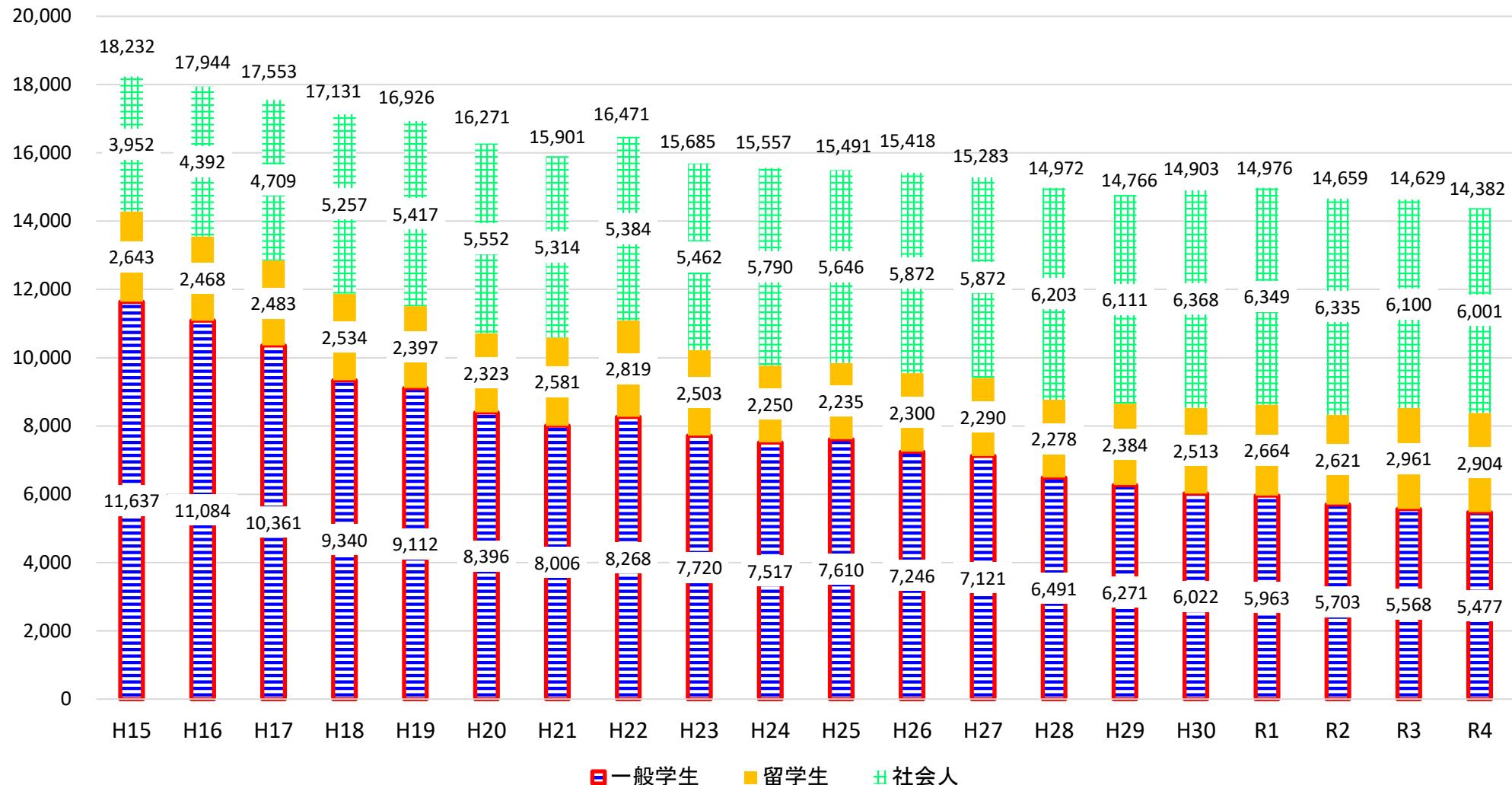
- 修士課程入学者は平成22年度をピークとして減少したが、近年は若干の回復傾向がみられる。
- 一般学生は令和2年度より増加傾向、社会人学生は平成30年度をピークに減少傾向。留学生は平成15年度から令和2年度までの間で約4千人増加し、比率としても約5%の増加。



※「一般学生」の人数については、全入学者数から社会人入学者数及び留学生入学者数を減じた数を便宜的に記載している。

# 博士課程入学者の推移

博士課程入学者のうち、修士課程を修了して博士課程に進学する者を主とする一般学生の入学者数は、平成15年度の約1.2万人をピークに大幅に減少し、令和4年度には最大時の約半数の約0.5万人に低下。



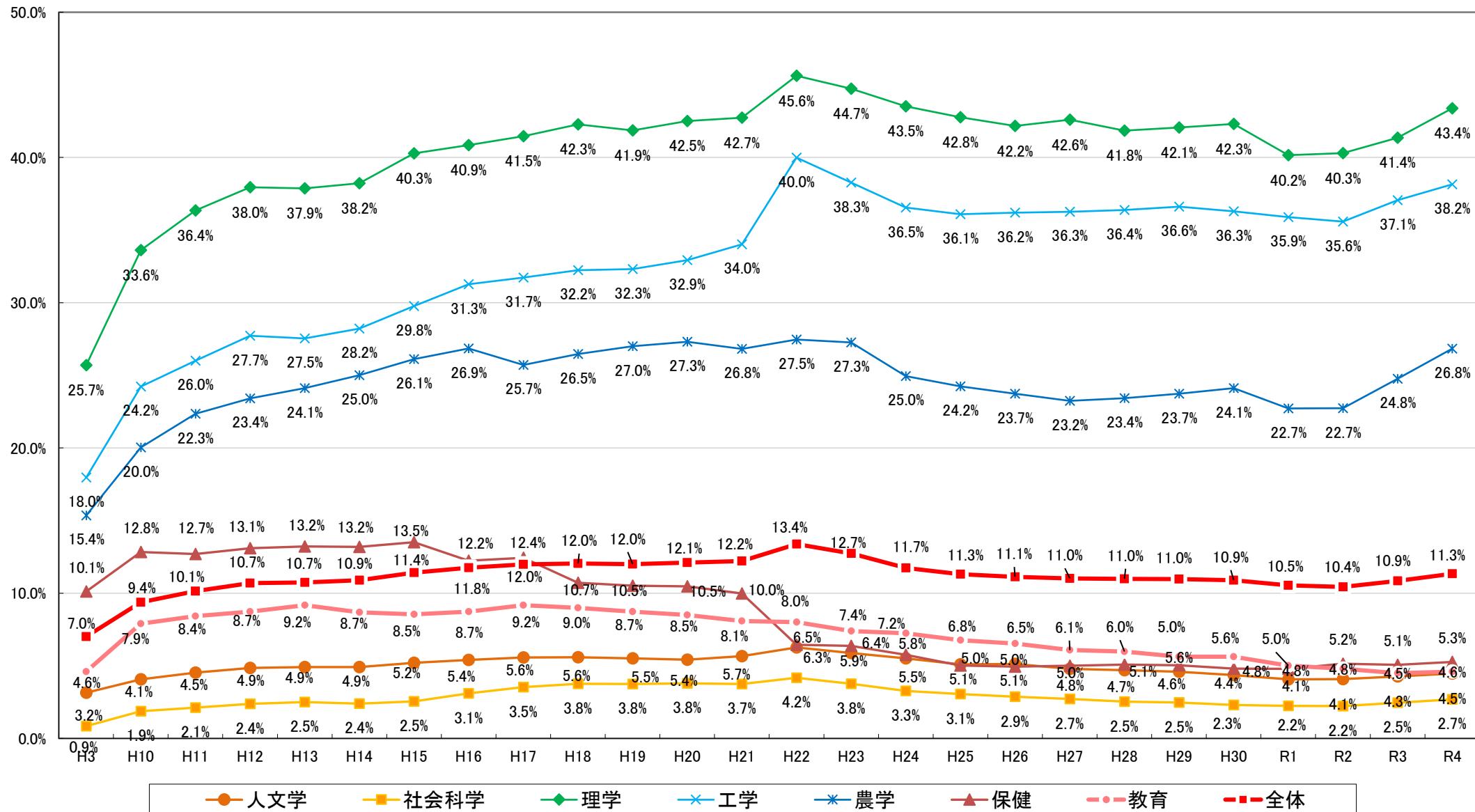
※「一般学生」の人数については、全入学者数から社会人入学者数及び留学生入学者数を減じた数を便宜的に記載している。

出典：学校基本調査

# 学士課程修了者の進学率の推移(分野別)

学士課程修了者の進学率は、全体的に横ばい傾向にある。

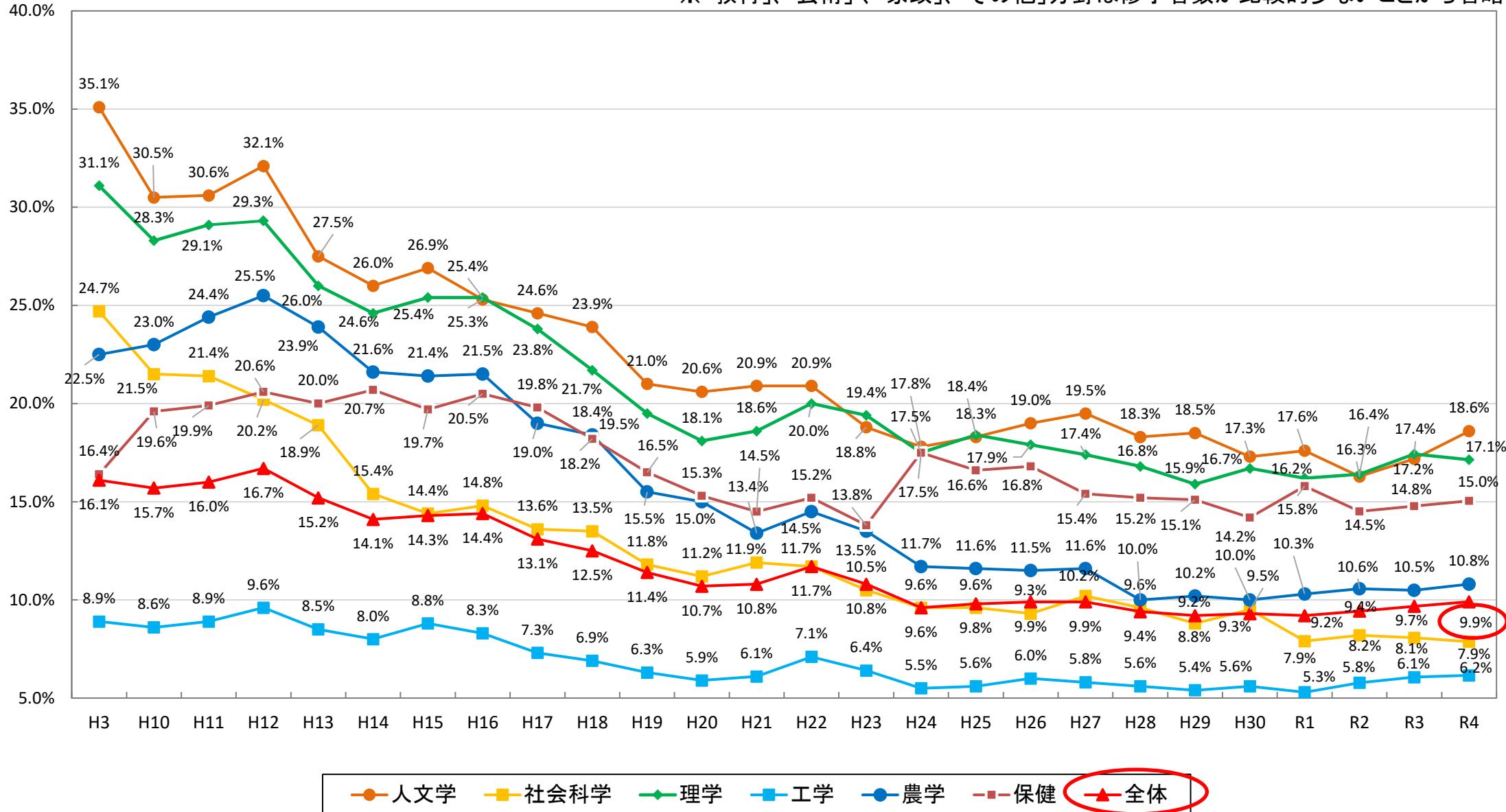
※「芸術」、「家政」、「その他」分野は修了者数が比較的少ないとから省略



# 修士課程修了者の進学率の推移(分野別)

修士課程修了者の博士課程等への進学率は、各分野を通じて減少傾向であったが、近年は横ばい。

※「教育」、「芸術」、「家政」、「その他」分野は修了者数が比較的少ないことから省略

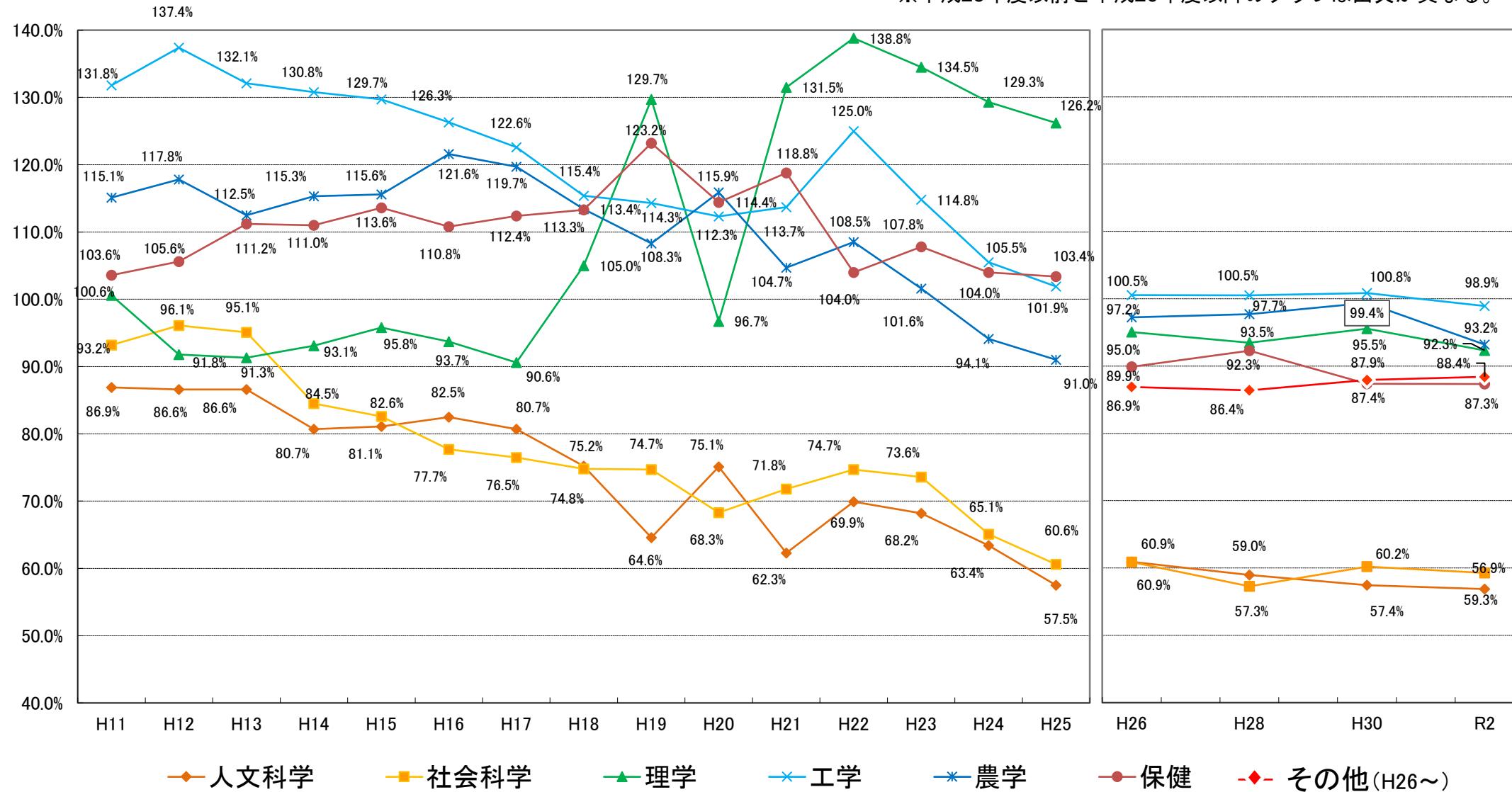


出典:学校基本調査

# 修士課程入学者充足率の推移(分野別)

「人文・社会」分野修士課程の入学者充足率（＝入学者／入学定員）は6割前後で推移。

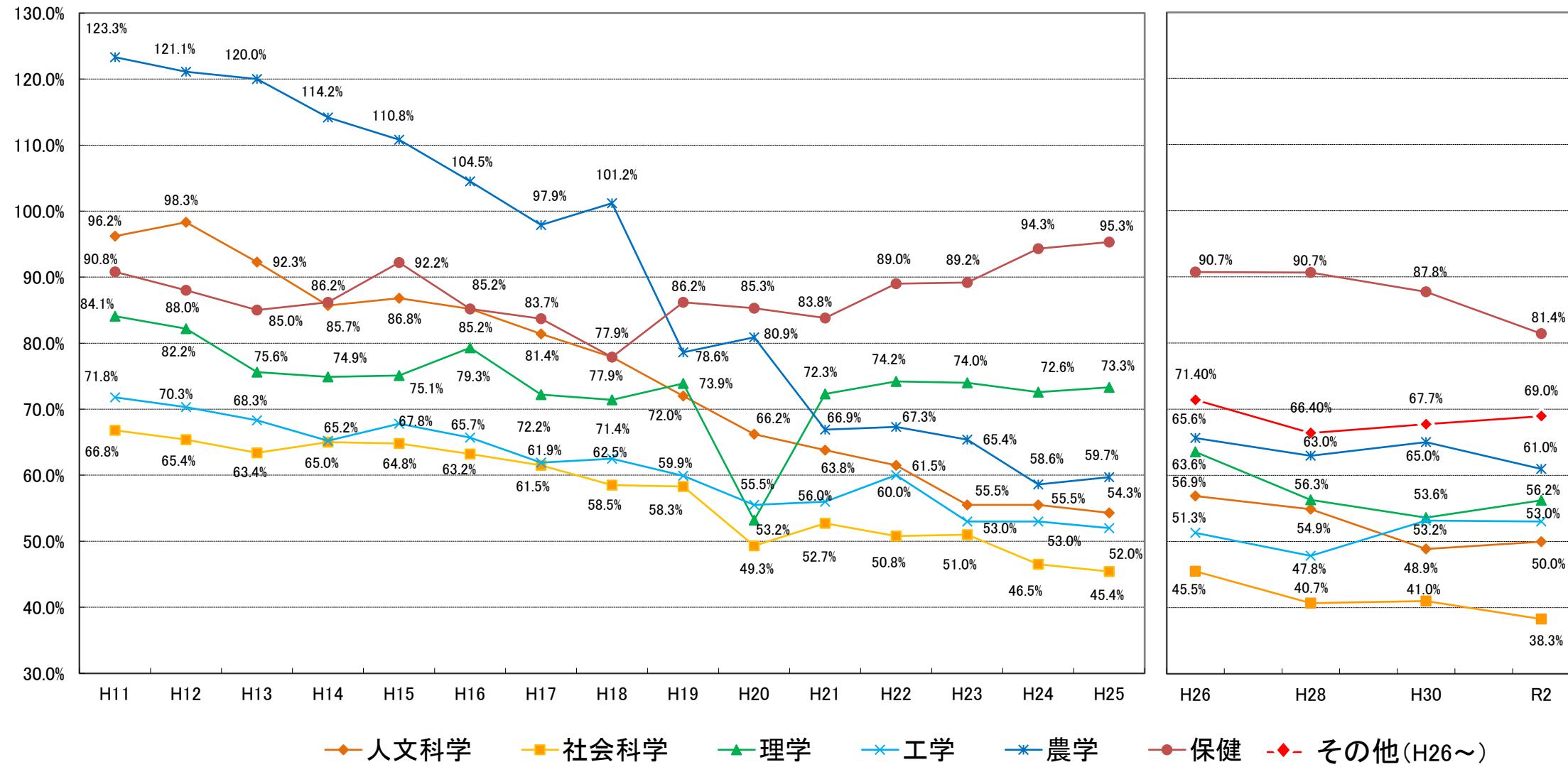
※平成25年度以前と平成26年度以降のグラフは出典が異なる。



# 博士課程入学者充足率の推移(分野別)

博士課程の入学者充足率 (=入学者／入学定員) は全体的に低下傾向。

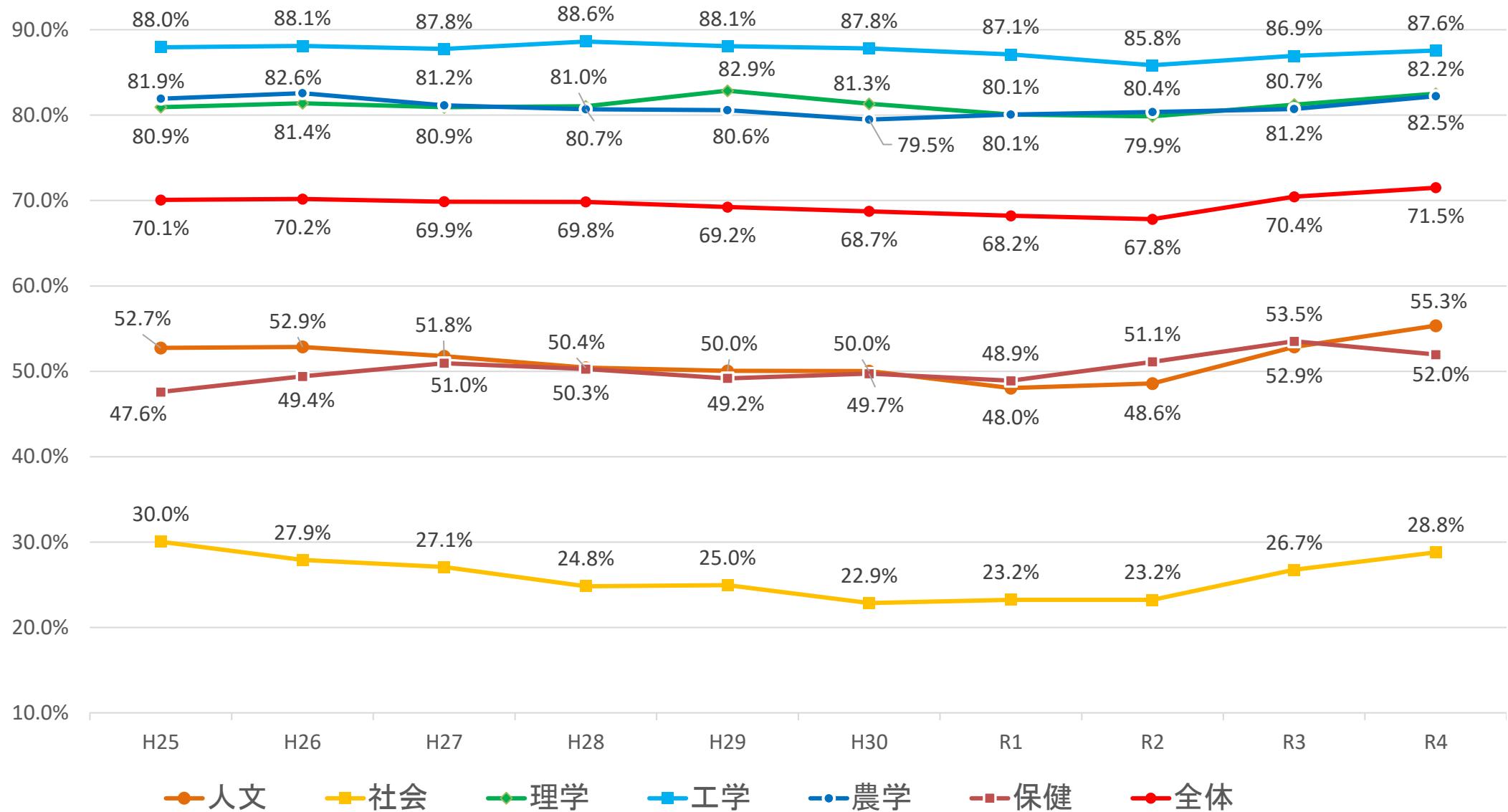
※平成25年度以前と平成26年度以降のグラフは出典が異なる。



出典：(平成25年まで)学校基本統計及び全国大学一覧より文部科学省作成  
 (平成26年)「大学院における「第2次大学院教育振興施策要綱」等を踏まえた教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」(平成28年2月 株式会社リベルタス・コンサルティング) <文部科学省：先導的大学改革推進委託事業>  
 (平成28年)「大学院における「第3次大学院教育振興施策要綱」等を踏まえた教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」(平成30年3月 株式会社リベルタス・コンサルティング) <文部科学省：先導的大学改革推進委託事業>  
 (平成30年)「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」(令和2年3月 株式会社リベルタス・コンサルティング) <文部科学省：先導的大学改革推進委託事業>  
 (令和2年)「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」(令和4年2月 株式会社リベルタス・コンサルティング) <文部科学省：先導的大学改革推進委託事業>

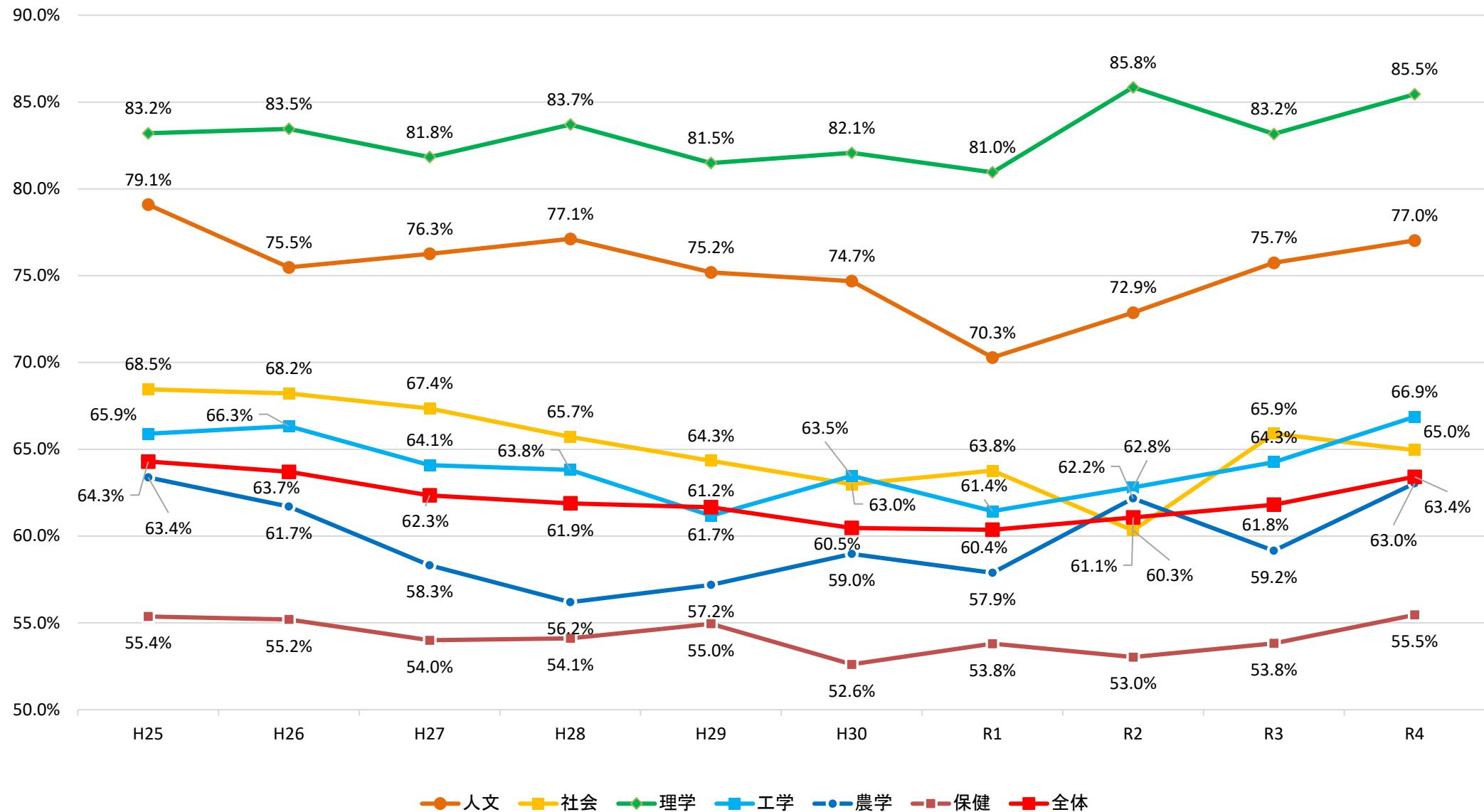
# 入学者数に占める自大学出身者割合(修士)

- 「工学・農学・理学」分野の自大学出身者割合は高く、8～9割で推移している。
- 「社会」分野の自大学出身者割合は低く、2～3割程度で推移している。



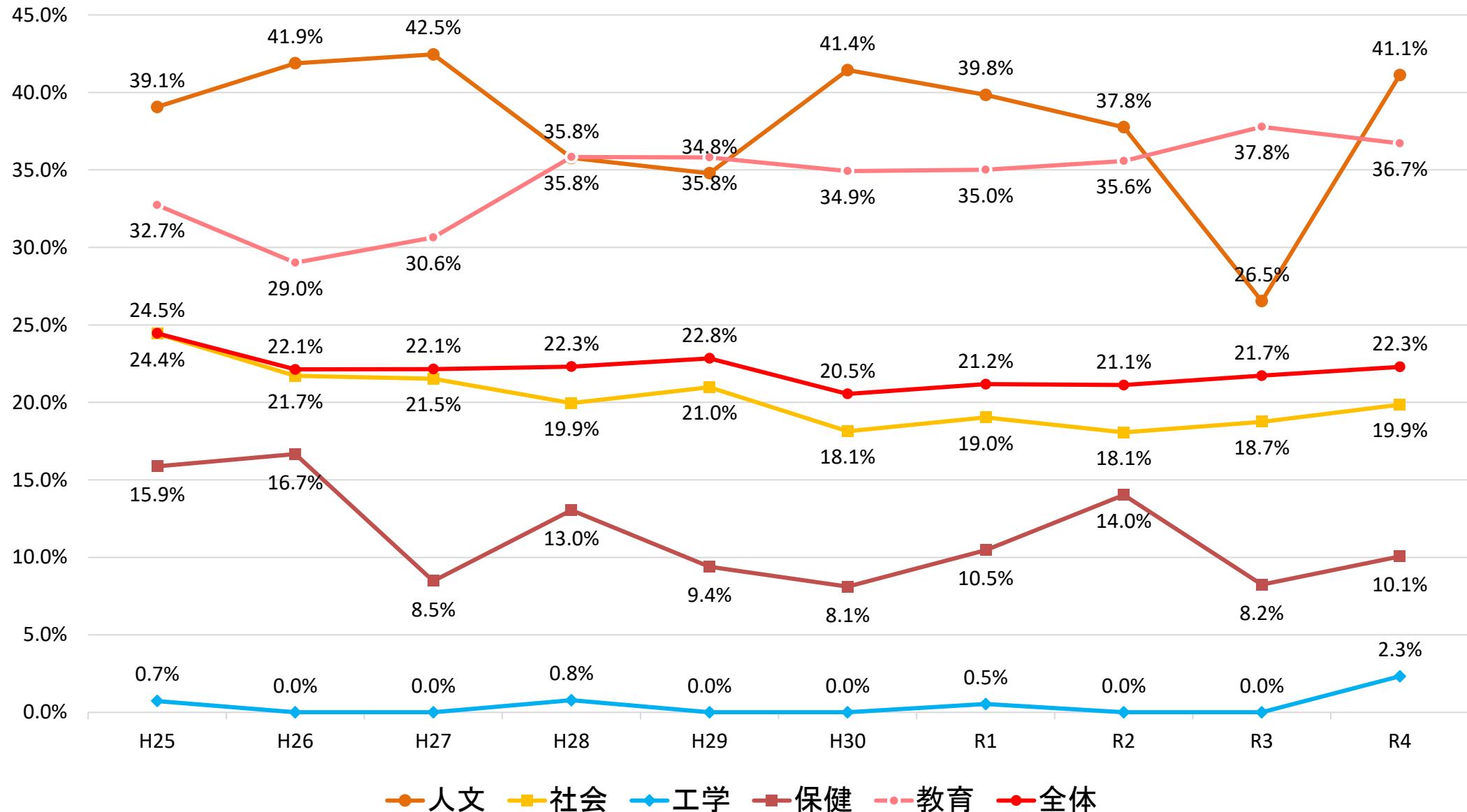
# 入学者数に占める自大学出身者割合(博士)

「理学」分野の自大学出身者割合は高く、8割以上で推移している。



# 入学者数に占める自大学出身者割合(専門職学位)

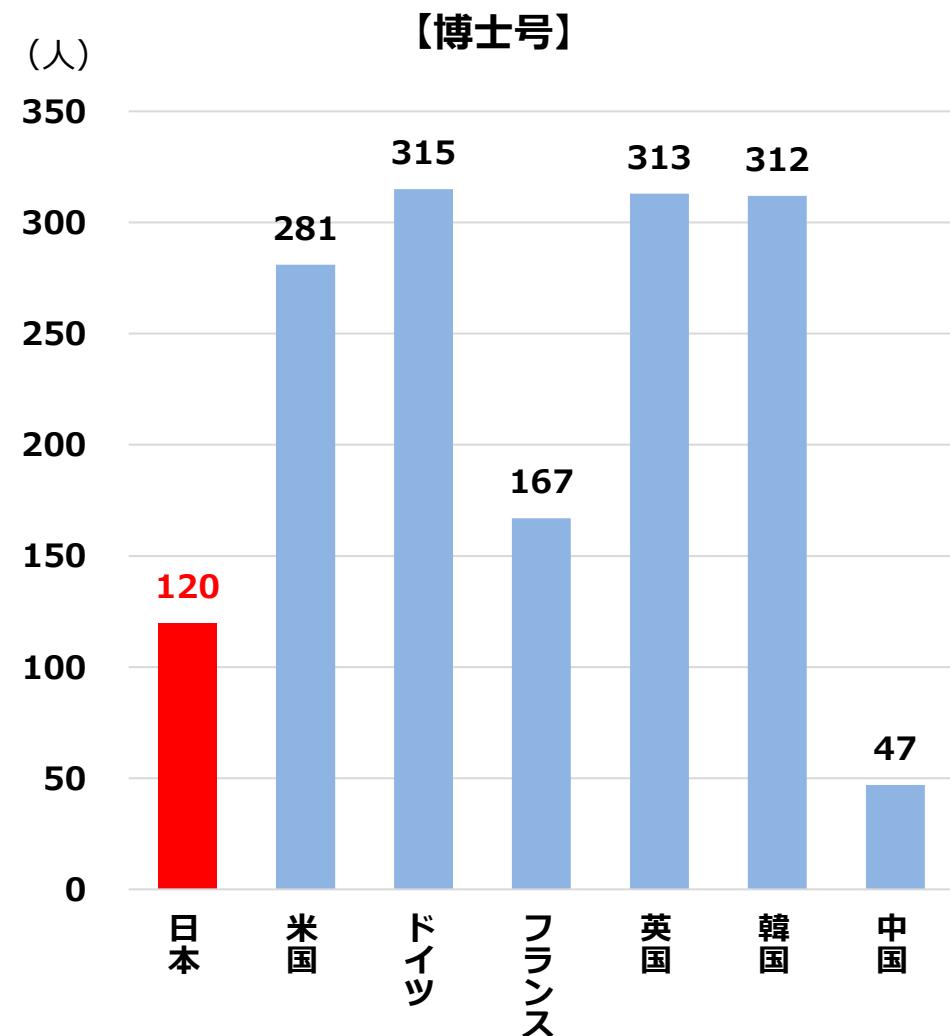
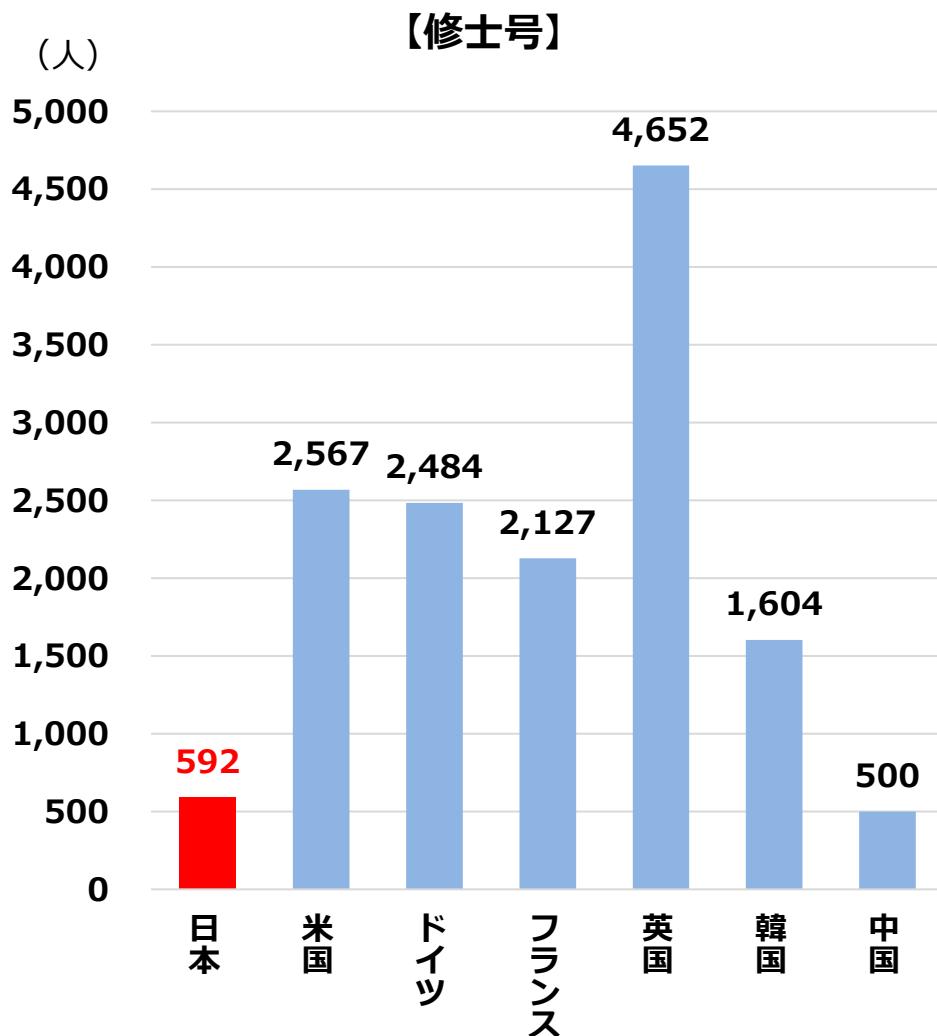
「工学」分野の自大学出身者の割合は非常に低い。



# 修士号・博士号の取得者数

人口100万人当たりの修士号、博士号を取得している者の数は、諸外国と比較して低水準。

## 人口100万人当たりの修士号、博士号取得者数



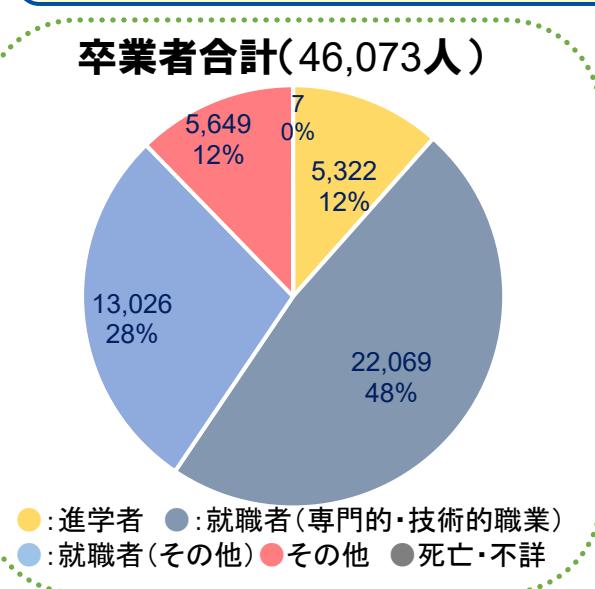
(出典) 文部科学省・科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2023」より作成。

# 高等教育機関修了後の進路

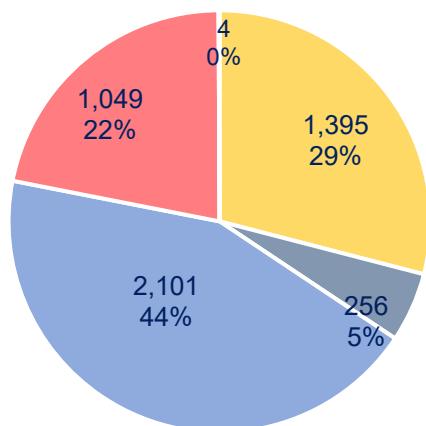
# 短期大学士課程修了後の分野別進路

- 人文、社会、工業、芸術は他の分野に比べて進学者の割合が高い傾向。
- 保健、教育は就職者のうち専門的・技術的職業の割合が高く、人文、社会、家政ではその他の職業の割合が高い傾向。

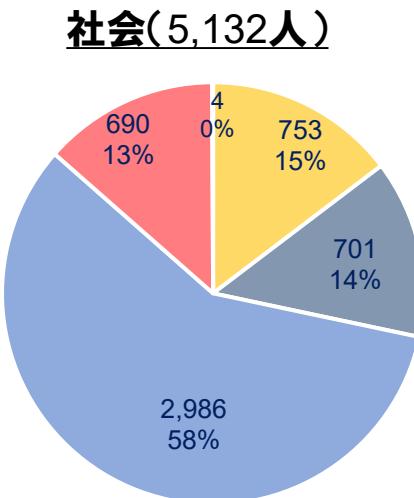
**卒業者合計(46,073人)**



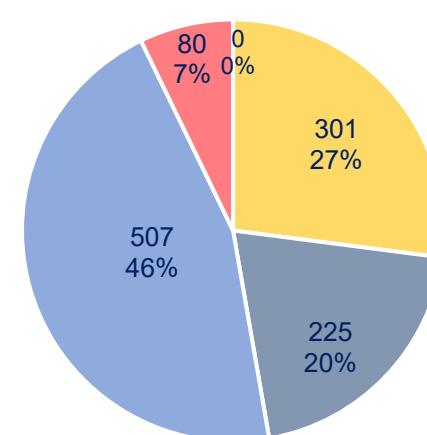
**人文(4,805人)**



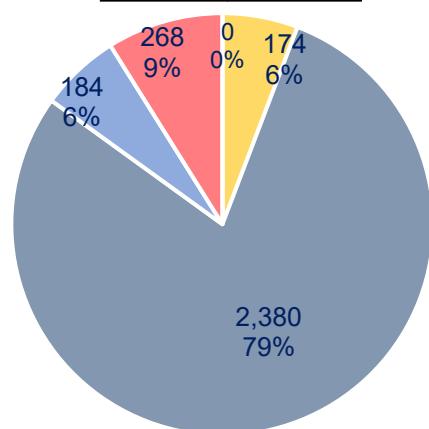
**社会(5,132人)**



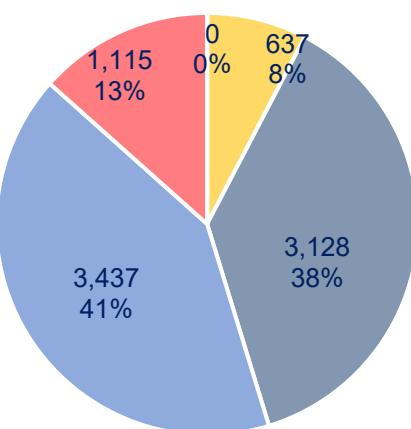
**工業(1,113人)**



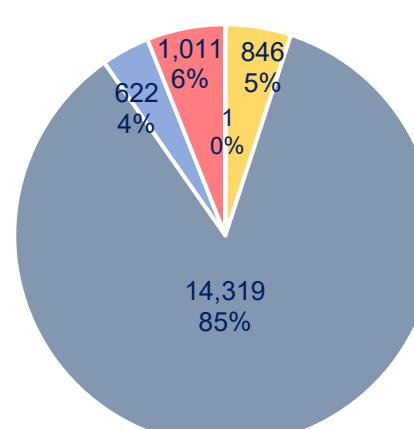
**保健(3,006人)**



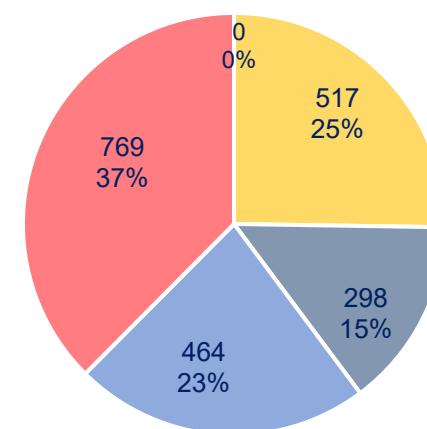
**家政(8,317人)**



**教育(16,799人)**



**芸術(2,048人)**



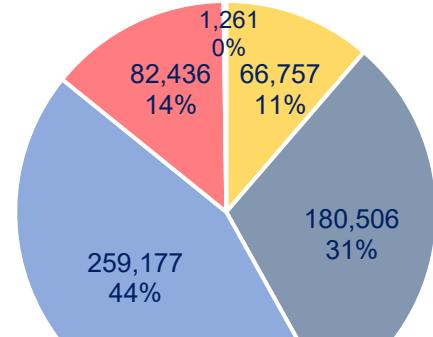
【注】

- 「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者である。
- 「就職者」とは、給料・賃金・報酬・その他の経常的な収入を得る仕事に就いた者である。
- 「就職者(専門的・技術的職業)」とは、就職者のうち、研究者、農林水産技術者、製造技術者、建築・土木・測量技術者、情報処理・通信技術者、教員、医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、美術家、写真家、デザイナー、音楽家、舞台芸術家等として従事している者である。
- 「就職者(その他)」とは、就職者のうち、専門的・技術的職業従事者以外の者で、管理的職業従事者、事務従事者、販売従事者、サービス職業従事者、保安職業従事者、農林漁業従事者、生産工程従事者、輸送・機械運転従事者、建設・採掘従事者、運搬・清掃等従事者等である。
- 「その他」とは、専修学校・各種学校・外国の学校・職業能力開発校等への入学者、研究生として入学した者や、一時的な仕事に就いた者(臨時の収入を得る仕事に就いた者)、臨床研修医(予定者を含む)、進学でもないことが明らかな者(進学準備中の者、就職準備中の者(求職中の者並びに公務員・教員採用試験及び国家資格試験の準備中の者を含む)等)である。 【出典】文部科学省「学校基本統計(令和4年度)」を元に作成
- 進学者であり、かつ就職をしている者については、「就職者」として算出している。

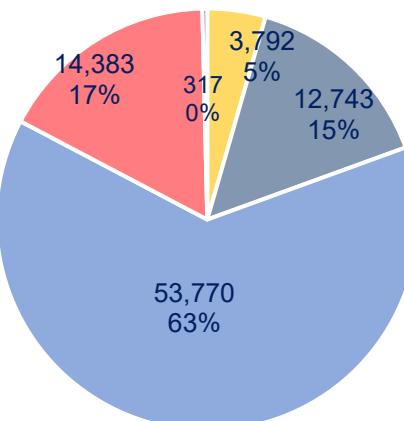
# 学士課程修了後の分野別進路別

- 人文科学・社会科学は進学者と就職者（専門的・技術的職業）の割合が低く、就職者（その他）の割合が高い傾向。
- 理学・工学・農学は進学者の割合が他の分野に比べて高く、保健・教育は、就職者（専門的・技術的職業）の割合が他の分野に比べて高い傾向。

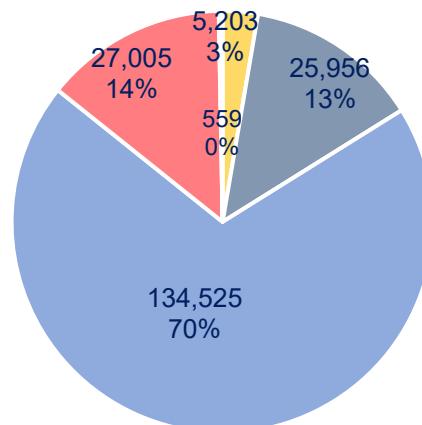
**卒業者合計(590,137人)**



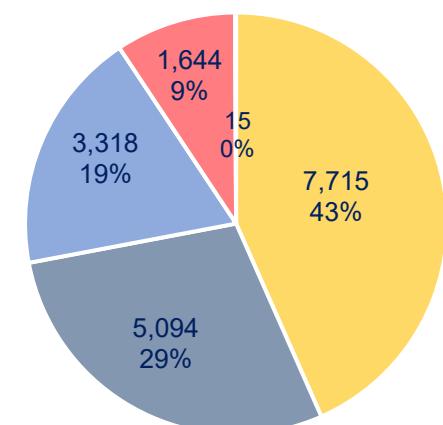
**人文科学(85,005人)**



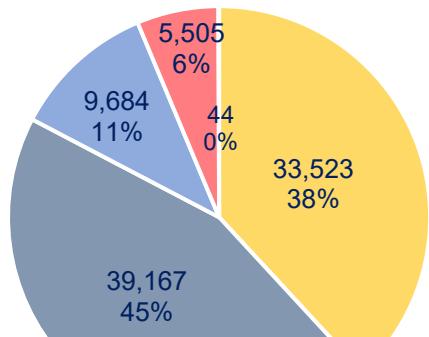
**社会科学(193,248人)**



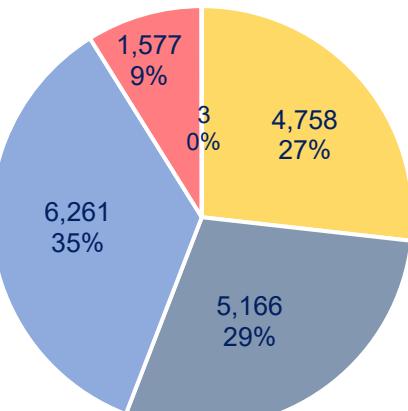
**理学(17,786人)**



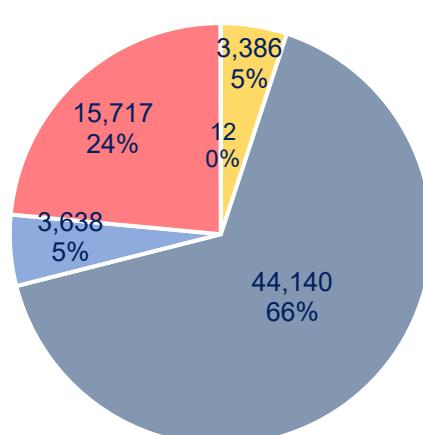
**工学(87,923人)**



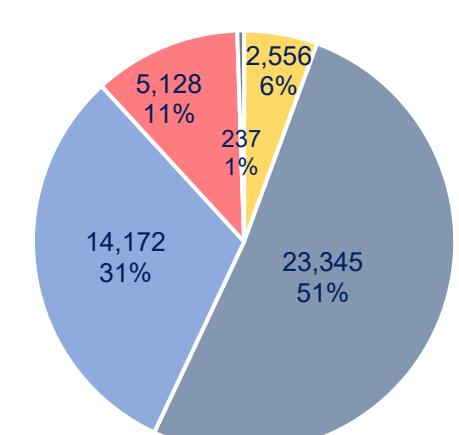
**農学(17,765人)**



**保健(66,893人)**



**教育(45,438人)**



【注】

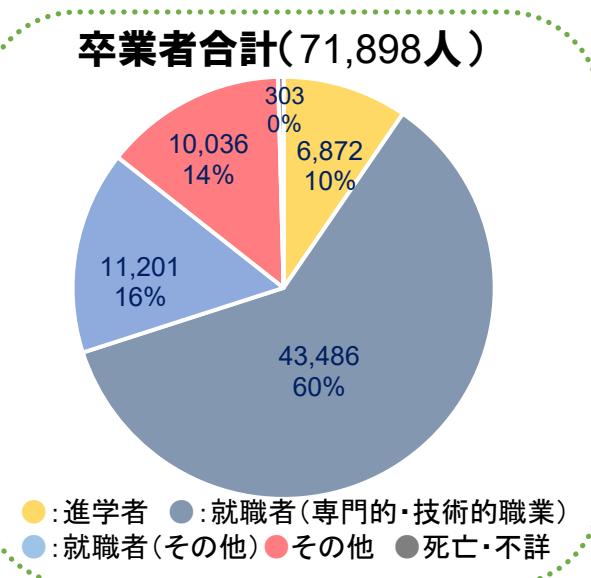
- 「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者である。
- 「就職者」とは、給料・賃金・報酬・その他の経常的な収入を得る仕事に就いた者である。
- 「就職者(専門的・技術的職業)」とは、就職者のうち、研究者、農林水産技術者、製造技術者、建築・土木・測量技術者、情報処理・通信技術者、教員、医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、美術家、写真家、デザイナー、音楽家、舞台芸術家等として従事している者である。
- 「就職者(その他)」とは、就職者のうち、専門的・技術的職業従事者以外の者で、管理的職業従事者、事務従事者、販売従事者、サービス職業従事者、保安職業従事者、農林漁業従事者、生産工程従事者、輸送・機械運転従事者、建設・採掘従事者、運搬・清掃等従事者等である。
- 「その他」とは、専修学校・各種学校・外国の学校・職業能力開発校等への入学者、研究生として入学した者や、一時的な仕事に就いた者(臨時の収入を得る仕事に就いた者)、臨床研修医(予定者を含む)、進学でも就職でもないことが明らかな者(進学準備中の者、就職準備中の者(求職中の者並びに公務員・教員採用試験及び国家資格試験の準備中の者を含む)等)である。
- 進学者であり、かつ就職をしている者については、「就職者」として算出している。

【出典】文部科学省「学校基本統計(令和4年度)」を元に作成

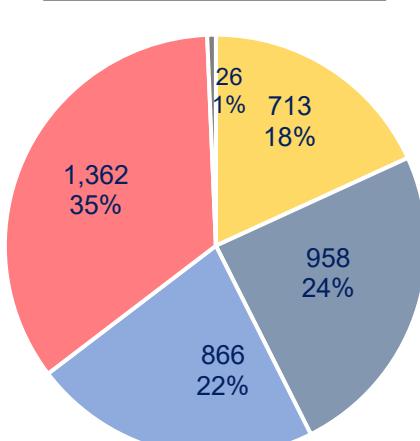
# 修士課程修了後の分野別進路

- 人文科学・社会科学、教育では「その他」の割合が高く、社会科学は「就職者（その他）」の割合が他の分野に比べて高い傾向。
- 理学、工学、農学、保健、教育は就職者のうち、専門的・技術的職業の割合が高い傾向。

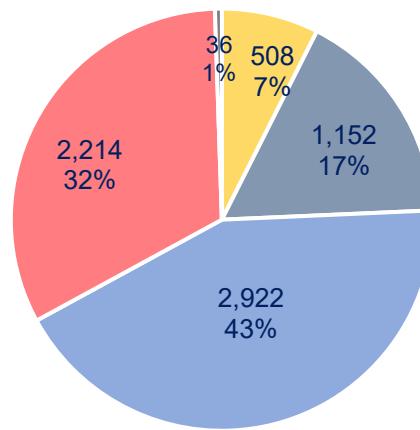
**卒業者合計(71,898人)**



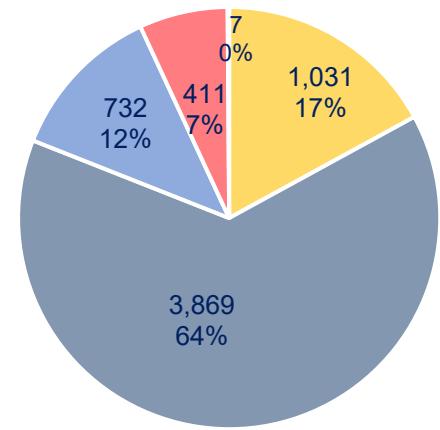
**人文科学(3,925人)**



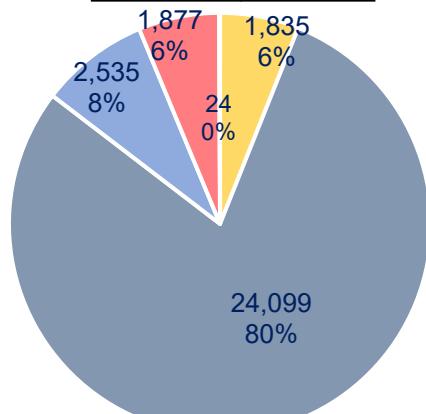
**社会科学(6,832人)**



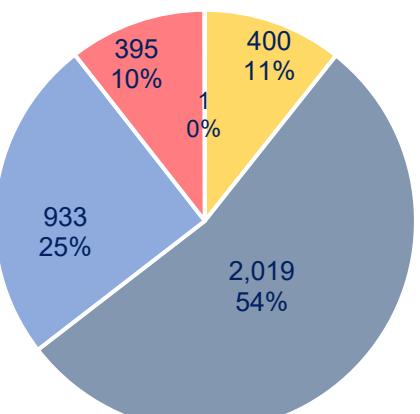
**理学(6,050人)**



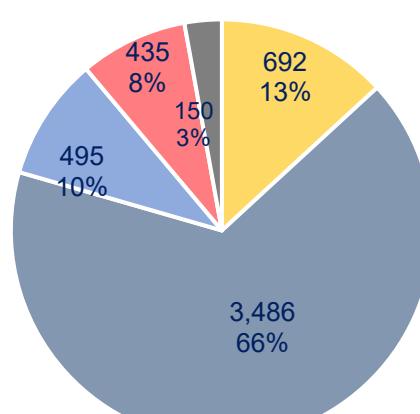
**工学(30,370人)**



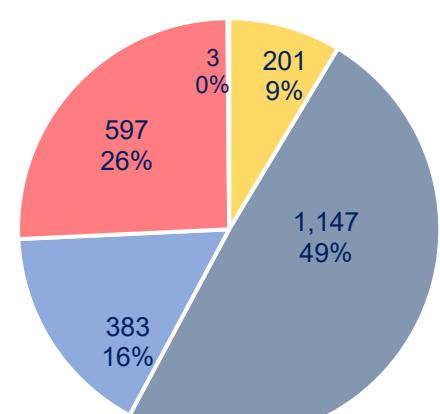
**農学(3,748人)**



**保健(5,258人)**



**教育(2,331人)**



【注】

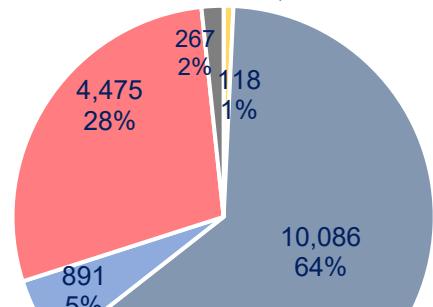
- 「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者である。
- 「就職者」とは、給料・賃金・報酬・その他の経常的な収入を得る仕事に就いた者である。
- 「就職者(専門的・技術的職業)」とは、就職者のうち、研究者、農林水産技術者、製造技術者、建築・土木・測量技術者、情報処理・通信技術者、教員、医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、美術家、写真家、デザイナー、音楽家、舞台芸術家等として従事している者である。
- 「就職者(その他)」とは、就職者のうち、専門的・技術的職業従事者以外の者で、管理的職業従事者、事務従事者、販売従事者、サービス職業従事者、保安職業従事者、農林漁業従事者、生産工程従事者、輸送・機械運転従事者、建設・掘削従事者、運搬・清掃等従事者等である。
- 「その他」とは、専修学校・各種学校・外国の学校・職業能力開発校等への入学者、研究生として入学した者や、一時的な仕事に就いた者(臨時の収入を得る仕事に就いた者)、臨床研修医(予定者を含む)、進学でも就職でもないことが明らかな者(進学準備中の者、就職準備中の者(求職中の者並びに公務員・教員採用試験及び国家資格試験の準備中の者を含む)等)である。
- 進学者であり、かつ就職をしている者については、「就職者」として算出している。

【出典】文部科学省「学校基本統計(平成29年度)」を元に作成

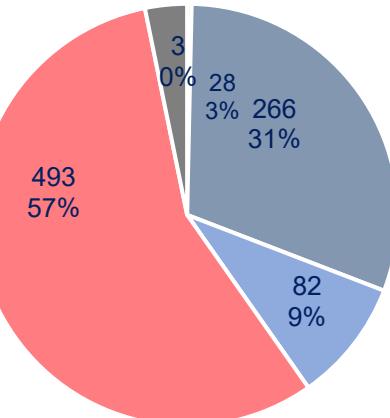
# 博士課程修了後の分野別進路

- 他の課程と比較して、就職者のうち、専門的・技術的職業の割合はどの分野においても高い傾向。
- 全体として、「その他」の割合が他の課程と比較して高い傾向。

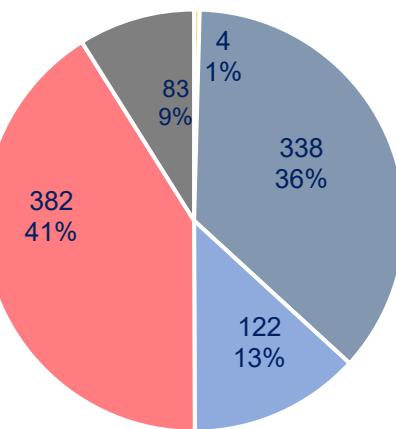
**卒業者合計(15,837人)**



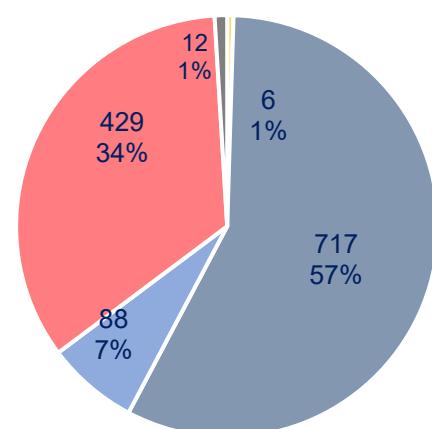
**人文科学(872人)**



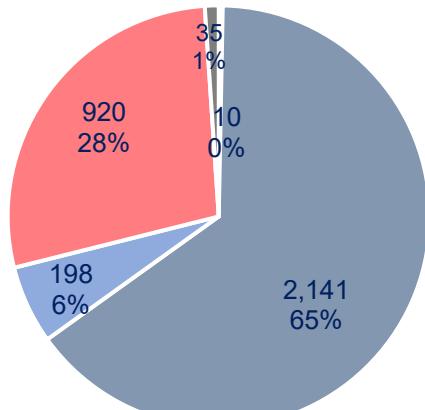
**社会科学(929人)**



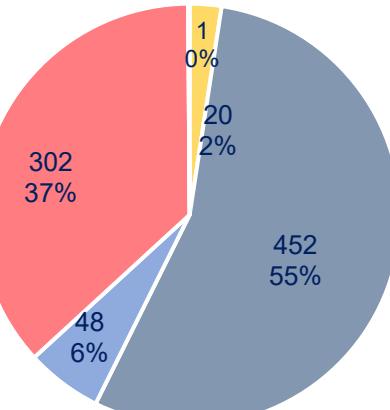
**理学(1,252人)**



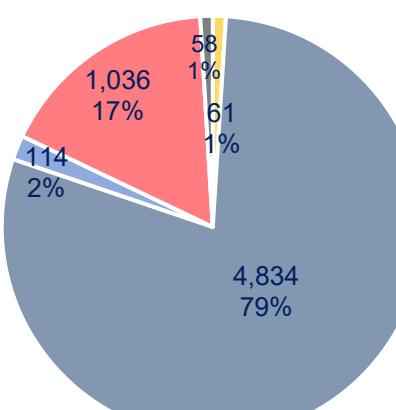
**工学(3,304人)**



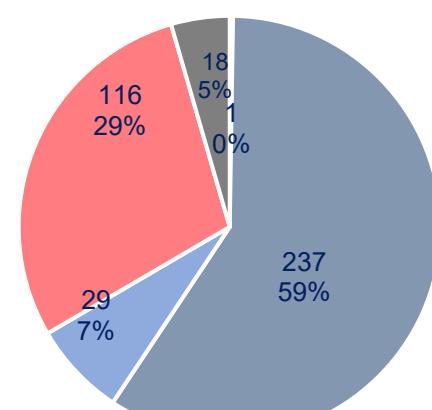
**農学(823人)**



**保健(6,103人)**



**教育(401人)**



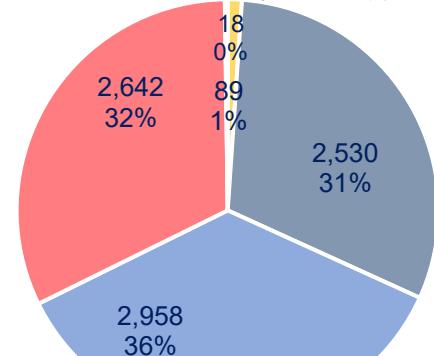
【注】

- 「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者である。
- 「就職者」とは、給料・賃金・報酬・その他の経常的な収入を得る仕事に就いた者である。
- 「就職者(専門的・技術的職業)」とは、就職者のうち、研究者、農林水産技術者、製造技術者、建築・土木・測量技術者、情報処理・通信技術者、教員、医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、美術家、写真家、デザイナー、音楽家、舞台芸術家等として従事している者である。
- 「就職者(その他)」とは、就職者のうち、専門的・技術的職業従事者以外の者で、管理的職業従事者、事務従事者、販売従事者、サービス職業従事者、保安職業従事者、農林漁業従事者、生産工程従事者、輸送・機械運転従事者、建設・採掘従事者、運搬・清掃等従事者等である。
- 「その他」とは、専修学校・各種学校・外国の学校・職業能力開発校等への入学者、研究生として入学した者や、一時的な仕事に就いた者(臨時の収入を得る仕事に就いた者)、臨床研修医(予定者を含む)、進学でも就職でもないことが明らかな者(進学準備中の者、就職準備中の者(求職中の者並びに公務員・教員採用試験及び国家資格試験の準備中の者を含む)等)である。
- 進学者であり、かつ就職をしている者については、「就職者」として算出している。

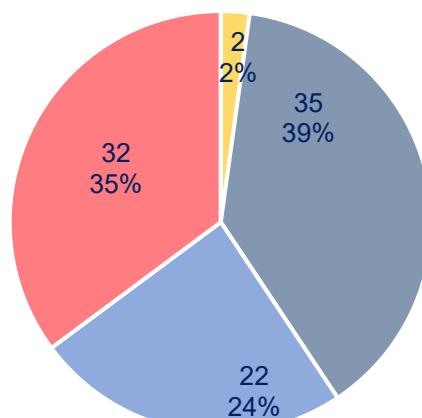
# 専門職学位課程修了後の分野別進路

他の課程と比較して、就職者のうち、専門的・技術的職業の割合が高い傾向。（※社会科学は、「その他」（司法修習等を含む）が9割以上を占める法科大学院を含むため、他の分野に比べて「その他」の割合が高い。）

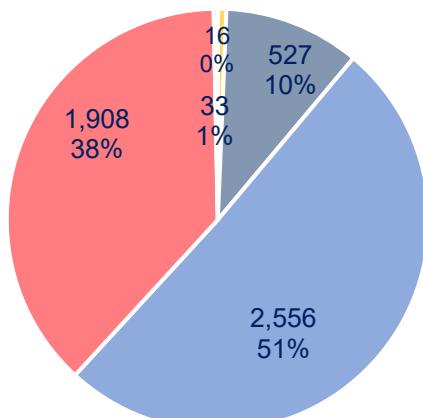
**卒業者合計(8,237人)**



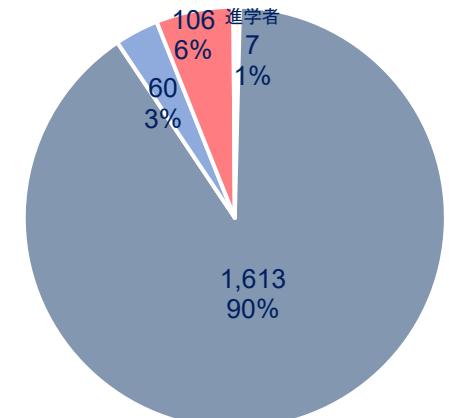
**人文科学(91人)**



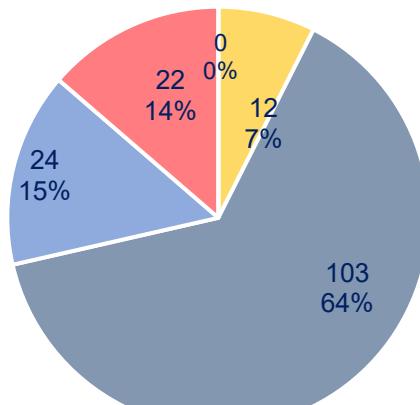
**社会科学(5,040人)**



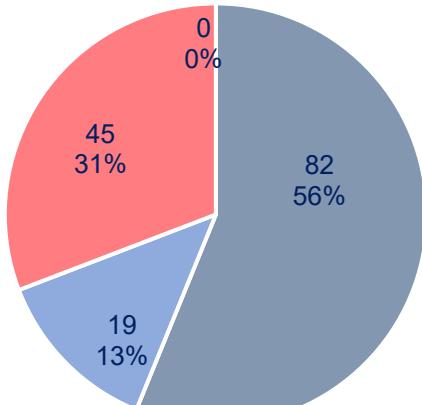
**教育(1788人)**



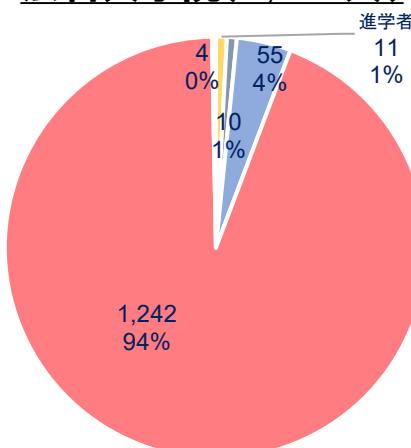
**保健(161人)**



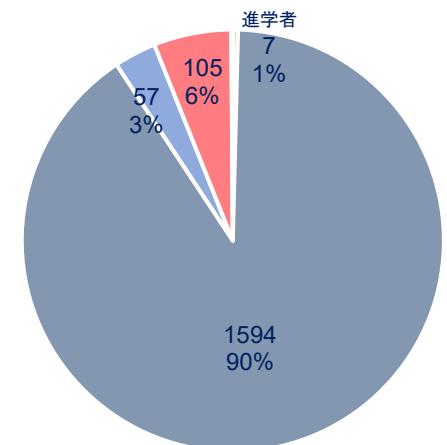
**工学(146人)**



**うち、  
法科大学院(1,322人)**



**うち、  
教職大学院(1,765人)**



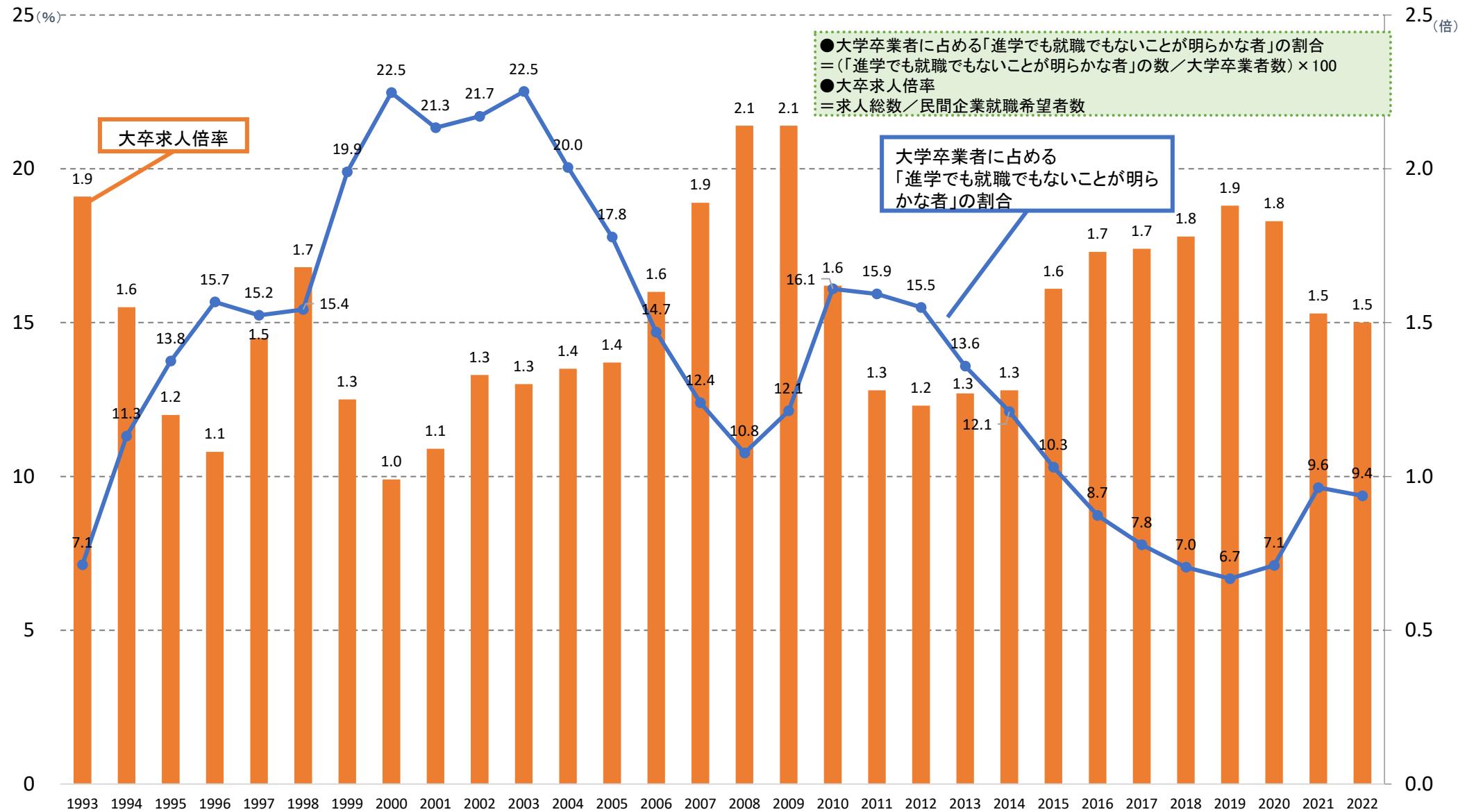
【注】

- 「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者である。
- 「就職者」とは、給料・賃金・報酬・その他の経常的な収入を得る仕事に就いた者である。
- 「就職者(専門的・技術的職業)」とは、就職者のうち、研究者、農林水産技術者、製造技術者、建築・土木・測量技術者、情報処理・通信技術者、教員、医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、美術家、写真家、デザイナー、音楽家、舞台芸術家等として従事している者である。
- 「就職者(その他)」とは、就職者のうち、専門的・技術的職業従事者以外の者で、管理的職業従事者、事務従事者、販売従事者、サービス職業従事者、保安職業従事者、農林漁業従事者、生産工程従事者、輸送・機械運転従事者、建設・採掘従事者、運搬・清掃等従事者等である。
- 「その他」とは、専修学校・各種学校・外国の学校・職業能力開発校等への入学者、研究生として入学した者や、一時的な仕事に就いた者（臨時の収入を得る仕事に就いた者）、臨床研修医（予定者を含む）、進学でも就職でもないことが明らかな者（進学準備中の者、就職準備中の者（求職中の者並びに公務員・教員採用試験及び国家資格試験の準備中の者を含む）等）である。
- 進学者であり、かつ就職をしている者については、「就職者」として算出している。

【出典】文部科学省「学校基本統計（令和4年度）」を元に作成

# 大学卒業者に占める「進学でも就職でもないことが明らかな者」の割合の推移

大学卒業後、進学も転職もしない者の割合は、大卒求人倍率と反比例しており、いわゆる平成の大不況やリーマンショック後に高くなっている。



出典：文部科学省学校基本統計、リクルートワークス研究所（大卒求人倍率）

\*進学でも就職でもないことが明らかな者

1993～1998年：無業者（専修学校及び各種学校等の入学者を含む）

1999～2003年：家事の手伝い、研究生として学校に残っている者及び専修学校・各種学校・外国の学校・職業能力開発施設等へ入学した者、または就職でも「進学者」でもないことが明らかな者

2004～2011年：家事の手伝いなど就職でも「進学者」や「専修学校・外国の学校等入学者」等でもないことが明らかな者

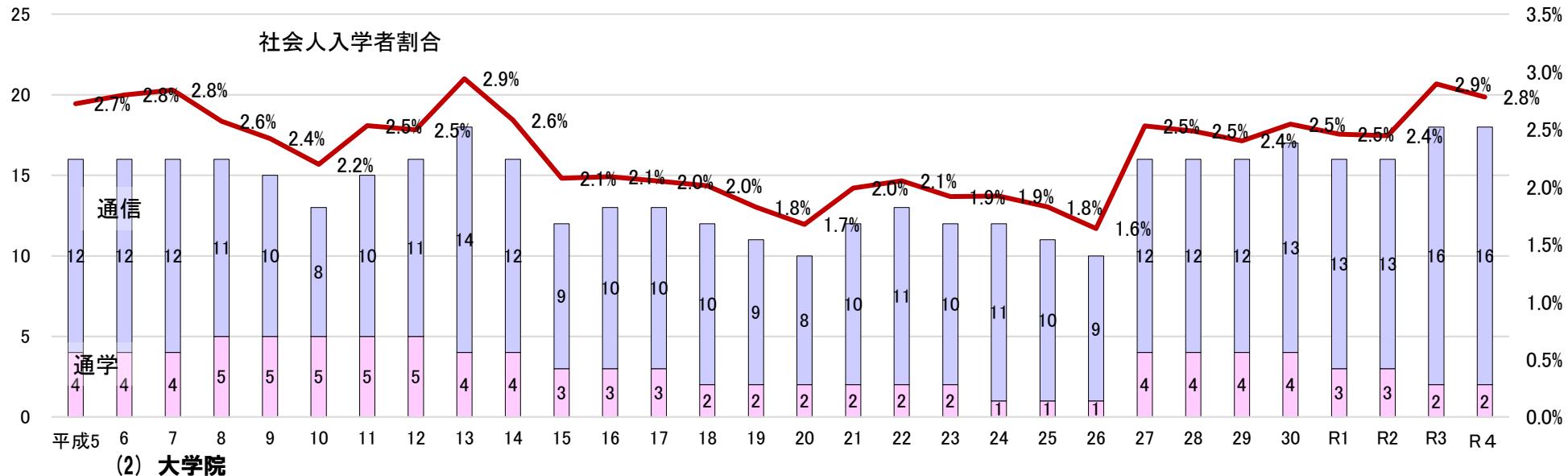
2012～2022年：進学でも就職でもないことが明らかな者（進学準備中の者、就職準備中の者、家事の手伝いなど）

# 社会人等の受入れ

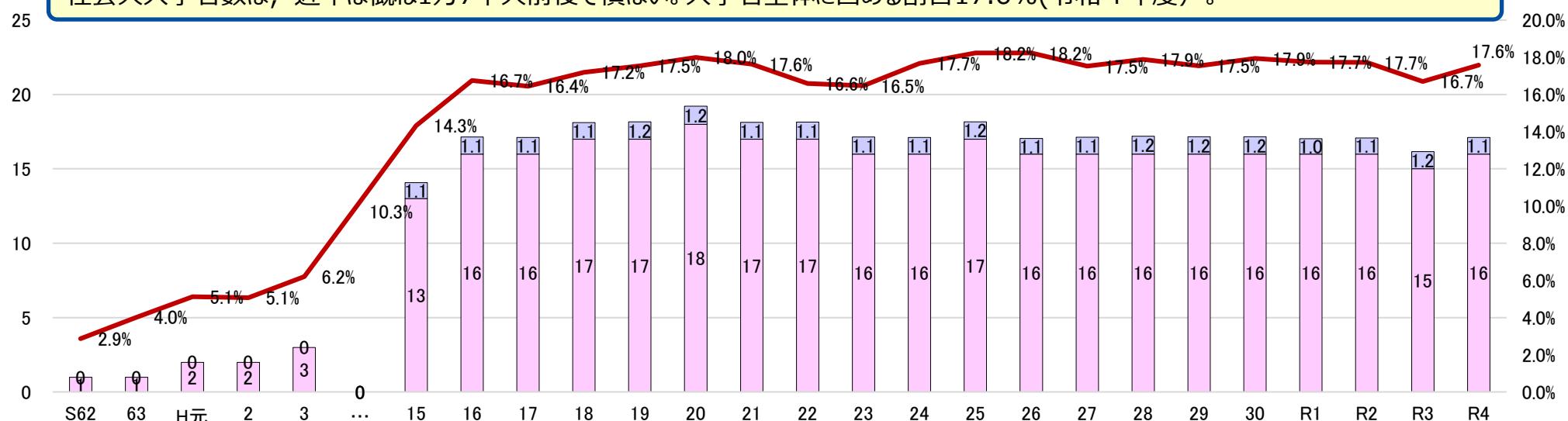
# 社会人入学者の動向

## (1) 学部

社会人入学者数（推計）は、平成13年度の約1万8千人から一時減少。平成27年度に増加以降、近年は通信課程のみ増加。



社会人入学者数は、近年は概ね1万7千人前後で横ばい。入学者全体に占める割合17.6%(令和4年度)。



※ 出典:学校基本調査報告書

※ 通信及び放送大学の社会人入学者は推計である(「学校基本調査報告書(高等教育機関編)」をもとに、通信制学生のうち職についている学生の割合から按分)。

# 高等教育機関入学者の平均年齢

我が国の高等教育機関への入学者の平均年齢は18.4歳であり、OECD諸国の中で最も低い。

(歳)

30

25

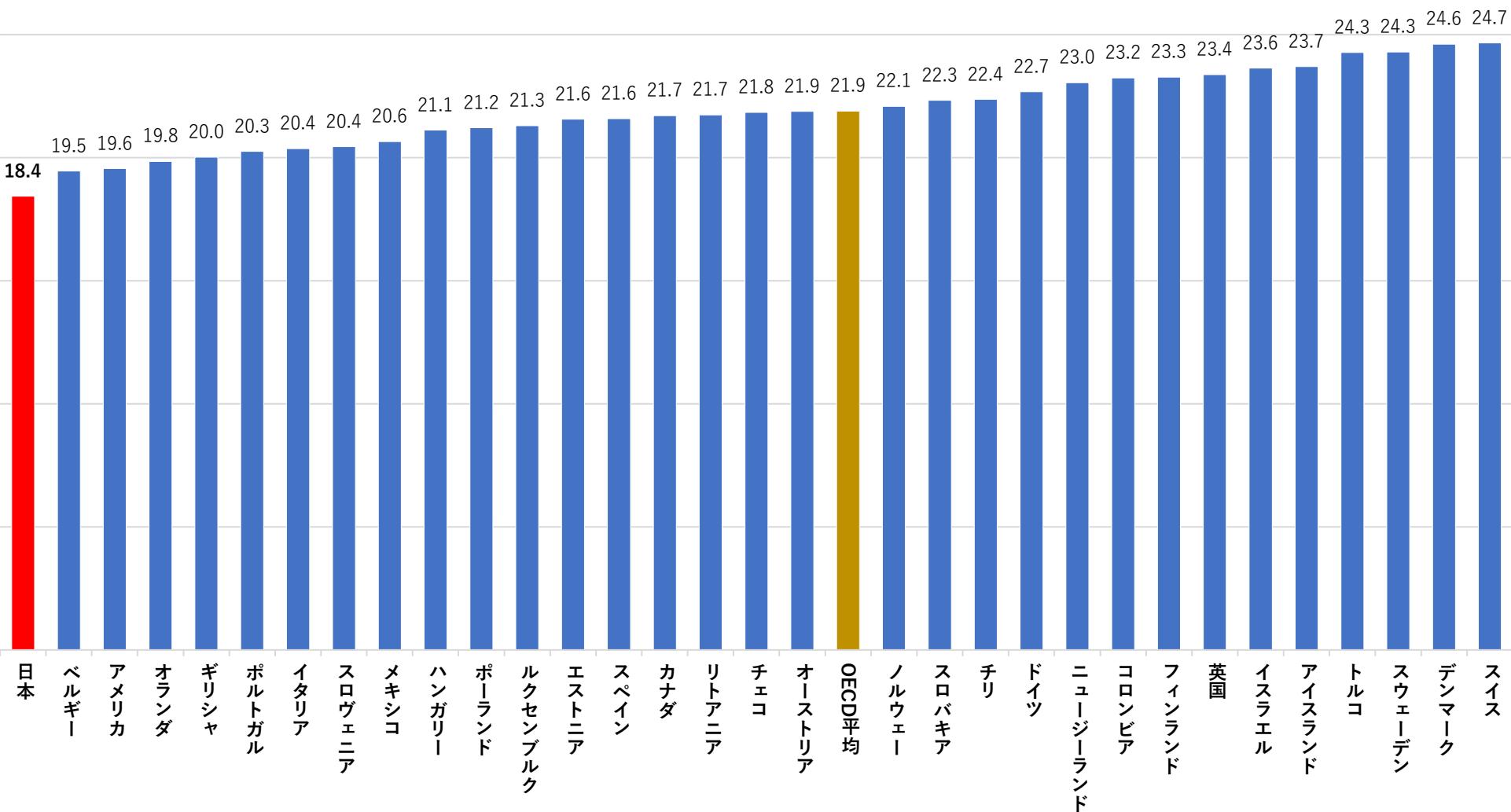
20

15

10

5

0



(備考)データは2021年時点の集計可能な国のみ。

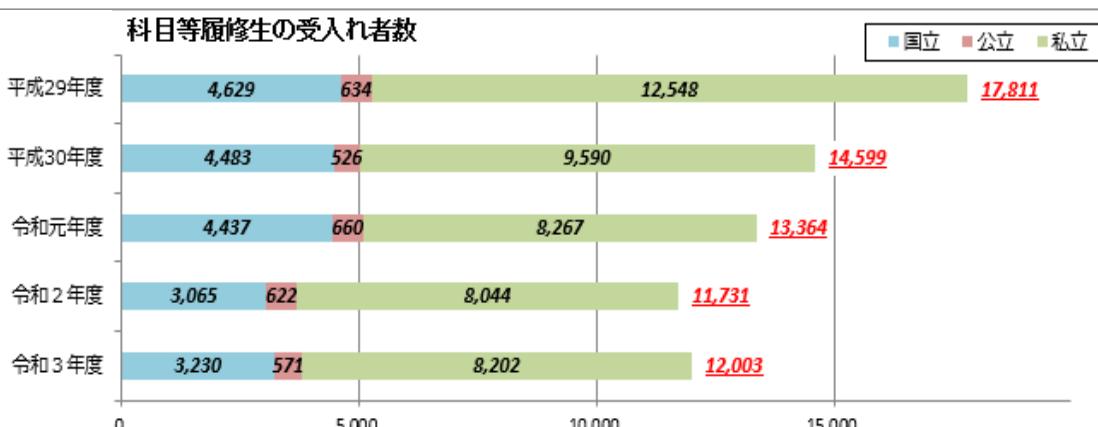
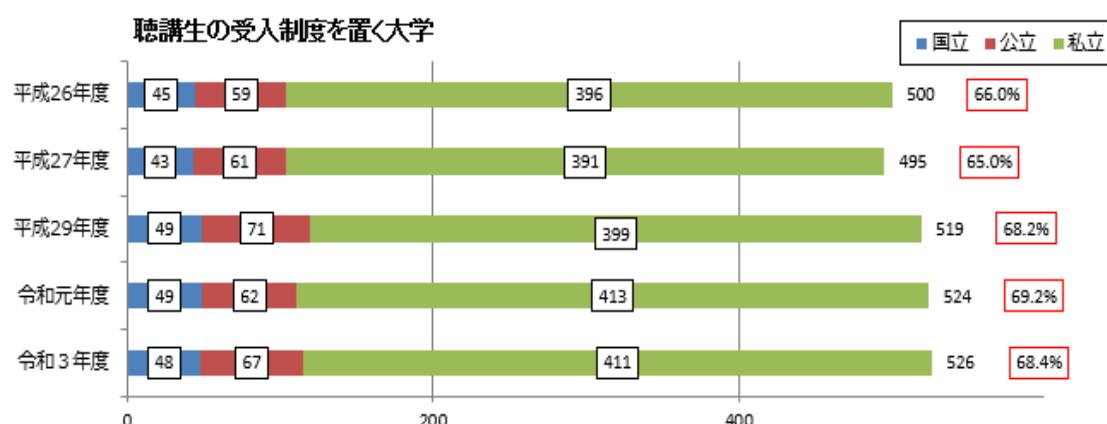
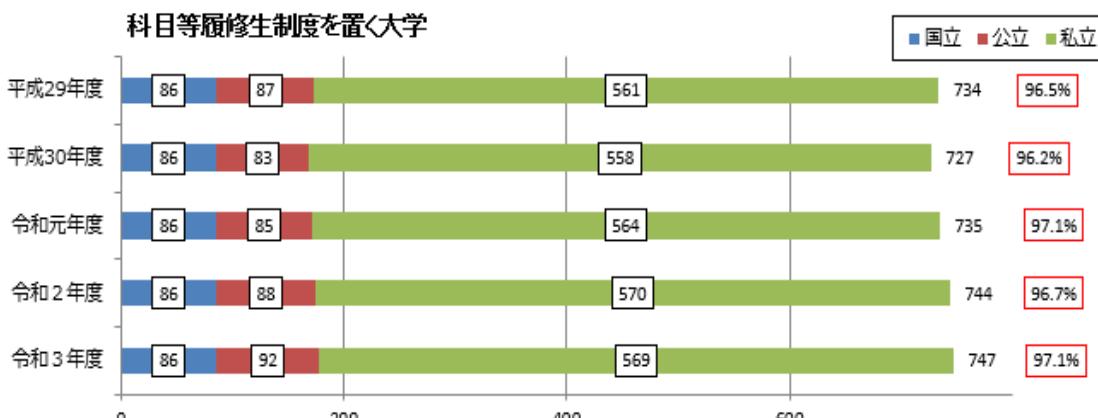
(出典)OECD「Education at a Glance2023(図表でみる教育2023)」TableB4.1( <https://stat.link/b3lxch> )

# 科目等履修生・聴講生の受入状況

- 科目等履修生の受入れ者数は、国公私ともに減少傾向。
- 聴講生の受入れ者数は、平成29年度に全体的に増加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度に急激に減少している。

「科目等履修生」：当該大学の学生以外の者にパートタイム形式による大学教育を受ける機会を広く認め、その履修成果に単位を与えることができる制度。

「聴講生」：当該大学の学生以外の者が、授業の一部を履修することを可能とする制度。  
「科目等履修生」制度とは異なり、単位認定は行われない。



(備考)科目等履修生…通信制の学部・研究科、放送大学を除く。

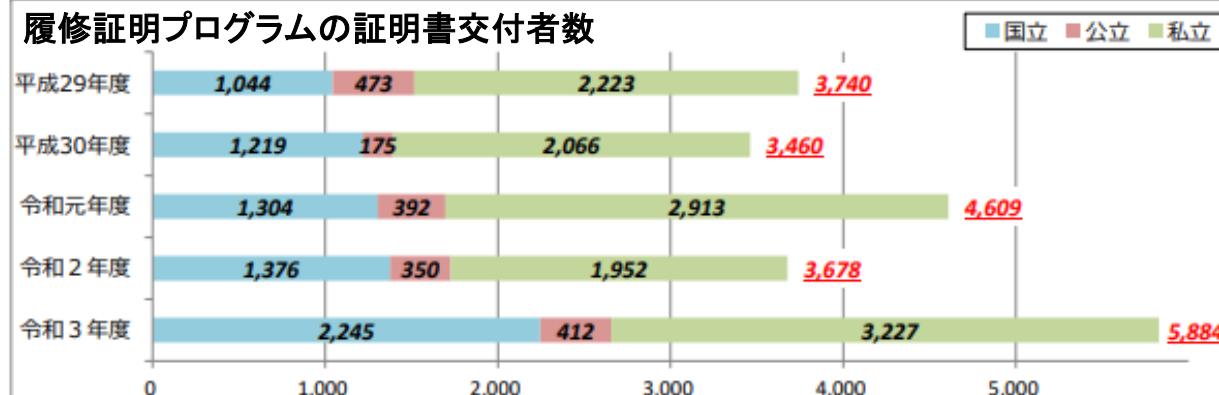
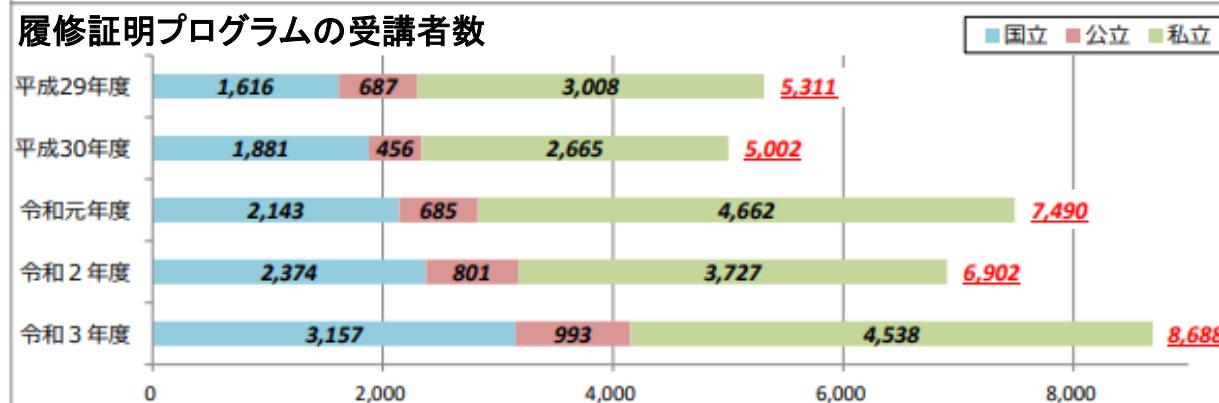
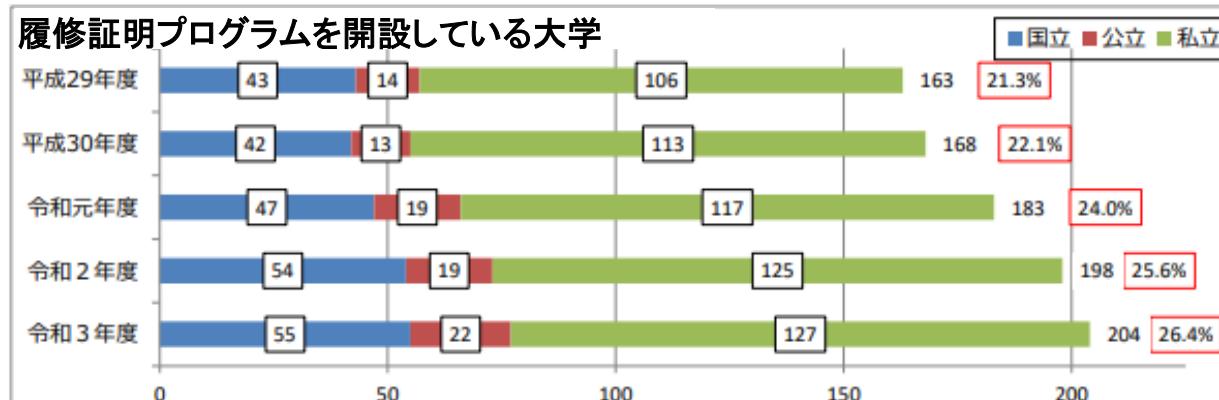
聴講生…通信制のみの大学を除く。調査項目を隔年にしたため平成28年度、平成30年度、令和2年度は調査をしていない。

(出典)文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について(令和3年度)」

# 履修証明プログラムの実施状況

履修証明プログラムを開設している大学数、履修証明プログラムの受講者数等は、近年は増加傾向となっている。

※「履修証明プログラム」：社会人等の学修の機会を拡充するための特別な課程として編成されるもので、大学は、課程の修了者に証明書を交付することができる。

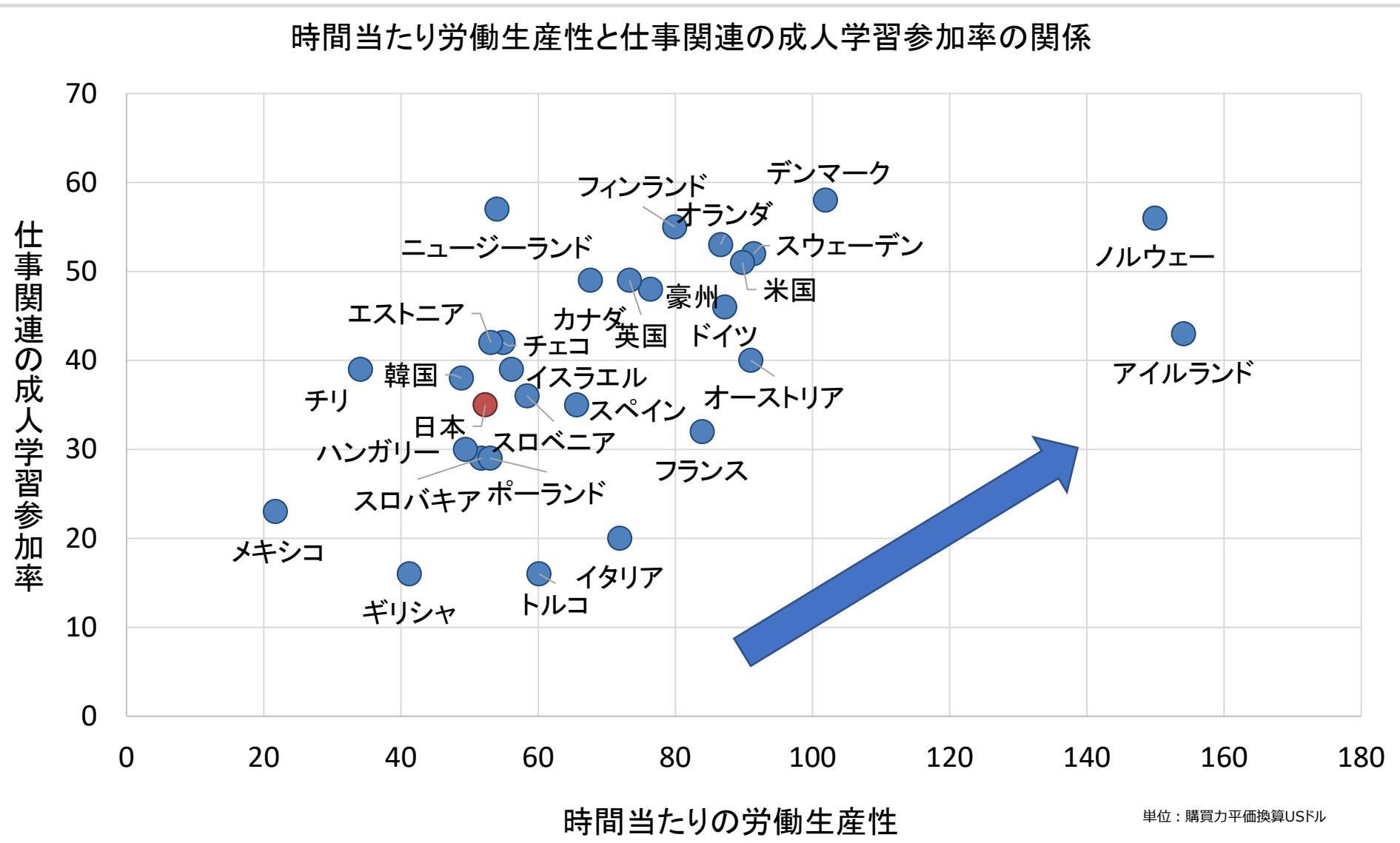


(※)放送大学を除く。

(出典)文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について(令和3年度)」

## 諸外国の労働生産性と仕事関連の成人学習参加率の比較

仕事関連の成人学習参加率が高い国ほど、時間当たりの労働生産性が高い傾向にある。

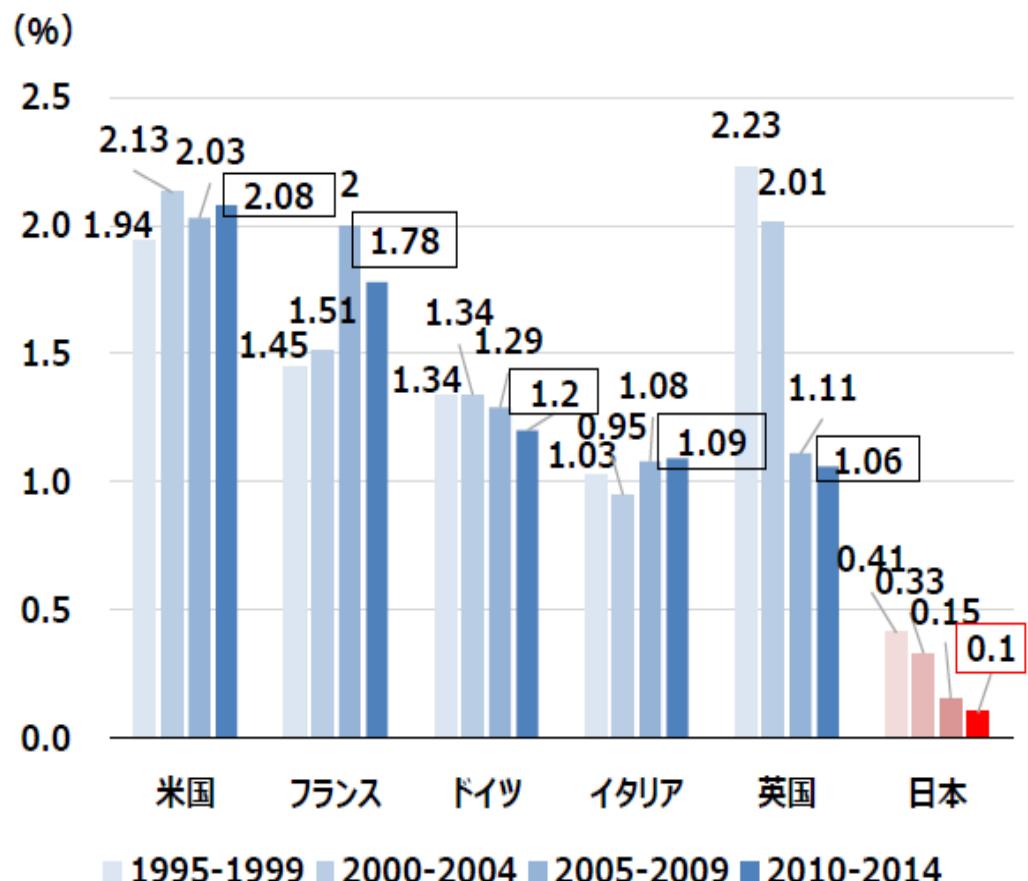


(出典) 縦軸: 大学学位取得者の成人教育参加に関する国際比較 (加藤, 2022)  
横軸: (出典) 公益財団法人日本生産性本部「労働生産性の国際比較 2023」  
を基に文部科学省作成

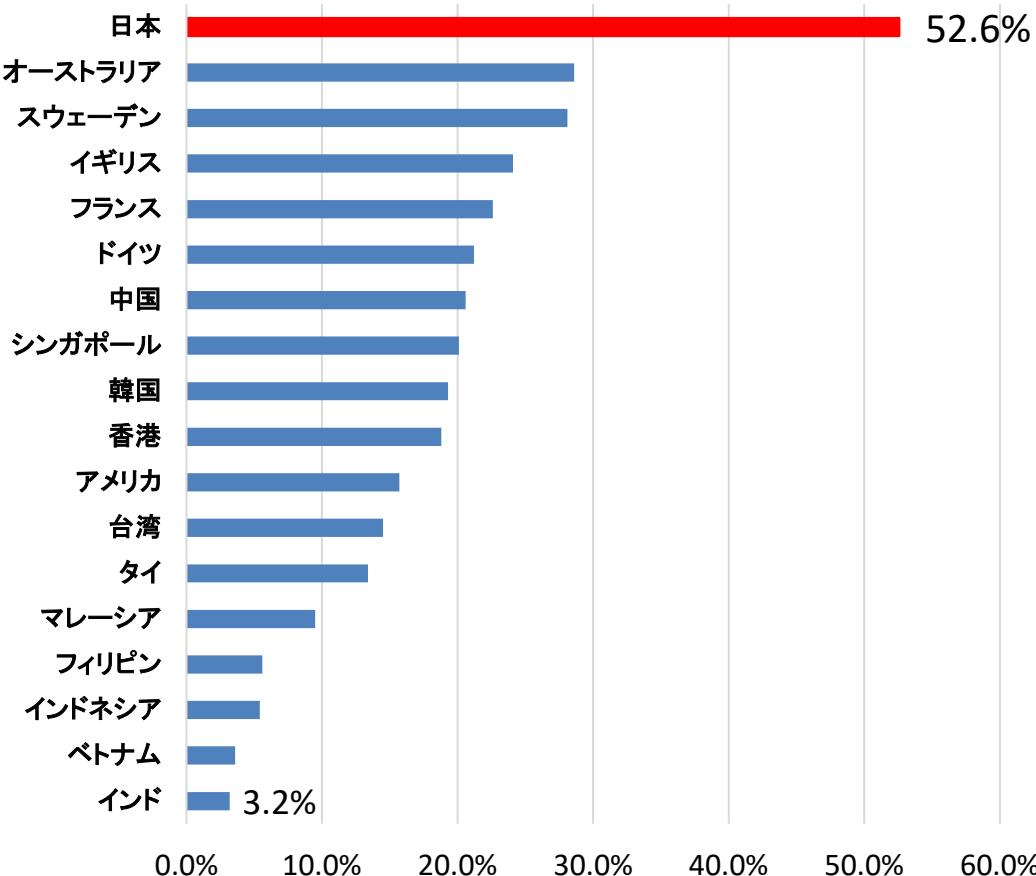
# 人材投資(OJT以外)の国際比較(GDP比)/社外学習・自己啓発を行っていない人の割合

- 日本企業のOJT以外の人材投資 (GDP比) は、諸外国と比較して最も低く、低下傾向。
- 社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は半数近くで、諸外国と比較しても極めて高い。

## 人材投資 (OJT以外) の国際比較 (GDP比)



## 社外学習・自己啓発を行っていない人の割合



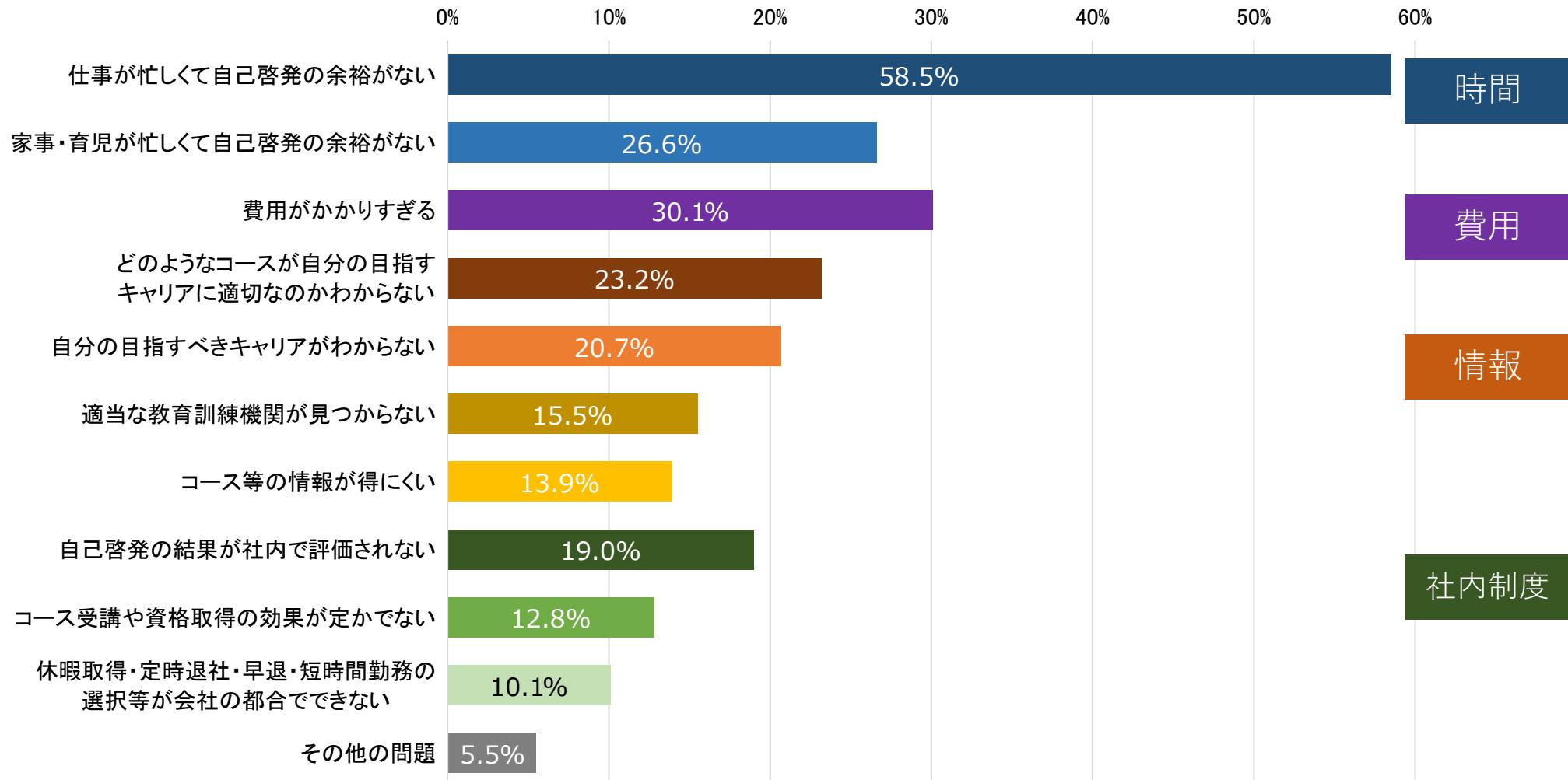
(出典) 内閣府「国民経済計算」、JIPデータベース等を利用し、学習院大学宮川努教授が推計

(出典) パーソル総合研究所「グローバル就業実態・成長意識調査(2022年)」

# 自己啓発を行う上での問題点

自己啓発を行う上での課題は、「時間」「費用」「情報」「社内制度」となっている。

(正社員：複数回答)



(出典) 厚生労働省「能力開発基本調査（令和4年度）」より作成。

# 大学通信教育

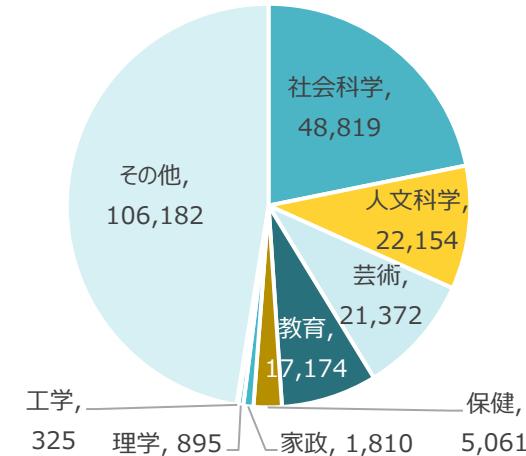
# 大学通信教育の現状

- 通信課程の学生数は、学部184,499人、大学院3,713人（修士2,824人、博士247人、専門職642人）、短大19,017人。
- 通信制大学（学部）は、幅広い年齢層と約半数の有職者の学生で構成されている。

## ■ 通信教育を行う大学数・通信課程の学生数

	学 部	大 学 院			短期大学
		修士	博士	専門職	
通信教育を行う大学数（延べ数。R4）	45	25	11	2	11
通信課程の学生数（R5,人）※正規課程	184,499	2,824	247	642	19,017
うち放送大学学園	60,931	726	78	-	-
通信課程の卒業者数（R4年度間、人）	19,320	835	28	169	6,760

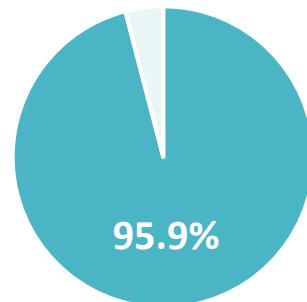
## ■ 通信教育学部学生数（関係学科別）



## ■ 通信制大学における学生の特色

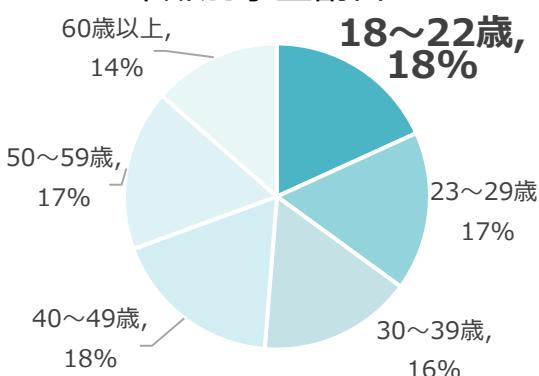
### 【通学制大学】

–10代入学者割合–

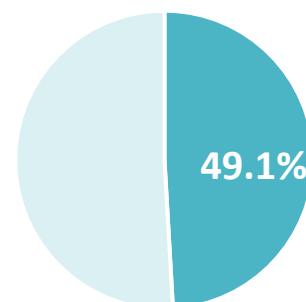


### 【通信制大学（学部）】

–年齢別学生割合–



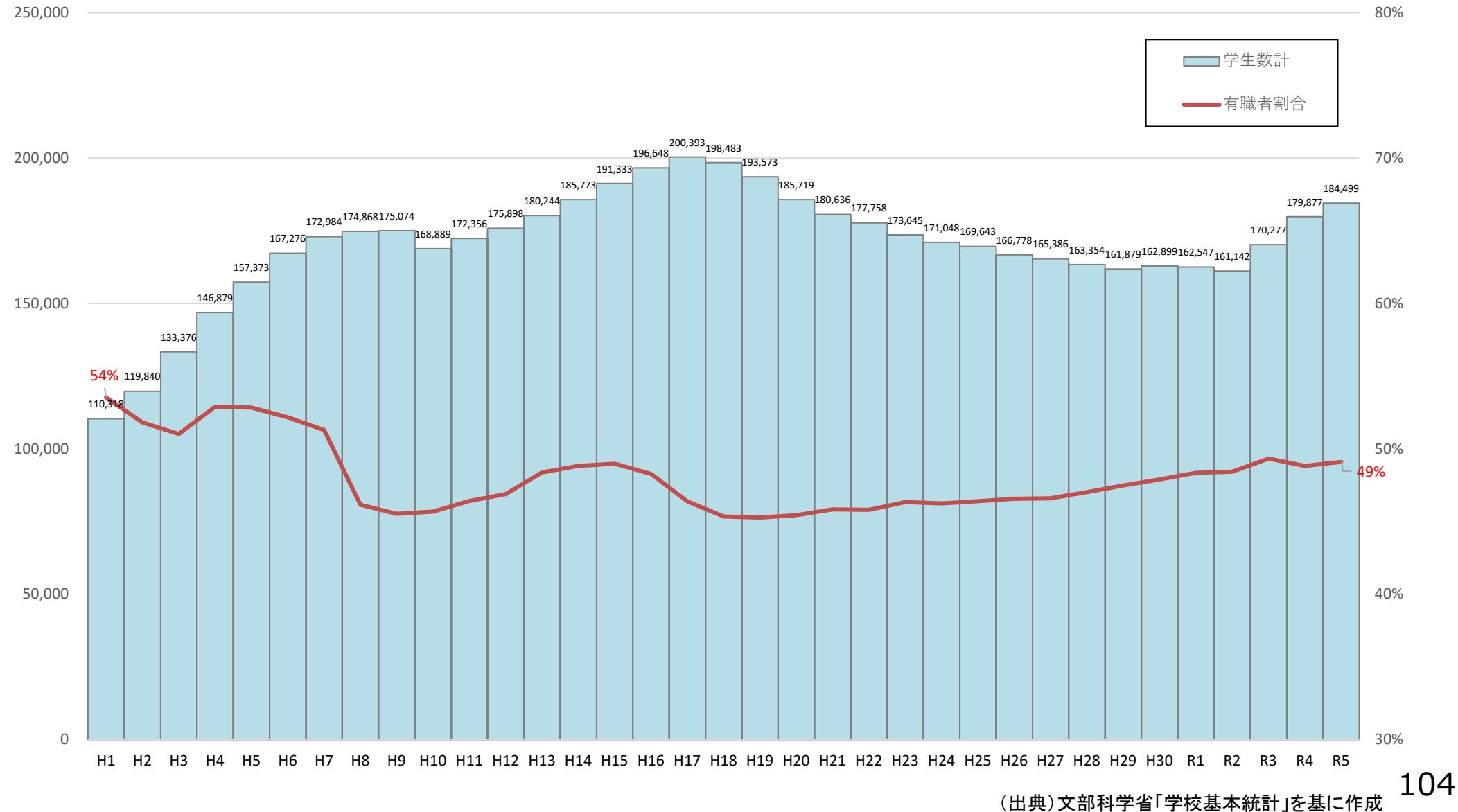
–学生の有職者割合–



※通信教育を行う大学数については令和4年度全国大学一覧、短期大学一覧より作成（新規募集停止となっている大学を含む）。その他については、令和5年度学校基本調査により作成（正規課程の学生のみ）。

# 通信制大学(学部)の学生数及び有職者割合の推移

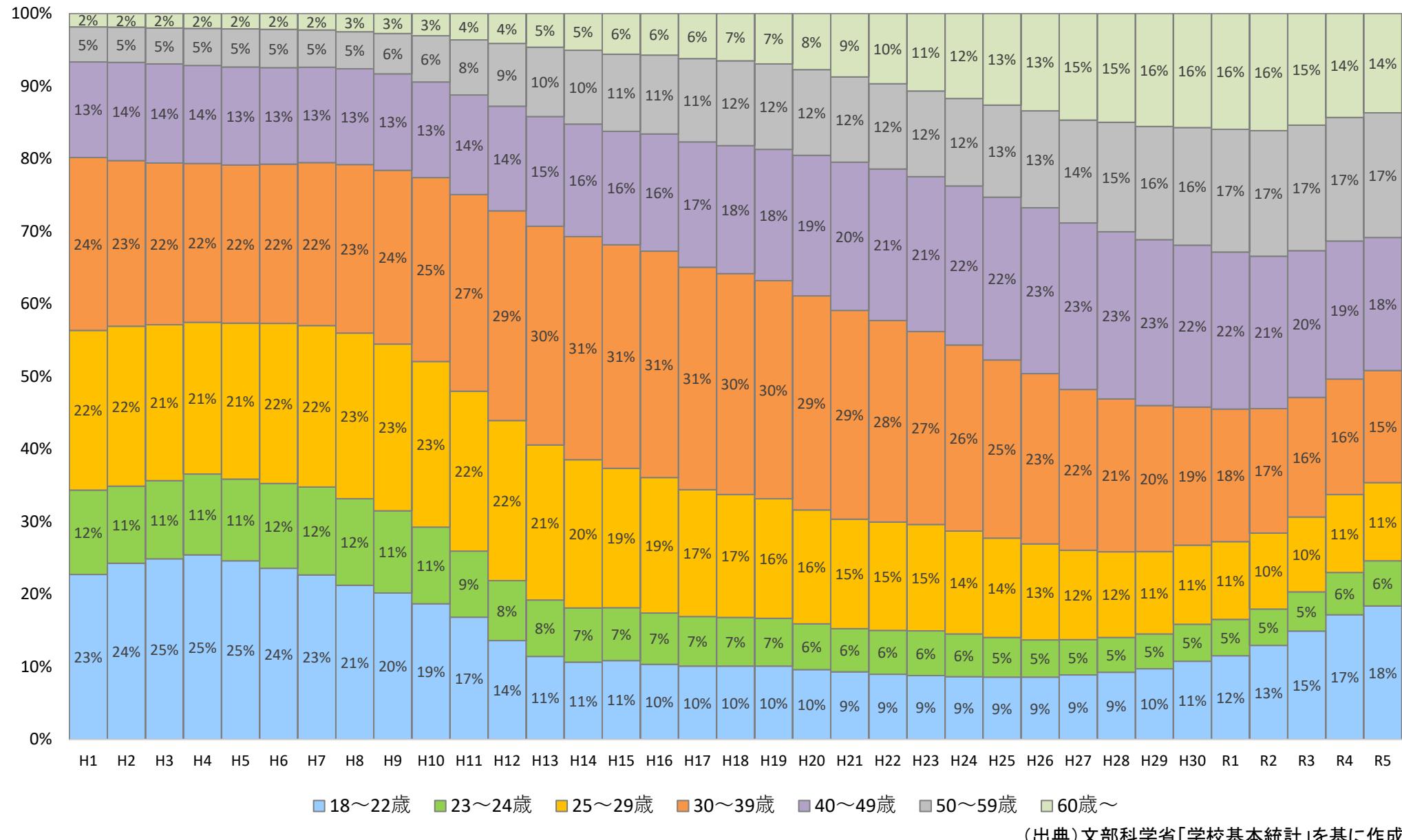
- 通信制大学（学部）の学生数は、平成17年をピークに減少していたが、近年は増加傾向となっている。
- 有職者の割合は、概ね50%程度で推移している。



(出典)文部科学省「学校基本統計」を基に作成

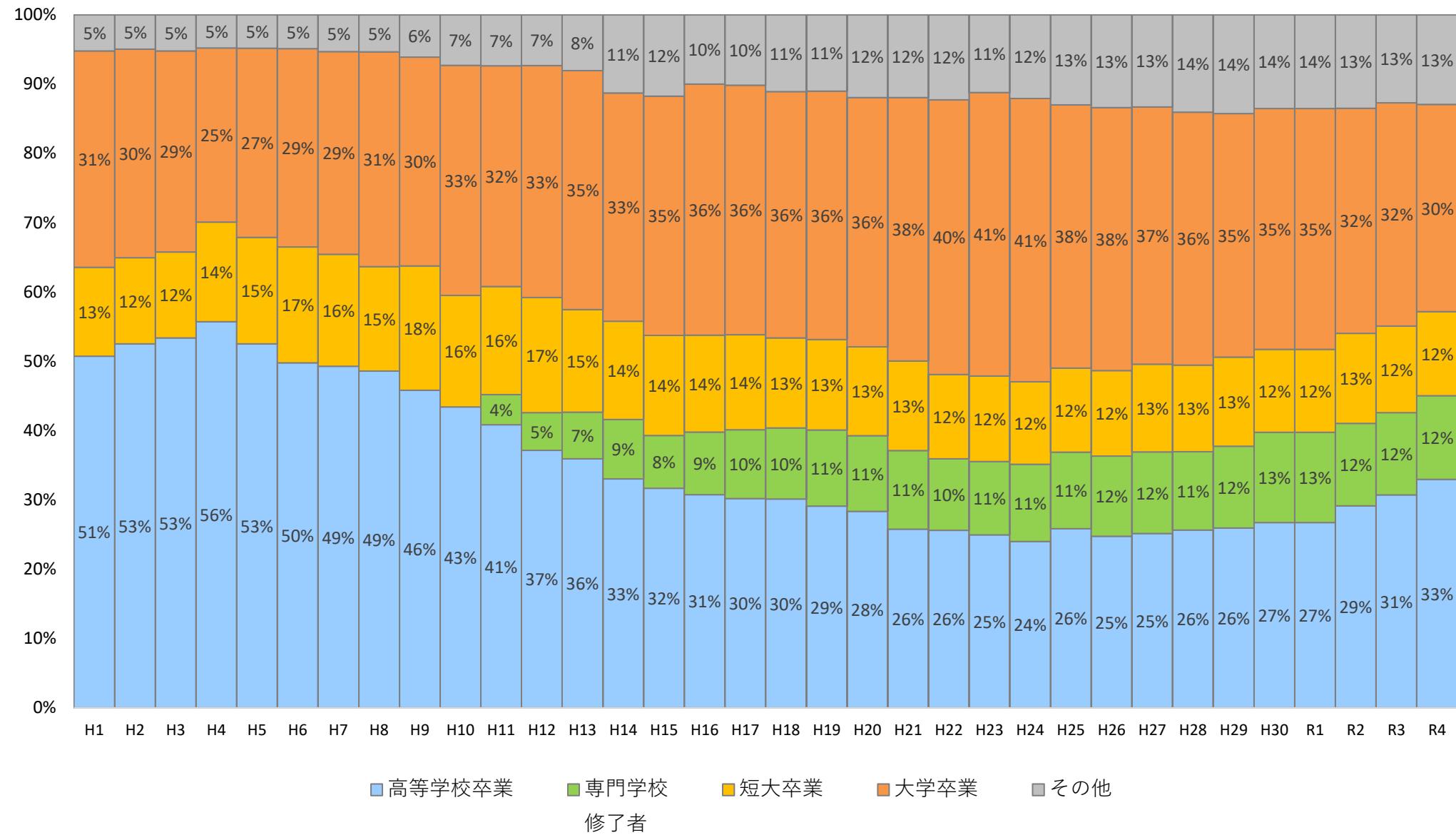
# 通信制大学(学部)の年齢別学生数の推移

- 通信制大学(学部)の学生の年齢層について、平成初期と比べ、23歳～39歳の学生の割合が減少する一方で、50歳以上の学生の割合が増加した。
- 近年では、18～22歳の年齢層の割合が増加傾向。



# 通信制大学(学部)入学者の最終学歴の変遷

- 通信制大学(学部)入学者の最終学歴は、平成4年以降「高等学校卒業」の割合が減少し、「大学卒業」や「専門学校修了者」の割合が増加してきた。
- 近年では、「高等学校卒業」の割合が増加に転じている。

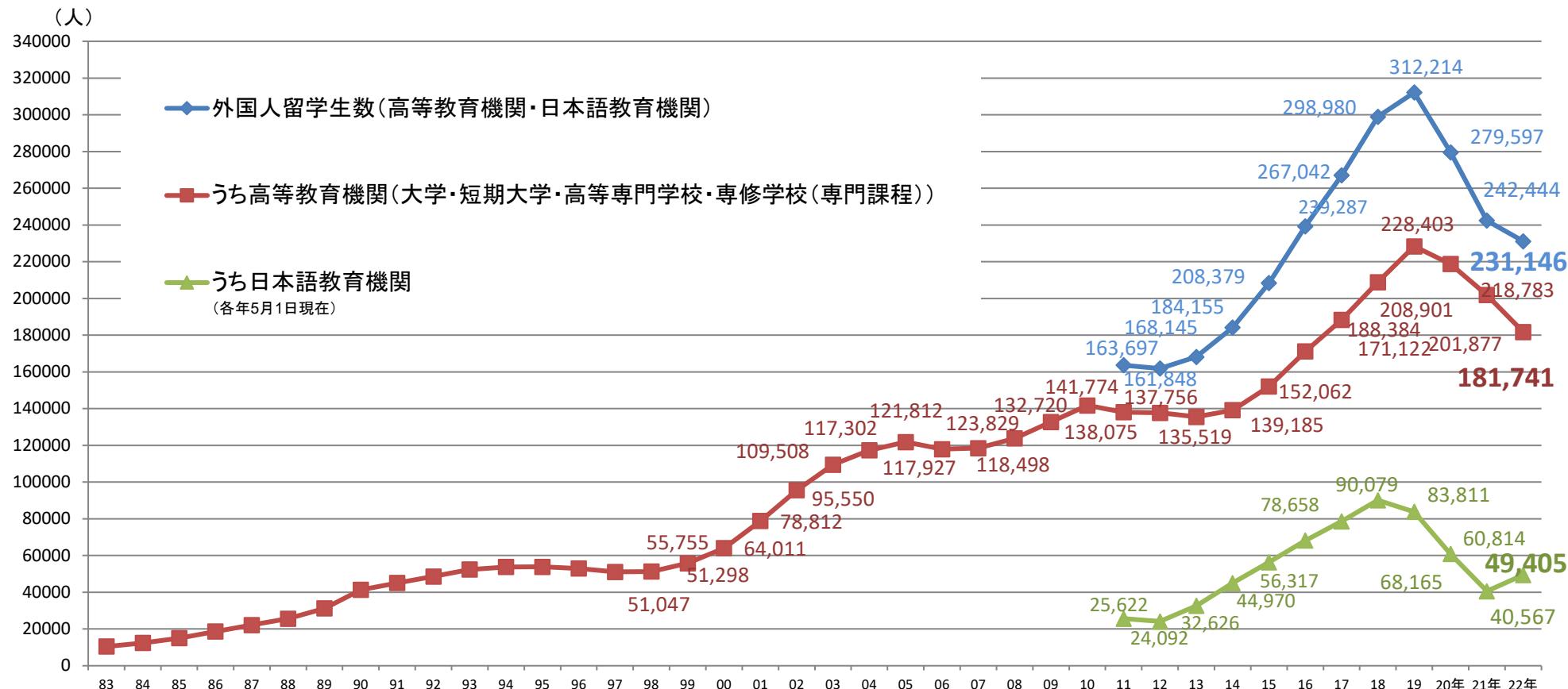


# 留学生交流

# 外国人留学生数の推移

- 外国人留学生数は新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年をピークに減少。
- 出身国・地域は多い順に中国、ベトナム、ネパールとなっており、アジアや東南アジアからの留学生が多い。

推移



出身国・地域別

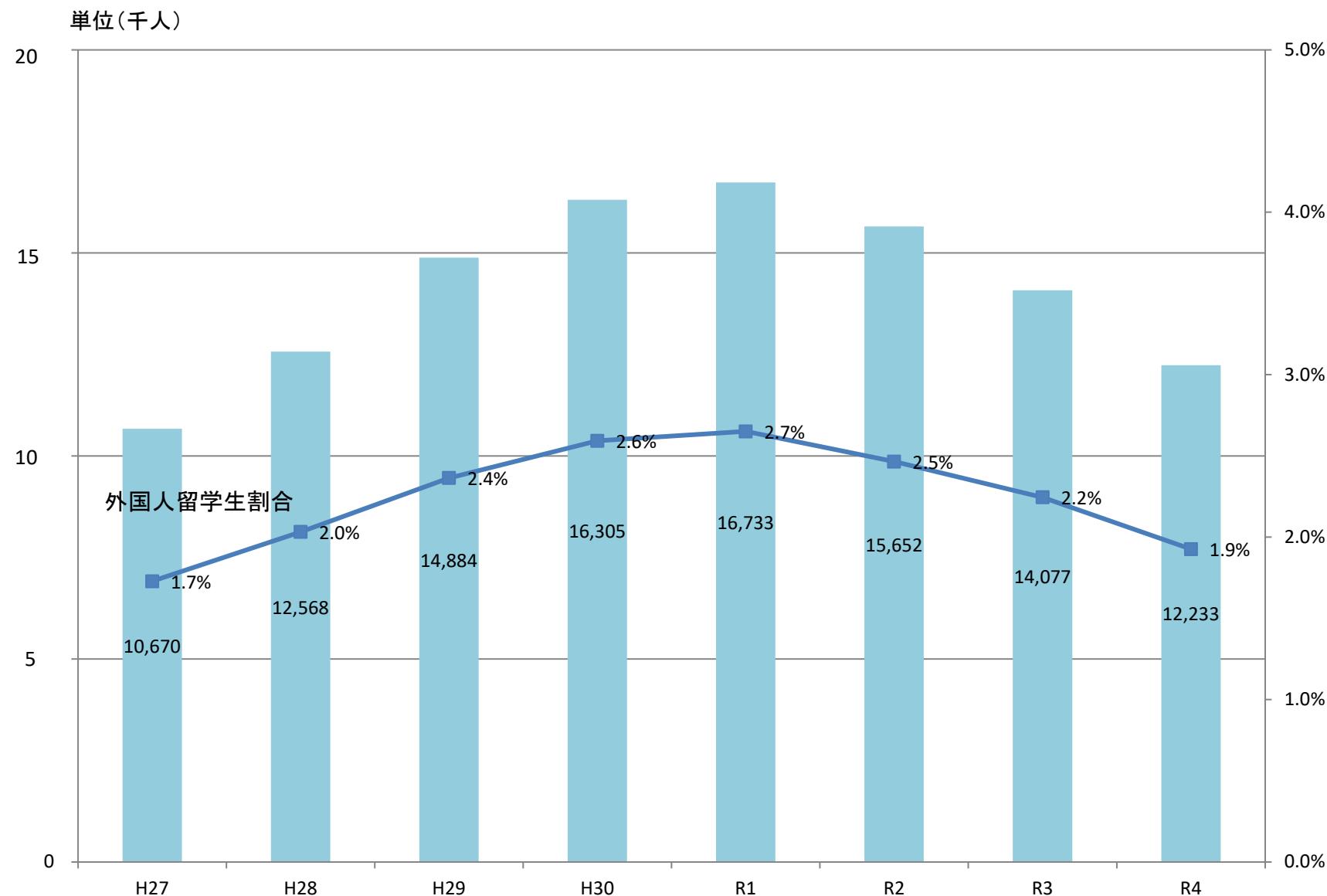
国・地域名	留学生数(前年数)	対前年増減	国・地域名	留学生数(前年数)	対前年増減
中國	103,882(114,255)	△ 10,373	スリランカ	3,857(3,762)	95
ベトナム	37,405(49,469)	△ 12,064	ミャンマー	3,813(3,496)	317
ネパール	24,257(18,825)	5,432	バングラデシュ	3,313(3,095)	218
韓国	13,701 (14,247)	△ 546	タイ	2,959(2,563)	396
インドネシア	5,763(5,792)	△ 29	その他	27,181(20,032)	7,149
台湾	5,015(4,887)	128	合計	231,146(242,444)	△ 11,298

(出典)独立行政法人日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」

2022年5月1日現在

# 外国人留学生入学者の動向(学部・通学制)

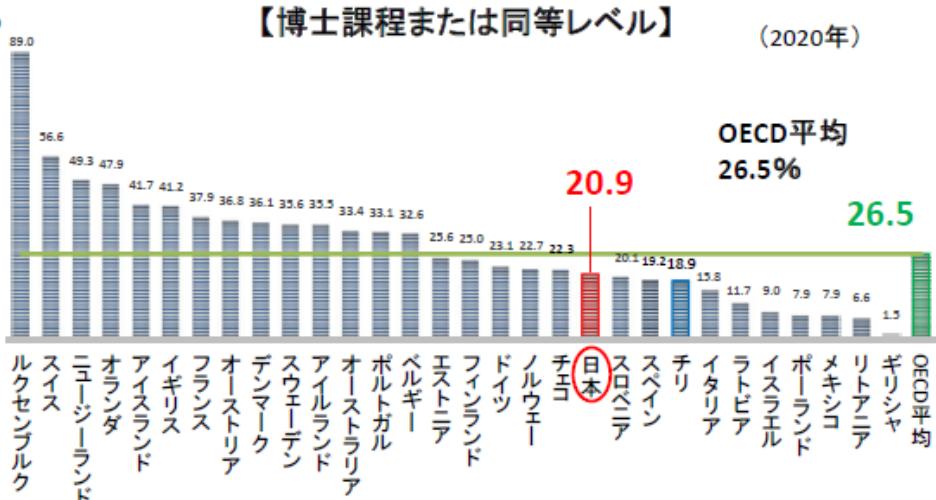
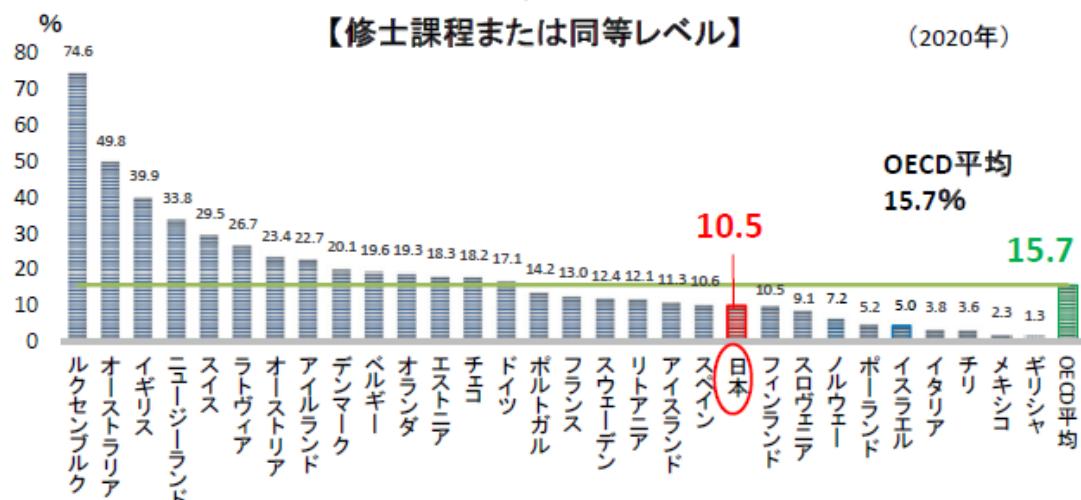
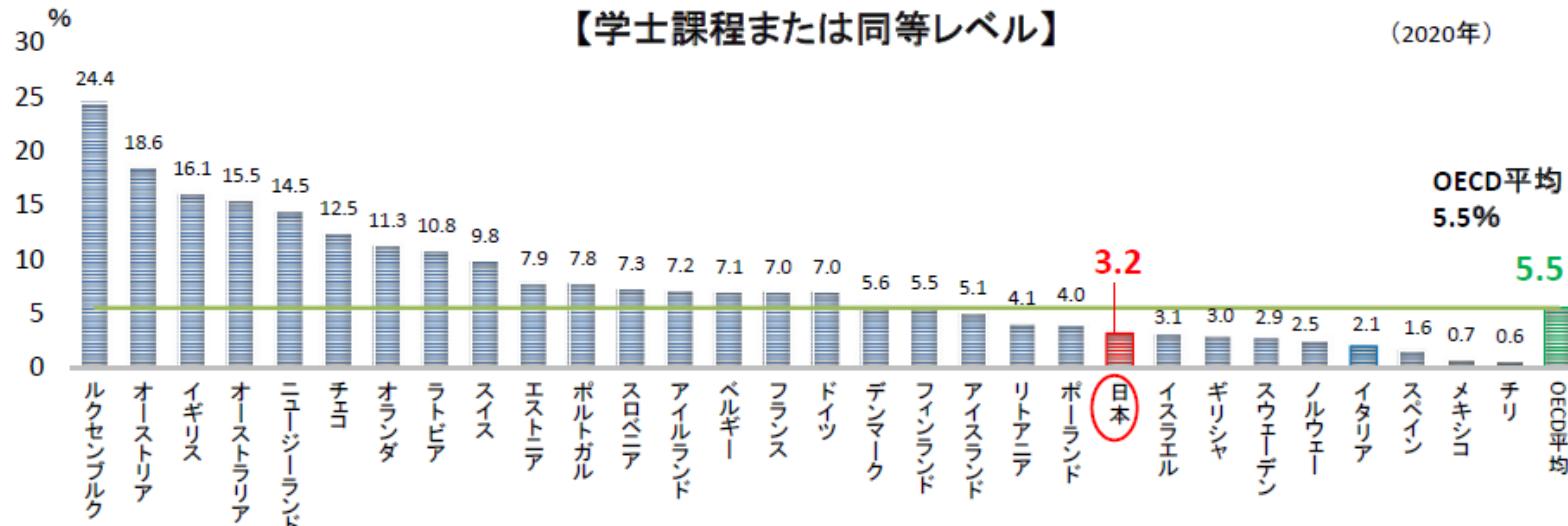
外国人留学生学部入学者は、令和元年度から新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向となっている。



出典:学校基本統計(在留資格「留学」を有する者をカウントしている)

# 各国の学生に占める留学生の割合

- 学士課程において留学生が占める割合は、OECD平均が5.5%であるのに対して、日本は3.2%にとどまる。
- 修士課程については、OECD平均が15.7%であるのに対して、日本は10.5%。
- 博士課程については、OECD平均が26.5%であるのに対して、日本は20.9%と、OECD平均と比較して少ない。



※OECD加盟38カ国のうち、カナダ、コロンビア、コスタリカ、ハンガリー、韓国、スロバキア、トルコ、アメリカを除く。

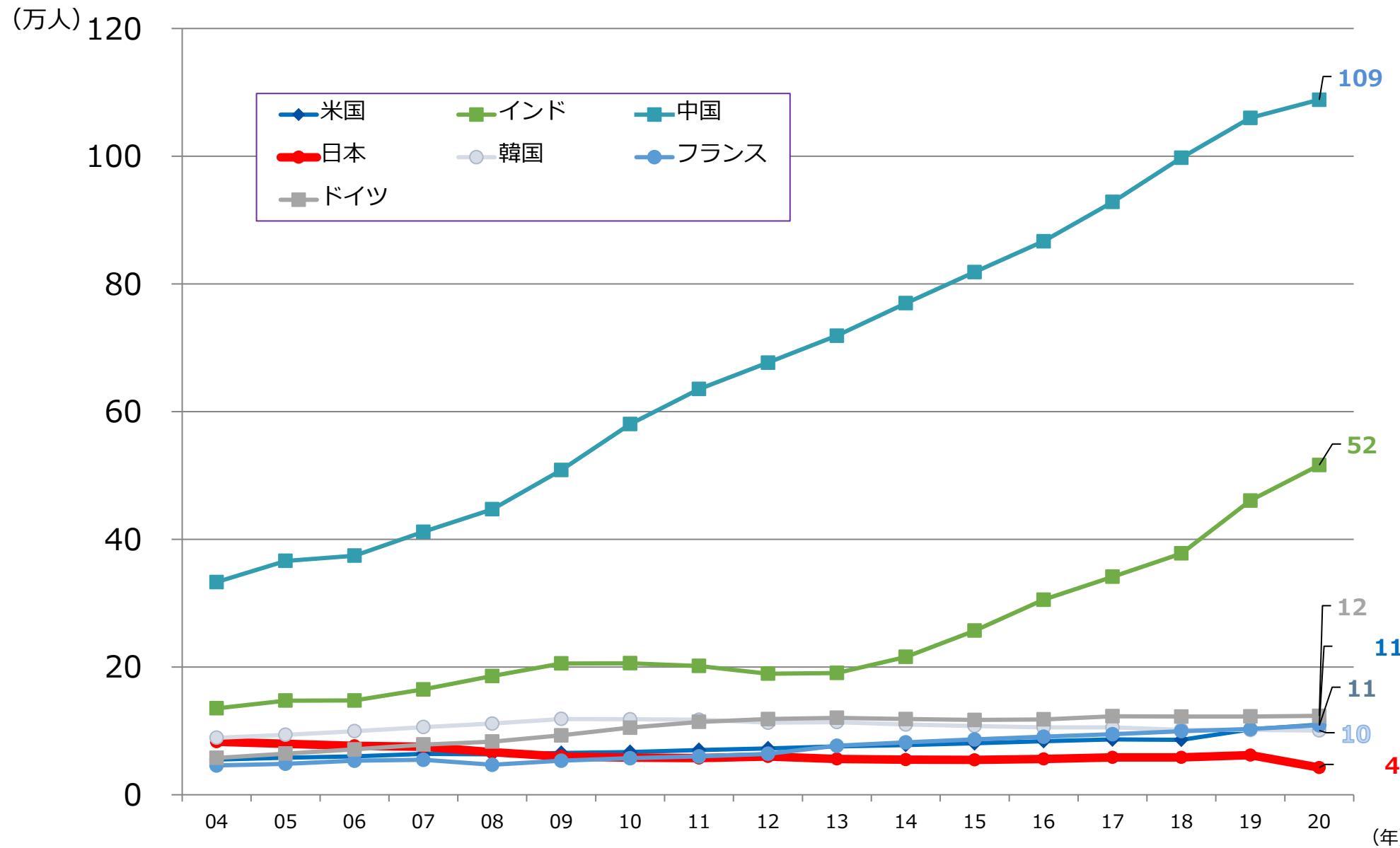
※OECD平均は、留学生のデータがある加盟国の中の平均値を算出したもの。

※我が国の参照年度は、2019年度(令和元年度)。

出典: OECD「Education at a Glance 2022(図表でみる教育2022)」  
OECD statistics を元に文科省で作成

# 諸外国における海外留学の状況(長期留学)

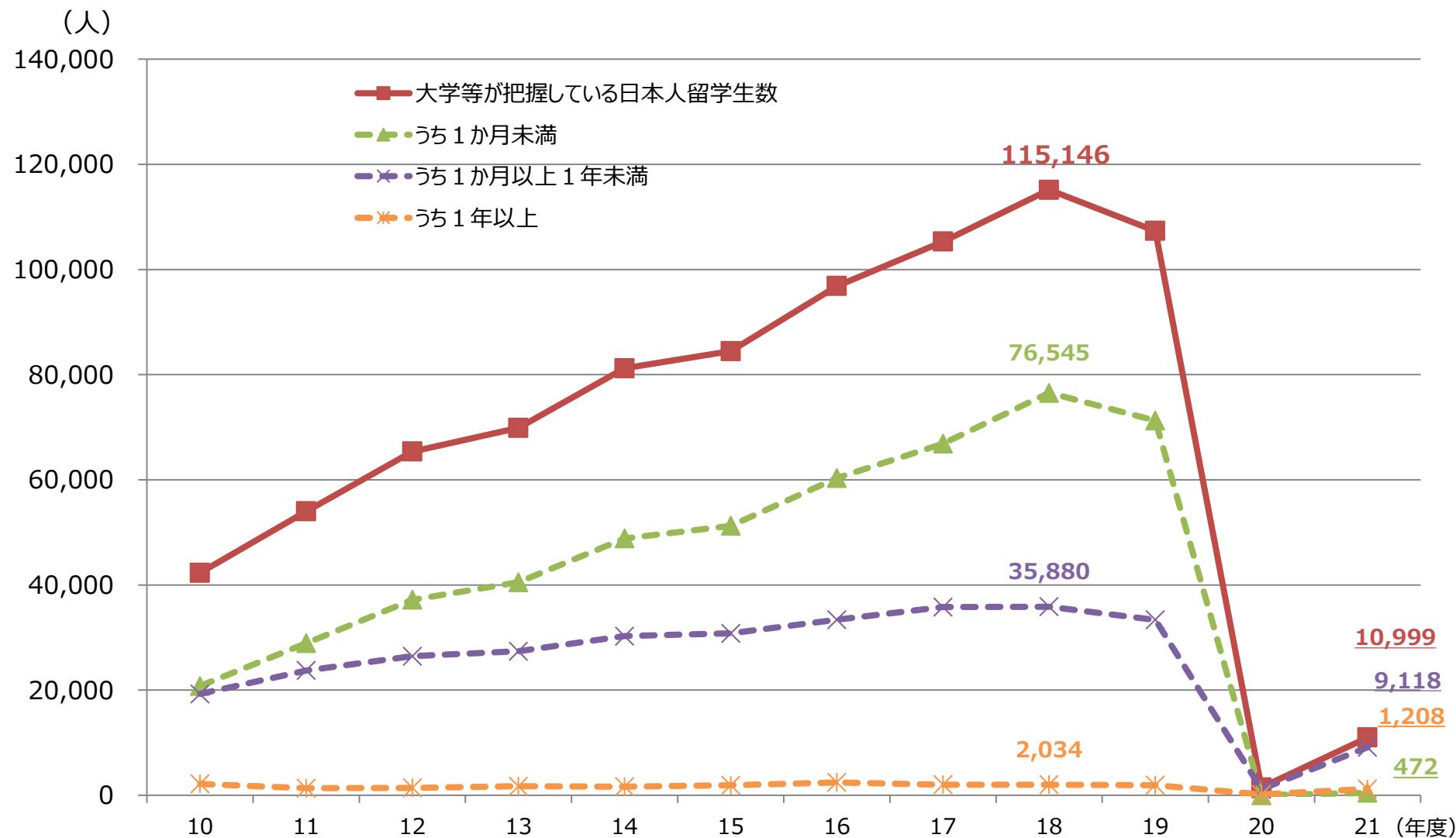
諸外国における海外留学者数は、特に中国・インドが伸長する一方で、日本は近年横ばい傾向であったが、2020年には4万人程度となっている。



(出所) 日本：令和5年3月7日文部科学省報道発表「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学者数」等について、その他の国：ユネスコ統計局、より作成。

# 日本人留学生の推移(主に中短期留学)

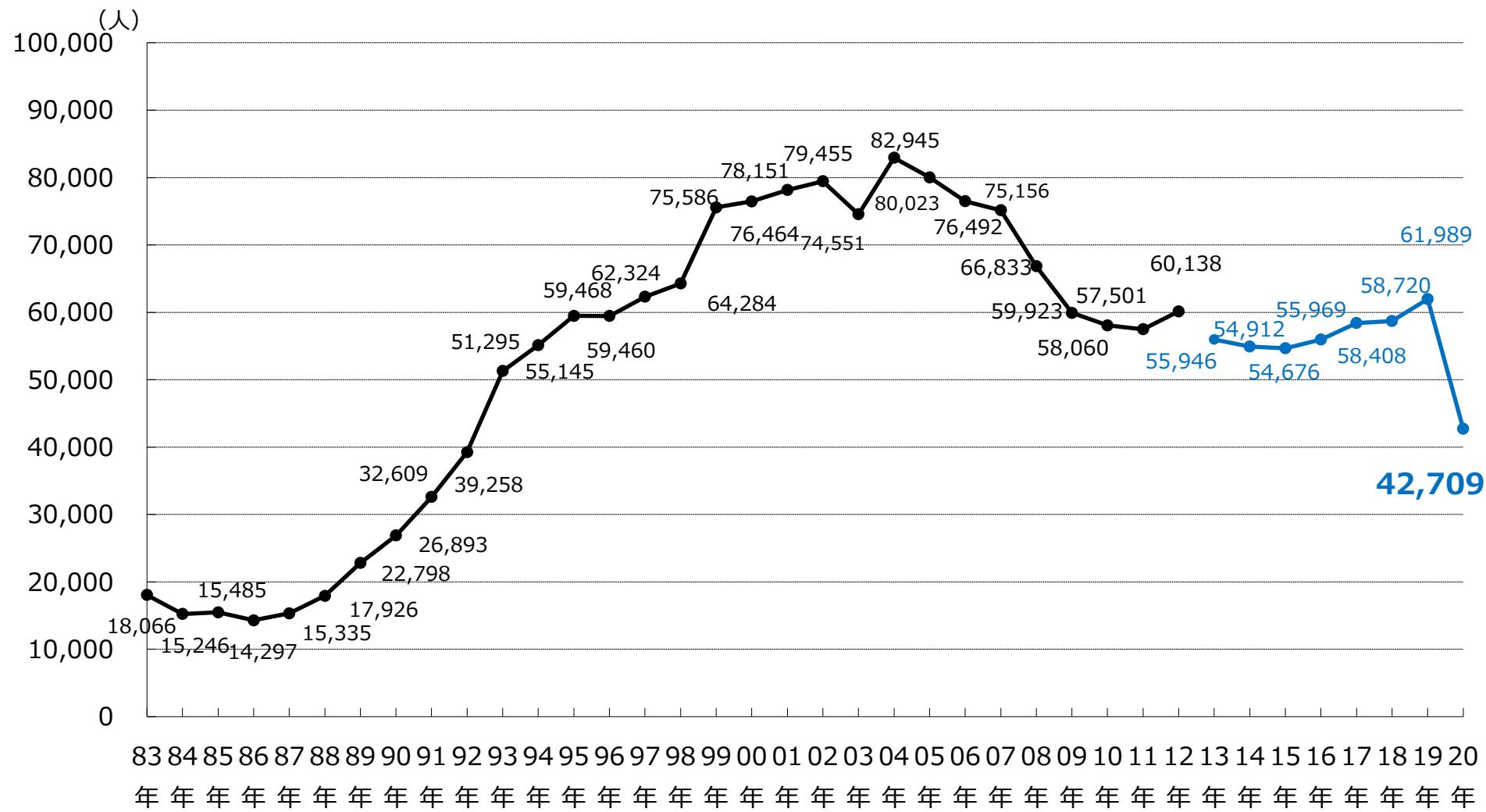
大学等が把握している日本人の海外留学生数は増加傾向だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度以降は激減している。



(備考) 大学間交流協定等に基づく日本人留学生数。留学期間が「不明」の学生も一定数いるため、「大学等が把握している日本人留学生数」とその他を足し合わせたものは一致しない。  
(出所) (独)日本学生支援機構「日本人学生留学状況調査」より作成。

# 主に学位取得を目的とする日本人海外留学生数

主に学位取得を目的とする日本人の海外留学生数は2000年前後の約8万人をピークに減少し、近年は6万人程度で横ばいであったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年には4万人程度まで減少した。



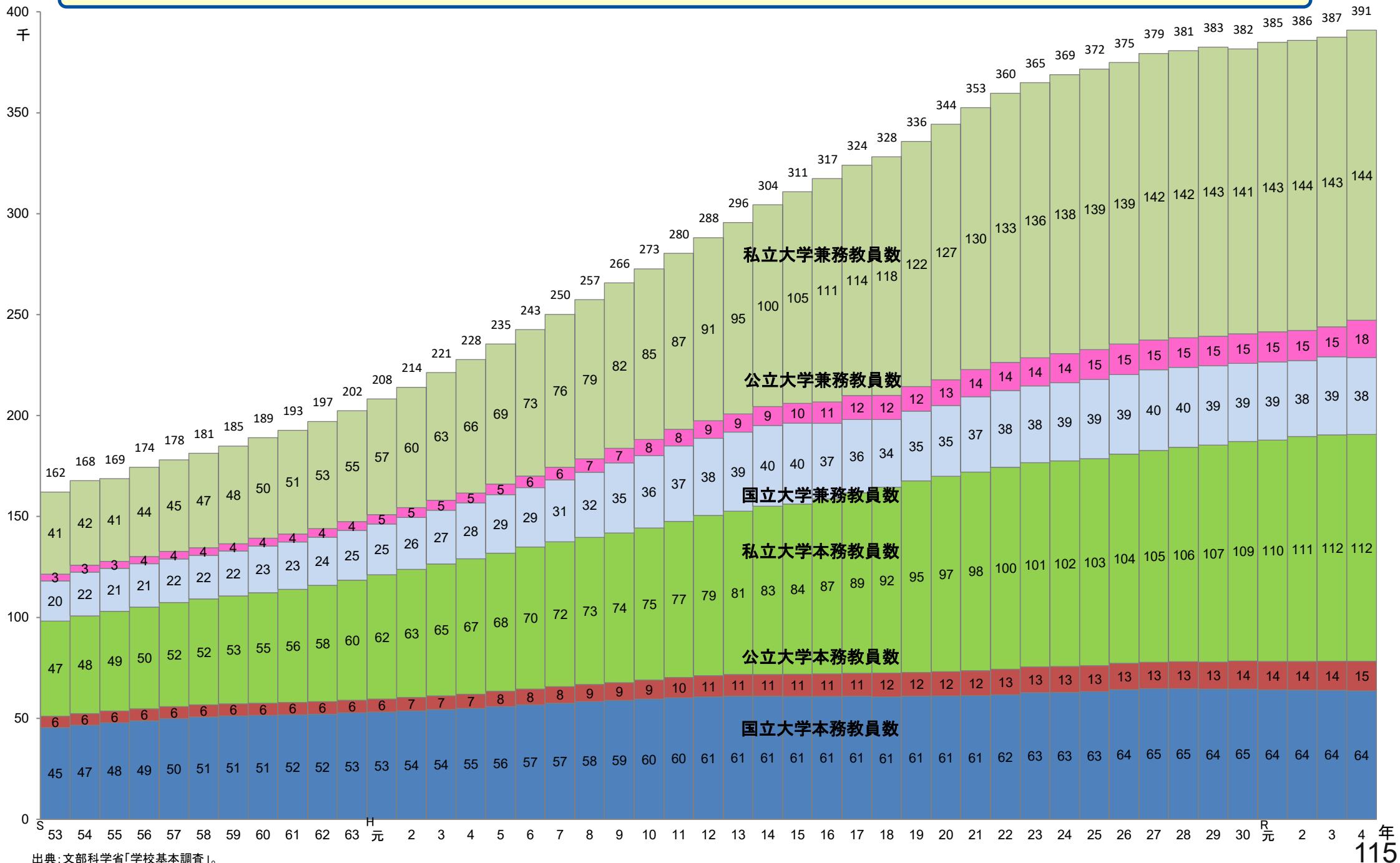
(備考) 2012年統計までは、外国人学生（受入れ国の国籍を持たない学生）が対象だったが、2013年統計より、高等教育機関に在籍する外国人留学生（勉学を目的として前居住国・出身国から他の国に移り住んだ学生）が対象となったため、比較ができなくなっている。

(出所) 文部科学省「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学生数」等について（令和5年3月7日）より。

教員を取り巻く環境

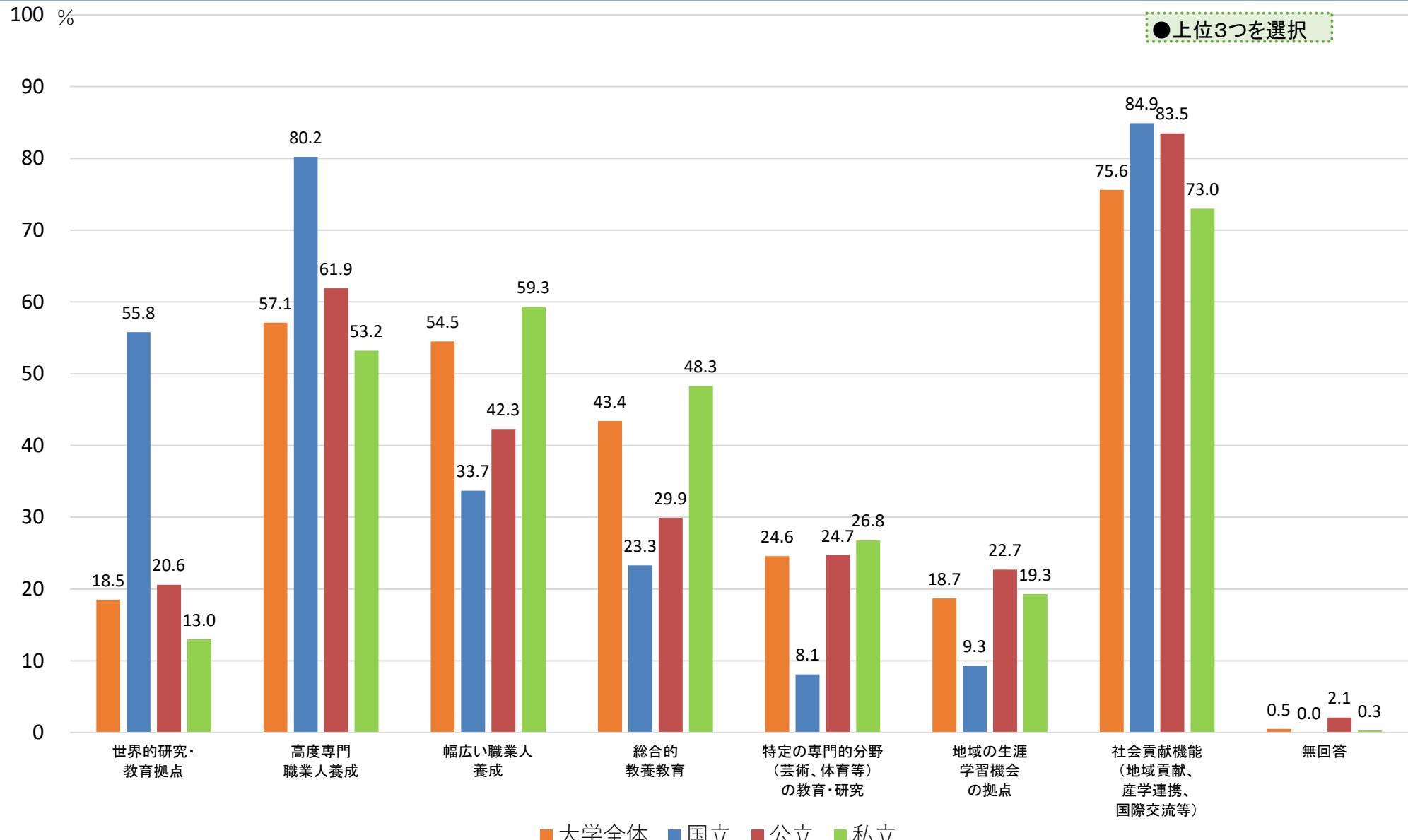
# 設置者別大学教員数の推移

大学教員数は上昇してきたが、近年では、上昇傾向は緩やかになっている。



# 学長等が認識する「重視している大学等としての機能」

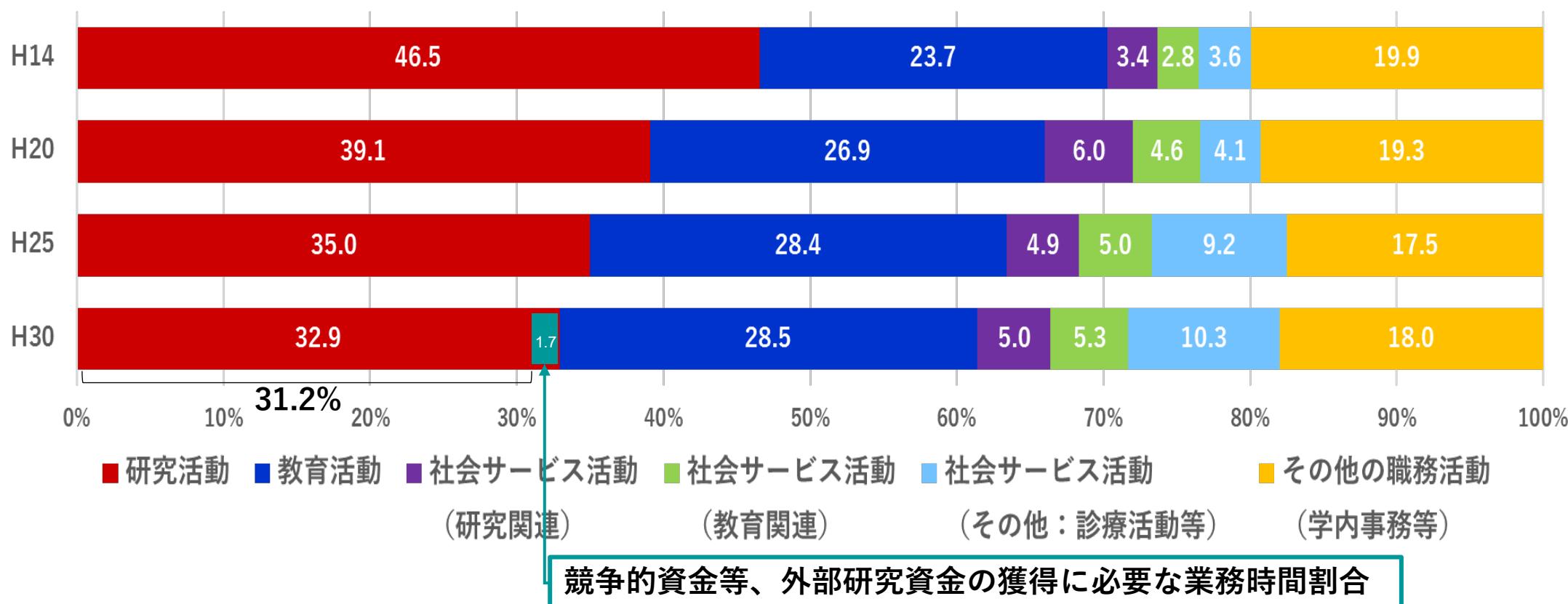
- 「世界的研究・教育拠点」と「高度専門職業人養成」は国立大学で高い割合となっている一方、「幅広い職業人養成」と「総合的教養教育」は私立大学で高い割合となっている。
- 「社会貢献機能（地域貢献、产学連携、国際交流等）」は、全ての設置者において高い割合であった。



出典：独立行政法人日本学生支援機構「大学等における学生支援の取組状況に関する調査（令和3年度（2021年度））結果報告」を元に、文部科学省において作成  
[https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei\\_torikumi/\\_icsFiles/afielddfile/2022/12/20/1\\_kekka\\_1.pdf](https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_torikumi/_icsFiles/afielddfile/2022/12/20/1_kekka_1.pdf)

# 大学等教員の職務活動時間の割合

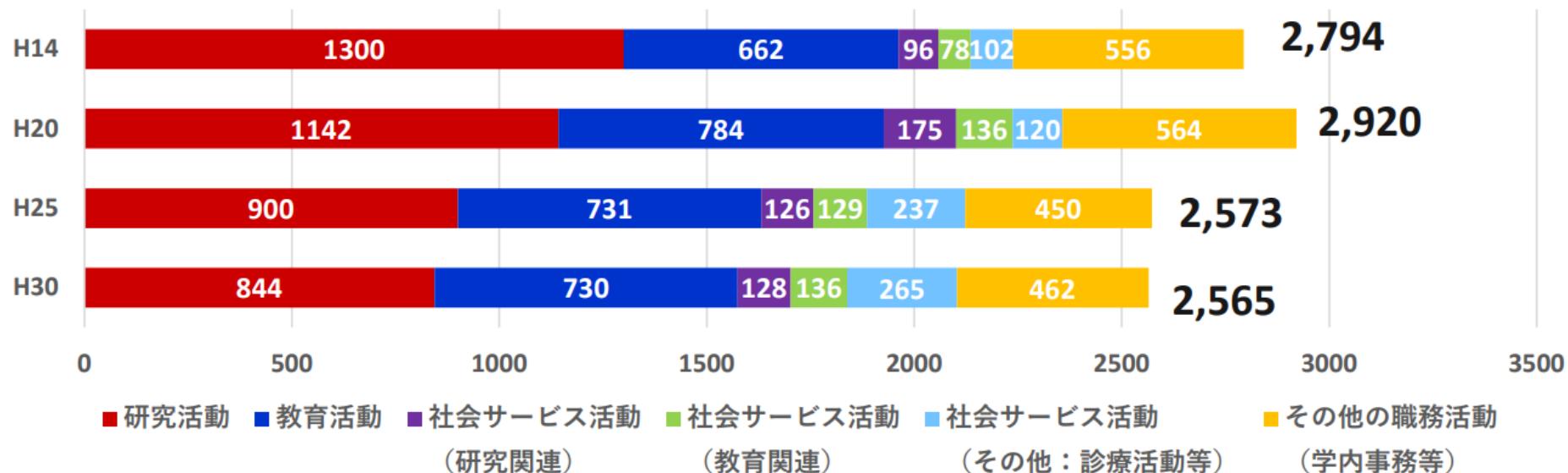
- 教員の研究活動時間割合は減少傾向が続き、平成30年度は32.9%（競争的資金等、外部研究資金の獲得に必要な業務時間割合を除くと、31.2%）となっている。
- 教育活動、社会サービス活動（研究関連、教育関連）時間割合がそれぞれ微増しており、前回特に増加傾向の強かった社会サービス活動（その他：診療活動等）も1.1ポイント微増している。その他の職務活動（学内事務等）時間割合はこれまで減少傾向にあったが、今回は0.5ポイント微増して18%となっている。



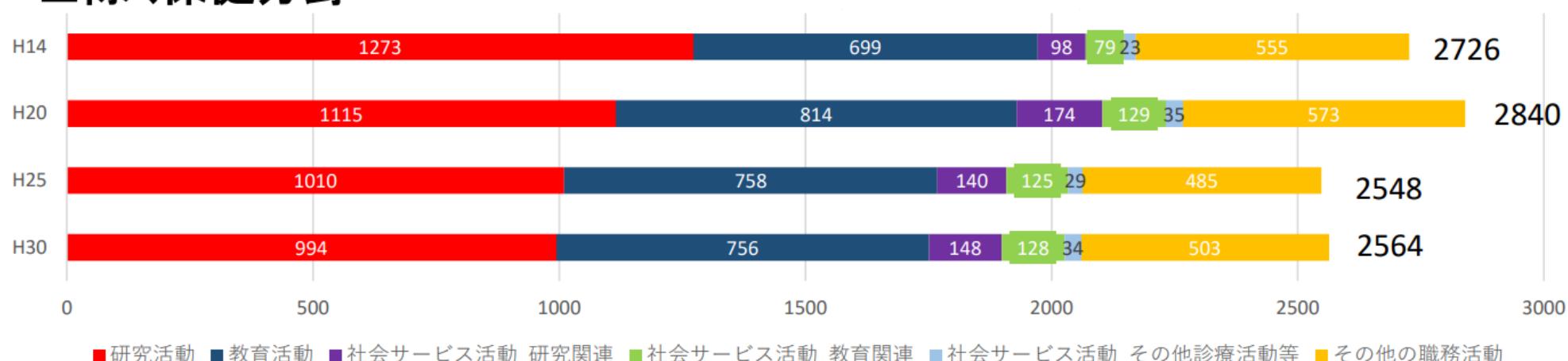
# 大学等教員の職務活動時間の推移

年間総職務時間の減少もあり、実際の研究活動時間は、保健分野を除いても、一貫して減少。

## ■全分野



## ■除く保健分野

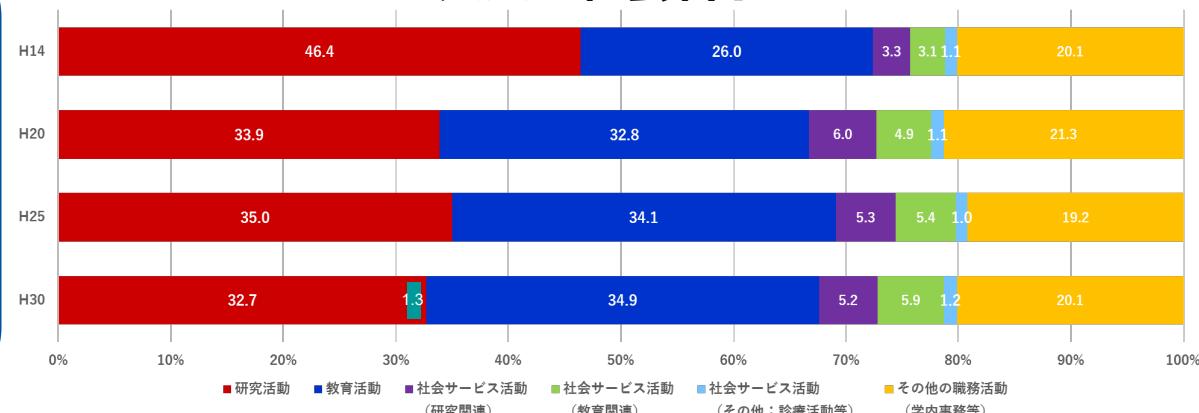


(出典)文部科学省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査(H20,H25,H30)」のデータを基に作成

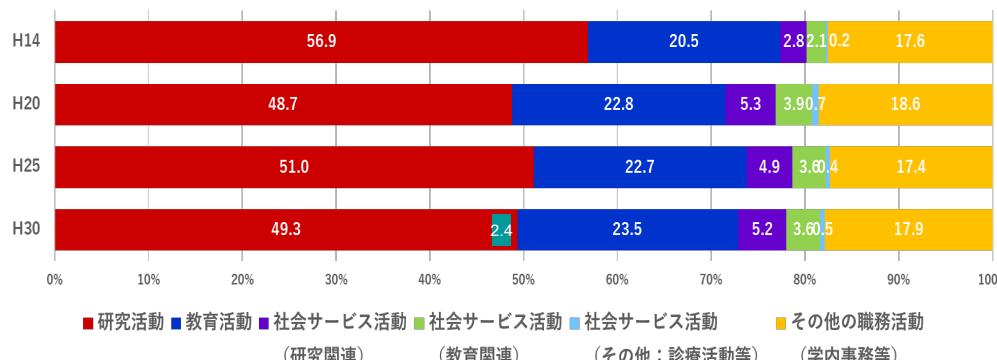
# 大学等教員の分野別職務活動時間の割合

- 大学等教員の研究時間割合は全体としては減少しているが、学問分野別に見ると保健分野の教員における職務活動時間割合の増減が大きく影響している。
- 理学、工学及び農学分野における研究活動時間割合は平成20年度以降、大きな変化は見られない。
- 人文・社会科学分野では他の分野と比較しても教育活動時間割合が最も高い。

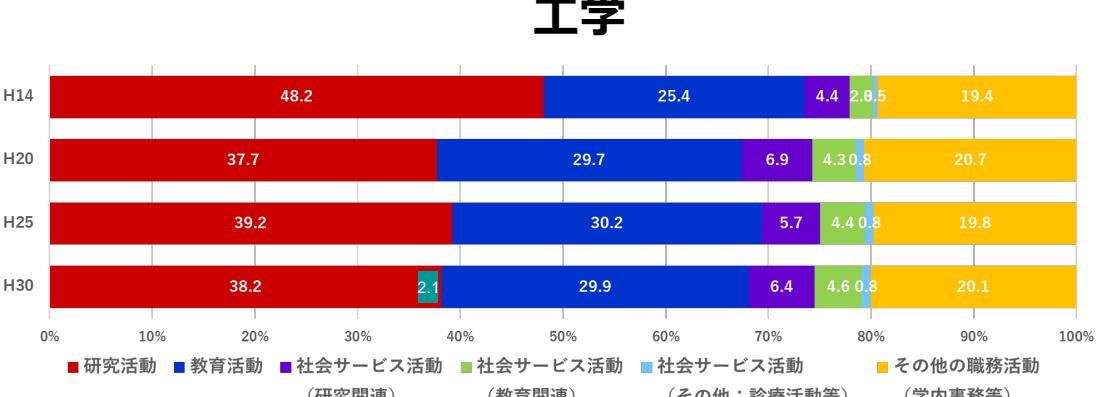
## 人文・社会科学



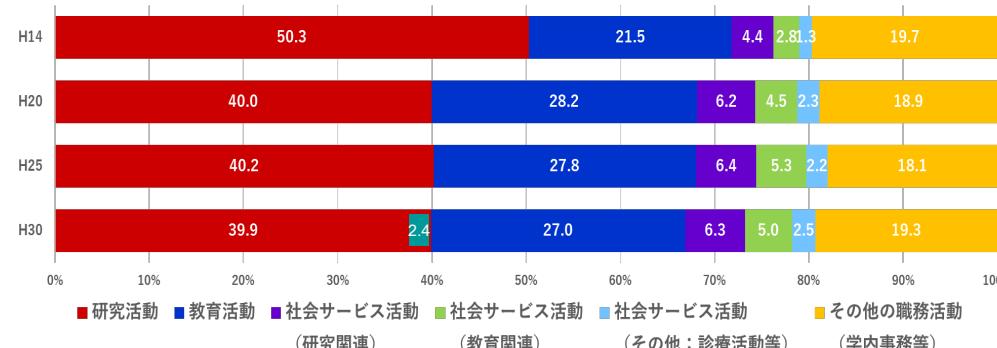
## 理学



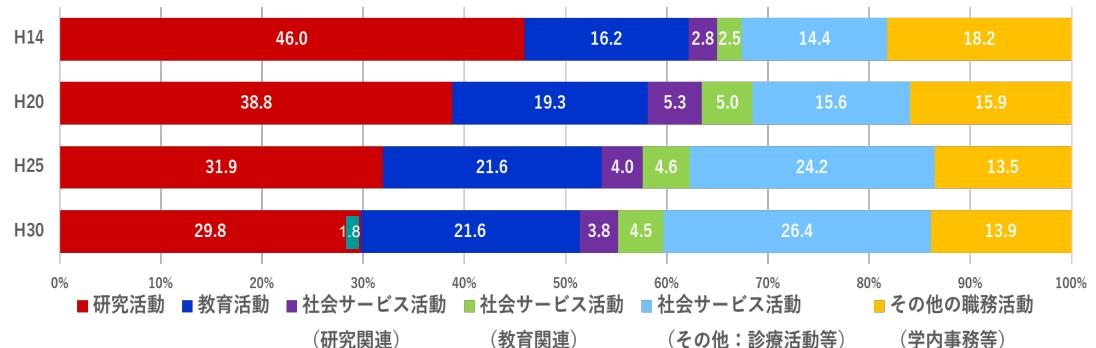
## 工学



## 農学



## 保健

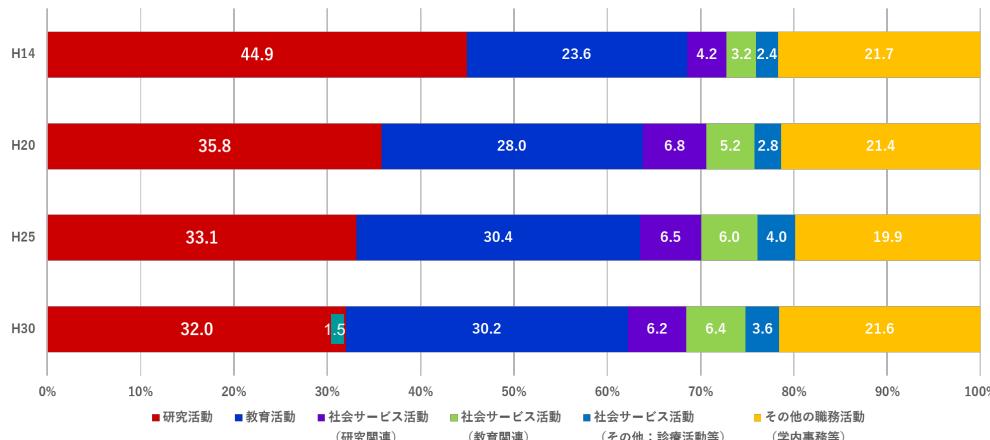


(出典)文部科学省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」(令和元年6月26日)

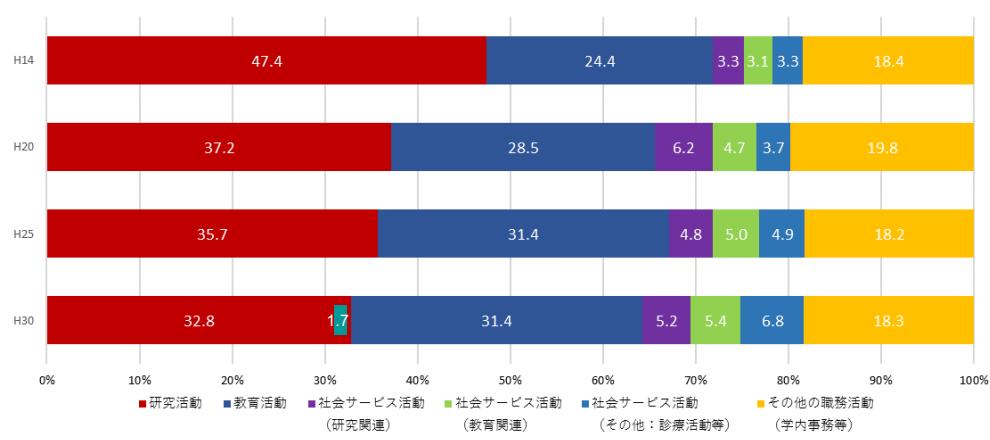
# 大学等教員の職位別職務活動時間の割合

- 助教は保健分野の影響が大きく、社会サービス活動（その他：診療活動等）の時間割合が高い。
- その他の職務活動（学内事務等）割合については教授が最も高い。

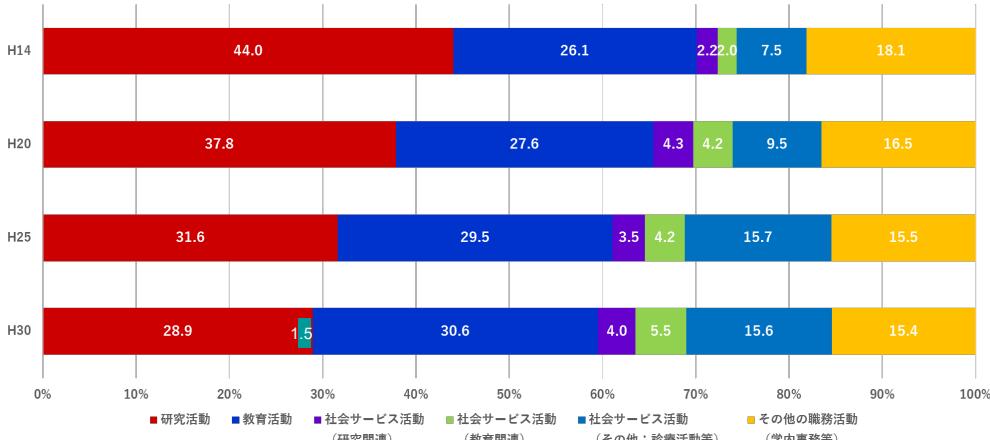
**教授**



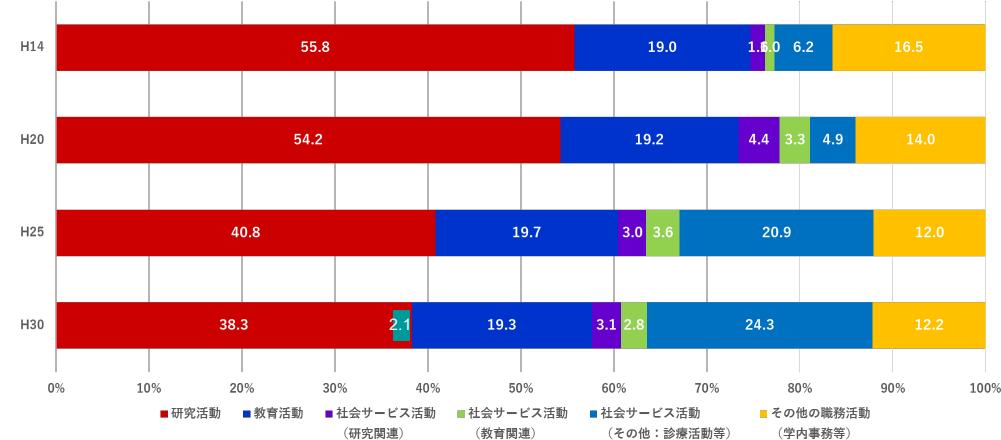
**准教授**



**講師**



**助教**



# 大学教員の業務時間実態と理想の比較

大学教員の業務時間割合の実態と理想を比較すると、「研究」を9.0%（時間換算で4.7時間）増やしたい。一方で、「学士課程教育（授業時間、準備含む）」を▲5.5%（時間換算で▲2.9時間）、「大学の管理・運営」を▲4.2%（時間換算で▲2.2時間）減らしたいとなっている。

## 平均的な1週間（授業開講期間）の業務時間・割合の実態、理想とする業務時間の割合

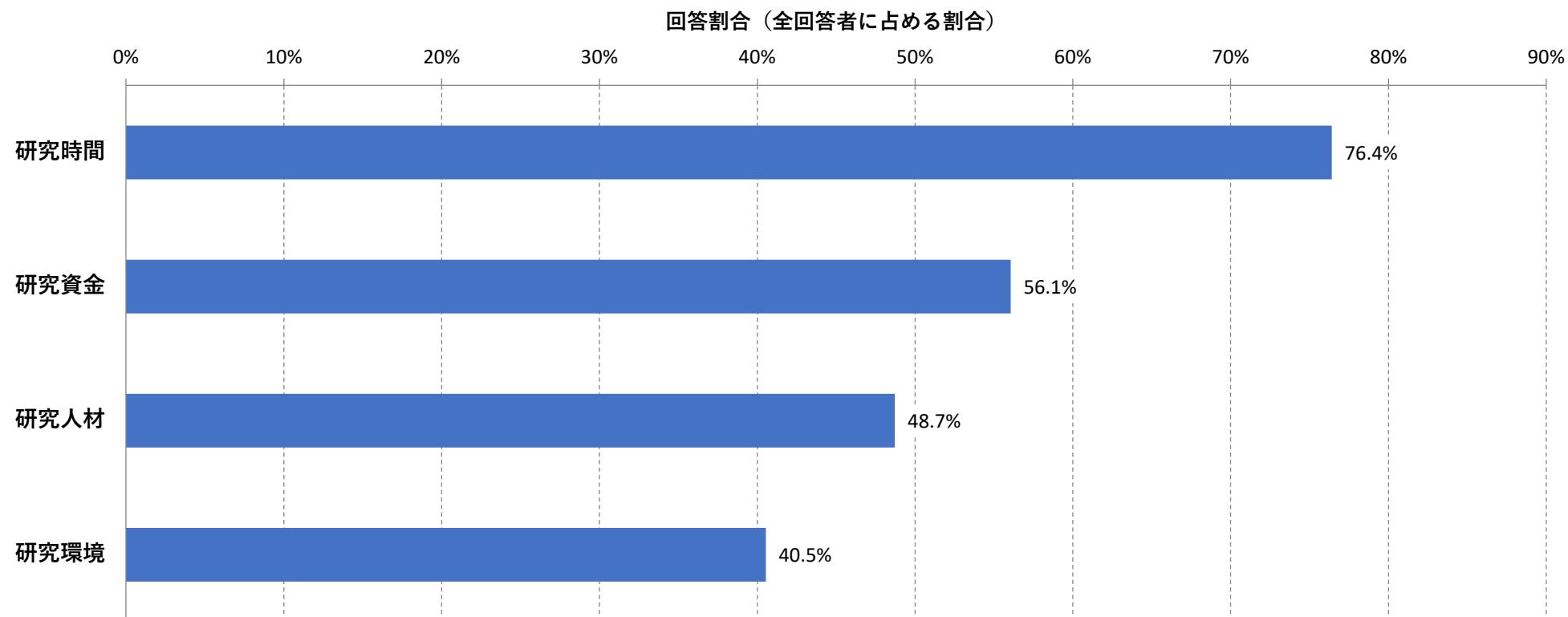
	研究	学士課程教育（研究室での学生の指導時間等）	学士課程教育（授業時間、準備含む）	大学院教育（研究室での学生の指導時間等）	大学院教育（授業時間、準備含む）	診療・臨床	社会貢献	大学の管理・運営	学外業務	その他	合計
実態の業務時間（時間）	12.2	6.2	12.6	3.5	2.3	3.1	1.8	5.9	2.6	1.9	52.1
実態の業務時間割合(A)(%)	23.4	11.9	24.2	6.6	4.4	6.0	3.5	11.3	4.9	3.7	-
理想の業務時間割合(B)(%)	32.4	12.5	18.7	8.2	5.7	4.8	4.9	7.1	3.8	1.9	-
業務時間割合の比較(B)-(A)(%)	9.0	0.7	-5.5	1.6	1.2	-1.2	1.3	-4.2	-1.1	-1.8	-

(※)四捨五入の関係で数値が一致しない場合がある。

# 研究パフォーマンスを高める上での制約要因

研究パフォーマンスを高める上での制約要因は、「研究時間」が最も多く（76.5%）、次いで、「研究資金」（56.1%）、「研究人材」（48.1%）、「研究環境」（40.5%）の順になっている。

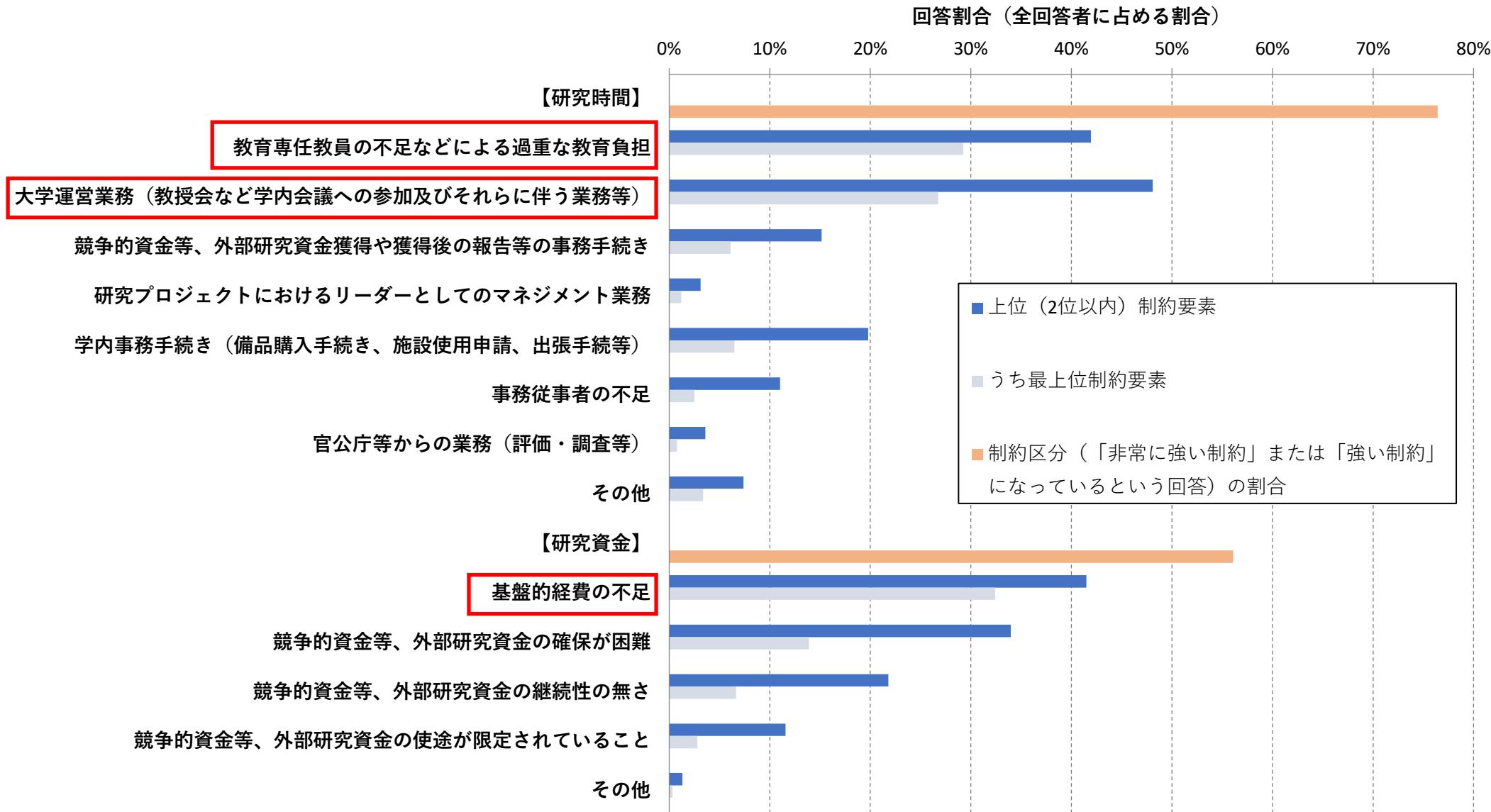
## 研究パフォーマンスを高める上で制約となっていること



※それぞれについてどの程度制約を感じているか、「非常に強い制約となっている」「強い制約となっている」「どちらとも言えない」「あまり制約にはなっていない」「全く制約ではない」という5件法で回答を求め、上位2位（「制約となっている」と回答した教員数）を集計

# 研究パフォーマンスを高める上で制約(研究時間、研究資金)

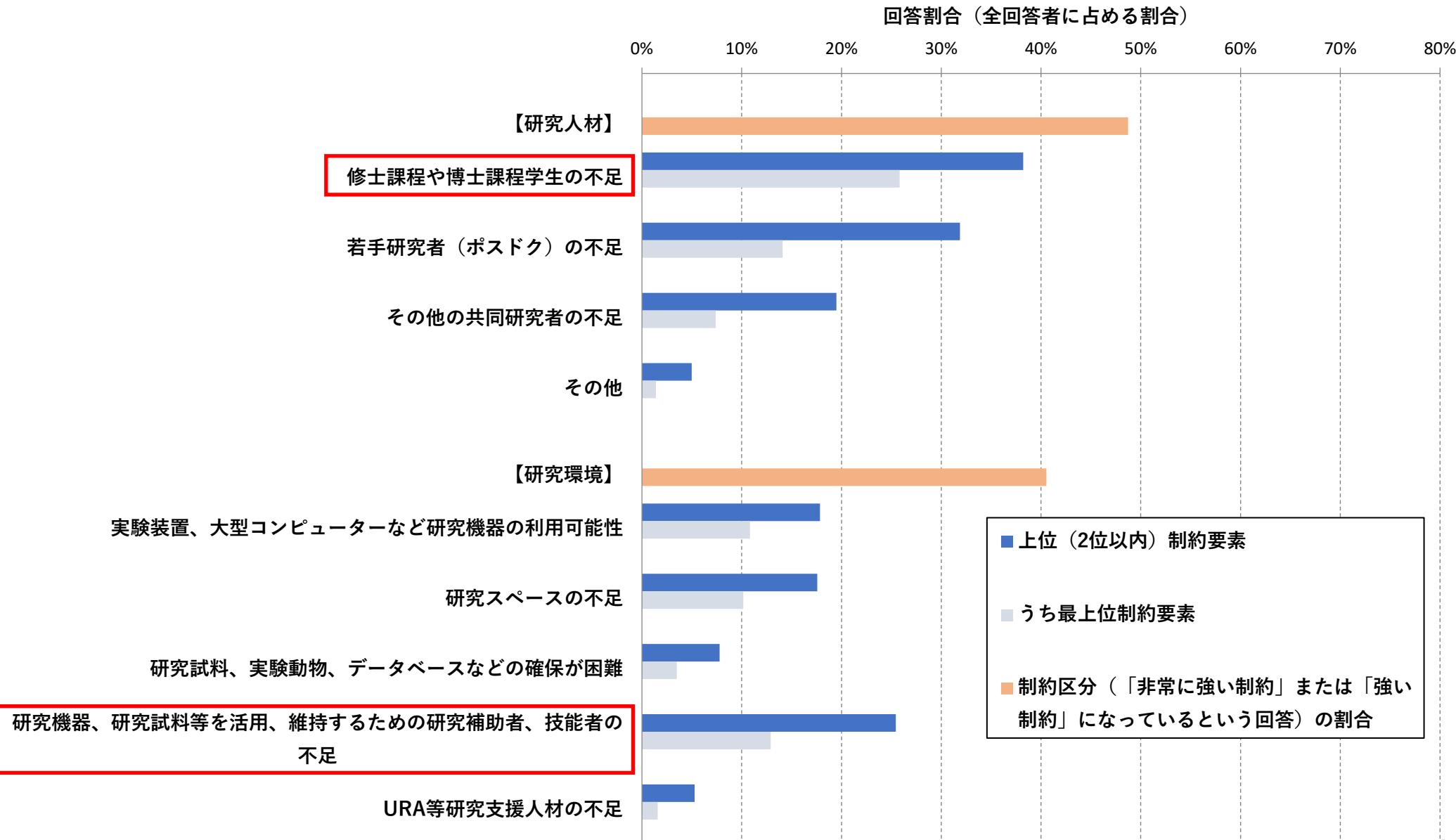
- 研究時間については、「教育専任教員の不足などによる過重な教育負担」「大学運営業務（教授会など学内会議への参加及びそれに伴う業務）」を制約と感じている教員が多い。
- 研究資金については、「基盤的経費の不足」を制約と感じている教員が最も多く、「競争的資金等、外部研究資金の獲得が困難」がそれに続いた。



(出典)文部科学省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」(令和元年6月26日)を基に作成

# 研究パフォーマンスを高める上で制約となる要素

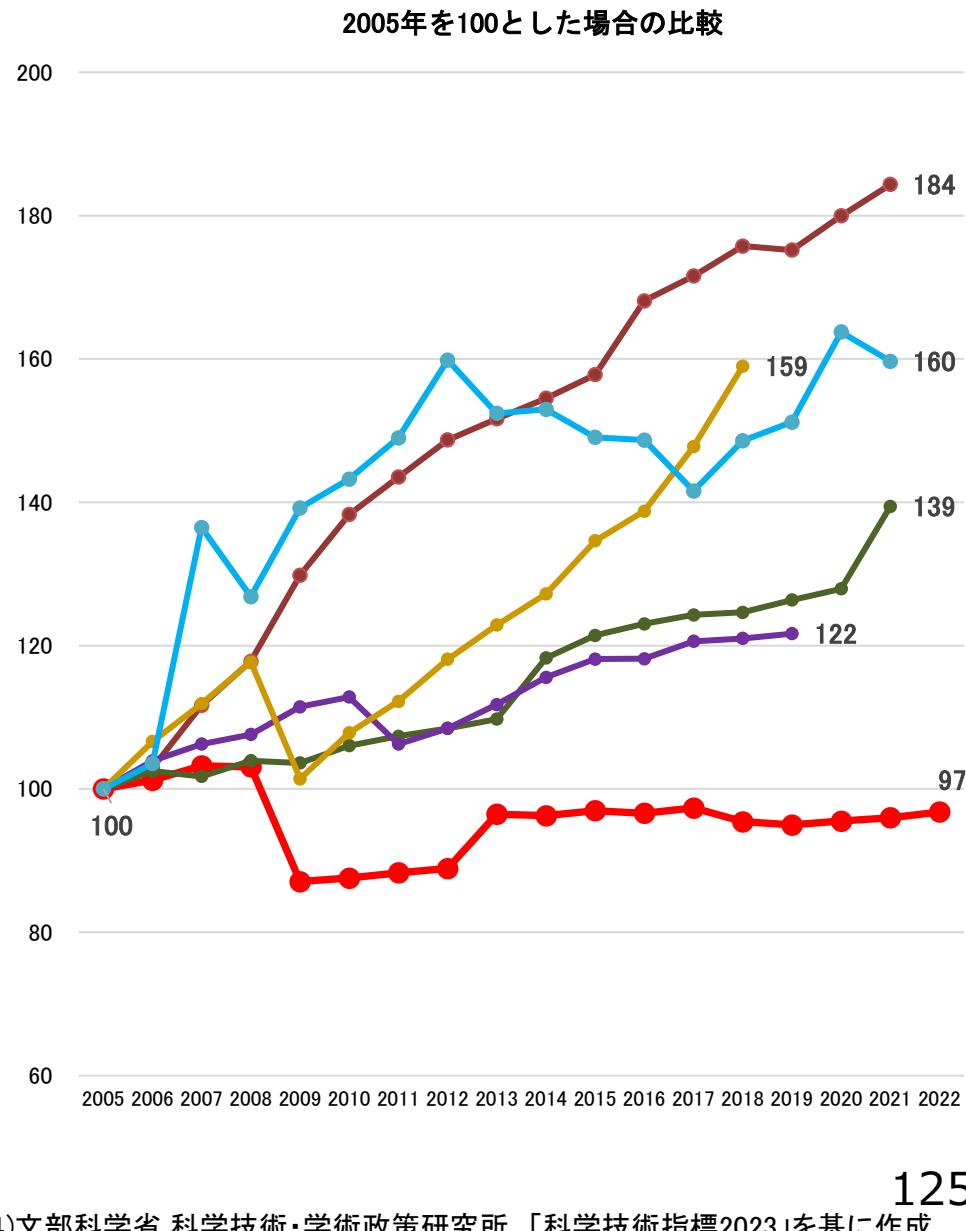
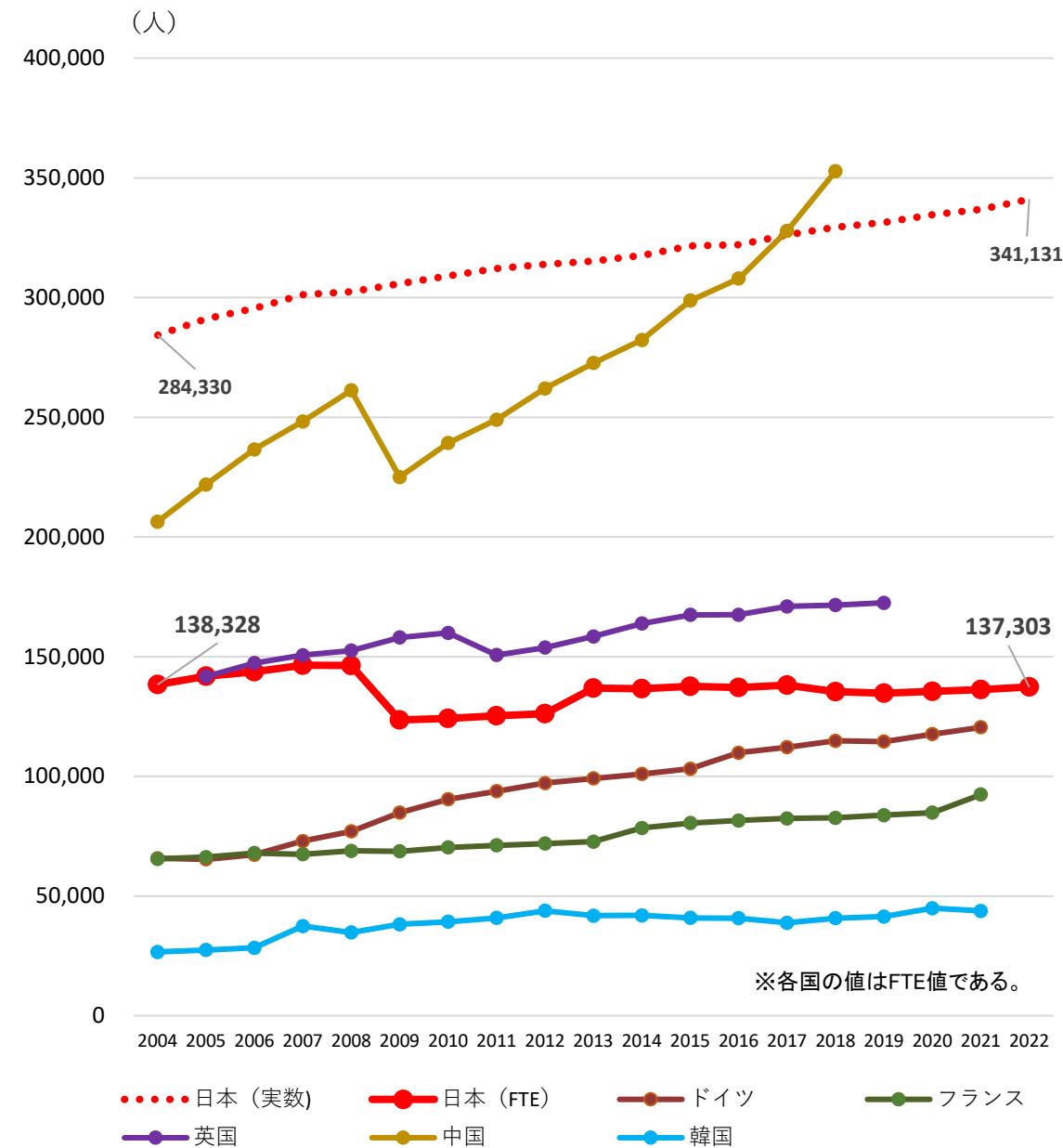
- 研究人材については、「修士課程や博士課程学生の不足」を制約と感じている教員が最も多い。
- 研究環境については、「研究機器、研究試料等を活用、維持するための研究補助者、技能者の不足」を制約と感じている教員が最も多い。



(出典)文部科学省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」(令和元年6月26日)を基に作成

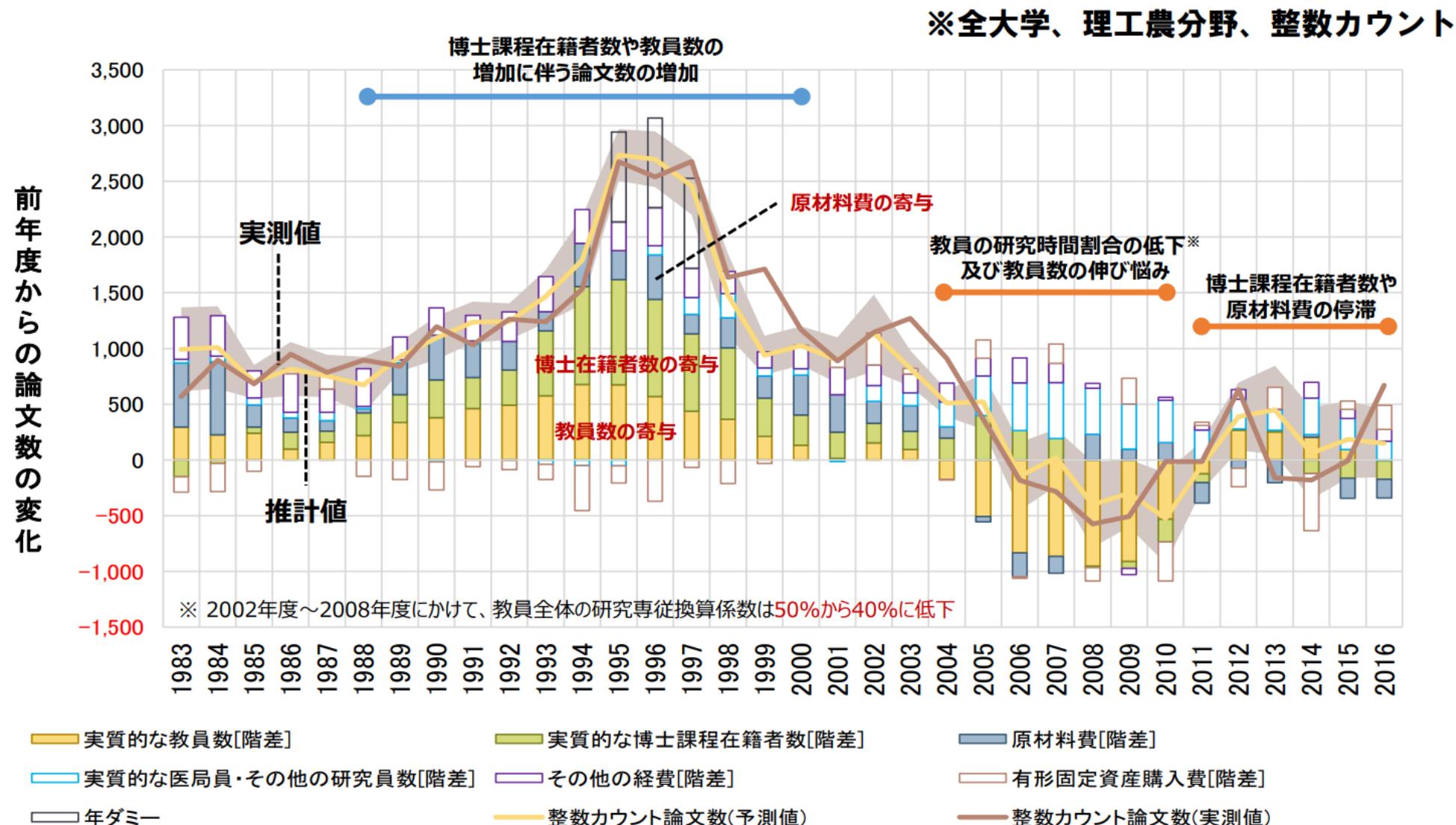
# 主要国における大学部門の研究者数(FTE)の推移

日本の大学部門の研究者数は増加しているが、研究時間をフルタイムに換算した研究者数（FTE）では、主要国は増加している中、日本は低迷している。



# 論文数変化についての要因分解の結果

2000年以前の論文数の増加には、博士課程在籍者数や教員数の増加が寄与しており、2004年以降の論文数の低迷は、教員の研究時間割合の低下及び教員数の伸び悩みや、博士課程在籍者数や原材料費の停滞によるとの指摘がある。



実質的な研究者数: 研究時間割合を考慮した研究者数(研究時間割合が50%の場合は、0.5人と計上)。

原材料費: 研究に必要な試作品費、消耗器材費、実験用小動物の購入費、餌代等の支出額。

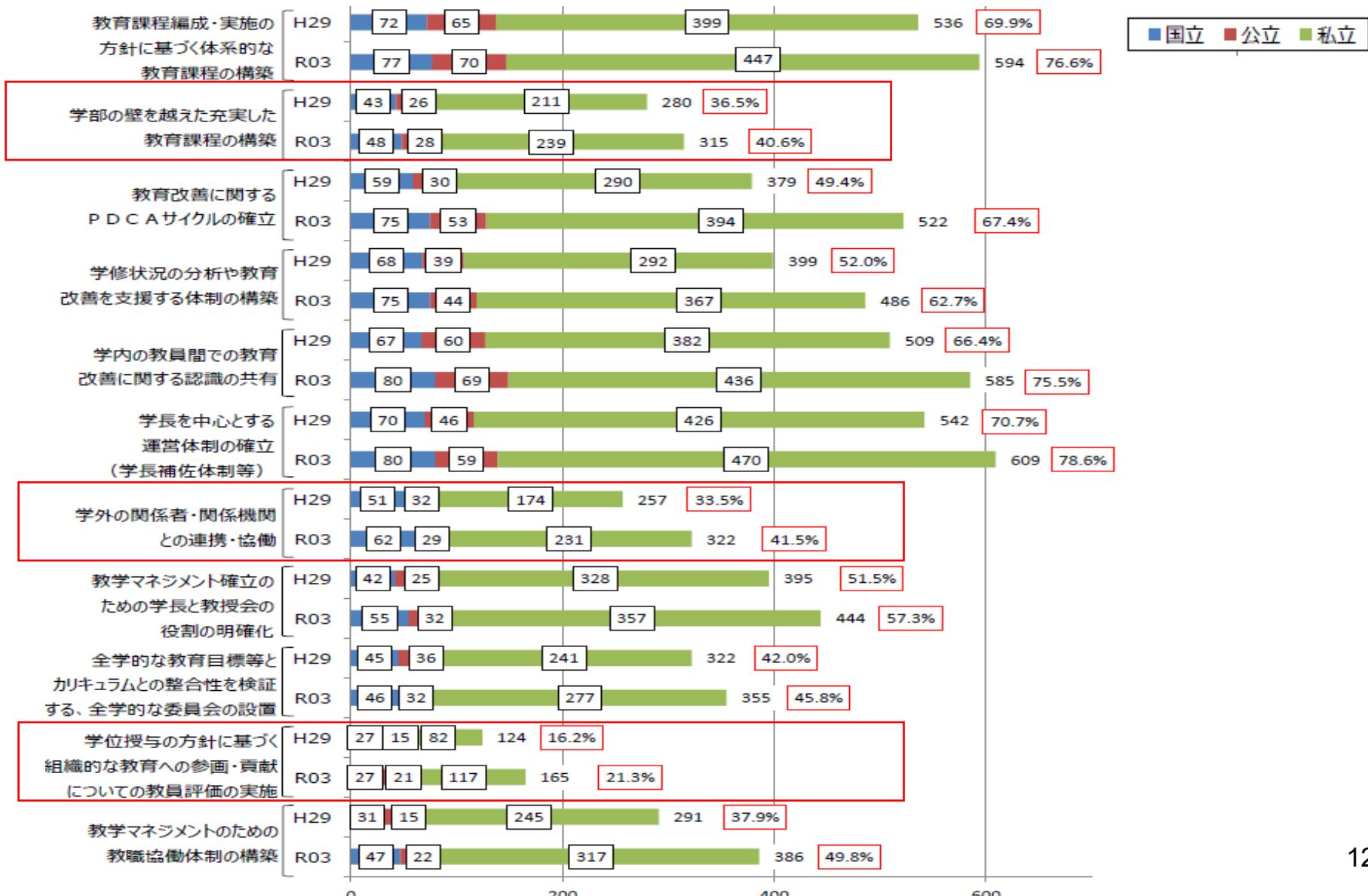
その他の経費: 研究のために要した図書費、光熱水道費、消耗品費等、固定資産とならない少額の装置・備品等の購入費等。

# 大学教育の現状

# 教学マネジメントに関する取組の状況

教学マネジメントに関する取組は、グランドデザイン答申（H30）前と比べると、全体として進捗している。一方で、「学部の壁を越えた充実した教育課程の構築」「学外関係者・関係機関との連携・協働」「学位授与の方針に基づく組織的な教育への参画・貢献についての教員評価の実施」などに関する取組を実施している大学の割合は、依然として低い状況。

## 教学マネジメントとして実施している取組

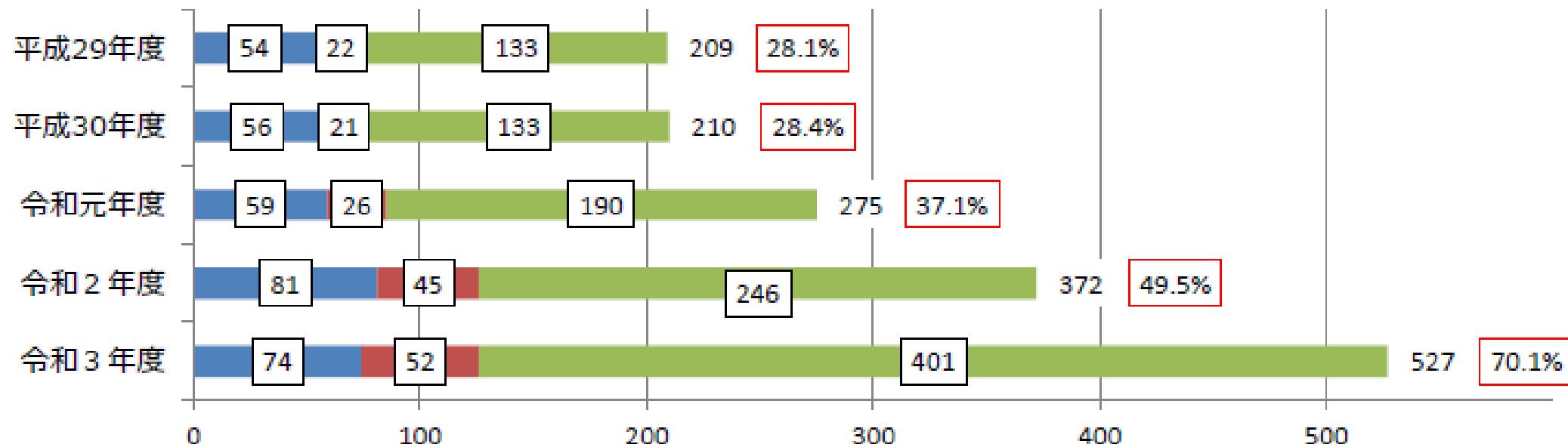


# 多様なメディアを利用した遠隔授業の実施状況

多様なメディアを利用した遠隔授業を実施する大学は増加傾向。

## 多様なメディアを利用した遠隔授業を実施する大学

■ 国立 ■ 公立 ■ 私立



(※)大学院のみを設置する大学は母数に含めない。

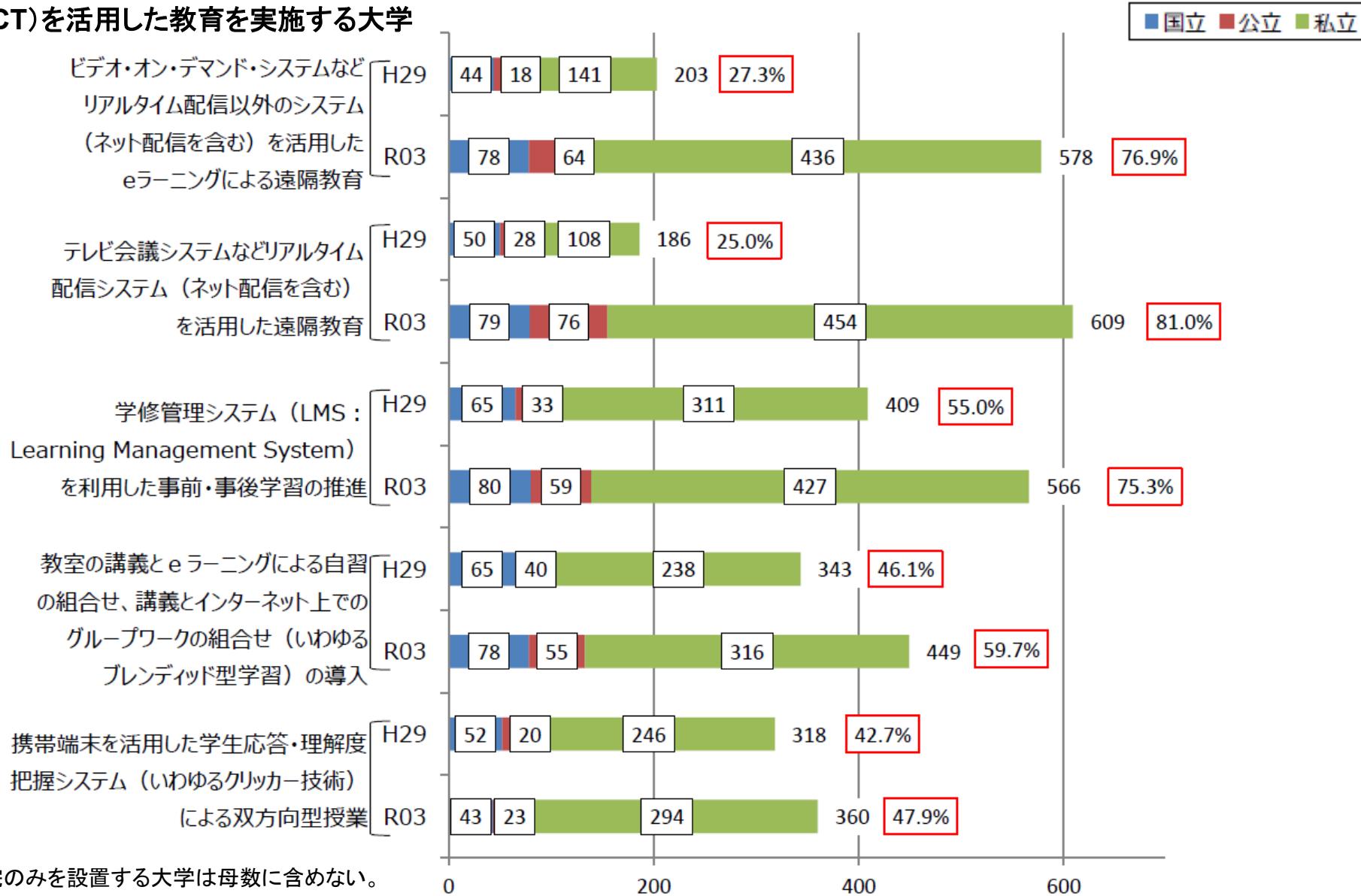
### 多様なメディアを利用した遠隔授業：

ここでは、大学設置基準第25条第2項に定める、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させる授業科目ことを指す。

# 情報通信技術(ICT)を活用した教育の実施状況

情報通信技術(ICT)を活用した教育を実施する大学は増加傾向。

## 情報通信技術(ICT)を活用した教育を実施する大学



(※)大学院のみを設置する大学は母数に含めない。

学修管理システム(LMS: Learning Management System):

eラーニングの運用を管理するためのシステムのこと。学習者の登録や教材の配布、学習の履歴や成績及び進捗状況の管理、統計分析、学習者との連絡等の機能がある。

# 学期制の採用状況

ほとんどの大学では2学期制を採用しており、3学期制は少数。一部の大学では学期を分割して、事実上のクォーター制を導入している大学もある。

## 学期制の採用状況



### ○その他の例

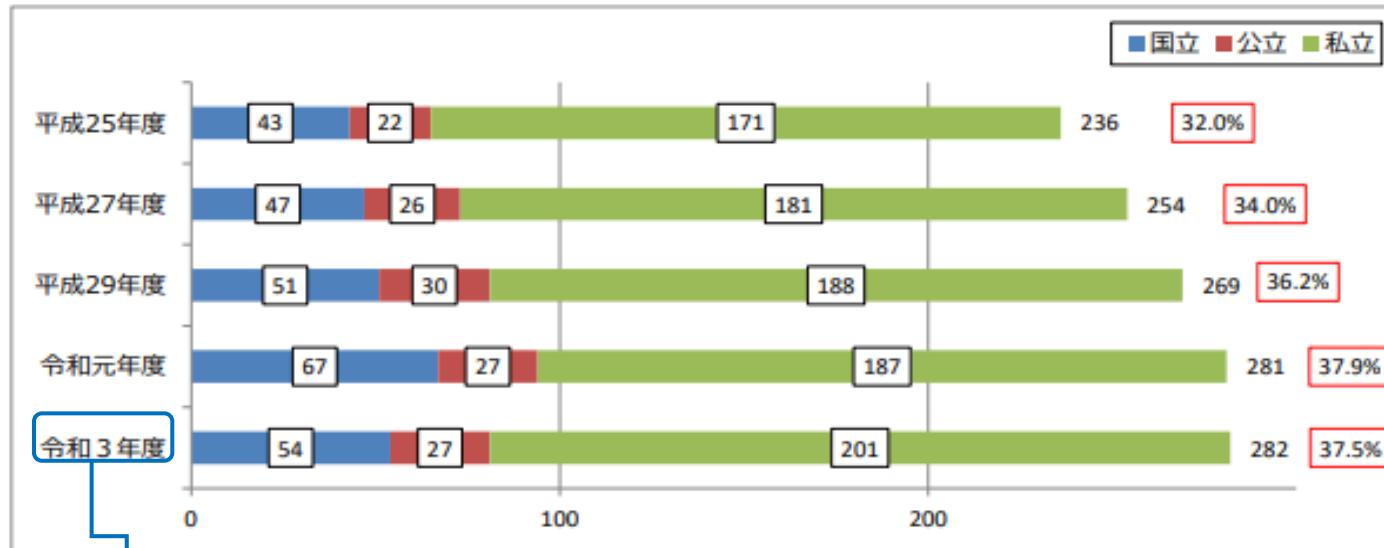
- ・通年制
- ・学則上は2学期制だが、学期分割して授業科目を配置している
- ・夏季休業、春季休業期間に特別学期を設けている
- ・5学期制、6学期制 等

(※) 大学院のみを設置する大学は母数に含めない。

# 大学における主専攻以外の分野を履修させるための取組状況

専攻分野以外の分野の授業科目を体系的に履修させる「主専攻・副専攻制」を導入している大学は、令和3年度現在、学部段階では282大学（約38%）、その内、全ての学生に履修を義務付けしている大学は60大学（約8%）となっている。

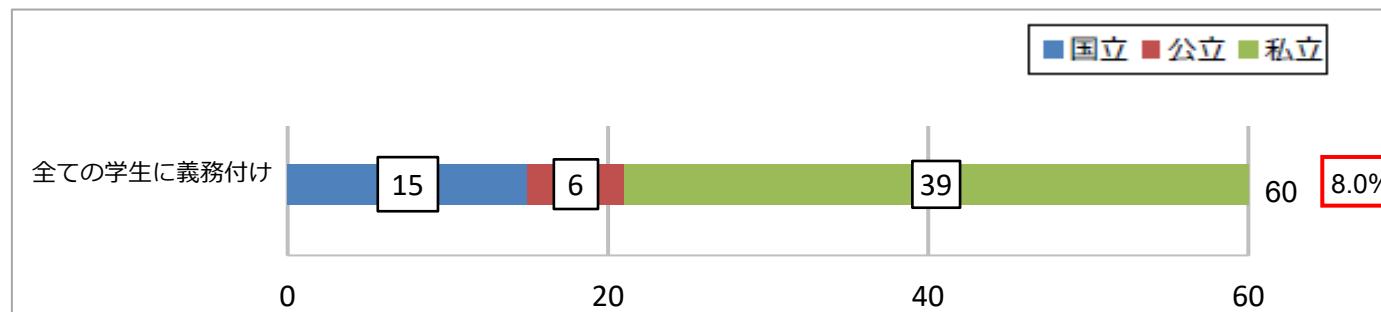
## 主専攻・副専攻制を導入している大学



(※)大学院のみを設置する大学は母数に含めない。

(※)調査項目を隔年にしたため平成26年度、平成28年度、平成30年度、令和2年度は調査をしていない。

## ○義務付けの状況



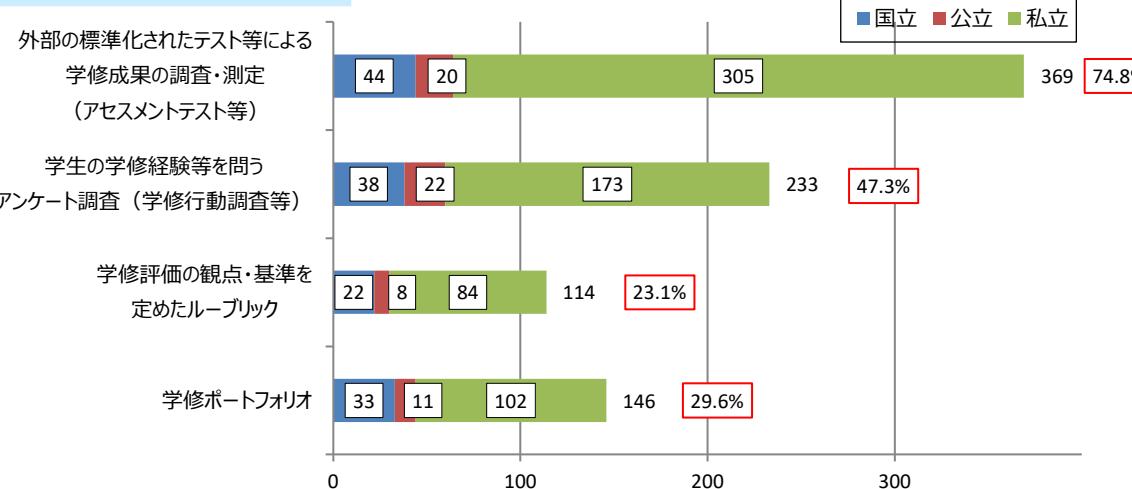
# 学生の学修成果の把握状況

課程を通じた学生の学修成果の把握を行っている大学は493校（全体の65.6%）であり、把握方法としては「外部の標準化されたテスト等による学修成果の調査・測定（アセスメントテスト等）」が最も多い。学修成果として調査・測定を行っている事項としては、「汎用的能力」「態度・志向性」「知識・理解」の順に多くなっている。学修成果に関する情報の活用方法としては、「教育課程や教育方法の改善」が最も多い。

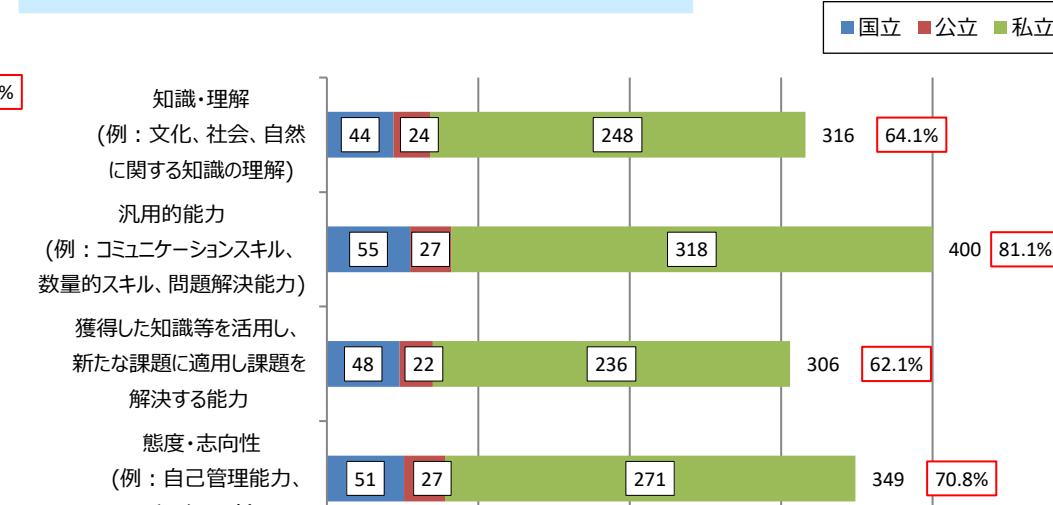
## 【学部段階】課程を通じた学生の学修成果の把握を行っている大学



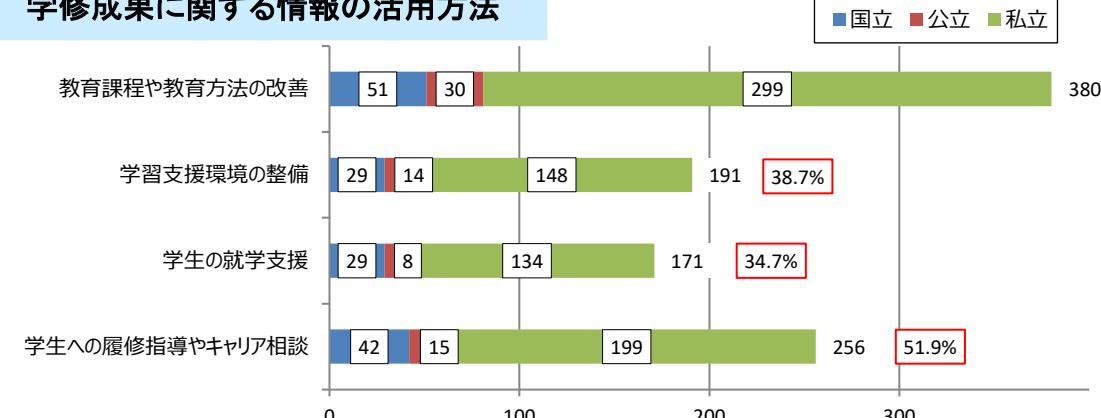
## 学修成果の把握方法



## 学修成果として調査・測定を行っている事項



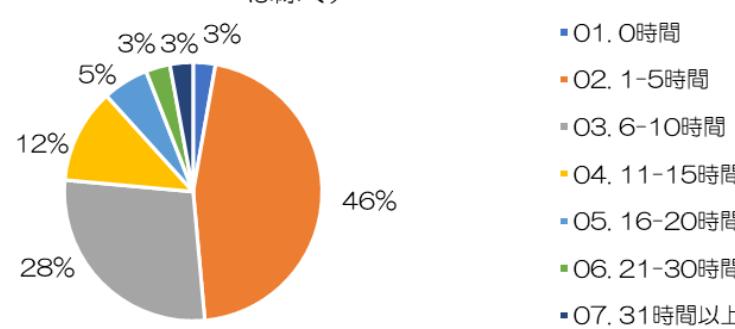
## 学修成果に関する情報の活用方法



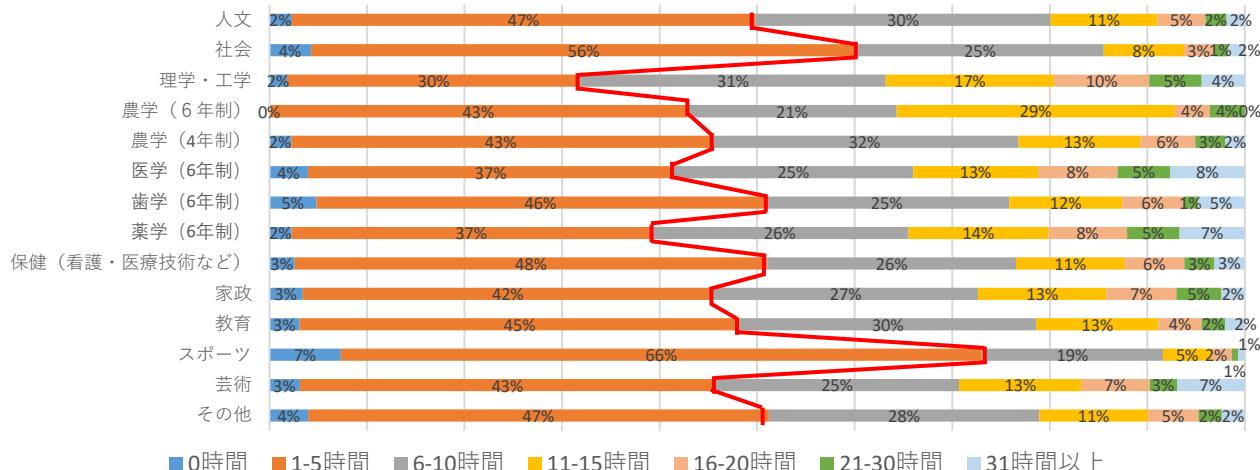
# 学生の分野別学修時間

- 学部2年生は、予習・復習等の授業に関する学習は5時間以下が49%であり、授業に関する学習時間が短いことは課題である。
- 分野別の状況では、5時間以下の割合で見ると社会（60%）等が高い水準。

予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）

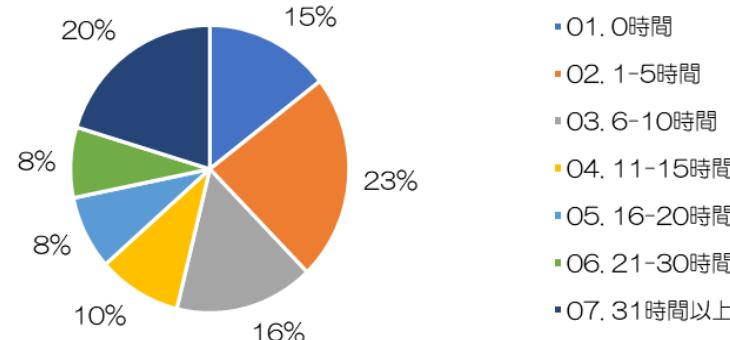


予習・復習・課題など授業に関する学習（2年生）

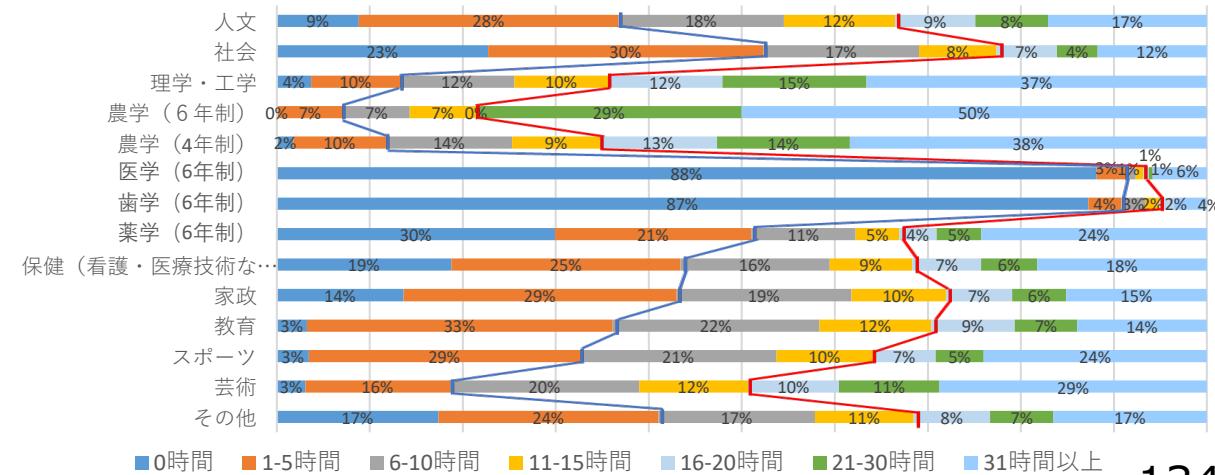


- 4年生以上の学生の卒業論文等に費やす時間については、16時間以上が36%となる。一方で、卒業論文等に費やす時間が5時間以下となる学生も38%存在する。
- 卒業論文等に16時間以上を費やす割合は農学（6年制）（79%）、農学（6年制）（65%）、理学・工学（64%）で高く、5時間以下となる割合は医学（6年制）（91%）、歯学（6年制）（91%）で非常に高いほか、社会（53%）、薬学（6年制）（51%）も相当程度の割合に上る。

卒業論文・卒業研究・卒業制作（最終学年生のみ）



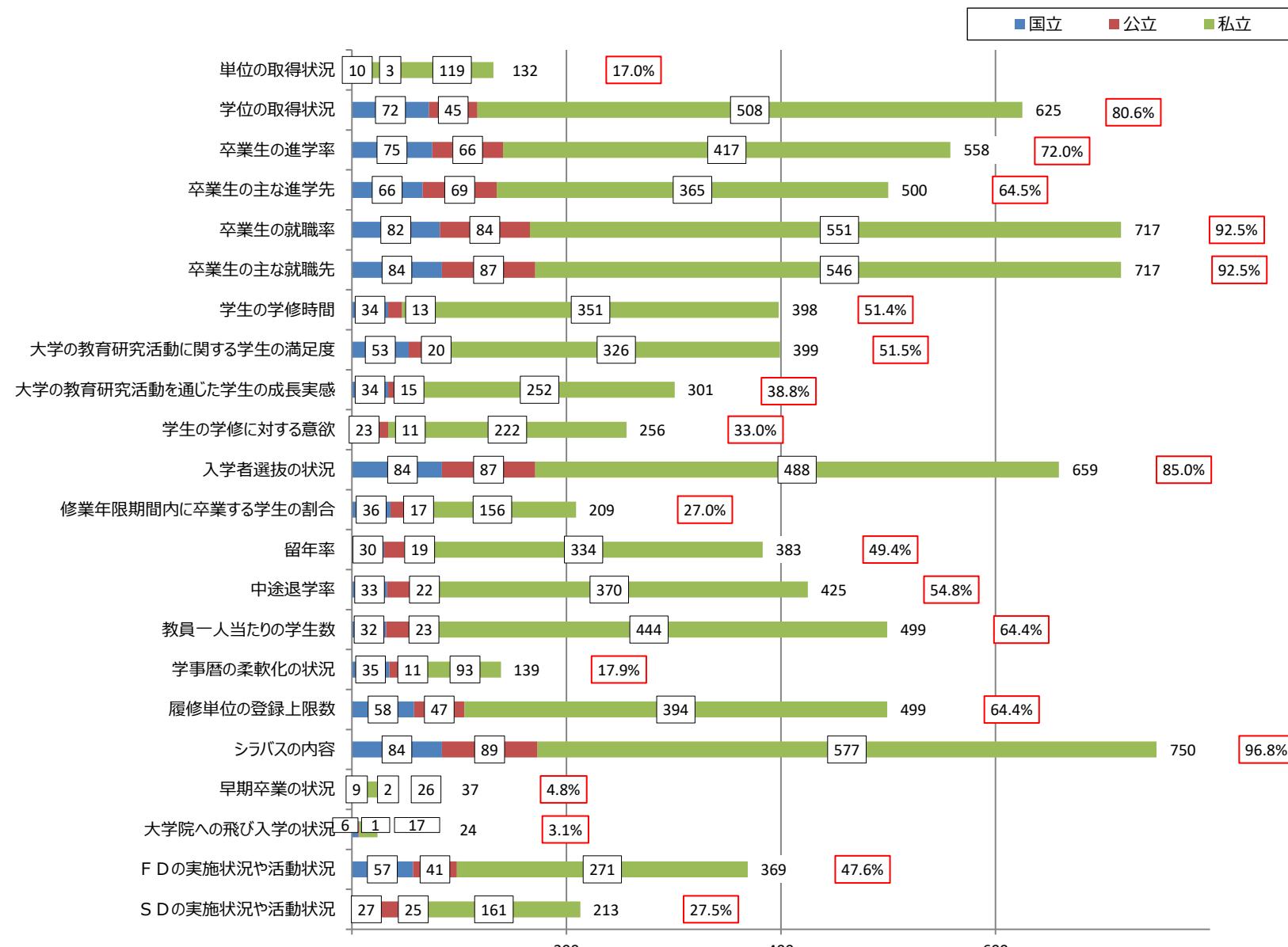
卒業論文・卒業研究・卒業制作



出典：令和4年度「全国学生調査（第3回試行調査）」

# 情報公表に関する取組状況

全ての大学において一定の情報公表が行われているが、法令において公表が義務付けられている項目以外、特に、「教学マネジメント指針」において社会から公表が強く求められると整理された情報項目（学生の学修時間、満足度、成長実感、学修に対する意欲、修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率、教員一人当たりの学生数、学事暦の柔軟化状況など）は、十分ではない状況。



### （3）国公私の設置者別等の役割分担の在り方

関連データ

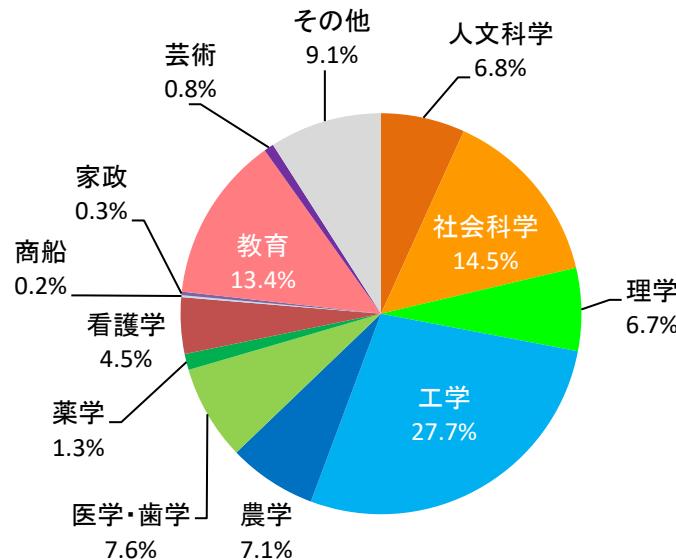
# 国公私別 学生数・構成比率(令和4年度)

大学数は国公私が約1：1：8だが、学生数は約1.5：0.5：8。国立は自然科学系や教育系が多く、公立は看護学、私立は人文社会系が多い。

国立大学(86大学)

人文科学	29,221人
社会科学	62,665人
理学	28,816人
工学	119,370人
農学	30,791人
医学・歯学	32,978人
薬学	5,580人
看護学	19,602人
商船	691人
家政	1,199人
教育	57,740人
芸術	3,403人
その他	39,050人

合計 431,106人



公立大学(99大学)

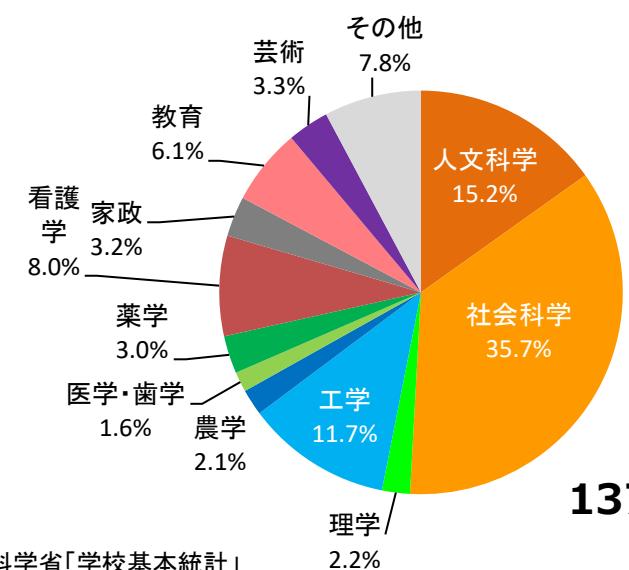
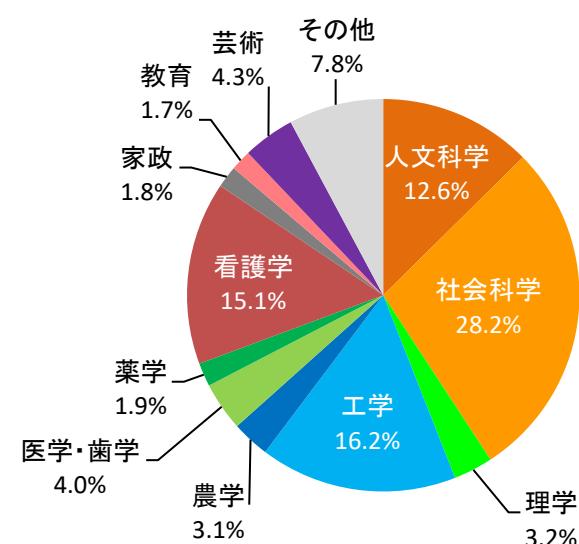
人文科学	18,077人
社会科学	40,470人
理学	4,646人
工学	23,309人
農学	4,458人
医学・歯学	5,762人
薬学	2,778人
看護学	21,648人
家政	2,578人
教育	2,433人
芸術	6,138人
その他	11,216人

合計 143,513人

私立大学(619大学)

人文科学	311,729人
社会科学	734,960人
理学	46,058人
工学	240,122人
農学	43,244人
医学・歯学	33,072人
薬学	62,157人
看護学	165,350人
家政	66,108人
教育	126,101人
芸術	68,314人
その他	160,382人

合計 2,057,597人



出典:文部科学省「学校基本統計」

# 国立大学の種類・規模( R5.4.1現在 )

国立大学は86大学あり、47の総合大学と33の専門大学、2つの女子大学と4つの大学院大学からなっている。

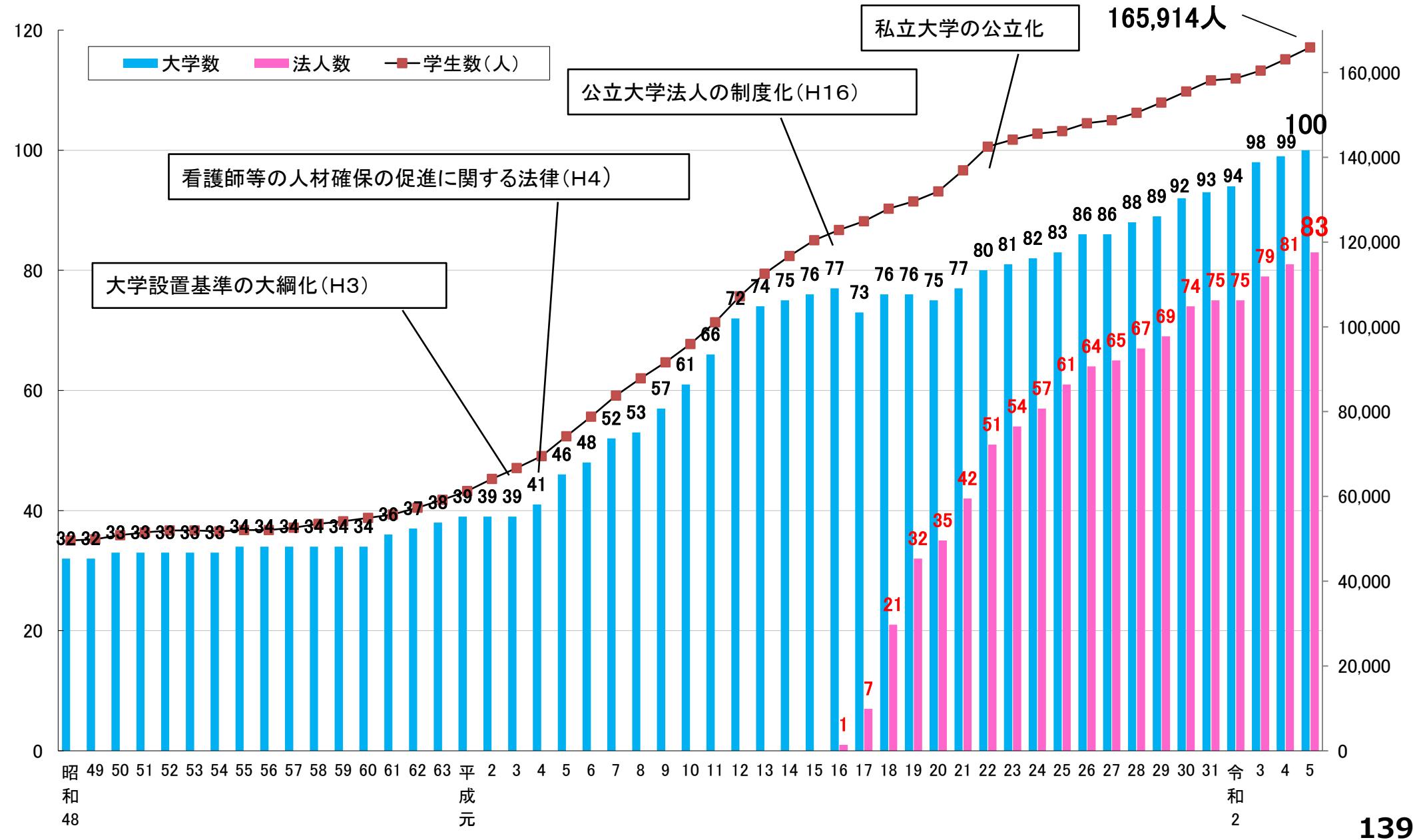
86  
大学

総合 47	7学部以上	23
		5 [ 山形、徳島、香川、高知、佐賀 ]
		9 [ 弘前、茨城、宇都宮、埼玉、横国、岐阜、三重、大分、宮崎 ]
		8 [ 岩手、秋田、群馬、※金沢、福井、山梨、和歌山、鳥取 ]
		2 [ ※福島、滋賀 ]
	教員養成系	11
その他 39	工学	10
	医学	4 [ 旭川医科、東京医科歯科②、浜松医科、滋賀医科 ]
	社会	2 [ 小樽商科、一橋⑤ ]
	専門 33	1 [ 東京外国語③ ]
	外国語	1 [ 東京芸術② ]
	芸術	1 [ 鹿屋体育 ]
	体育	1 [ 東京海洋③ ]
	海洋	1 [ 帯広畜産 ]
	畜産	1 [ 筑波技術② ]
	障害	2 [ お茶の水③、奈良女子④ ]
女子大学	4 [ 政策研究、総合研究、北陸先端科学技術、奈良先端科学技術 ]	
	大学院大学	

・※は学群等制度を持つ大学  
・○の中の数字は学部数  
・赤字は医学部を持つ大学

# 公立大学の大学数・法人数・学生数の推移

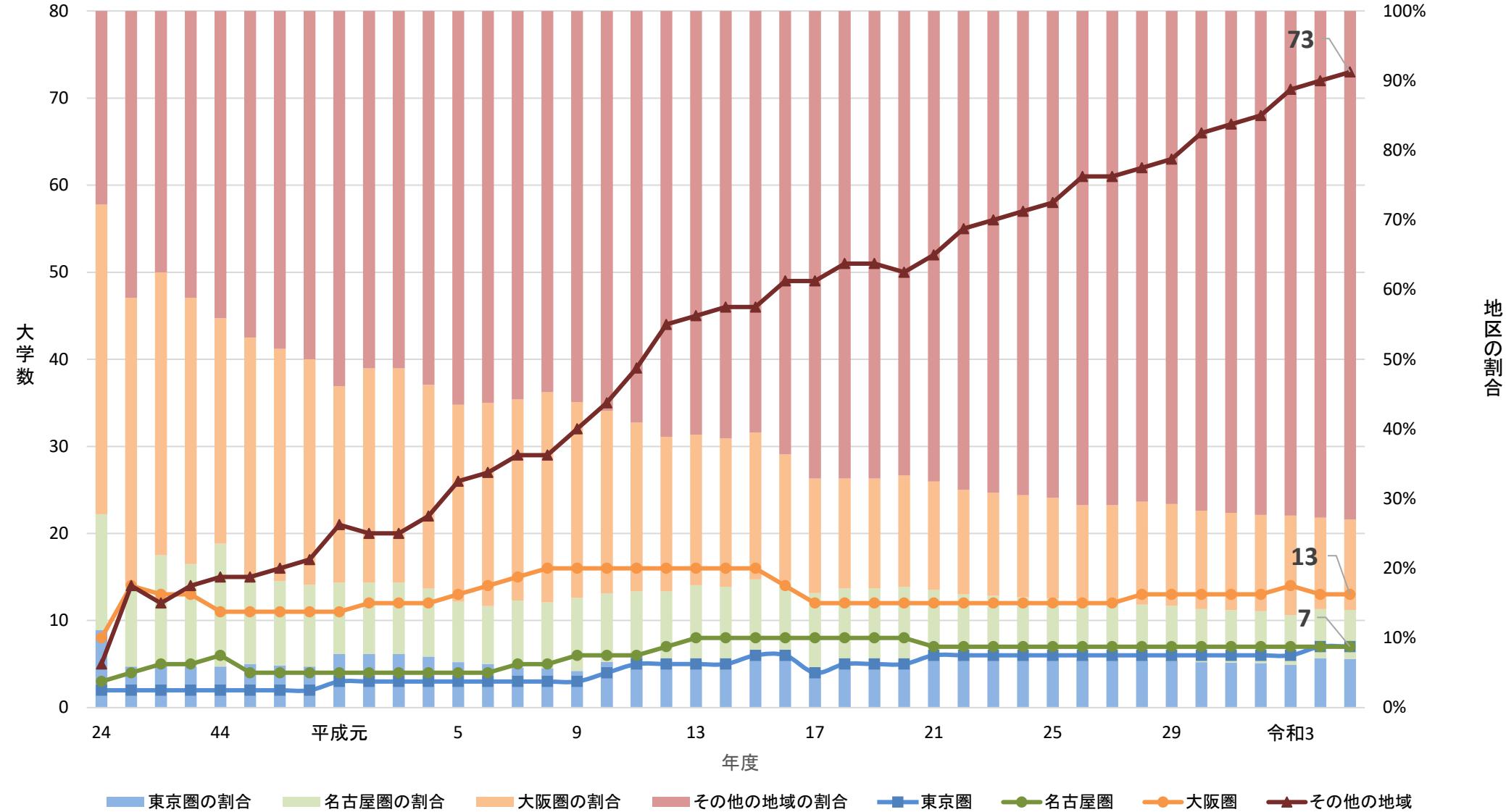
大学数・学生数ともに平成以降急増。法人数も平成16年度の公立大学法人制度導入以降急増。



【出典】学校基本統計 ※大学数に、募集停止の大学は含まない。また、大学数、法人数、学生数とともに公立短期大学分は含まない。

# 公立大地域分布状況の推移

昭和中期までは、大阪圏に約3割の公立大学が集中していたが、平成以降、全国的な公立大学の設置に伴い、地方圏での割合が上昇、現在では約7割となっている。

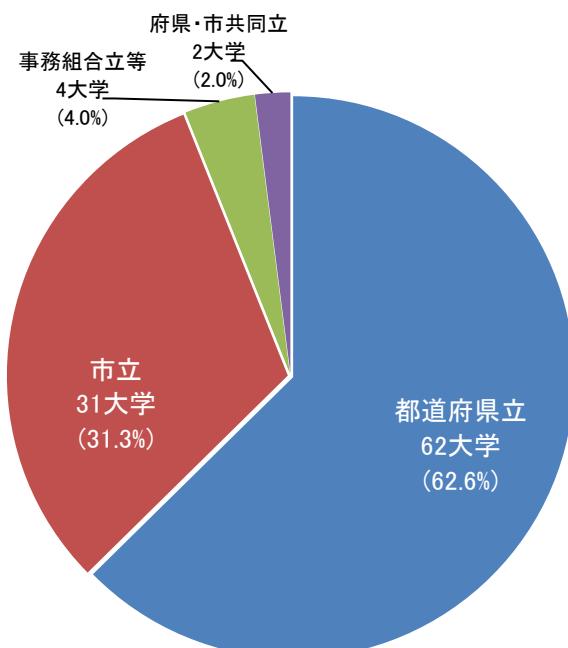


出典【全国大学一覧】  
※東京圏(埼玉、千葉、東京、神奈川)、名古屋圏(岐阜、愛知、三重)、大阪圏(滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)

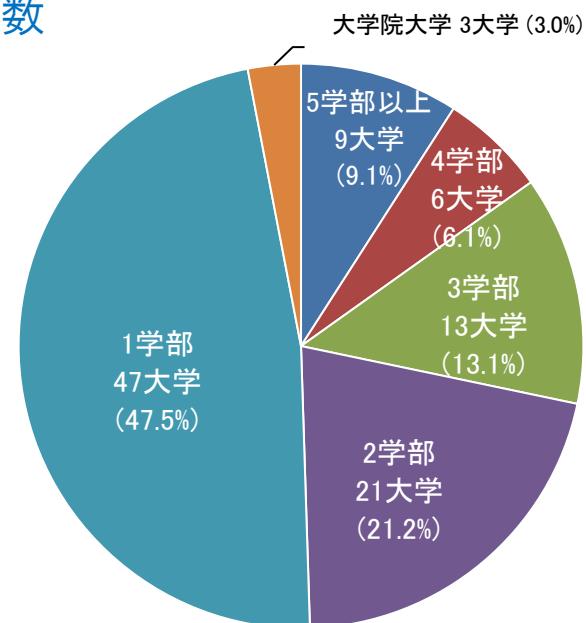
# 公立大学の特徴

- 公立大学は、都道府県立大学が62.6%であり、単科大学が半数となっている。近年は、中核市・一般市による設置が増えている。
- 地域のニーズに即した学部が設置されており、学生数2000人以下の大学が4分の3を占めている。

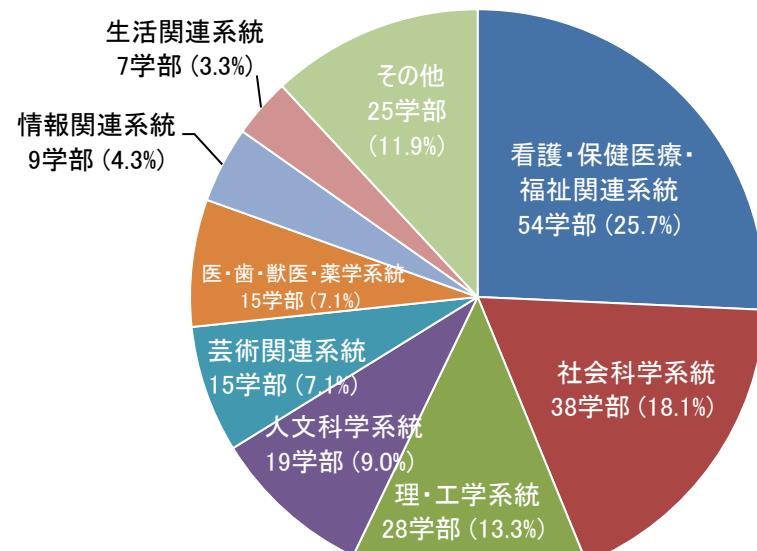
## ■設置団体の種別



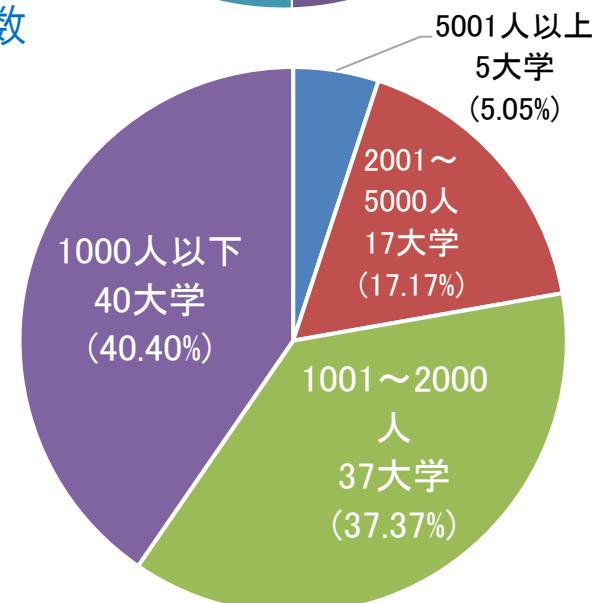
## ■設置している学部数 (大学院大学を除く)



## ■系統別学部数



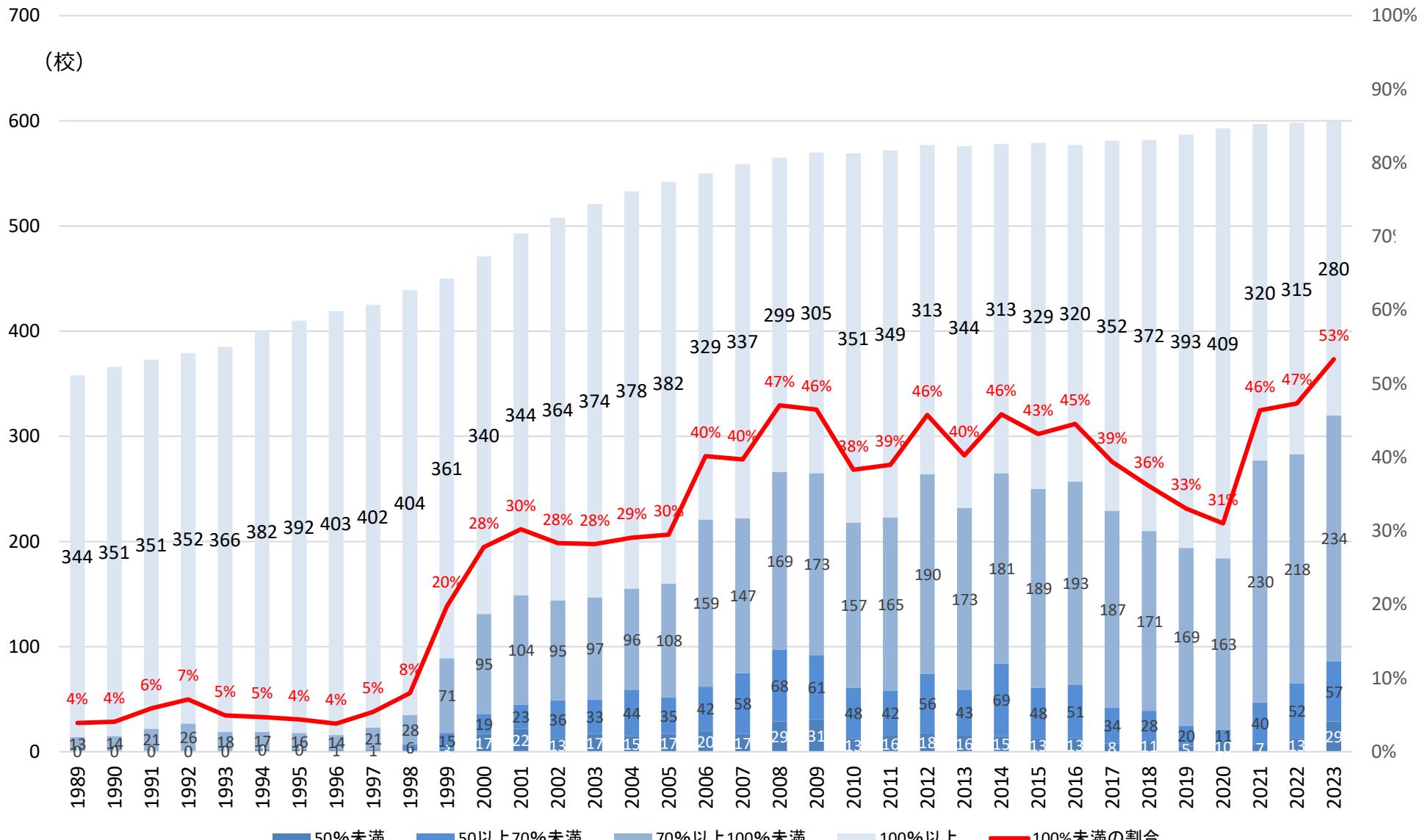
## ■学生数別大学数



出典：令和4年度公立大学実態調査を基に公立大学協会作成

# 定員未充足の私立大学数

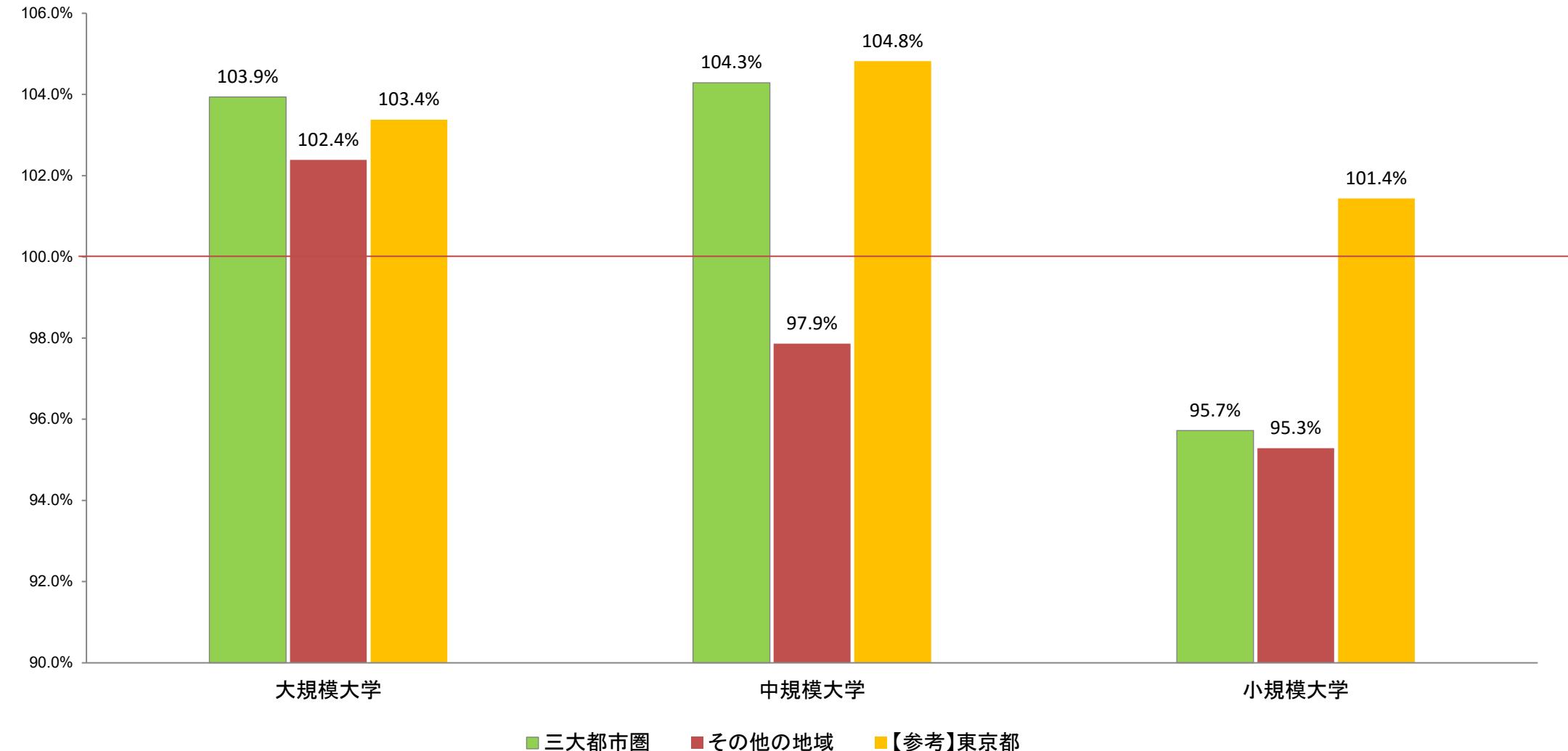
私立大学の5割以上が入学定員未充足状態となっている。



(出典) 日本私立学校振興・共済事業団「令和5(2023)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」より作成。

# 三大都市圏・地方の入学定員充足率（私立大学）

- 大規模大学は、三大都市圏と地方のどちらも定員を充足しているが、中小規模大学では、地方は定員割れとなっている。
- 小規模大学は、地方だけでなく三大都市圏であっても定員割れとなっているが、東京は定員を充足している。



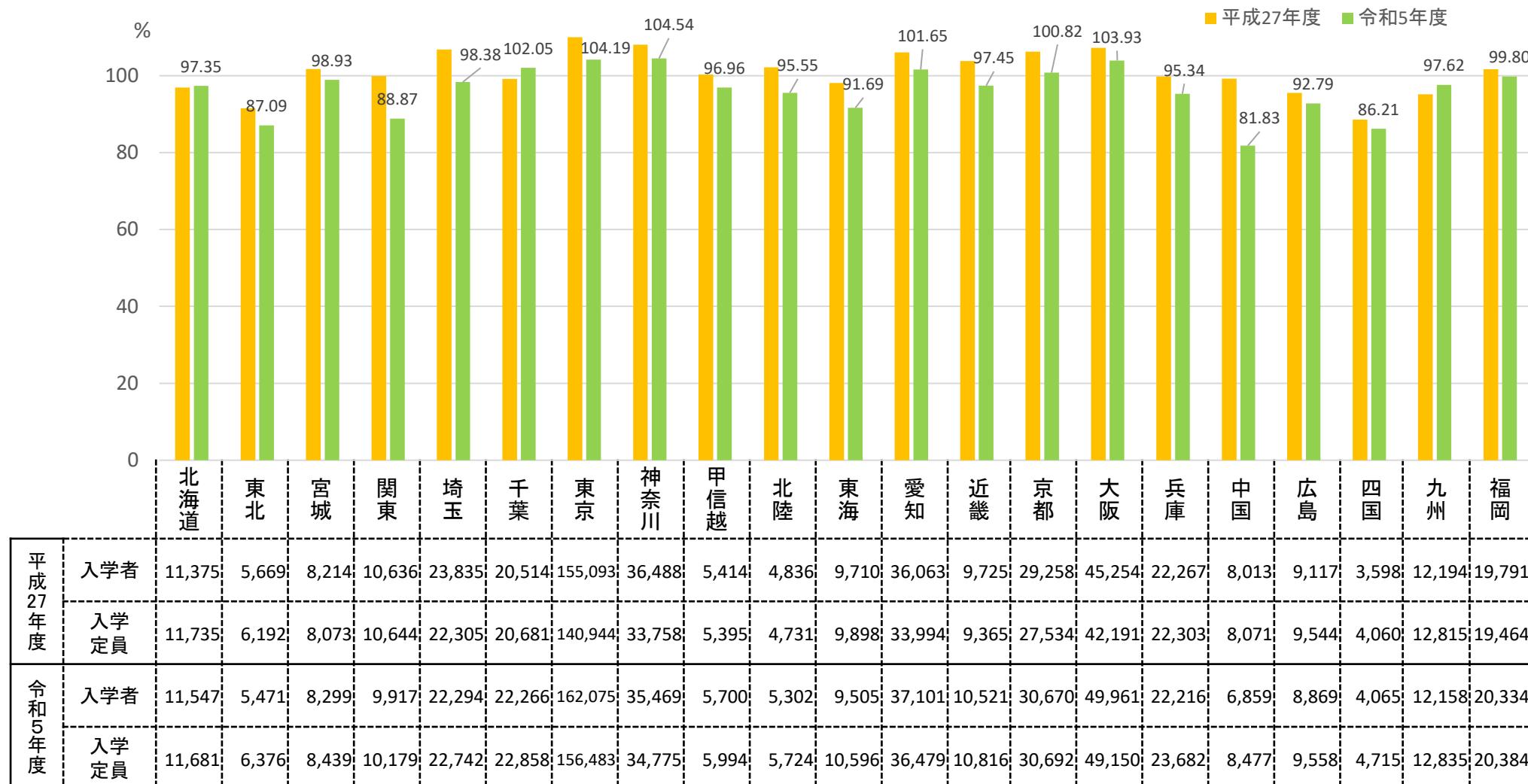
※大規模大学：収容定員が8,000人以上の大学、中規模大学：収容定員が4,000人～7,999人の大学、小規模大学：収容定員が3,999人以下の大学。

※三大都市圏は、埼玉・千葉・東京・神奈川・愛知・京都・大阪・兵庫。

※小数点第二位を四捨五入しているためグラフの合計値が一致しない場合がある。

# 私立大学における地域別の入学定員充足率

令和5年度における私大の入学定員充足率は、平成27年度と比較して、北海道・九州を除いた全地域で減少している。



## 地域区分

北海道(北海道)  
東北(青森・岩手・秋田・山形・福島)  
宮城(宮城)  
関東(茨城・栃木・群馬)

埼玉(埼玉)  
千葉(千葉)  
東京(東京)  
神奈川(神奈川)

甲信越(新潟・山梨・長野)  
北陸(富山・石川・福井)  
東海(岐阜・静岡・三重)  
愛知(愛知)

近畿(滋賀・奈良・和歌山)  
京都(京都)  
大阪(大阪)  
兵庫(兵庫)

中国(鳥取・島根・岡山・山口)  
広島(広島)  
四国(徳島、香川、愛媛、高知)  
九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)  
福岡(福岡)

(出典)日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」を基に作成

# 私立短期大学における地域別の入学定員充足率

令和5年度における私立短大の入学定員充足率は、平成27年度と比較して、全地域で減少している。



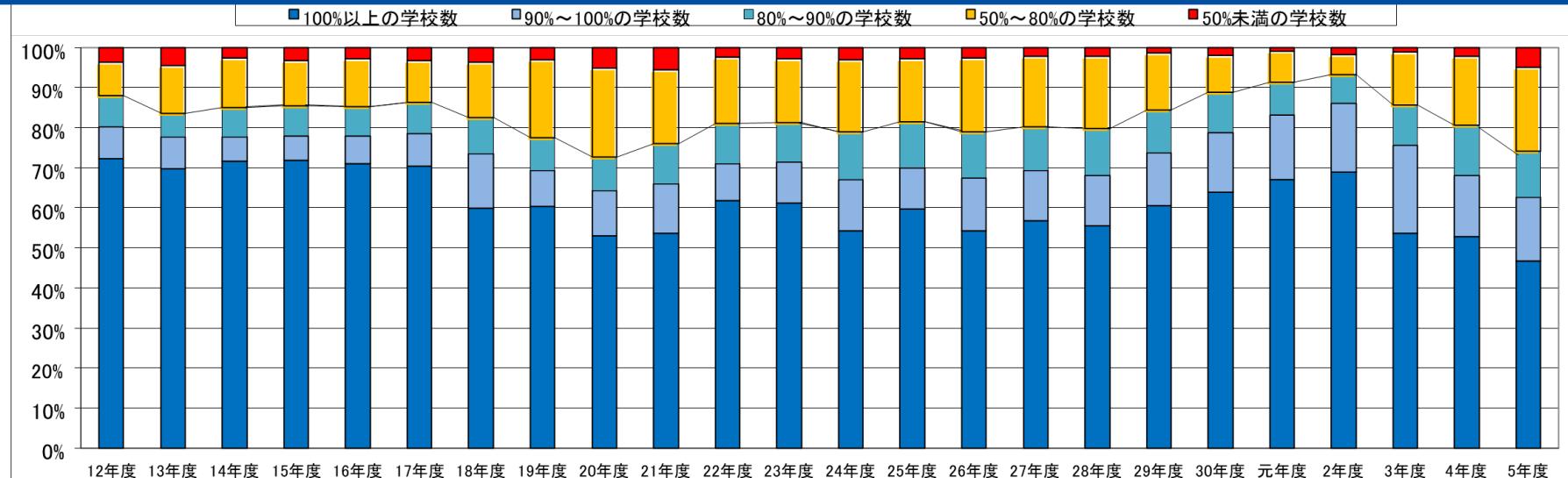
## 地域区分

北海道(北海道)	埼玉(埼玉)	甲信越(新潟・山梨・長野)	近畿(滋賀・奈良・和歌山)	中国(鳥取・島根・岡山・山口)
東北(青森・岩手・秋田・山形・福島)	千葉(千葉)	北陸(富山・石川・福井)	京都(京都)	広島(広島)
宮城(宮城)	東京(東京)	東海(岐阜・静岡・三重)	大阪(大阪)	四国(徳島、香川、愛媛、高知)
関東(茨城・栃木・群馬)	神奈川(神奈川)	愛知(愛知)	兵庫(兵庫)	九州(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

(出典)日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」を基に作成

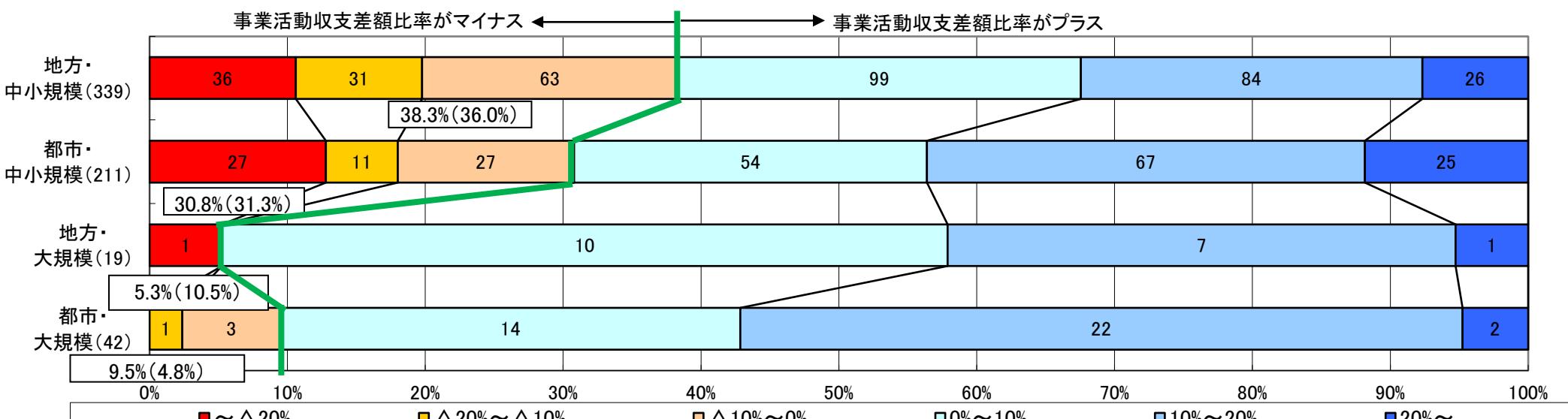
# 私立大学の経営状況について

私立大学の約53%が入学定員未充足（約26%が充足率80%未満）となっている。



(日本私立学校振興・共済事業団  
「令和5(2023)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」より作成)

地方・中小私大の収支状況は約4割が赤字傾向となっている。

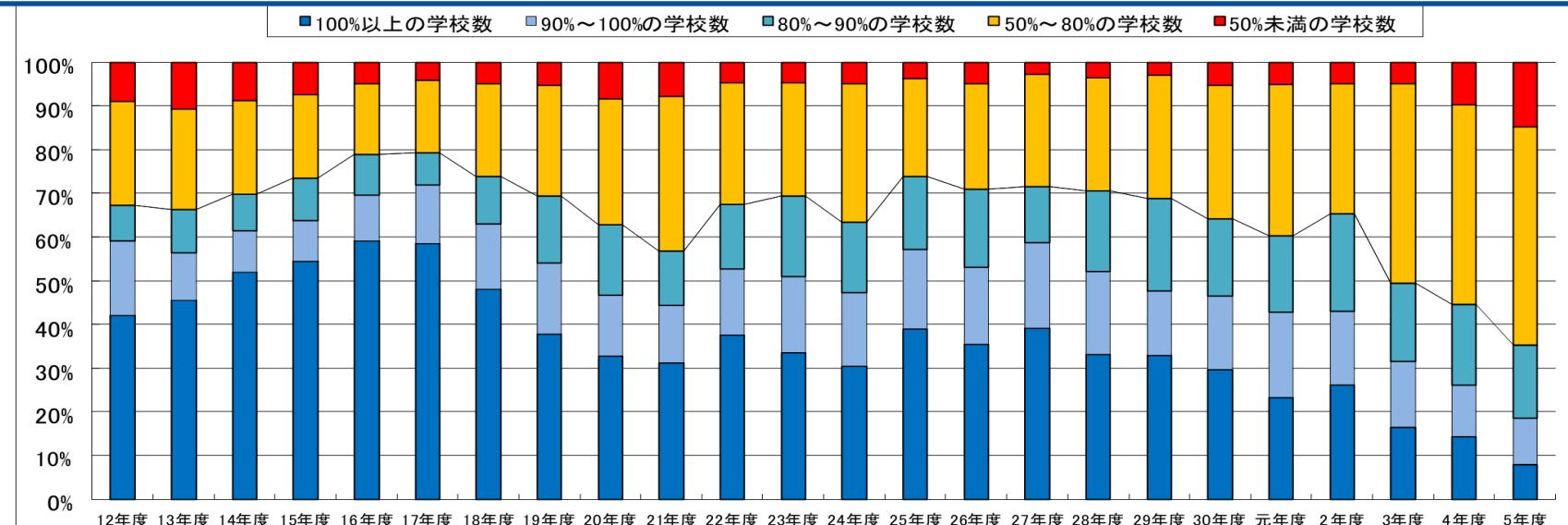


※ [ ] は事業活動収支差額比率がマイナスの割合で( )は前年度の割合

日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政（令和4年度版）」より作成

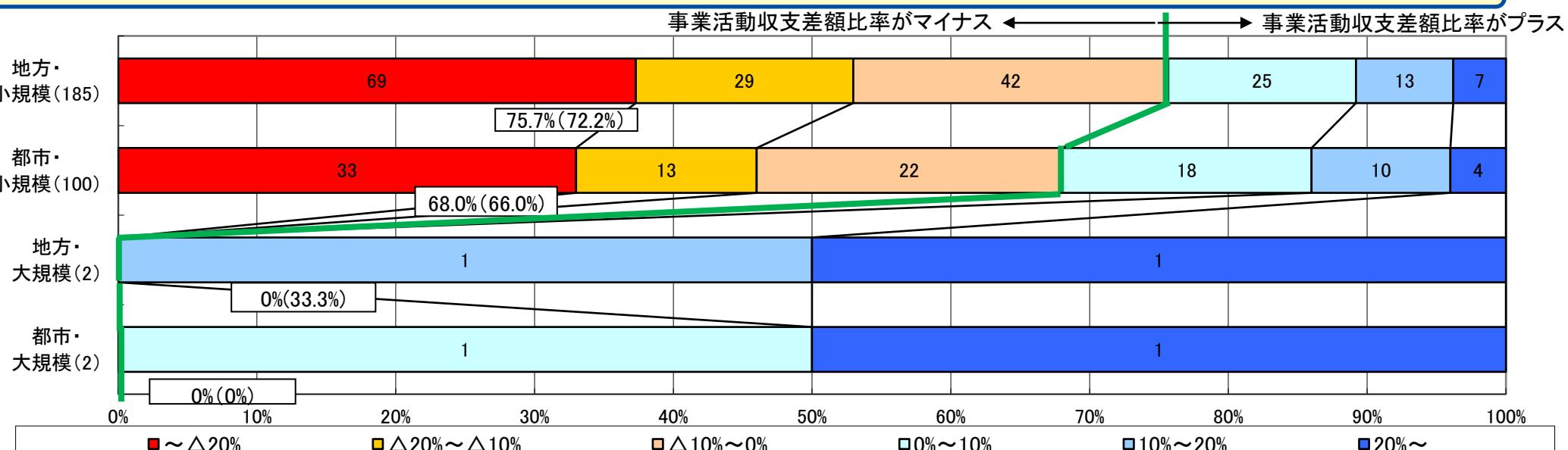
# 私立短期大学の経営状況について

私立短大の約92%が入学定員未充足（約65%が充足率80%未満）となっている。



(日本私立学校振興・共済事業団  
「令和5(2023)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」より作成)

地方・中小私立短大の収支状況は約7割が赤字傾向となっている。

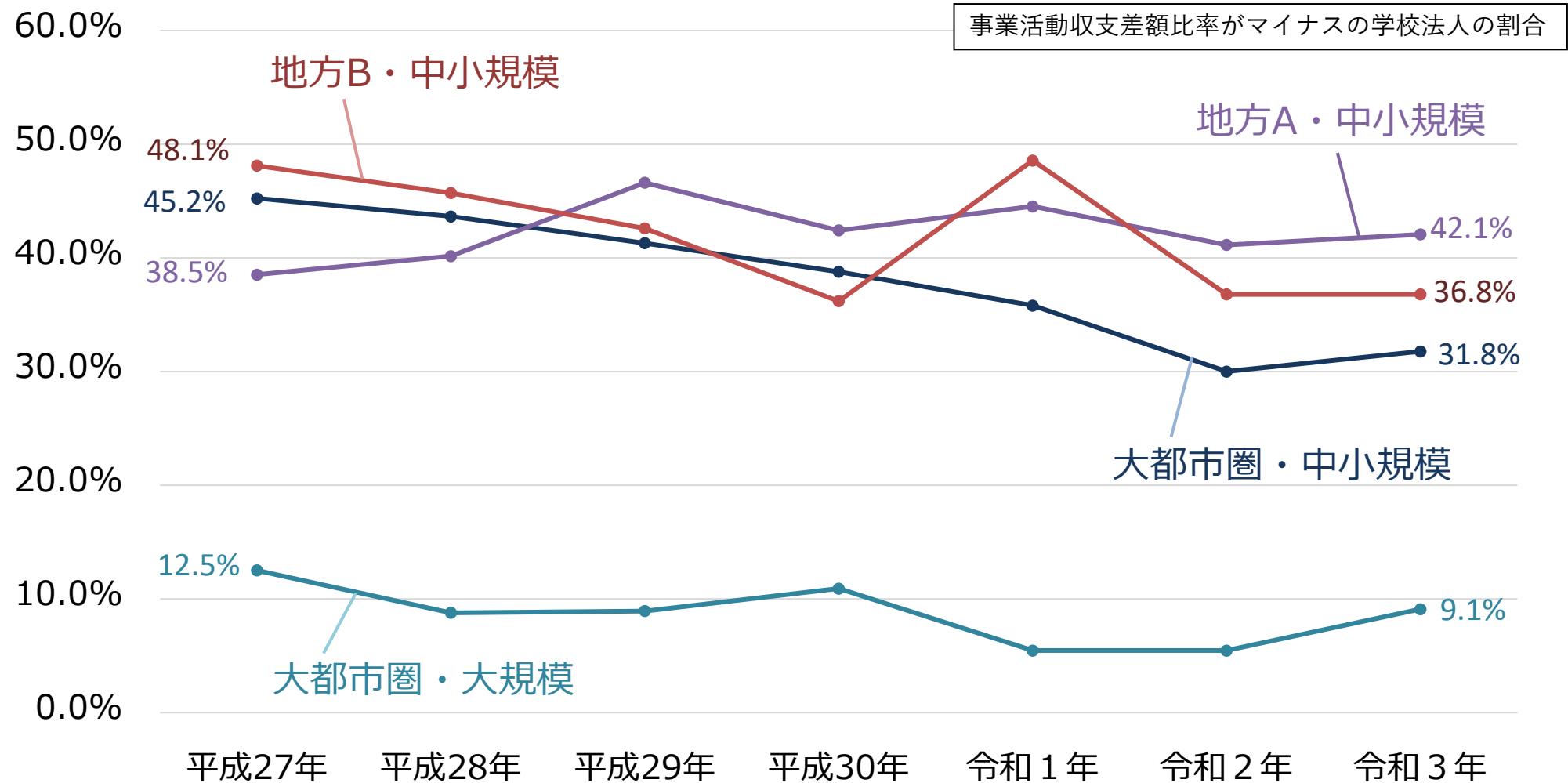


※ ( ) は事業活動収支差額比率がマイナスの割合で( )は前年度の割合

日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政(令和4年度版)」より作成

# 私立大学の経営状況の推移

事業活動収支差額比率（平成27年以降）がマイナスの私立大学（短期大学を除く）の割合は、地方A（北関東、北陸、甲信越、東海、東近畿、中国、四国）の中小規模の私立大学の赤字傾向が強まっている。



※大都市圏：東京圏、京阪神、愛知県の1都2府5県

※地方A：北関東、北陸、甲信越、東海、東近畿、中国、四国24県

※大規模：在籍学生数が8,000人以上

※地方B：北海道、東北、九州・沖縄の15県

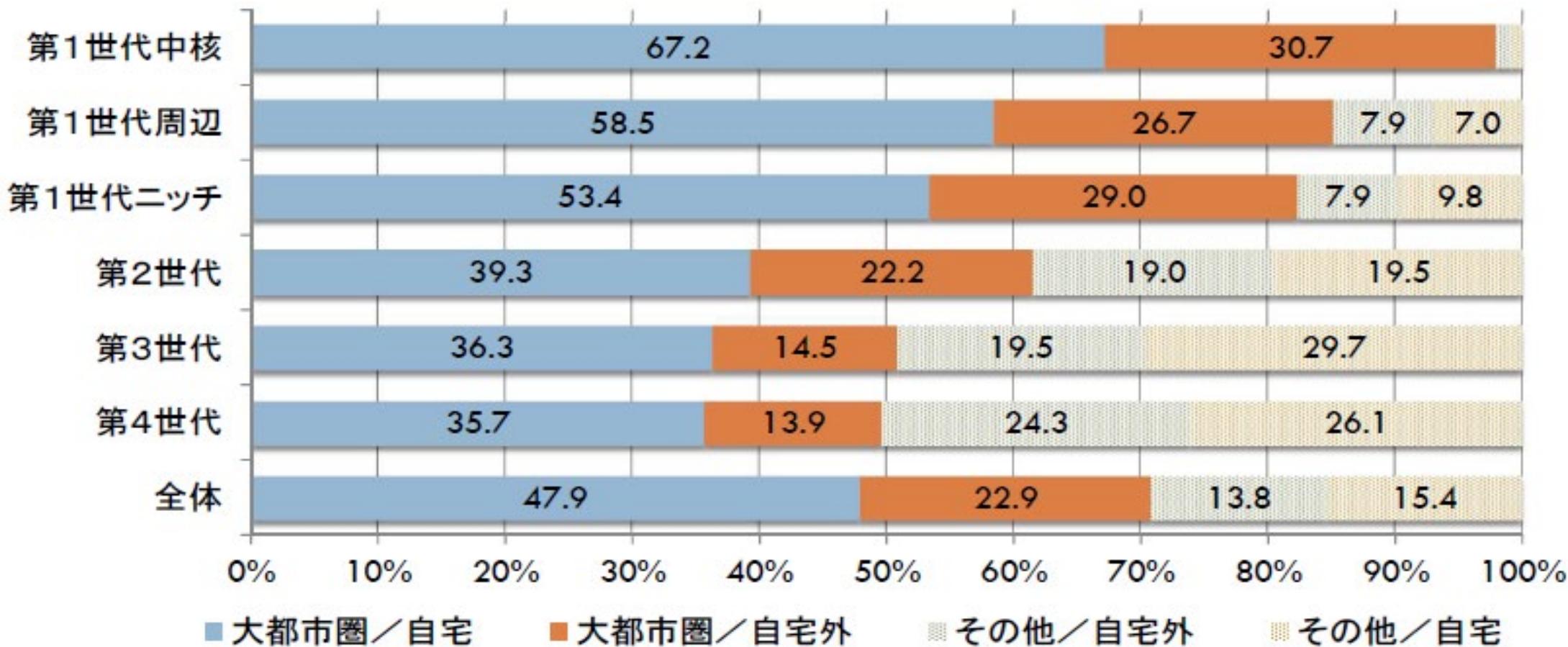
※中小規模：在籍学生数が8,000人未満

※地方A・大規模、地方B・大規模は該当する私立大学数が10以下のため省略

※大都市圏、地方A、地方Bの地域区分は、朴澤泰男「大学の受験パターンと出身地域の関係について」『高校生の高等教育進学動向に関する調査研究 第二次報告書』（2023年）を参照。

## 新設大学と地元進学

- 1975年以降に設置された私立大学（第3世代、第4世代）は、大都市圏（東京・神奈川・埼玉・千葉・京都・大阪・兵庫・愛知）以外の地域の学生が約半数となっており、地方における高等教育へのアクセスの拡大に寄与。
- 大都市圏以外の私立大学における自宅通学者は半数程度にとどまる。



※上記の私立大学の分類は、金子元久(1996)「高等教育大衆化の担い手」、『学習社会におけるマス高等教育の構造と機能に関する研究』、放送教育開発センター研究報告91, pp.37-59による。

第1世代：高等教育の大拡張期までに設立された大学（大学設置年～1959年）。中核大学は大規模で私立大学の中では中核的存在である大学10校。周辺大学は中核大学に含まれない規模が中～大の大学（1992年時点の在学者が4000人以上の大学）。ニッチ大学は特定の需要に対応しながら発展してきた小規模大学（女子大学、医歯薬系・宗教系・芸術系の単科大学）

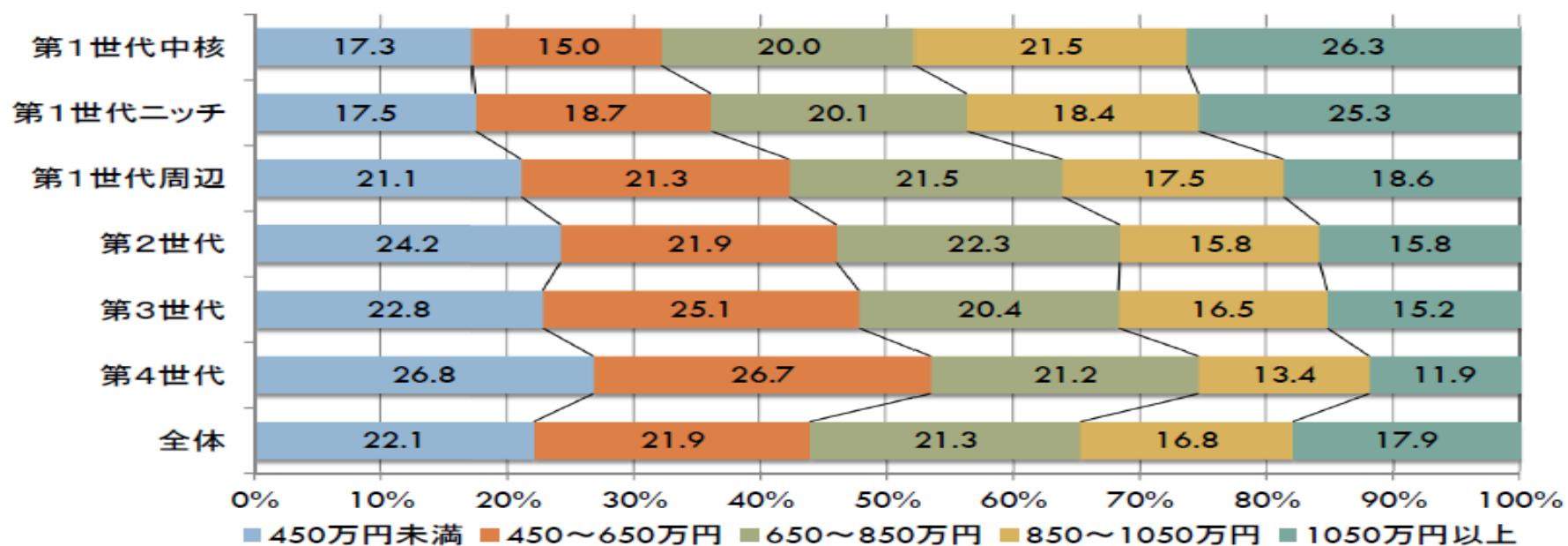
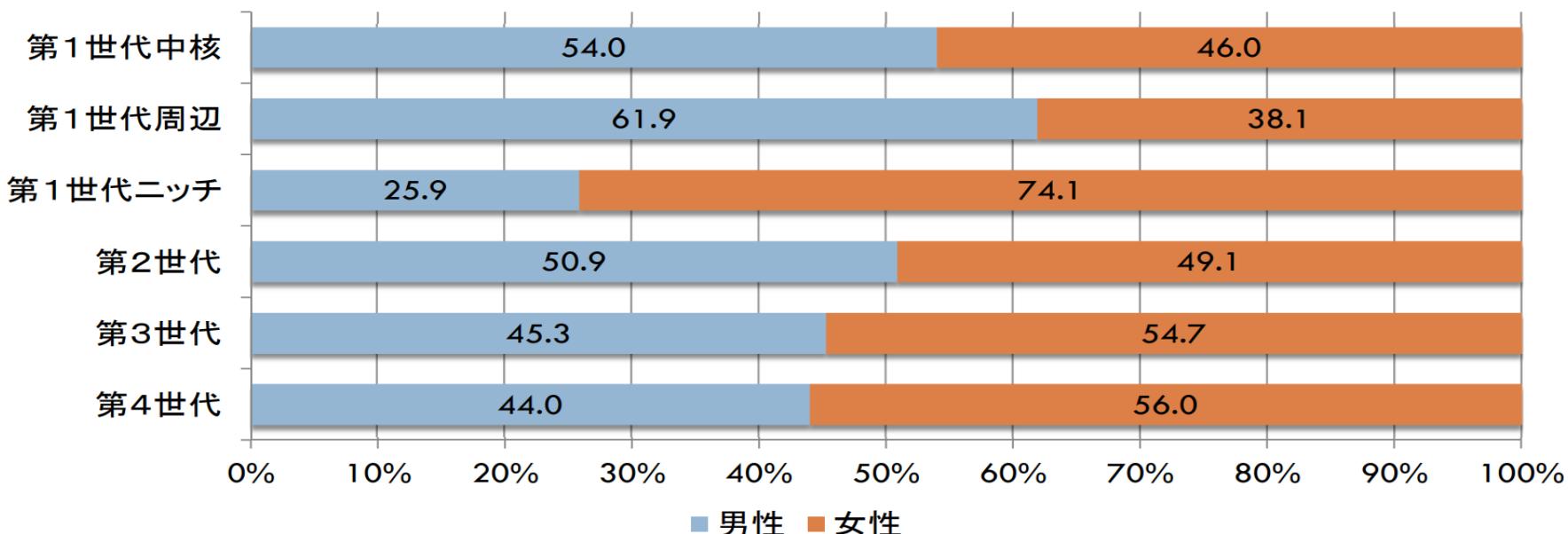
第2世代：高等教育大拡張期（1960～74年）に設立された大学。

第3世代：大拡張期以降（1975年～）に設立された大学。

第4世代：1998年以降に設立された大学。

# 新設大学の学生の特徴

1975年以降に設置された私立大学（第3世代、第4世代）は、女子学生や家計年収が低い学生の比率が比較的高い。

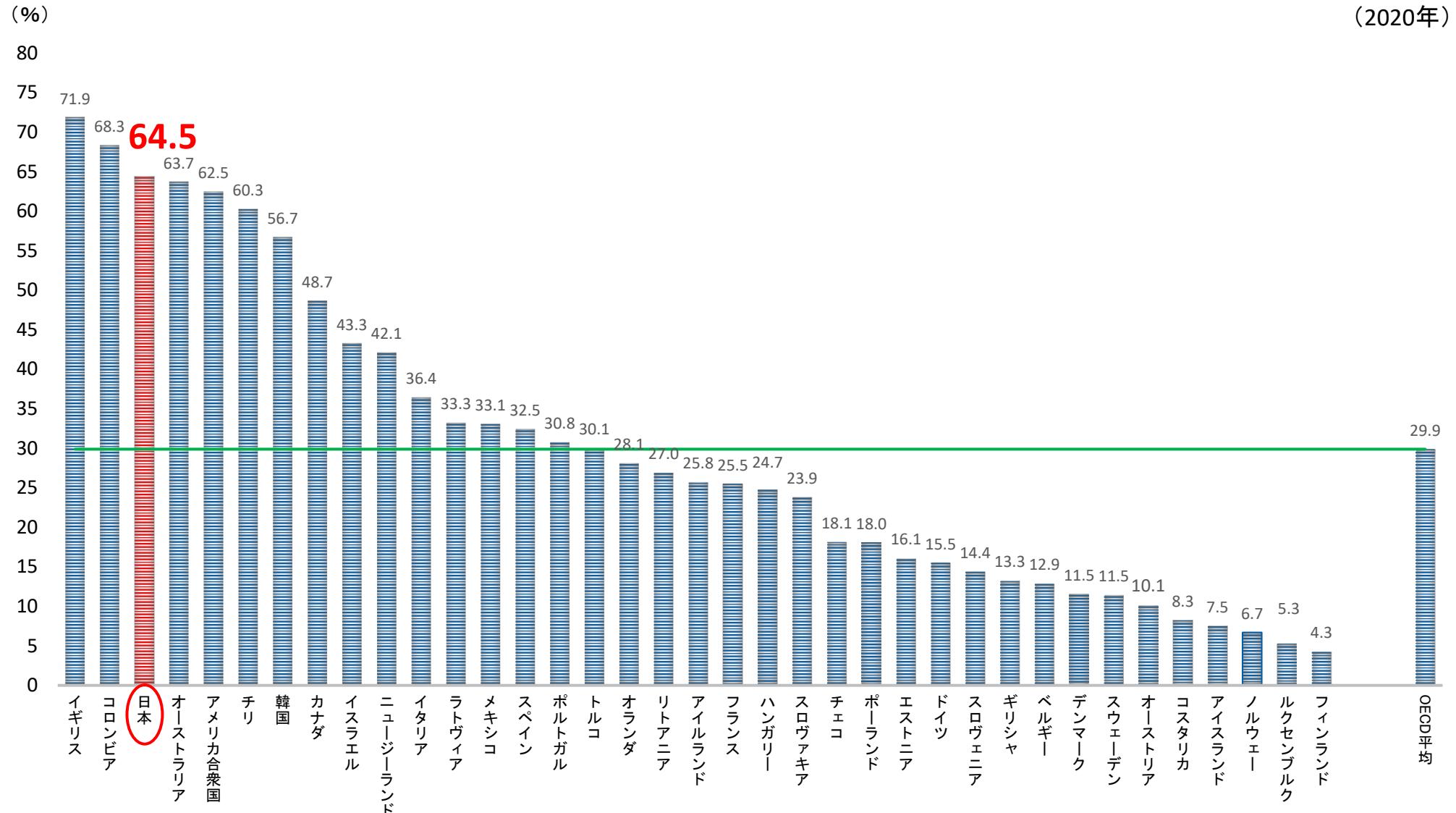


## （4）高等教育の改革を支える支援方策の在り方

関連データ

# 高等教育機関への教育支出における私費負担割合

高等教育段階における私費負担の割合は、OECD加盟国の中で高い水準。



注1：OECD加盟38か国のうち、スイスを除く。

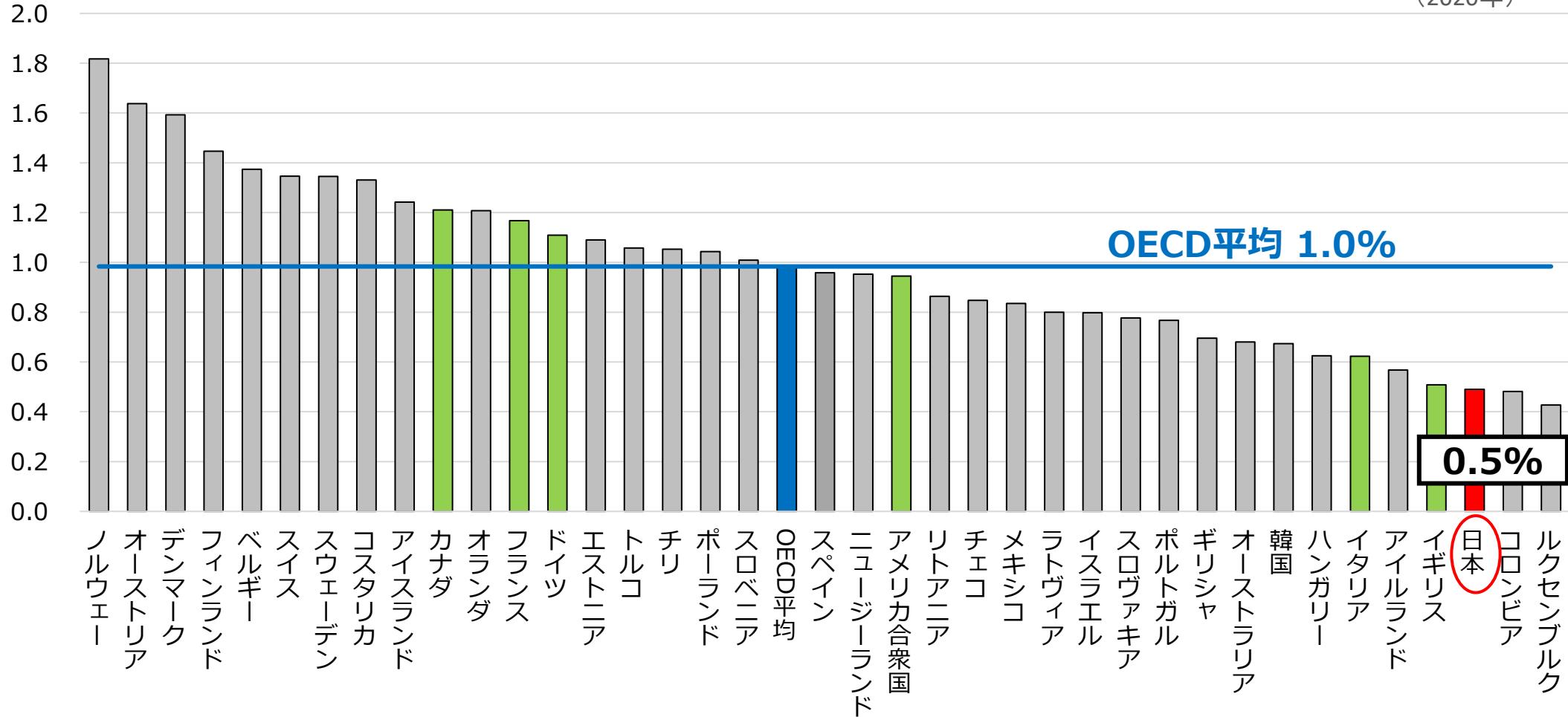
注2：他の教育段階に係るデータが一部含まれる。

# 高等教育段階の教育機関に対する公財政支出(対GDP比)

国の経済規模（GDP）に対して、教育機関への公財政支出は、OECD諸国の中で極めて低い水準。

(%)

(2020年)



※データはOECD加盟38か国。

※グラフ緑色は日本以外のG7諸国。

※我が国の参考年度は2020年度（令和2年度）。

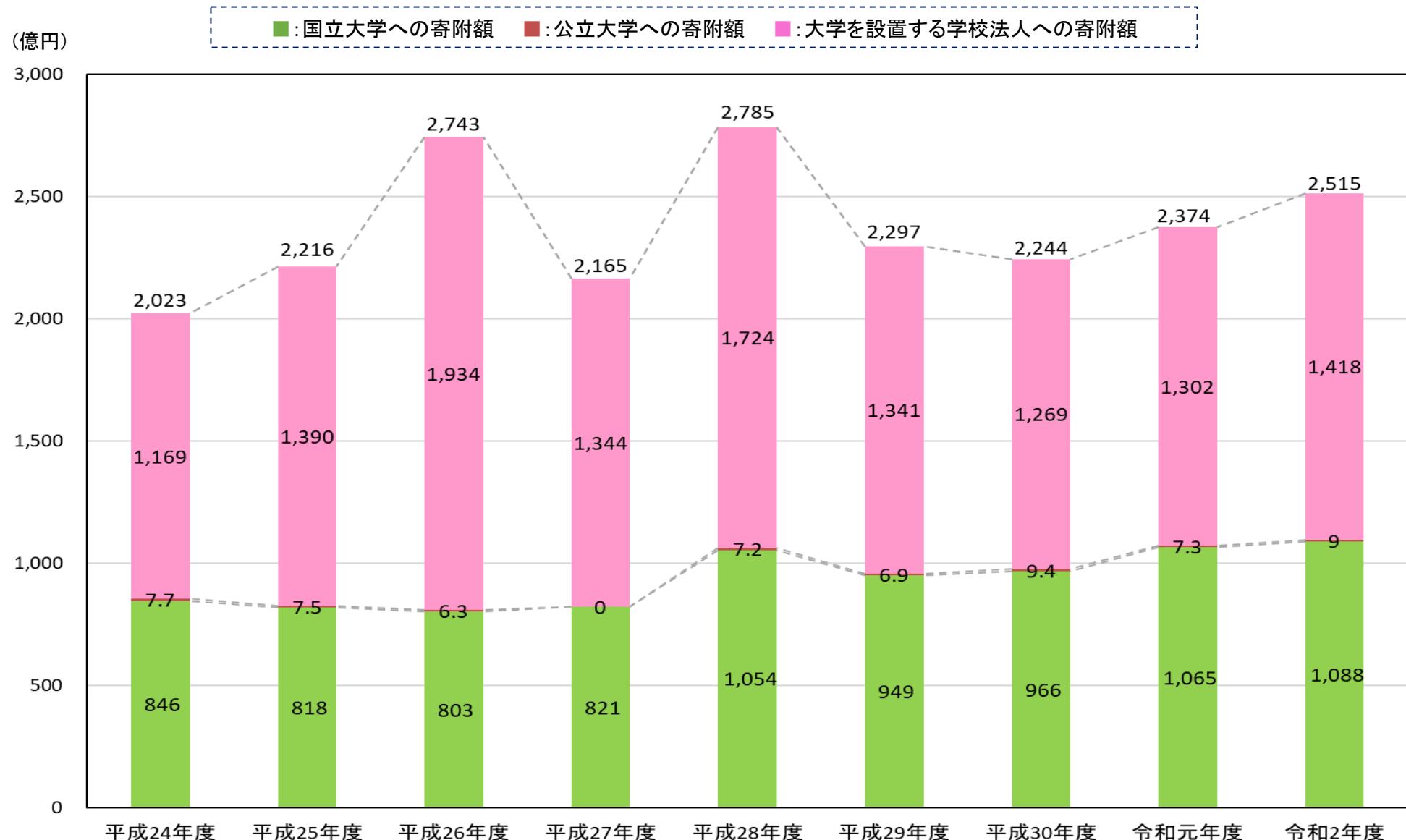
※奨学金等の個人補助を含まない。

※分類不可（教育行政費等）を含まない。

※我が国のデータは、他の教育段階に係るデータが一部含まれる。

# 寄附額の推移

大学等への寄附額は約2,515億円であり、うち、国立大学は1,088億円、公立大学は9億円、大学を設置する学校法人は1,418億円となっている。（令和2年度）



注) 大学を設置する学校法人への寄附について、平成26年度の寄附金受入額には、ある学校法人への巨額の現物寄附を含む。

【出典】国立大学への寄附：寄附の実績等に関する調査（文部科学省調べ）

公立大学への寄附：平成29年度公立実態調査より（文部科学省調べ）

大学を設置する学校法人への寄附：私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政（平成26年度版及び平成28年度版）」より文部科学省作成

# (別添) 将来推計

# 大学入学者数等の将来推計について【推計の考え方】

## 推計の考え方

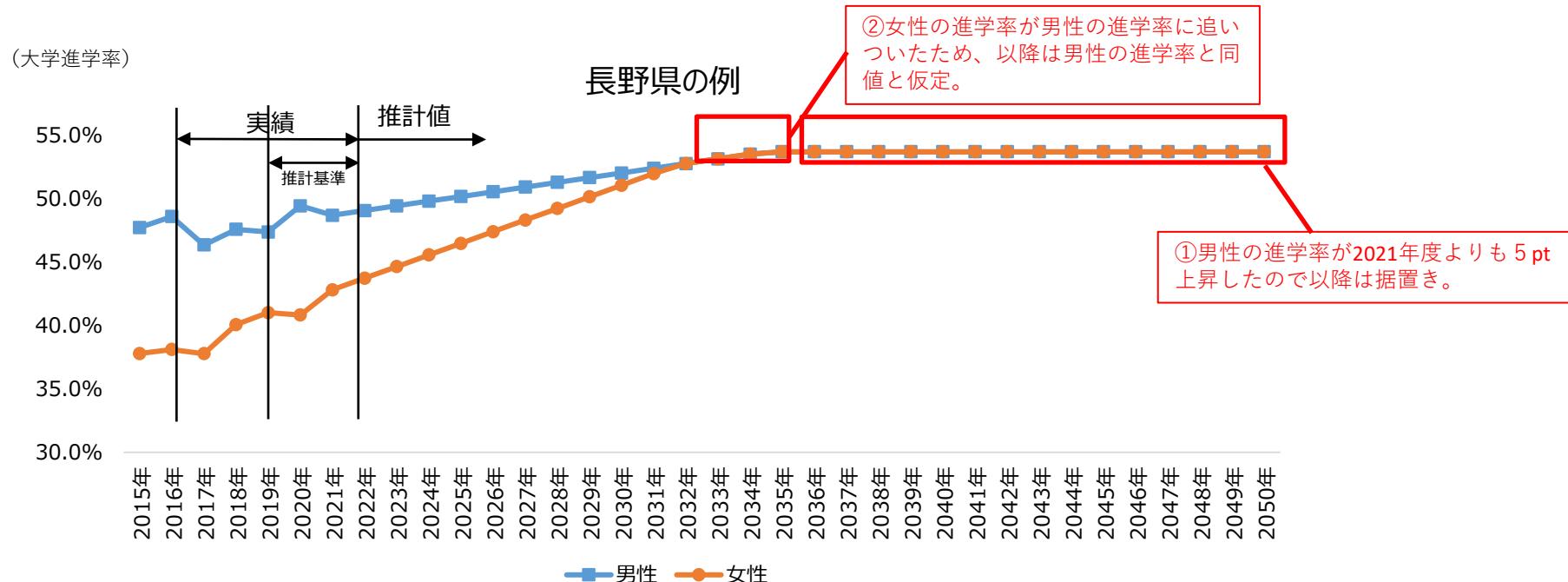
将来の大学入学者数(E)は、推計18歳人口(B)に推計大学進学率(A)を掛け算出される各都道府県からの大学進学者数(C)に、外国人留学生(D)等を足すことによって求められる。

### A.大学進学率の推計について

- 2018年度～2021年度における都道府県別、男女別の大学進学率の伸び率によって今後2050年まで大学進学率が上昇すると仮定して都道府県別に推計。

(例外)

- ①男性の進学率が2021年度と比較して5pt以上上回った場合、+5ptを上限として以降据置き。
- ②女性の進学率が男性の進学率を上回った場合、以降を男性の進学率と同値と仮定。
- ③進学率伸び率がマイナスの場合、2021年度の大学進学率が今後維持されると仮定。



## B.18歳人口の推計について

- 2040年から2050年までの18歳人口について以下の推計方法により都道府県別に18歳人口を推計。

2040年以降の日本の将来推計18歳人口（国立社会保障・人口問題研究所の推計）を2039年の都道府県比率で案分

（2020年度中の出生者数に各都道府県の生存率を乗算することにより、大学等に入学することが想定される2039年4月時点の18歳人口の都道府県比率を算出）

年	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050
推計18歳人口 (全国)	823,382	793,715	800,949	801,455	797,757	797,466	799,003	800,105	800,267	799,364	797,223

## C.各都道府県からの大学進学者数

- 各都道府県の推計18歳人口（B）に各都道府県の大学進学率（A）を掛けたものを合計することにより算出。

## D.外国人留学生の入学者数の推計について

- 2020年度～2022年度は新型コロナウィルス感染症の影響により外国人留学生数が一時的に激減したことを踏まえ、2019年度の外国人留学生数が維持されると推定。

## E.大学入学者数の推計について

- 各推計値に基づく（B）×（A）による都道府県別の大学進学者数の合計（C）に（D）及びその他を足したもののが2040年以降の大学入学者数の推計値となる。

※その他は高等学校卒業程度認定試験合格者・専修学校高等課程修了者で大学に進学した者

### 【（例）2040年の大学入学者数推計】

#### （B.18歳人口推計）

#### （A.大学進学率推計）

$$\text{北海道18歳人口 (男性) } 14,602 \times \text{北海道進学率 (男性) } 56.9\% = 8,307 \text{ 人}$$
$$\text{北海道18歳人口 (女性) } 13,898 \times \text{北海道進学率 (女性) } 56.9\% = 7,906 \text{ 人}$$

青森県 ...

$$\vdots$$
$$\text{沖縄県18歳人口 (男性) } 7,507 \times \text{沖縄県進学率 (男性) } 47.5\% = 3,565 \text{ 人}$$

$$\text{沖縄県18歳人口 (女性) } 7,134 \times \text{沖縄県進学率 (女性) } 47.5\% = 3,388 \text{ 人}$$

大学進学率 (全国) 59.6%  
(男性) 61.2% (女性) 57.9%

(C.2040年の各都道府県からの大学進学者数)

**490,781人**

(D.2040年の推計外国人留学生入学者数)

(その他)

**490,781人**

+ 17,096人

+ 2,233人

(E.2040年の推計大学入学者数)

**510,110人**

※四捨五入の関係上、四則演算の値と記載の数値は必ずしも一致しない

（注）グランドデザイン答申時の推計について

881,782人（推計18歳人口）×55.5%（大学進学率）（※）+16,724人（外国人留学生等）=506,005人

（※）GD答申時は外国人留学生も含めて進学率を57.4%としていたが、18歳人口推計値に訪日予定の外国人等は含まれていないため上記の記載としている。

大学入学定員の総数  
627,160人（R4）

# 2040年～2050年の進学率・進学者数推計結果

- 急速な人口減少に伴い、大学進学率の伸長を加味したとしても、2040年代の各都道府県の大学進学者数の合計は40万人台。
- 外国人留学生の数を加えても、現在の大学の入学定員の規模が維持された場合には、定員充足率は80%を割る年も見られた。
- 外国人留学生受入れ推進により、外国人留学生数がOECD並みになったとしても定員充足率は80%を超える程度、G7並みになったとしても、現在の大学の入学定員の総数（令和4年度 627,160人）と約10万人のギャップがある。

## 【外国人留学生比率が現状のまま（3.07%）であった場合】

年	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050
18歳人口	823,382	793,715	800,949	801,455	797,757	797,466	799,003	800,105	800,267	799,364	797,223
進学率	59.61%	59.68%	59.75%	59.82%	59.88%	59.94%	60.00%	60.06%	60.12%	60.17%	60.22%
(a)進学者数	490,781	473,671	478,559	479,415	477,722	478,034	479,436	480,570	481,105	480,972	480,092
(b)留学生等	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096
(c)その他	2,233	2,155	2,178	2,182	2,174	2,175	2,182	2,187	2,189	2,189	2,185
大学入学者数 ((a)+(b)+(c))	510,110	492,922	497,833	498,693	496,991	497,305	498,714	499,852	500,390	500,256	499,372
定員充足率	81.81%	79.05%	79.84%	79.98%	79.71%	79.76%	79.98%	80.17%	80.25%	80.23%	80.09%

## 【外国人留学生比率がOECD平均（4.77%）となった場合】

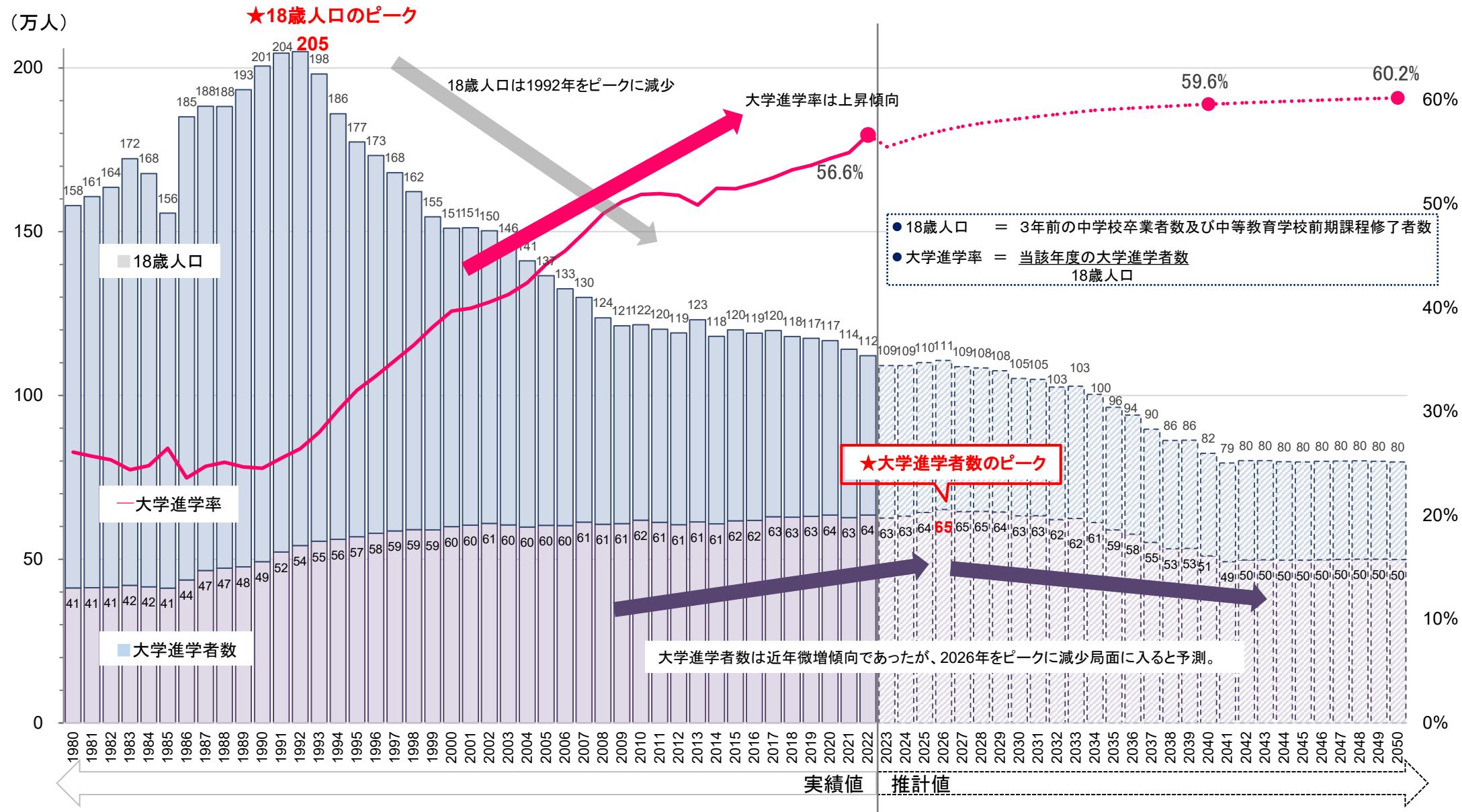
年	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050
18歳人口	823,382	793,715	800,949	801,455	797,757	797,466	799,003	800,105	800,267	799,364	797,223
(a)進学者数	490,781	473,671	478,559	479,415	477,722	478,034	479,436	480,570	481,105	480,972	480,092
(b)留学生等	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598	26,598
(c)その他	2,233	2,155	2,178	2,182	2,174	2,175	2,182	2,187	2,189	2,189	2,185
大学入学者数 ((a)+(b)+(c))	519,612	502,424	507,335	508,195	506,494	506,808	508,216	509,355	509,893	509,759	508,875
定員充足率	83.34%	80.58%	81.37%	81.50%	81.23%	81.28%	81.51%	81.69%	81.78%	81.75%	81.61%

## 【外国人留学生比率がG7平均（8.08%）となった場合】

年	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050
18歳人口	823,382	793,715	800,949	801,455	797,757	797,466	799,003	800,105	800,267	799,364	797,223
(a)進学者数	490,781	473,671	478,559	479,415	477,722	478,034	479,436	480,570	481,105	480,972	480,092
(b)留学生等	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084	45,084
(c)その他	2,233	2,155	2,178	2,182	2,174	2,175	2,182	2,187	2,189	2,189	2,185
大学入学者数 ((a)+(b)+(c))	538,098	520,910	525,821	526,681	524,980	525,293	526,702	527,841	528,378	528,244	527,360
定員充足率	86.30%	83.54%	84.33%	84.47%	84.20%	84.25%	84.47%	84.65%	84.74%	84.72%	84.58%

# 大学進学者数等の将来推計について

18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学率は上昇し、大学進学者数も増加傾向にあったが、2026年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に突入すると予測される。



# (参考) 2040年の各都道府県進学者数等推計 (2021年基準) ①

	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県
18歳人口【2021】	45,007	11,830	11,379	20,998	8,171	10,269	17,622	27,454	18,417	18,806	64,508	54,908
高校等卒業者数【2021】	40,596	11,056	10,585	19,412	7,586	9,555	16,130	25,234	17,183	16,849	56,216	49,294
大学進学者数【2021】	21,039	4,975	4,460	9,982	3,345	4,097	7,215	14,797	9,063	8,971	35,056	30,362
大学進学率【2021】	46.7%	42.1%	39.2%	47.5%	40.9%	39.9%	40.9%	53.9%	49.2%	47.7%	54.3%	55.3%
大学進学率(国公私別)【2021】	10.0% 3.4% 33.4% 12.0% 5.1% 25.0% 11.2% 5.4% 22.6% 9.3% 2.6% 35.6% 14.4% 4.4% 22.2% 11.0% 2.7% 26.2% 7.6% 3.2% 30.1% 8.5% 2.1% 43.3% 8.5% 2.0% 38.8% 7.9% 3.7% 36.0% 4.2% 0.9% 49.3% 4.3% 0.6% 50.4%											
短大進学率【2021】	4.1%	4.8%	4.2%	4.6%	5.9%	4.7%	5.0%	2.7%	4.0%	4.2%	3.5%	3.1%
専門学校進学率(現役)【2021】	20.8%	14.8%	17.8%	16.2%	16.5%	18.1%	15.6%	17.2%	16.9%	15.5%	16.1%	17.6%
大学数【2021】	37	10	6	14	7	6	8	10	9	15	27	27
大学数(国公私別)【2021】	7 6 24 1 2 7 1 1 4 2 1 11 1 3 3 1 2 3 1 2 5 3 1 6 1 0 8 1 4 10 1 1 25 1 1 25											
入学定員【2021】	18,806	3,363	2,509	11,511	2,090	2,766	3,579	6,461	4,668	5,785	28,855	25,751
入学定員(国公私別)【2021】	5,600 1,345 11,861 1,322 516 1,525 1,030 440 1,039 2,722 420 8,369 955 665 470 1,663 145 958 945 599 2,035 3,760 170 2,531 910 0 3,758 1,098 1,482 3,205 1,535 395 26,925 2,592 180 22,979											
大学入学者数【2021】	19,119	3,407	2,544	11,713	2,075	2,792	3,451	6,697	4,823	5,983	28,847	27,402
(国公私別)【2021】	5,756 1,434 11,929 1,371 549 1,487 1,068 473 1,003 2,779 453 8,481 985 694 396 1,690 148 954 991 605 1,855 3,829 171 2,697 929 0 3,894 1,142 1,551 3,290 1,598 406 26,843 2,635 180 24,587											
県外から流入【2021】	4,954	1,363	1,281	6,061	1,194	1,868	1,822	3,727	2,639	3,249	18,497	17,051
県内から流出【2021】	6,874	2,931	3,197	4,330	2,464	3,173	5,586	11,827	6,879	6,237	24,706	20,011
流出入差(流入-流出)【2021】	-1,921	-1,568	-1,916	1,731	-1,270	-1,305	-3,764	-8,101	-4,240	-2,988	-6,209	-2,961
自県進学率【2021】	67.3%	41.1%	28.3%	56.6%	26.3%	22.6%	22.6%	20.1%	24.1%	30.5%	29.5%	34.1%
18歳人口推計【2040】	28,500	6,466	6,434	13,971	4,306	5,967	10,142	17,097	11,623	11,517	46,401	39,801
大学進学者数推計【2040】	16,213	2,905	2,719	7,090	1,996	2,522	4,661	10,443	5,943	5,833	27,982	24,374
大学進学率推計【2040】	56.9%	44.9%	42.3%	50.7%	46.3%	42.3%	46.0%	61.1%	51.1%	50.7%	60.3%	61.2%
大学入学者数推計【2040】	15,553	2,772	2,070	9,529	1,688	2,271	2,807	5,448	3,924	4,867	23,468	22,292
(国公私別)【2040】	4,683 1,167 9,704 1,115 447 1,210 869 385 816 2,261 369 6,899 801 565 322 1,375 120 776 806 492 1,509 3,115 139 2,194 756 0 3,168 929 1,262 2,676 1,300 330 21,837 2,144 146 20,002											
入学定員充足率推計【2040】	82.7%	82.4%	82.5%	82.8%	80.8%	82.1%	78.4%	84.3%	84.1%	84.1%	81.3%	86.6%
(国公私別)【2040】	83.6% 86.7% 81.8% 84.4% 86.6% 79.3% 84.4% 87.5% 78.5% 83.1% 87.7% 82.4% 83.9% 84.9% 68.5% 82.7% 83.0% 81.0% 85.3% 82.2% 74.2% 82.8% 81.8% 86.7% 83.1% - 84.3% 84.6% 85.1% 83.5% 84.7% 83.6% 81.1% 82.7% 81.4% 87.0%											

# (参考) 2040年の各都道府県進学者数等推計(2021年基準)②

	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
18歳人口【2021】	104,150	78,433	19,807	9,656	10,574	7,584	7,768	20,242	20,034	34,622	71,537	17,458
高校等卒業者数【2021】	101,997	67,477	18,071	8,898	10,073	7,246	7,874	18,424	17,986	31,948	63,402	15,401
大学進学者数【2021】	78,180	44,498	8,698	4,561	5,607	4,104	5,018	9,269	9,760	16,879	38,573	7,864
大学進学率【2021】	75.1%	56.7%	43.9%	47.2%	53.0%	54.1%	64.6%	45.8%	48.7%	48.8%	53.9%	45.0%
大学進学率(国公私別)【2021】	6.7% 1.0% 67.3% 3.7% 1.2% 51.8% 9.6% 4.0% 30.4% 13.5% 5.6% 28.2% 13.7% 5.2% 34.1% 14.6% 6.3% 33.3% 9.5% 5.7% 49.4% 8.5% 4.1% 33.2% 9.1% 3.2% 36.4% 8.4% 3.9% 36.4% 9.6% 3.0% 41.3% 8.7% 2.5% 33.8%											
短大進学率【2021】	1.9%	2.9%	3.8%	6.4%	5.7%	4.8%	5.4%	6.9%	5.4%	3.5%	3.1%	4.9%
専門学校進学率(現役)【2021】	11.8%	14.7%	24.6%	15.8%	13.5%	13.9%	17.9%	19.5%	12.4%	15.7%	12.1%	12.8%
大学数【2021】	146	32	22	5	14	6	7	11	13	14	52	7
大学数(国公私別)【2021】	12 2 132 2 2 28 3 4 15 1 1 3 2 4 8 1 2 3 1 2 4 1 4 6 1 3 9 2 4 8 4 3 45 1 1 5											
入学定員【2021】	153,377	44,893	6,699	2,575	6,502	2,300	4,169	4,020	4,940	8,090	41,964	3,190
入学定員(国公私別)【2021】	9,716 1,570 142,091 1,662 1,130 42,101 2,467 765 3,467 1,770 495 310 1,726 590 4,186 855 450 995 825 990 2,354 1,978 960 1,082 1,240 200 3,500 2,145 935 5,010 3,976 1,764 36,224 1,310 100 1,780											
大学入学者数【2021】	153,519	45,619	6,592	2,588	6,492	2,362	4,245	4,163	4,825	7,970	42,461	3,303
(国公私別)【2021】	10,055 1,592 141,872 1,697 1,174 42,748 2,547 826 3,219 1,832 480 276 1,764 620 4,108 895 485 982 851 1,075 2,319 2,023 1,007 1,133 1,265 220 3,340 2,166 1,051 4,753 4,092 1,830 36,539 1,335 102 1,866											
県外から流入【2021】	100,599	28,384	3,132	1,640	3,813	1,083	3,012	2,276	2,679	3,165	14,960	1,554
県内から流出【2021】	25,261	27,263	5,238	3,613	2,928	2,825	3,785	7,382	7,614	12,074	11,072	6,115
流出入差(流入-流出)【2021】	75,339	1,121	-2,106	-1,973	885	-1,742	-773	-5,106	-4,935	-8,909	3,888	-4,561
自県進学率【2021】	67.7%	38.7%	39.8%	20.8%	47.8%	31.2%	24.6%	20.4%	22.0%	28.5%	71.3%	22.2%
18歳人口推計【2040】	102,821	57,768	12,502	6,165	7,369	5,142	5,006	12,557	12,172	21,904	54,496	11,241
大学進学者数推計【2040】	82,811	35,649	6,084	3,355	4,423	3,121	3,669	6,738	6,854	10,888	31,686	5,508
大学進学率推計【2040】	80.5%	61.7%	48.7%	54.4%	60.0%	60.7%	73.3%	53.7%	56.3%	49.7%	58.1%	49.0%
大学入学者数推計【2040】	124,890	37,112	5,363	2,105	5,281	1,922	3,453	3,387	3,925	6,484	34,543	2,687
(国公私別)【2040】	8,180 1,295 115,415 1,381 955 34,776 2,072 672 2,619 1,490 390 225 1,435 504 3,342 728 395 799 692 875 1,887 1,646 819 922 1,029 179 2,717 1,762 855 3,867 3,329 1,489 29,725 1,086 83 1,518											
入学定員充足率推計【2040】	81.4%	82.7%	80.1%	81.8%	81.2%	83.5%	82.8%	84.2%	79.5%	80.1%	82.3%	84.2%
(国公私別)【2040】	84.2% 82.5% 81.2% 83.1% 84.5% 82.6% 84.0% 87.8% 75.5% 84.2% 78.9% 72.4% 83.1% 85.5% 79.8% 85.2% 87.7% 80.3% 83.9% 88.3% 80.1% 83.2% 85.3% 85.2% 83.0% 89.5% 77.6% 82.1% 91.4% 77.2% 83.7% 84.4% 82.1% 82.9% 83.0% 85.3%											

# (参考) 2040年の各都道府県進学者数等推計(2021年基準)③

	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
18歳人口【2021】	14,328	23,145	79,549	51,482	12,973	8,809	5,195	6,233	18,190	26,108	12,219	6,581
高校等卒業者数【2021】	12,836	22,526	71,803	45,157	11,585	8,163	4,820	6,014	17,342	22,985	10,855	6,054
大学進学者数【2021】	7,185	15,965	47,469	29,769	7,877	4,366	2,177	2,748	9,328	14,387	4,706	3,246
大学進学率【2021】	50.1%	69.0%	59.7%	57.8%	60.7%	49.6%	41.9%	44.1%	51.3%	55.1%	38.5%	49.3%
大学進学率(国公私別)【2021】	6.7% 3.3% 40.1% 8.6% 4.2% 56.1%	5.9% 3.0% 50.7% 8.9% 4.2% 44.8%	10.5% 3.9% 46.3% 9.5% 3.9% 36.2%	14.2% 5.1% 22.6% 12.5% 7.0% 24.6%	12.7% 4.2% 34.4% 11.4% 5.2% 38.5%	10.0% 4.9% 23.6% 16.0% 3.4% 29.9%						
短大進学率【2021】	4.7%	4.1%	4.6%	3.6%	4.2%	4.0%	7.2%	5.0%	4.0%	2.9%	4.5%	4.0%
専門学校進学率(現役)【2021】	15.3%	13.1%	13.7%	12.1%	11.2%	16.6%	18.0%	20.1%	17.3%	10.7%	14.2%	14.9%
大学数【2021】	9	34	56	36	11	5	3	2	18	21	10	4
大学数(国公私別)【2021】	2 1 6	3 4 27	2 2 52	2 4 30	3 2 6	1 1 3	1 1 1	1 1 0	1 2 15	1 5 15	1 3 6	2 0 2
入学定員【2021】	7,548	35,123	54,721	27,777	4,858	2,035	1,519	1,617	9,905	13,399	4,211	2,893
入学定員(国公私別)【2021】	945 600 6,003 3,706 1,046 30,371	4,155 2,863 47,703 2,690 1,902 23,185	730 348 3,780 890 280 865	1,139 300 80	1,157 460 0	2,195 550 7,160	2,336 1,570 9,493	1,917 1,084 1,210	1,388 0 1,505			
大学入学者数【2021】	7,661	35,049	56,375	27,050	4,777	2,038	1,554	1,682	9,068	13,328	4,306	2,638
(国公私別)【2021】	957 625 6,079 3,820 1,082 30,147	4,278 2,943 49,154 2,767 1,897 22,386	770 348 3,659 939 281 818	1,161 315 78	1,206 476 0	2,257 577 6,234	2,407 1,677 9,244	1,965 1,113 1,228	1,422 0 1,216			
県外から流入【2021】	6,052	26,717	28,439	13,866	3,648	1,261	1,223	1,203	5,111	5,662	3,090	1,455
県内から流出【2021】	5,576	7,633	19,533	16,585	6,748	3,589	1,846	2,269	5,371	6,721	3,490	2,063
流出入差(流入-流出)【2021】	476	19,084	8,906	-2,719	-3,100	-2,328	-623	-1,066	-260	-1,059	-400	-608
自県進学率【2021】	22.4%	52.2%	58.9%	44.3%	14.3%	17.8%	15.2%	17.4%	42.4%	53.3%	25.8%	36.4%
18歳人口推計【2040】	10,577	16,391	57,966	35,927	8,025	5,623	3,616	4,373	13,161	18,831	7,908	4,327
大学進学者数推計【2040】	6,243	12,389	40,022	23,042	5,548	3,279	1,754	2,040	7,694	10,398	3,046	2,298
大学進学率推計【2040】	59.0%	75.6%	69.0%	64.1%	69.1%	58.3%	48.5%	46.7%	58.5%	55.2%	38.5%	53.1%
大学入学者数推計【2040】	6,232	28,513	45,862	22,006	3,886	1,658	1,264	1,368	7,377	10,843	3,503	2,146
(国公私別)【2040】	779 508 4,945 3,108 880 24,525	3,480 2,394 39,988 2,251 1,543 18,211	626 283 2,977 764 229 665	944 256 63	981 387 0	1,836 469 5,071	1,958 1,364 7,520	1,599 905 999	1,157 0 989			
入学定員充足率推計【2040】	82.6%	81.2%	83.8%	79.2%	80.0%	81.5%	83.2%	84.6%	74.5%	80.9%	83.2%	74.2%
(国公私別)【2040】	82.4% 84.7% 82.4% 83.9% 84.2% 80.8%	83.8% 83.6% 83.8% 83.7% 81.1% 78.5%	85.8% 81.4% 78.7% 85.8% 81.6% 76.9%	82.9% 85.4% 79.3%	84.8% 84.2% -	83.6% 85.3% 70.8%	83.8% 86.9% 79.2%	83.4% 83.5% 82.6%	83.3% - 65.7%			

# (参考) 2040年の各都道府県進学者数等推計 (2021年基準) ④

	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他
18歳人口【2021】	9,310	12,483	6,184	46,524	8,412	12,691	16,741	10,244	10,517	15,625	16,363	
高校等卒業者数【2021】	8,593	11,445	5,891	41,516	7,697	11,857	15,073	9,745	9,842	14,227	14,424	
大学進学者数【2021】	4,840	6,144	2,845	22,333	3,455	5,434	7,075	4,091	4,180	6,126	7,002	17,919
大学進学率【2021】	52.0%	49.2%	46.0%	48.0%	41.1%	42.8%	42.3%	39.9%	39.7%	39.2%	42.8%	
大学進学率(国公私別)【2021】	13.5% 3.7% 34.7%	14.8% 4.2% 30.2%	9.9% 6.2% 29.8%	9.3% 3.0% 35.7%	12.3% 2.1% 26.7%	14.2% 5.3% 23.3%	10.1% 3.4% 28.8%	13.5% 4.2% 22.3%	12.8% 4.2% 22.8%	12.0% 2.4% 24.8%	9.6% 3.4% 29.8%	
短大進学率【2021】	4.8%	4.5%	4.3%	4.4%	4.2%	3.8%	3.2%	7.1%	4.7%	7.2%	3.6%	
専門学校進学率(現役)【2021】	15.8%	17.1%	16.1%	16.1%	16.5%	15.5%	18.1%	20.1%	16.1%	19.6%	24.0%	
大学数【2021】	4	5	5	35	2	8	9	5	7	6	8	
大学数(国公私別)【2021】	1 1 2	1 1 3	1 2 2	3 4 28	1 0 1	1 1 6	1 1 7	1 1 3	1 2 4	2 0 4	1 3 4	
入学定員【2021】	2,189	3,860	2,215	25,761	1,818	3,986	5,712	3,520	2,335	3,683	3,972	
入学定員(国公私別)【2021】	1,239 90 860	1,770 100 1,990	1,075 860 280	4,110 1,999 19,652	1,278 0 540	1,641 730 1,615	1,667 480 3,565	1,070 80 2,370	1,035 300 1,000	2,053 0 1,630	1,547 640 1,785	
大学入学者数【2021】	2,092	3,875	2,212	25,963	1,817	3,914	5,643	3,029	2,174	3,652	4,153	
(国公私別)【2021】	1,275 90 727	1,818 100 1,957	1,110 906 196	4,214 2,097 19,652	1,315 0 502	1,657 752 1,505	1,706 505 3,432	1,086 81 1,862	1,064 312 798	2,100 0 1,552	1,567 664 1,922	
県外から流入【2021】	1,260	1,840	1,459	11,422	1,244	1,942	2,357	1,947	1,096	1,601	937	
県内から流出【2021】	4,008	4,109	2,092	7,792	2,882	3,462	3,789	3,009	3,102	4,075	3,786	
流出入差(流入-流出)【2021】	-2,748	-2,269	-633	3,630	-1,638	-1,520	-1,432	-1,062	-2,006	-2,474	-2,849	
自県進学率【2021】	17.2%	33.1%	26.5%	65.1%	16.6%	36.3%	46.4%	26.4%	25.8%	33.5%	45.9%	
18歳人口推計【2040】	6,054	7,871	3,924	38,596	6,114	8,734	12,888	7,335	7,589	11,545	14,641	
大学進学者数推計【2040】	3,517	4,389	2,021	18,989	2,670	4,347	5,566	3,172	3,129	4,808	6,952	19,329
大学進学率推計【2040】	58.1%	55.8%	51.5%	49.2%	43.7%	49.8%	43.2%	43.2%	41.2%	41.6%	47.5%	
大学入学者数推計【2040】	1,702	3,152	1,800	21,121	1,478	3,184	4,591	2,464	1,769	2,971	3,379	
(国公私別)【2040】	1,037 73 591	1,479 81 1,592	903 737 159	3,428 1,706 15,987	1,070 0 408	1,348 612 1,224	1,388 411 2,792	883 66 1,515	866 254 649	1,708 0 1,263	1,275 540 1,564	
入学定員充足率推計【2040】	77.7%	81.7%	81.2%	82.0%	81.3%	79.9%	80.4%	70.0%	75.7%	80.7%	85.1%	
(国公私別)【2040】	83.7% 81.4% 68.8%	83.6% 81.4% 80.0%	84.0% 85.7% 56.9%	83.4% 85.3% 81.4%	83.7% - 75.6%	82.1% 83.8% 75.8%	83.3% 85.6% 78.3%	82.6% 82.4% 63.9%	83.6% 84.6% 64.9%	83.2% - 77.5%	82.4% 84.4% 87.6%	